

# 分布調査報告書(26)

2000

山形県教育委員会



# 分布調査報告書(26)

平成12年3月

山形県教育委員会



# 序

本書は、山形県教育委員会が平成10年度に実施した遺跡詳細分布調査の成果と平成7年度に調査を行った小山崎遺跡の調査成果の一部をまとめたものです。

平成7年度を初年度とする「感性豊かな教育と文化の創造」と題する第4次山形県教育振興計画で、文化財の保存と活用については文化財基礎調査や遺跡分布調査を計画的に実施し、基本台帳等の整備を図り、文化財情報システムの構築や文化財の周知の徹底・普及に努めることが大きな柱とされました。

遺跡詳細分布調査は本県の「新総合発展計画」に基づく各種の開発計画と埋蔵文化財包蔵地の調整を第一目的としていますが、平成10年度に着手しました埋蔵文化財情報整備事業の一環としての遺跡台帳整備に欠かすことができないデータともなります。埋蔵文化財情報システムの稼働までの間、年度毎に刊行される本書が各種開発事業計画と埋蔵文化財包蔵地の調整の結果及び経過を記したものであると同時に、埋蔵文化財包蔵地のこれまでの所見を改訂して周知を図るという意味も併せもつものとして活用していただければ幸いです。

また、小山崎遺跡は縄文時代の早期から晩期までのきわめて長期間にわたって営まれた遺跡で、動物の骨や、木製品が出土する遺跡として全国的に脚光を浴びた遺跡です。遺跡は、遊佐町によって買収、現状保存されることになり、平成10年度からは県立博物館による範囲確認、内容把握のための調査も開始されました。今回、動物遺体について報告できる運びとなりました。遺跡の保存や活用、学術研究、教育活動等の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました関係各位に心から感謝申し上げます。

平成12年3月

山形県教育委員会

教育長 木村 宰



# 例 言

- 1 本書はⅠ部とⅡ部からなり、Ⅰ部は平成10年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した、平成10年度以降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査の報告書で、Ⅱ部が平成7年度に実施した小山崎遺跡の発掘調査、範囲確認調査で出土した動物遺体の同定にかかる報告書（3）である。
- 2 Ⅰ部の調査と報告書作成は、山形県教育庁文化財課の渋谷孝雄・名和達朗・長橋 至の3名が担当した。第Ⅰ章、第Ⅲ章は渋谷が、第Ⅱ章はそれぞれの調査担当者が執筆した。  
Ⅱ部はバリノサーヴェイ株式会社への業務委託の報告書を掲載した。
- 3 Ⅰ部の第Ⅰ章に平成10年度の調査遺跡の一覧を、第Ⅱ章に個々の遺跡の調査結果を記した。新規発見遺跡・抹消遺跡・範囲・位置の変更については、本書の発行をもって周知されたものとする。
- 4 Ⅰ部、Ⅱ部とも挿図の縮尺は不統一であり、各図毎にスケールを示した。遺跡位置図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用した。ただし、Ⅰ部の第Ⅱ章2以下はこれをさらに縮小して使用した。Ⅰ部の第Ⅱ章1の遺跡地名表の番号は当該事業内の遺跡位置図中の番号と一致する。  
挿図及び文中の記号はT、TT（発掘溝、試掘溝）、TP・○（試掘坑）で赤色部分は遺構、遺物検出、黒色部分は未検出を示す。遺跡位置図の赤色部分は遺跡範囲を示し、RP－土器、ST－竪穴住居跡、SB－建物跡、SK－土坑、SD－溝跡、EB－掘り方、SP・EP－柱穴、SX－落込み、SG－旧河川跡を示す。  
図版の遺物は2分の1と3分の1を原則とし、3分の1他については各図版に縮尺率を示した。
- 5 調査にあたっては、関係各機関・市町村教育委員会及び地権者各位、地元関係者のご協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。



# I 部

## 目 次

I 調査の目的、方法と経過	
1 調査の目的、方法	1
2 調査の経過	1
II 調査の概要	
1 遺跡地名表	
(1) 県農林事業関係遺跡	4
(2) 建設省直轄事業関係遺跡	10
(3) 日本道路公団事業関係遺跡	18
(4) 地域振興整備公団事業関係遺跡	30
(5) 県土木事業関係遺跡	32
(6) 教育庁事業関係遺跡	33
2 試掘調査の概要	
(1) 横沼遺跡	40
(2) 中里遺跡	42
(3) 太夫小屋 2 遺跡	44
(4) 太夫小屋 3 遺跡	46
(5) 中川原 C 遺跡	48
(6) 中地藏遺跡	52
(7) 二夕子 A 遺跡	54
(8) 田尻遺跡	56
(9) 中山城跡	58
(10) 中道南遺跡	62
(11) 熊ノ木遺跡	64
(12) 志戸田縄遺跡	67
(13) 服部遺跡	69
(14) 向河原遺跡	72
(15) 三条ノ目遺跡	75
(16) 影沢北遺跡	77
(17) 小松原窯跡	80
(18) 長者屋敷遺跡	84
(19) 鶴ヶ岡城	88
(20) 山田遺跡	92
(21) 小田島城跡	96
(22) 藤島城跡	100
(23) 梅ノ木遺跡	102
(24) 桜江遺跡	104
(25) 菖蒲江 1 遺跡	108
(26) 馳上遺跡	112
(27) 四ツ塚遺跡	116
(28) 尾浦城跡	120
(29) 高揃南遺跡・菖蒲江 1 遺跡・菖蒲江 2 遺跡	122
3 記録保存調査の概要	



(1)上川原山ノ神遺跡	134
(2)立泉川遺跡	158
(3)竜沢山遺跡	174
(4)上ノ代1遺跡	189
(5)下柳A遺跡	220
(6)館之越遺跡	224

### Ⅲ まとめ

1 新規発見遺跡	228
2 範囲・名称の変更及び登録を抹消する遺跡	229

### 附表目次

表-1 平成10年度分布調査遺跡一覧	2
表-2 調査工程表	3
表-3 掲載遺跡位置図(2万5千分の1)索引	230

## 挿図目次

第1図 県農林事業関係遺跡位置図(1)	6
第2図 県農林事業関係遺跡位置図(2)	7
第3図 県農林事業関係遺跡位置図(3)	8
第4図 県農林事業関係遺跡位置図(4)	9
第5図 建設省直轄事業関係遺跡位置図	16
第6図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(1)	20
第7図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(2)	21
第8図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(3)	22
第9図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(4)	23
第10図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(5)	24
第11図 地域振興整備公団事業関係遺跡位置図	30
第12図 県土木事業関係遺跡位置図(1)	32
第13図 県土木事業関係遺跡位置図(2)	33
第14図 県土木事業関係遺跡位置図(3)	34
第15図 教育庁事業関係遺跡位置図	38
第16図 横沼遺跡概要図	40
第17図 中里遺跡概要図	42
第18図 太夫小屋2遺跡概要図	44
第19図 太夫小屋3遺跡概要図	46
第20図 中川原C遺跡概要図	49
第21図 中地蔵遺跡概要図	52
第22図 中地蔵遺跡検出遺構平面・断面略図	53
第23図 二夕子A遺跡概要図	54
第24図 田尻遺跡概要図	56
第25図 田尻遺跡検出遺構平面図・断面図	57
第26図 中山城跡概要図	58
第27図 中山城跡試掘溝平面図	60
第28図 中道南遺跡概要図	62
第29図 中道南遺跡検出遺構平面・断面略図	63

第 30 図	熊ノ木遺跡概要図	64
第 31 図	熊ノ木遺跡検出遺構平面・断面略図	65
第 32 図	志戸田縄遺跡概要図	67
第 33 図	志戸田縄遺跡検出遺構平面・断面略図	68
第 34 図	服部遺跡概要図	69
第 35 図	服部遺跡検出遺構平面・断面略図	70
第 36 図	向河原遺跡概要図	72
第 37 図	向河原遺跡検出遺構平面・断面略図	73
第 38 図	三条ノ目遺跡概要図	75
第 39 図	三条ノ目遺跡調査区平面・断面略図	76
第 40 図	影沢北遺跡概要図	77
第 41 図	影沢北遺跡調査区平面・断面略図	78
第 42 図	小松原窯跡概要図	80
第 43 図	小松原窯跡検出遺構平面図・断面図(1)	81
第 44 図	小松原窯跡検出遺構平面図・断面図(2)	84
第 45 図	長者屋敷遺跡概要図	84
第 46 図	長者屋敷遺跡試掘溝平面図	85
第 47 図	鶴ヶ岡城略図	89
第 48 図	鶴ヶ岡城概要図	89
第 49 図	鶴ヶ岡城検出遺構平面図・断面図	90
第 50 図	山田遺跡概要図	93
第 51 図	山田遺跡検出遺構平面図・断面図	94
第 52 図	小田島城跡概要図	96
第 53 図	小田島城跡検出遺構平面・断面略図	97
第 54 図	藤島D遺跡概要図	100
第 55 図	藤島D遺跡検出遺構平面図・断面図	101
第 56 図	梅ノ木遺跡概要図	102
第 57 図	梅ノ木遺跡検出遺構平面略図	103
第 58 図	梅ノ木遺跡土層断面略図	104
第 59 図	桜江遺跡概要図	105
第 60 図	桜江遺跡検出遺構平面・断面略図	106
第 61 図	菖蒲江 1 遺跡概要図	108
第 62 図	菖蒲江 1 遺跡検出遺構平面・断面略図	109
第 63 図	菖蒲江 1 遺跡出土遺物実測図	111
第 64 図	馳上遺跡概要図	112
第 65 図	馳上遺跡検出遺構平面図・断面図	113
第 66 図	四ツ塚遺跡概要図	117
第 67 図	四ツ塚遺跡検出遺構平面図・断面図	118
第 68 図	尾浦城跡概要図	120
第 69 図	尾浦城跡検出堀跡断面概略図	121
第 70 図	高揃南遺跡、菖蒲江 1 遺跡、菖蒲江 2 遺跡概要図	123
第 71 図	高揃南遺跡検出遺構平面略図(1)	124
第 72 図	高揃南遺跡検出遺構平面略図(2)、土層断面略図(1)	125
第 73 図	高揃南遺跡土層断面略図(2)	126
第 74 図	高揃南遺跡土層断面略図(3)	127
第 75 図	菖蒲江 1 遺跡検出遺構平面略図、土層断面略図(1)	130

第76図	菖蒲江1遺跡土層断面略図	131
第77図	菖蒲江2遺跡検出遺構平面略図、土層断面略図(1)	132
第78図	菖蒲江2遺跡土層断面略図(2)	133
第79図	上川原山ノ神遺跡概要図	135
第80図	上川原山ノ神遺跡遺構分布図	137
第81図	上川原山ノ神遺跡A・B地区南壁土層断面図	139
第82図	上川原山ノ神遺跡B地区北壁土層断面図	140
第83図	上川原山ノ神遺跡遺構平面図(1)	141
第84図	上川原山ノ神遺跡遺構平面図(2)	142
第85図	上川原山ノ神遺跡遺構平面図(3)	143
第86図	上川原山ノ神遺跡遺構平面図(4)	144
第87図	上川原山ノ神遺跡柱穴平面・断面図	145
第88図	上川原山ノ神遺跡S D37平面・断面図	146
第89図	上川原山ノ神遺跡出土土器実測・拓影図	147
第90図	上川原山ノ神遺跡出土土器実測図(1)	148
第91図	上川原山ノ神遺跡出土石器実測図(2)	149
第92図	立泉川遺跡位置図・周辺の遺跡	158
第93図	立泉川遺跡概要図	159
第94図	立泉川遺跡遺構配置図	160
第95図	立泉川遺跡検出遺構平面・断面図(1)	162
第96図	立泉川遺跡検出遺構平面・断面図(2)	163
第97図	立泉川遺跡検出遺構平面図(3)	164
第98図	立泉川遺跡出土土器(1)	164
第99図	立泉川遺跡出土土器(2)拓影図	165
第100図	立泉川遺跡出土土器(3)拓影図	166
第101図	竜沢山遺跡概要図	174
第102図	竜沢山遺跡遺構配置図、S T 1平面図・断面図	175
第103図	竜沢山遺跡S T 2平面図・断面図	177
第104図	竜沢山遺跡落込み平面図・断面図	179
第105図	竜沢山遺跡出土遺物拓影・実測図(1)	180
第106図	竜沢山遺跡出土遺物拓影・実測図(2)	181
第107図	竜沢山遺跡出土遺物拓影・実測図(3)	182
第108図	上ノ代1遺跡概要図	189
第109図	上ノ代1遺跡遺構配置図	190
第110図	上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面図(1)	196
第111図	上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面図(2)	197
第112図	上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面図(3)	198
第113図	上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面図(4)	199
第114図	上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面図(5)	200
第115図	上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面図(6)	201
第116図	上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面図(7)	202
第117図	上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面図(8)	203
第118図	上ノ代1遺跡出土土器拓影図(1)	204
第119図	上ノ代1遺跡出土土器拓影図(2)	205
第120図	上ノ代1遺跡出土土器拓影図(3)他	206
第121図	下柳A遺跡概要図	220



第122図	下柳A遺跡検出遺構平面図・断面図	221
第123図	館之越遺跡概要図	224
第124図	館之越遺跡検出遺構平面図・断面図	225

## 図版目次

図版 1	県農林事業関係遺跡(1)	9
図版 2	県農林事業関係遺跡(2)	10
図版 3	県農林事業関係遺跡(3)	11
図版 4	県農林事業関係遺跡(4)	12
図版 5	県農林事業関係遺跡(5)	13
図版 6	県農林事業関係遺跡(6)	14
図版 7	県農林事業関係遺跡(7)	15
図版 8	県農林事業関係遺跡(8)	16
図版 9	県農林事業関係遺跡(9)	17
図版 10	建設省直轄事業関係遺跡	17
図版 11	日本道路公団事業関係遺跡(1)	25
図版 12	日本道路公団事業関係遺跡(2)	26
図版 13	日本道路公団事業関係遺跡(3)	27
図版 14	日本道路公団事業関係遺跡(4)	28
図版 15	日本道路公団事業関係遺跡(5)	29
図版 16	地域振興整備公団関係遺跡(1)	30
図版 17	地域振興整備公団関係遺跡(2)	31
図版 18	県土木事業関係遺跡(1)	35
図版 19	県土木事業関係遺跡(2)	36
図版 20	県土木事業関係遺跡(3)	37
図版 21	教育庁事業関係遺跡(1)	38
図版 22	教育庁事業関係遺跡(2)	39
図版 23	横沼遺跡	41
図版 24	中里遺跡	43
図版 25	太夫小屋2遺跡	45
図版 26	太夫小屋3遺跡	47
図版 27	中川原C遺跡(1)	48
図版 28	中川原C遺跡(2)	49
図版 29	中川原C遺跡(3)	51
図版 30	中地蔵遺跡	53
図版 31	二夕子A遺跡	55
図版 32	田尻遺跡	57
図版 33	中山城跡(1)	60
図版 34	中山城跡(2)	61
図版 35	中道南遺跡(1)	62
図版 36	中道南遺跡(2)	63
図版 37	熊ノ木遺跡	66
図版 38	志戸田縄遺跡	68
図版 39	服部遺跡	71

図版 40	向河原遺跡	74
図版 41	三条ノ目遺跡	76
図版 42	影沢北遺跡	79
図版 43	小松原窯跡	83
図版 44	長者屋敷遺跡(1)	86
図版 45	長者屋敷遺跡(2)	87
図版 46	鶴ヶ岡城	91
図版 47	山田遺跡(1)	92
図版 48	山田遺跡(2)	93
図版 49	山田遺跡(3)	95
図版 50	小田島城跡(1)	98
図版 51	小田島城跡(2)	99
図版 52	藤島D遺跡	101
図版 53	梅ノ木遺跡	104
図版 54	桜江遺跡	107
図版 55	菖蒲江1遺跡(1)	110
図版 56	菖蒲江1遺跡(2)	111
図版 57	馳上遺跡(1)	114
図版 58	馳上遺跡(2)	115
図版 59	四ツ塚遺跡(1)	116
図版 60	四ツ塚遺跡(2)	118
図版 61	四ツ塚遺跡(3)	119
図版 62	尾浦城跡	121
図版 63	高揃南遺跡(1)	128
図版 64	高揃南遺跡(2)	129
図版 65	菖蒲江1遺跡	131
図版 66	菖蒲江2遺跡	133
図版 67	上川原山ノ神遺跡(1)	150
図版 68	上川原山ノ神遺跡(2)	151
図版 69	上川原山ノ神遺跡(3)	152
図版 70	上川原山ノ神遺跡(4)	153
図版 71	上川原山ノ神遺跡(5)	154
図版 72	上川原山ノ神遺跡(6)	157
図版 73	立泉川遺跡(1)	167
図版 74	立泉川遺跡(2)	168
図版 75	立泉川遺跡(3)	169
図版 76	立泉川遺跡(4)	170
図版 77	立泉川遺跡(5)	171
図版 78	立泉川遺跡(6)	172
図版 79	立泉川遺跡(7)	173
図版 80	竜沢山遺跡(1)	183
図版 81	竜沢山遺跡(2)	184
図版 82	竜沢山遺跡(3)	185
図版 83	竜沢山遺跡(4)	186
図版 84	竜沢山遺跡(5)	187
図版 85	竜沢山遺跡(6)	188

図版 86	上ノ代 1 遺跡(1)	207
図版 87	上ノ代 1 遺跡(2)	208
図版 88	上ノ代 1 遺跡(3)	209
図版 89	上ノ代 1 遺跡(4)	210
図版 90	上ノ代 1 遺跡(5)	211
図版 91	上ノ代 1 遺跡(6)	212
図版 92	上ノ代 1 遺跡(7)	213
図版 93	上ノ代 1 遺跡(8)	214
図版 94	上ノ代 1 遺跡(9)	215
図版 95	上ノ代 1 遺跡(10)	216
図版 96	上ノ代 1 遺跡(11)	217
図版 97	上ノ代 1 遺跡(12)	218
図版 98	上ノ代 1 遺跡(13)	219
図版 99	下柳 A 遺跡(1)	222
図版100	下柳 A 遺跡(2)	223
図版101	館之越遺跡(1)	226
図版102	館之越遺跡(2)	227

## II 部

# 目 次

X III	出土した動物遺体	
1	試 料	231
2	出土した動物遺体の種名表	231
3	出土した動物遺体の概要	239
4	要 約	240
附表目次		
表-1	同定結果表	233
	報告書抄録	241

## I 調査の目的、方法と経過

### 1 調査の目的、方法

本調査は、平成11年度以降に予定されている開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお、一部、今年度までの調査結果に基づき、記録保存や現状保存を目的とする小規模な発掘調査と工事立会いの調査も実施した。

調査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

#### (1) A調査（現地確認調査・表面踏査）

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

#### (2) B調査（試掘調査）

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、遺構確認面までの深さ等を把握して、開発事業計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

#### (3) C調査（記録保存のための発掘調査）

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

#### (4) 立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

### 2 調査の経過

山形県教育委員会では、毎年5～6月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、7月上旬にヒアリングを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討を行っている。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査依頼に基づく調査も随時行っている。今年度の調査は、平成10年4月から平成11年3月まで表-2の工程で、表-1に示した各遺跡の調査を行うとともに事業予定地区内外における埋蔵文化財包蔵地の有無を確認するための表面踏査と試掘調査も実施した。なお、今年度新規登録した遺跡、抹消した遺跡、位置、範囲、遺跡名の訂正した遺跡はⅢ章のまとめに示した。



表一 平成10年度分布調査遺跡一覽

事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
			A	B	C	立会
10	東北中央自動車道 東東北中央自動車道 東東北中央自動車道 東東北中央自動車道 東東北中央自動車道 東東北中央自動車道 東東北中央自動車道 東東北中央自動車道	影熊中塚志服藤馬向三 沢ノ道 戸 治洗河ノ 北木南田縄部敷B原目	○	○	○	○
11	山形市 山形市 山形市 山形市 山形市 山形市 山形市 山形市	小松ツ葉ケ 鶴ヶ島 山形市 山形市 山形市 山形市 山形市 山形市	○	○	○	○
12	都市計画 都市計画 都市計画 都市計画 都市計画 都市計画 都市計画 都市計画	鶴ヶ島 鶴ヶ島 鶴ヶ島 鶴ヶ島 鶴ヶ島 鶴ヶ島 鶴ヶ島 鶴ヶ島	○	○	○	○
13	健康の森公園	柳下	○	○	○	○
14	国道347号 国道347号 国道347号 国道347号 国道347号 国道347号 国道347号 国道347号	小高石高梅葛第本三三館 瀬ノ江農上 浦二合 滝之	○	○	○	○
15	掘立川 掘立川 掘立川 掘立川 掘立川 掘立川 掘立川 掘立川	松在木 塚城内城柏形高南1 塚城内城柏形高南2	○	○	○	○
16	みやま荘施設整備事業 みやま荘施設整備事業 みやま荘施設整備事業 みやま荘施設整備事業 みやま荘施設整備事業 みやま荘施設整備事業 みやま荘施設整備事業 みやま荘施設整備事業	四ツ島敷浦 藤西尾谷新村 山農	○	○	○	○
17	庄内農高等学校 庄内農高等学校 庄内農高等学校 庄内農高等学校 庄内農高等学校 庄内農高等学校 庄内農高等学校 庄内農高等学校	高敷浦 山農	○	○	○	○
18	総合交通安全センター 総合交通安全センター 総合交通安全センター 総合交通安全センター 総合交通安全センター 総合交通安全センター 総合交通安全センター 総合交通安全センター	高蒲江 高蒲江 高蒲江 高蒲江 高蒲江 高蒲江 高蒲江 高蒲江	○	○	○	○

表一 調査工程表

事業名	平成10年											平成11年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
農林・土木事業関係	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
東北中央自動車道 相馬～尾花沢間関係		-						-				-		
日本海沿岸自動車道 鶴岡～温海間関係		-										-		
平成11年度以降の埋蔵文化財包蔵地に係る開発事業計画の聴取り				-										
遺物・資料整理									-	-	-	-		
報告書原稿作成										-	-	-		



## II 調査の概要

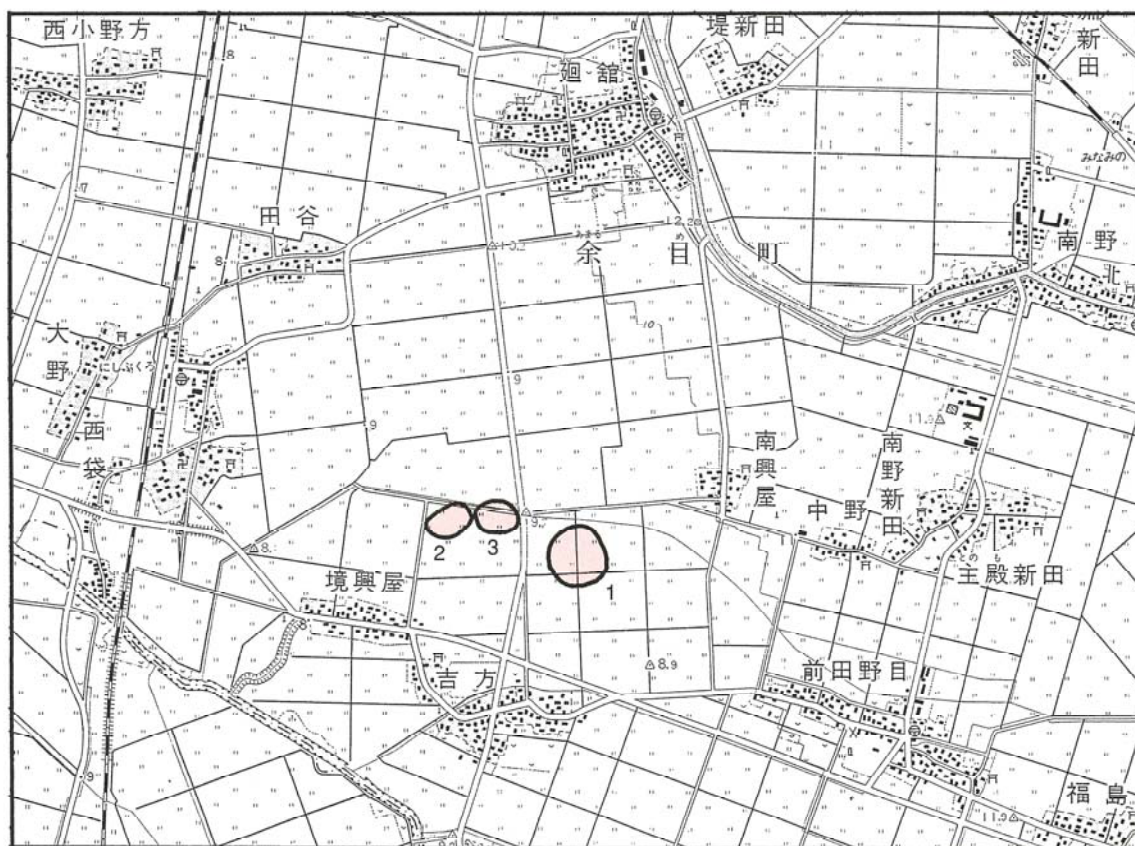
### 1 遺跡地名表

#### (1) 県農林事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	包蔵地	おおなわ縄 1	東田川郡余目町大字吉方字大縄	平安時代	平地 (9m)	水田
2	包蔵地	おおなわ縄 2	東田川郡余目町大字吉方字大縄	平安時代	平地 (8.5m)	水田
3	包蔵地	おおなわ縄 3	東田川郡余目町大字吉方字大縄	平安時代	平地 (8.5m)	水田
4	散布地	かっぱ	最上郡最上町大字立小路	縄文時代	段丘 (248m)	畑地 水田
5	散布地	おおさわぐち口	最上郡最上町大字立小路字大沢口	縄文時代 平安時代	段丘 (254m)	畑地 水田
6	城館跡	くろさわなかだて館	西置賜郡飯豊町大字黒沢	室町時代	平地 (219m)	境内畑地 水田
7	城館跡	なかざとやしき敷	米沢市窪田町窪田字中里屋敷	中世	平地 (220m)	宅畑地 水田
8	城館跡	うちかただて館	米沢市窪田町窪田字中里屋敷	中世	平地 (218m)	宅畑地 水田
9	散布地	まるもり森 1	真室川町大字釜淵字丸森	旧石器代	段丘 (188m)	畑地
10	散布地	まるもり森 2	真室川町大字釜淵字丸森	旧石器代 縄文時代	段丘 (190m)	畑地
11	散布地	なかだい台 1	真室川町大字釜淵字中台	縄文時代	段丘 (170m)	畑地 鉄道敷地
12	包蔵地	なかだい台 2	真室川町大字釜淵字中台	縄文時代	段丘 (165m)	水田
13	包蔵地	なかだい台 3	真室川町大字釜淵字中台	縄文時代 (中期)	段丘 (165m)	水田
14	散布地	なかがわら原 B	新庄市大字十日町字中川原	縄文時代	段丘 (122m)	水田 畑地
15	散布地	しもむかいの野	新庄市大字十日町字下向野	縄文時代	平扇状地 (127m)	畑地 水田
16	散布地	ゆ湯しり尻	天童市大字貫津字湯尻	縄文時代 平安時代	段丘 (120m)	畑地 水田
17	散布地 城館跡	なかしまたて館	天童市大字貫津字中島	縄文時代 中世	微高地 (125m)	畑地
18	集落跡	やまざき崎 C	天童市大字貫津字山崎	平安時代	山麓 (130m)	畑地
19	集落跡	こせき関 C	天童市大字貫津字山崎	縄文時代 平安時代	段丘 (135m)	畑地
20	集落跡	はくさんどう堂	天童市大字奈良沢字長谷川 (白山堂)	縄文時代 平安時代	段丘 (131m)	畑地
21	散布地	は長せ谷がわ川	天童市大字奈良沢字長谷川	平安時代	微高地 (136m)	畑地 水田

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
J R 羽越本線西袋駅の東南東1.5kmに位置する。今回の水路掘削に伴う立会調査で、平安時代の遺物が若干出土したが、遺構は未確認。	赤焼土器	平成8年度登録 平成10年7月県教委立 会調査実施
J R 羽越本線西袋駅の南東1kmに位置する。立会調査及び工事後の表面踏査で、東西150m、南北120mに範囲が拡大することが判明した。	須恵器	平成9年度登録 平成10年7月県教委立 会調査実施
大縄2遺跡の東側30mに位置する。水路掘削工事後に土器の散布を確認した。東西140m、南北100m程の範囲となる。	須恵器、赤焼土器片多数	平成10年度登録。
JR陸羽東線立小路駅から北東約1.2kmの鳥出川右岸の山麓～段丘に立地する。畑地で遺物が採取されるが下段水田への広がりも考えられる。	縄文土器、石器	No923
かっぱ遺跡北東約100mに位置する。畑地を中心に東西120m、南北80mの範囲と考えられる。1974年に新庄北高で土偶、須恵器を表採。	今回はなし	No925
J R 米坂線の西南西2.2kmに位置する。高伝寺境内が中心となり、南西部から西側にかけて堀跡と土塁が残っている。	今回はなし	平成6年度登録(山形県 中世城館遺跡調査報告 第1集)
J R 奥羽本線置賜駅の北北西1.7kmに位置する。現在の宅地を中心に東西80m、南北75mの範囲が想定されるが、試掘で遺構は未確認。	今回はなし	平成6年度登録(山形県 中世城館遺跡調査報告 第1集)
J R 奥羽本線置賜駅の北北西2.5kmに位置する。東西80m、南北60mの範囲となるが、北西隅周辺の試掘では、中世の遺構・遺物は未検出。	須恵器片	平成6年度登録(山形県 中世城館遺跡調査報告 第1集)
J R 奥羽本線釜淵駅の北北東2.7kmに位置し真室川の河床面から5番目の段丘上に立地する。畑地にナイフ形石器、石刃等が散布している。	ナイフ形石器、石刃、剥片	平成10年度登録
J R 奥羽本線釜淵駅の北北東2.6km、丸森1遺跡の東に隣接する一段高い段丘上に立地する。ナイフ形石器、縄文土器、石匙を採集した。	ナイフ形石器、縄文土器(中・後期)、石匙、剥片	平成10年度登録
J R 奥羽本線釜淵駅の北北東2.7kmに位置し真室川の河床面から3番目の段丘上に立地する。奥羽本線を挟んで東と西の畑地に遺物が散布。	剥片	平成10年度登録
中台1遺跡の東側に位置し、一段低い2番目の段丘上に立地する。自然崩壊の崖面で縄文時代の包含層を確認した。	剥片	平成10年度登録
中台2遺跡と沢を挟んだ北側の同一段丘面上に立地する。自然崩壊の崖面で縄文時代の土器と石器の包含層を確認した。	縄文土器、石鏡、剥片	平成10年度登録
泉田川右岸の河岸段丘上、中川原集落西半部に位置する。試掘調査の結果、北側水田部は遺跡範囲から除外する。		昭和56年度登録 平成10年10月県教委試 掘調査実施
中川原B遺跡北側約500mに位置する。遺跡範囲のうち、ほ場整備事業地区内の試掘調査の結果、遺跡範囲を訂正する。		昭和56年度登録 平成10年10月県教委試 掘調査実施
津山小学校の南方約300mに位置する。倉津川右岸ののびる畑地・水田に遺物を散布する。特に、畑地に多く確認される。	石器、剥片、土師器、須恵器	平成10年度登録
下貫津地区東側の山麓寄りに位置する。水田に囲まれた高まりに遺物を散布する。城館跡は、単郭方形館と考えられている。	縄文土器、土師器	中世城館遺跡調査報告 書第2集 No210-009
下貫津地区東側の山麓斜面に立地する。南側へのびる傾斜地からつづく水田に遺物を少量散布する。		No309
上貫津地区西側から津山地区に至る道路両側に位置する。集落すぐ北側の畑地に遺物が散布する。	土師器	天童市教育委員会 遺跡番号176
倉津川と正法寺川との合流点南側の畑地に位置する。遺物は、段丘二面に散布がみとめられ、高い面に縄文土器、低い面に土師器が散布する。	縄文土器、剥片、土師器	No266
正法寺川と峰谷川との合流点すぐ北側に位置する。遺物は、正法寺川右岸沿いの畑地と水田東側畑地から採集。	土師器	平成10年度登録

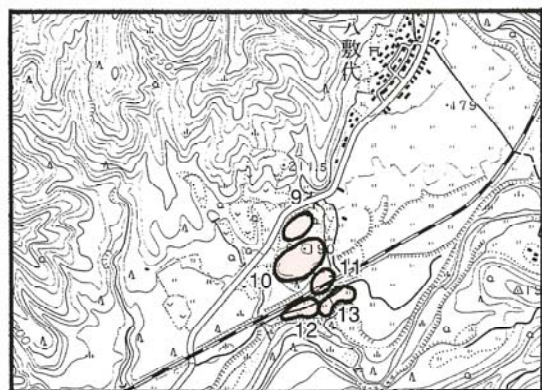
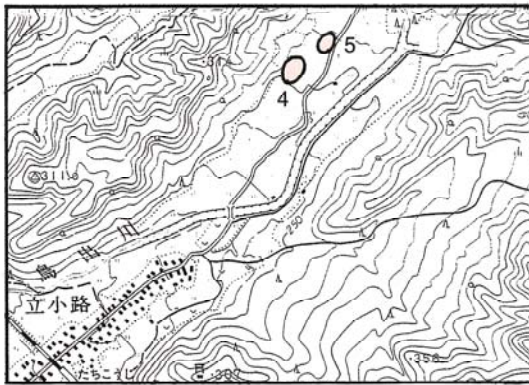
No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
22	集落跡	奈良沢東	天童市大字奈良沢字本郷	縄文時代	微高地 (138m)	畑水地田
23	散布地	庄前 1	天童市大字奈良沢字庄前	平安時代	山麓 (152m)	畑地
24	散布地	庄前 2	天童市大字奈良沢字庄前	平安時代	微高地 (143m)	畑水地田
25	散布地	庄前 3	天童市大字奈良沢字庄前	平安時代	山麓 (150m)	水田
26	散布地	庄前 4	天童市大字奈良沢字庄前	縄文時代 平安時代	山麓 (161m)	畑水地田
27	墓地	新城山墓地跡	天童市大字奈良沢字新城山	中世	山麓 (150m)	畑地
28	城館跡	新城山館	天童市大字貫津字新城山	中世	山 (250m)	山林畑
29	集落跡	新城山	天童市大字貫津字新城山	縄文時代	山 (220m)	山林畑
30	祭祀跡 古墳 (?)	雁境塚群	東置賜郡川西町大字下小松	中古世墳 (?)	丘陵頂部 (233m)	山林
31	散布地	姥ヶ沢	飽海郡八幡町大字上青沢字姥ヶ沢	旧石器時代	段丘 (141m)	水田



第1図 県農林事業関係遺跡位置図(1)

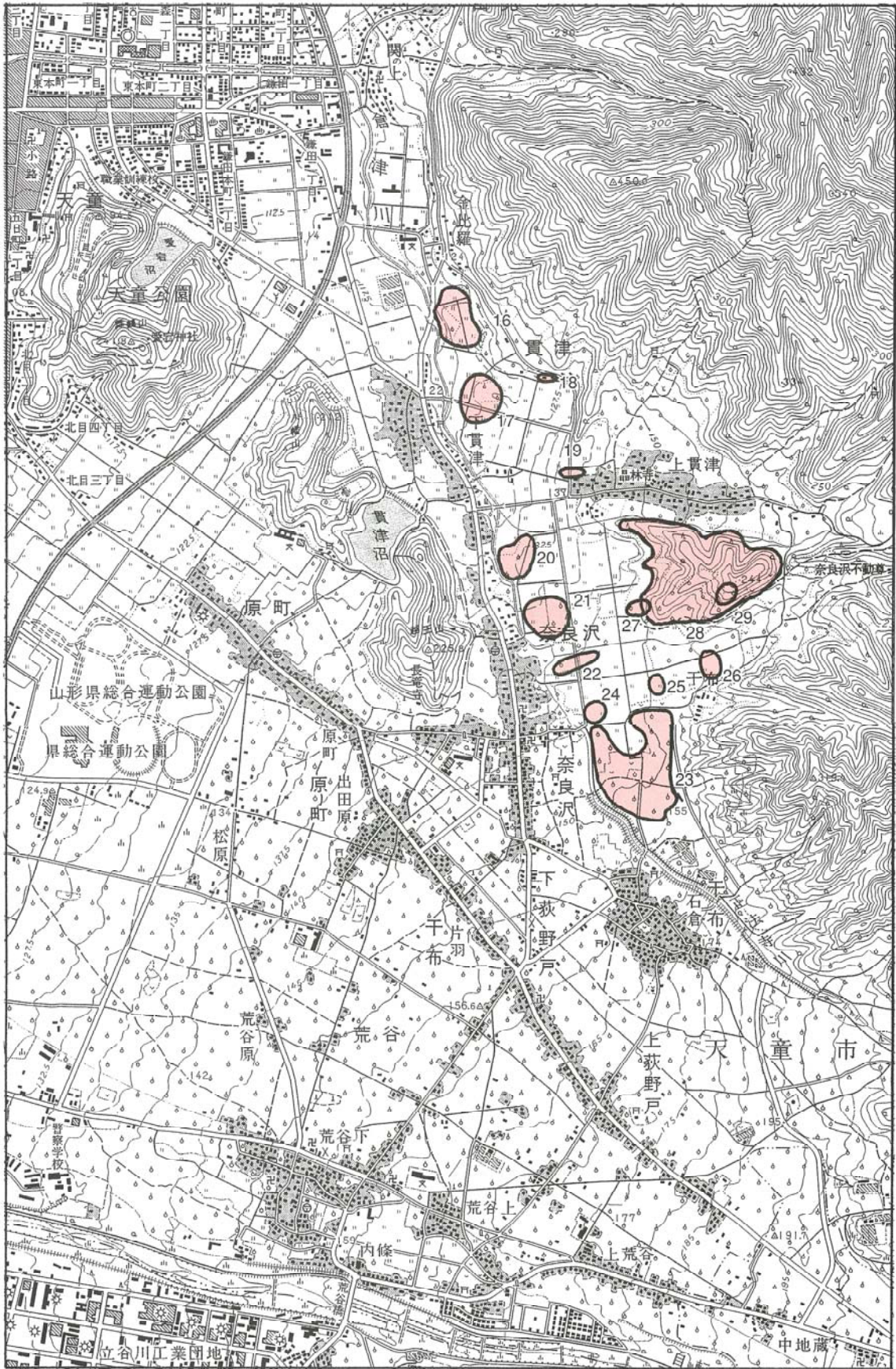


遺跡概要	出土遺物	備考
正法寺川と峰谷川との合流点すぐ南側、峰谷川左岸沿いに位置する。		No267
石倉地区北側から奈良沢地区東側の正法寺川右岸に広がる畑地に位置する。十二の木橋東方の広域農道沿いの畑地で、多量の遺物を採集。	土師器、須恵器	平成10年度登録
正法寺川に架かる十二の木橋のすぐ北東側に位置する。上貫津地区に至る道路東側の水田及び畑地から遺物を少量採集。	土師器	平成10年度登録
広域農道西側に広がる水田に位置する。十二の木橋から東方約400m、畑地すぐに遺物を散布する。	土師器	平成10年度登録
峰谷川左岸と広域農道との間に広がる水田地帯の東端寄りに位置する。北側の一段高い畑地から水田にかけて遺物を散布する。	剥片、土師器、須恵器	平成10年度登録
奈良沢地区東側約600m、新城山の南西山麓に位置する。		天童市教育委員会 遺跡番号155
奈良沢地区東側約600m、上貫津地区南側の倉津川左岸と約500m南側の峰谷川右岸の間に位置する新城山に構築されている。		No315
奈良沢地区東側約900m、新城山山頂の南西尾根に位置する。		No316
JR米坂線犬川駅の北西1.2kmの丘陵尾根に立地する。盛土の高さ30~60cmで一辺6~10mの3基の塚である。古墳の可能性もある。		平成10年度登録
南ノ前田集落の南方400mに位置する。過去の耕地整理の際に、石器が採集されたが、今回の試掘調査では遺構、遺物とも未確認である。		No2258 平成10年10月県教委試掘調査実施



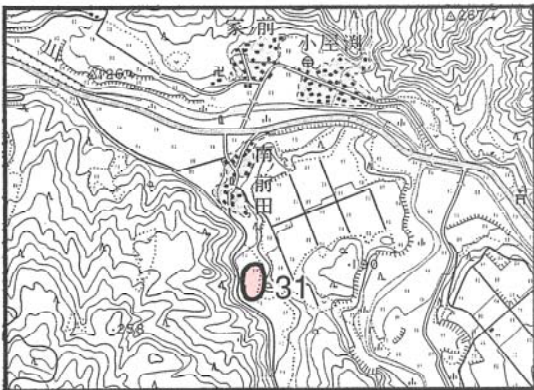
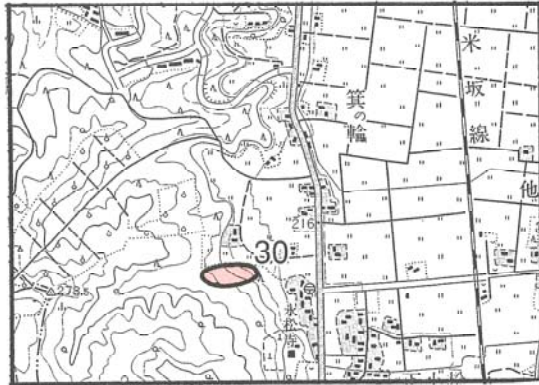
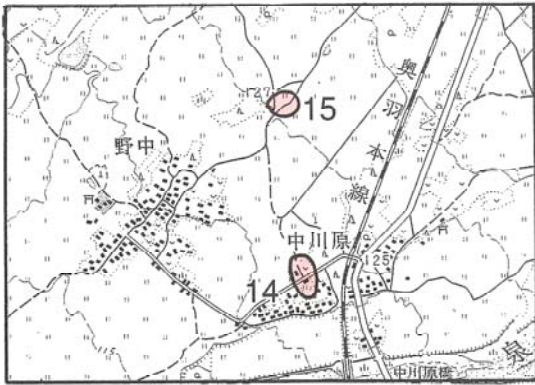
第2図 県農林事業関係遺跡位置図(2)





第3図 県農林事業関係遺跡位置図(3)





第4図 県農林事業関係遺跡位置図

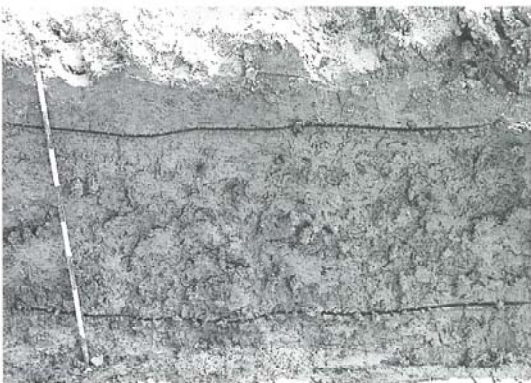
大縄1遺跡近景調査トレンチ（西から）



大縄1遺跡出土遺物



大縄2遺跡調査トレンチ全景（東から）



大縄2遺跡調査トレンチ土層断面（北から）



大縄2遺跡出土遺物

図版1 県農林事業関係遺跡（1）





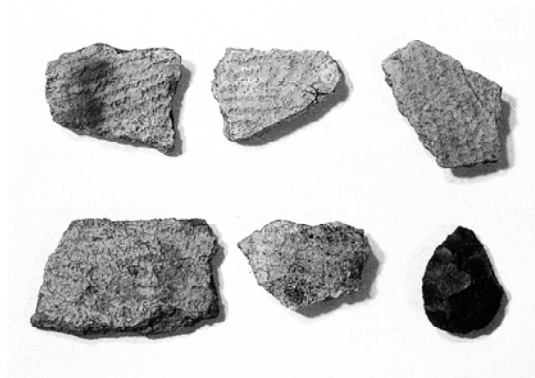
大縄3遺跡近景（西から）



大縄3遺跡出土遺物



かっぱ遺跡近景（北から）



かっぱ遺跡採集遺物



大沢口遺跡近景（南から）



大沢口遺跡採取遺物



黒沢中館跡近景（南東から）



中里屋敷跡近景（北西から）



中里屋敷跡試掘坑土層（南から）



内方館跡近景（北から）



内方館跡試掘坑土層（南から）



内方館跡出土遺物



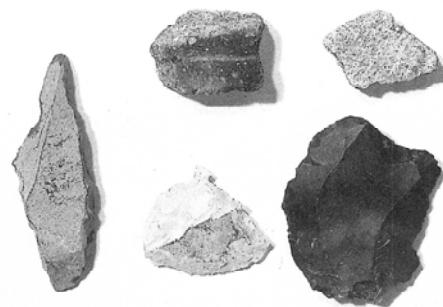
丸森1遺跡近景（東から）



丸森1遺跡採集遺物



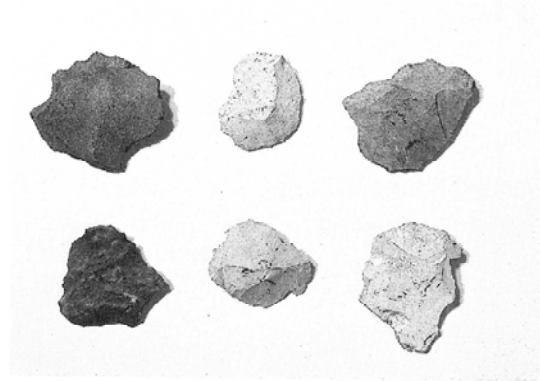
丸森2遺跡近景（西から）



丸森2遺跡採集遺物



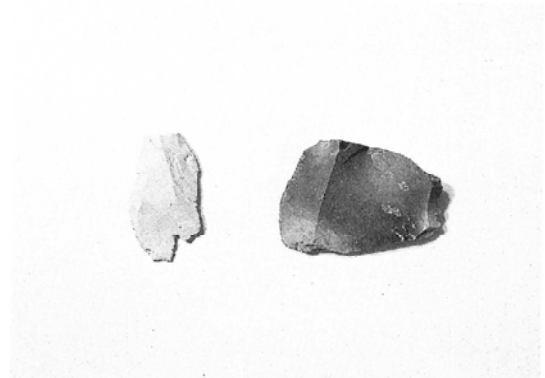
中台1遺跡近景（南から）



中台1遺跡採集遺物



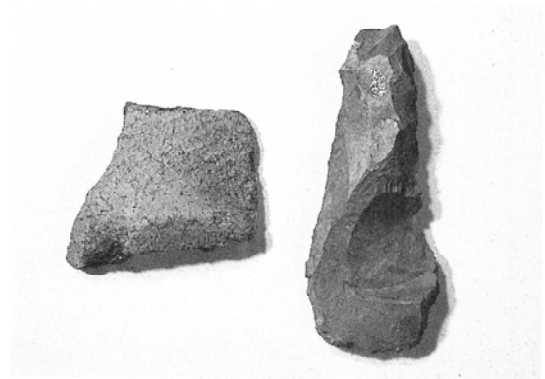
中台2遺跡近景（北西から）



中台2遺跡採集遺物



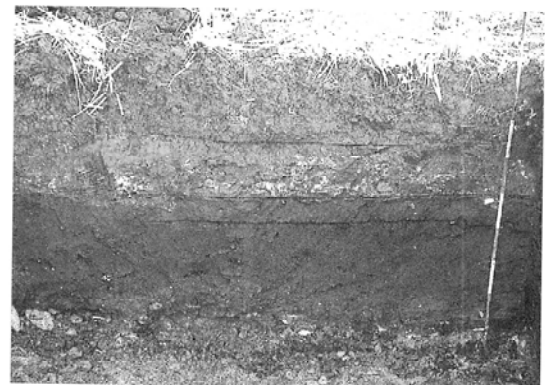
中台3遺跡近景（東から）



中台3遺跡採集遺物



中川原B遺跡近景（西から）



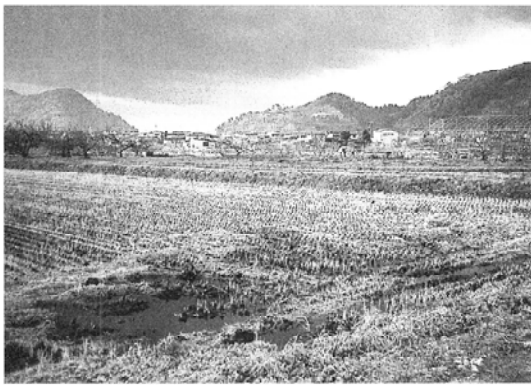
中川原B遺跡試掘坑（T P 10）



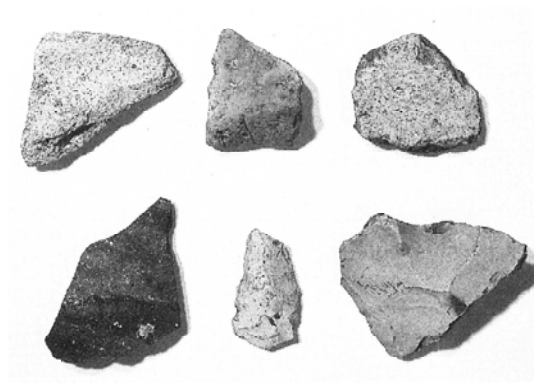
下向野遺跡近景（南西から）



下向野遺跡試掘坑（TP）



湯尻遺跡近景（北東から）



湯尻遺跡採集遺物



中島館跡近景（南から）



中島館跡採集遺物

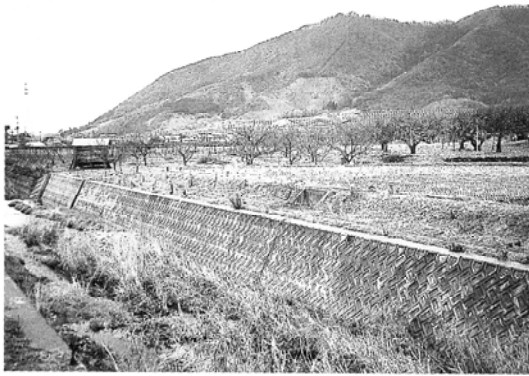


小関C遺跡近景（北東から）



小関C遺跡採集遺物





白山堂遺跡近景 (南西から)



白山堂遺跡採集遺物



長谷川遺跡近景 (西から)



長谷川遺跡採集遺物



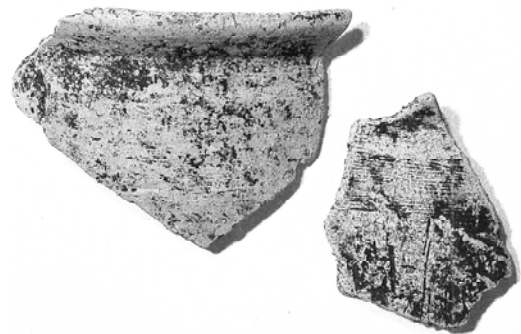
奈良沢東遺跡遠景 (南東から)



庄前1遺跡近景 (南から)



庄前1遺跡山麓側近景 (東から)



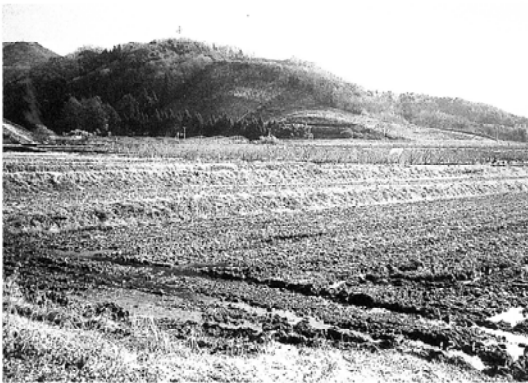
庄前1遺跡採集遺物



庄前2遺跡近景（北東から）



庄前2遺跡採集遺物



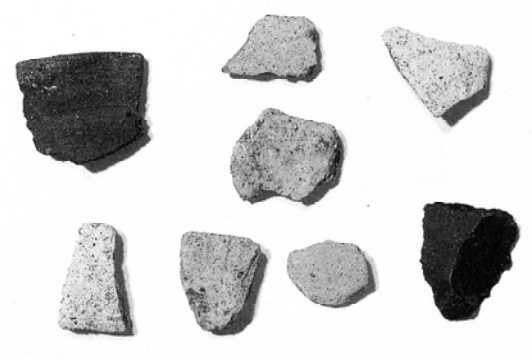
庄前3遺跡近景（北から）



庄前3遺跡採集遺物



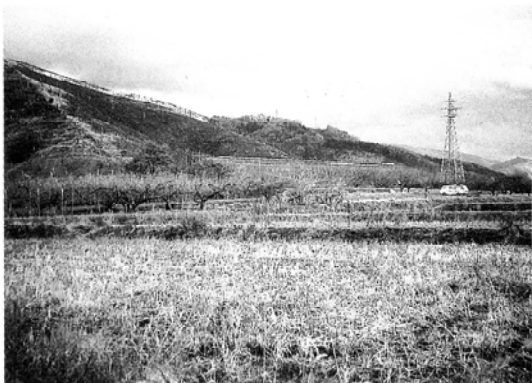
庄前4遺跡近景（北東から）



庄前4遺跡採集遺物



山崎C遺跡近景（南から）



新城山墓地跡近景（北から）





新城山館跡遠景（南西から）



新城山遺跡近景（南から）



姥ヶ沢遺跡近景（南から）

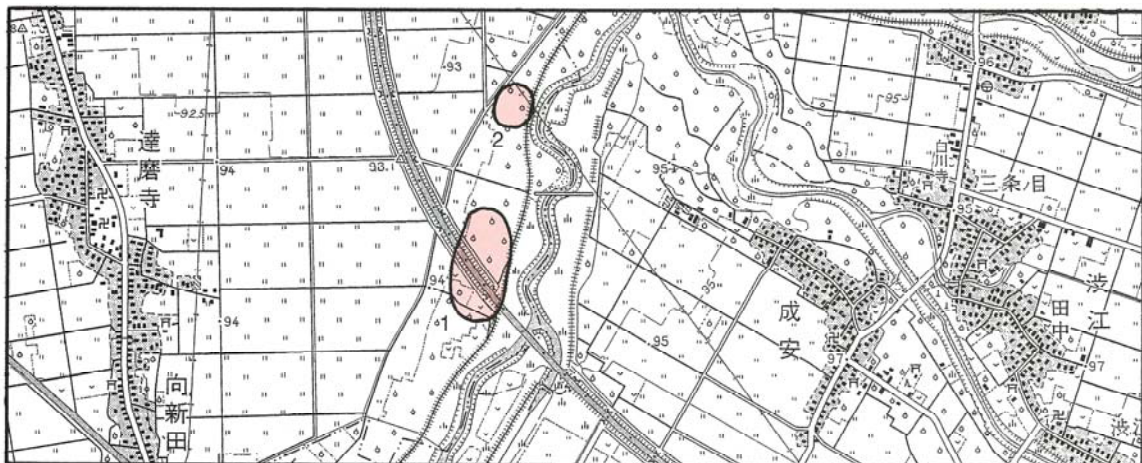


姥ヶ沢遺跡試掘坑土層（南から）

図版 7 県農林事業関係遺跡（7）

(2) 建設省直轄事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	だるま磨じ寺	東村山郡中山町大字達磨寺	平安時代中世	段丘 (93m)	公園 樹園 園路
2	包蔵地	かわまえ	東村山郡中山町大字長崎字川前	平安時代	段丘 (93m)	果樹 畑地 園



第 5 図 建設省直轄事業関係遺跡位置図



雁境塚群遠景（北西から）



雁境1号塚近景（東から）



雁境2号塚近景（南東から）



雁境3号塚近景（南東から）

図版9 県農林事業関係遺跡（8）

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
須川左岸の河岸段丘上に立地する。遺跡の中央の東北横断道酒田線部分は発掘調査済。範囲は東西180m、南北300m程となる。	今回はなし	No399 昭和57・58年県教委、平成7年町教委発掘調査実施
達磨寺遺跡の北300mに位置する。東西160m、南北180mの範囲と考えられる。立地等は達磨寺と同様。	今回はなし	No398



達磨寺遺跡近景（北から）



川前遺跡近景（南から）

図版10 建設省直轄事業関係遺跡

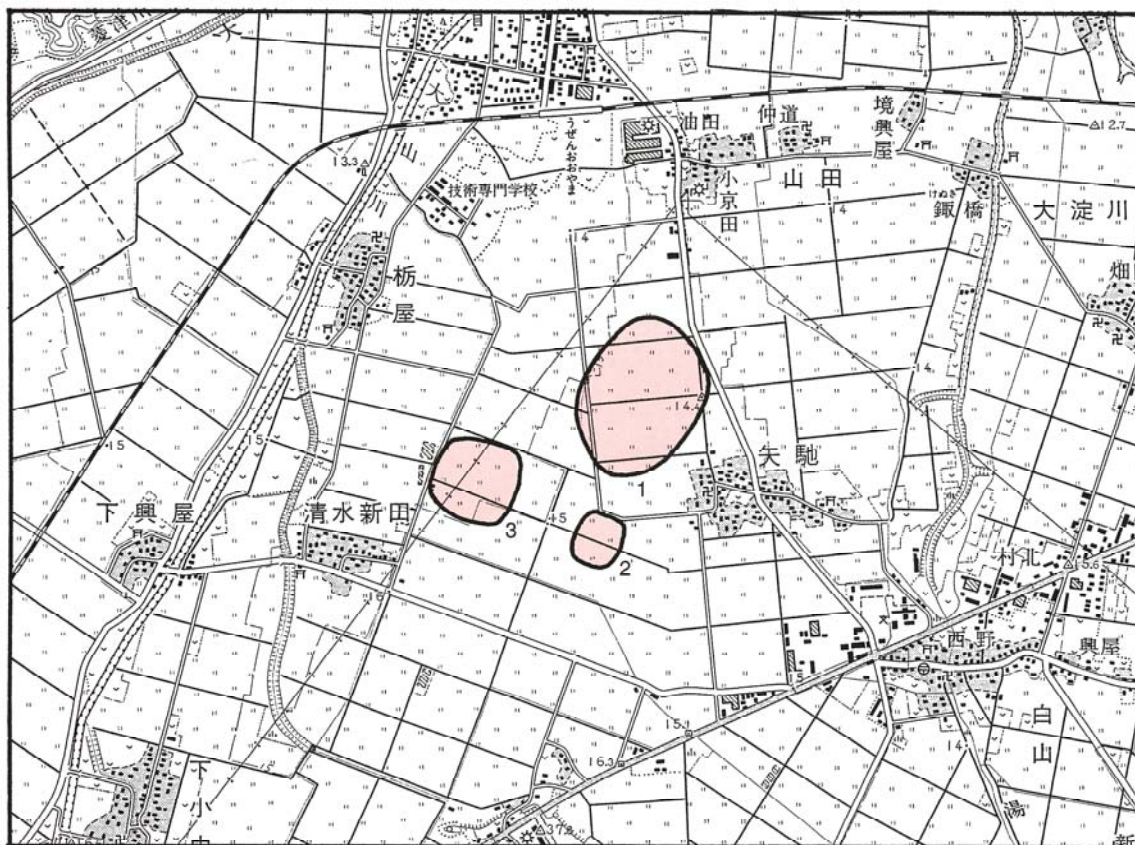
## (3) 日本道路公団事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	やばせ 矢 馳 A	鶴岡市大字矢馳字下矢馳	古墳時代	平地 (14m)	水田
2	集落跡	やばせ 矢 馳 B	鶴岡市大字清水新田字向京田	古墳時代	平地 (15m)	水田
3	集落跡	しみずしん 清 水 新 田	鶴岡市大字清水新田字下谷地	古墳時代	平地 (15m)	水田
4	城館跡	き の した たて 木 の 下 館	鶴岡市大字水沢字木の下	戦国時代	山頂腹 (70m)	山林
5	城館跡	かた の り ざわ たて 堅 の 菅 沢 館	鶴岡市大字堅菅沢字淵の上、 字宮田	戦国時代	山頂腹 (100m)	山林
6	散布地	かわ うち みくろ 河 内 袋	西田川郡温海町大字五十川字 河内袋	縄文時代 (前期)	丘陵端 (25m)	水畑 山地
7	散布地	あか 赤	米沢市大字刈安字志田218他	縄文時代 (中～晩期) 平安時代	河岸段丘 (480m)	宅畑 地
8	散布地	くり こ ばし 栗 子 橋	米沢市万世町字橋場23816他	縄文時代 (後期)	河岸段丘 (456m)	畑地
9	散布地	かわ ごえ いし 川 越 石 b	米沢市万世町字川越石24319他	縄文時代	河岸段丘 (453m)	山原 林野
10	散布地	かわ ごえ いし 川 越 石 a	米沢市万世町字川越石五 24314他	縄文時代 (後期)	河岸段丘 (430~437m)	山原 畑地
11	土壇	かわ ごえ いし ど だん 川 越 石 土 壇	米沢市万世町字川越石四 24307-4	中世	河岸段丘 (449m)	原野
12	散布地	かり やす 刈 安 a	米沢市万世町刈安字矢沢原 23659-2他	縄文時代 (後期)	河岸段丘 (420m)	山原 林野
13	散布地	かり やす 刈 安 b	米沢市万世町刈安字康神前 24371-1	縄文時代 (前・後期)	河岸段丘 (407m)	宅畑 山地
14	集落跡	ずさ やま 梓 山 d	米沢市万世町梓山字田ノ上 5698他	縄文時代 (前期)	痩せ尾根 (315m)	荒山水 地林 田
15	散布地	ずさ やま 梓 山 a	米沢市万世町梓山字馬乗場 5754	縄文時代 (前期)	河岸段丘 (315m)	宅畑 山地
16	城館跡	まち ざい け たて 町 在 家 館	米沢市万世町在家2277他	中世	河岸段丘 (300m)	畑水宅 地
17	城館跡	ばん せい やま だて 万 世 山 館	米沢市万世町字館山	中世	丘陵頂部 (432m)	山林
18	城館跡	いな り やま だて 稲 荷 山 館	米沢市万世町梓山542他	室町時代	山麓 (283m)	山宅道 林地 路
19	集落跡	はせ 馳	米沢市大字川井字元立1038他	奈良時代 平安時代	河岸段丘 (240m)	水田
20	散布地	にし や ち 西 谷 地 b	米沢市大字川井字道下	奈良時代 平安時代	河岸段丘 (238m)	水宅境 田地 内



遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
J R 羽越本線大山駅の南南東1kmに位置し、平地の微高地に立地する。昭和62年の県教委の発掘調査で6世紀中葉の住居跡24棟を検出した。	須恵器	No1618
J R 羽越本線大山駅の南方1.5kmに位置する。平野部の微高地に立地する。昭和62年の県教委の調査で6世紀前半の住居跡1棟を検出した。	今回はなし	No1619
J R 羽越本線大山駅の南南西1.3kmに位置する。平野部の微高地に立地し、昭和63年の県教委の調査で6世紀前半の住居跡を10棟を検出した。	今回はなし	No1653
J R 羽越本線大山駅の南南東800mに位置する。東側を三重堀切で圧画した山頂部を主部とする。東部にも曲輪群が存在する。	今回はなし	
小堅小学校の南東に隣接する山嶺に立地する。南北に長い独立丘の山頂部を主部とし、北に伸びる尾根に沿って、帯曲輪、堀切等が存在する。		
J R 羽越本線五十川駅の東方400mの南側に舌状に張り出す丘陵端部に立地する。開田によって一部破壊された。	今回はなし	No1968
J R 奥羽本線米沢駅の南東10.8kmに位置する。赤浜集落のある段丘上に立地し、東西150m、南北400mの範囲となる。	今回はなし	米沢市遺跡地図 No84
J R 奥羽本線米沢駅の南東10.2kmに位置する。刈安川、栗子川の合流地点の南東の段丘上に立地する。畑地に若干の遺物が散布している。	削器	米沢市遺跡地図 No292
J R 奥羽本線米沢駅の南東9.8kmに位置する。刈安川右岸の段丘上に立地するが、碎石が積み上げられており、遺物は採集できない。	今回はなし	米沢市遺跡地図 No88
J R 奥羽本線米沢駅の南東9.5kmに位置し、刈安川右岸の低位段丘と中位段丘上に立地する。今回は低位段丘で遺物の散布を確認した。	縄文土器、石筥、剥片	米沢市遺跡地図 No86
川越石b遺跡の東に隣接し、現国道13号線の南に位置する。東西7m、南北7m程の方形塚である。	なし	米沢市遺跡地図 No85
J R 奥羽本線米沢駅の南東9kmに位置し、刈安川左岸の段丘上に立地する。現在は植林されて杉林となっており、遺物の散布は未確認。	今回はなし	米沢市遺跡地図 No87
J R 奥羽本線米沢駅の南東8.5kmに位置し、刈安川右岸の段丘上に立地する。畑地に若干の遺物が散布している。	縄文土器	米沢市遺跡地図 No291
J R 奥羽本線米沢駅の南東5.2kmに位置し、北東に延びる痩せ尾根に立地する。露頭面でフラスコ状土坑を検出した。	剥片	米沢市遺跡地図 No297
J R 奥羽本線米沢駅の南東4.8kmに位置し、丘陵端から段丘面となる平地に立地する。土取地周辺で遺物を採集した。	縄文土器、磨石、剥片	米沢市遺跡地図 No278
J R 奥羽本線米沢駅の南東4.4kmに位置し、段丘面となる平地に立地する。地上遺構は消滅しており、詳細は不明である。	なし	米沢市遺跡地図 No373
J R 奥羽本線米沢駅の南東4kmに位置する。丘陵頂部に立地し、曲輪、帯曲輪、腰曲輪等の遺構が存在する。		米沢市遺跡地図 No570
J R 奥羽本線米沢駅の南東3.5kmに位置する。平成8年度の発掘調査で堀や柱穴が検出され、内耳土塼、摺鉢、石臼が出土している。	今回はなし	米沢市遺跡地図 No393
J R 奥羽本線米沢駅の北東1.5kmに位置し、羽黒川右岸の段丘上に立地する。西側が馳上a、東側がbとして登録されていたものを統合した。	今回はなし	米沢市遺跡地図 No353、355を統合。平成10年度県教委試掘調査
J R 奥羽本線米沢駅の北東1.7km、馳上遺跡の北に隣接する。東西200m、南北300m程の範囲と考えられる。	今回はなし	米沢市遺跡地図 No352

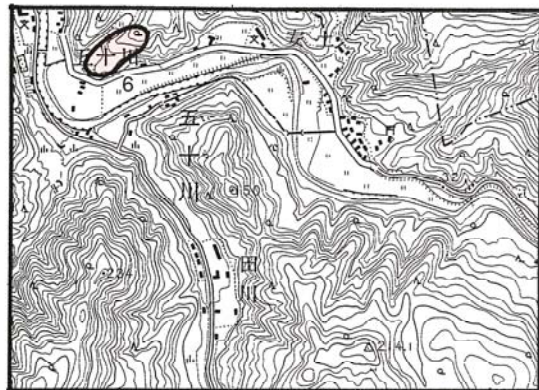
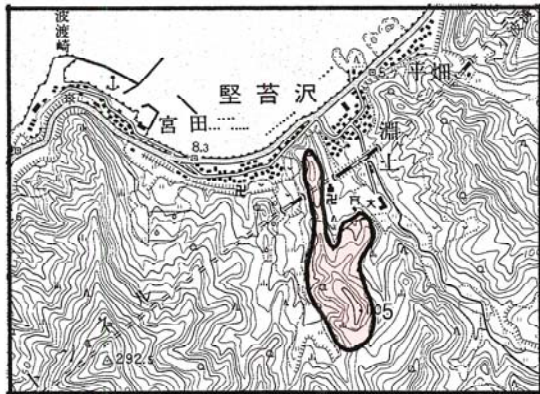
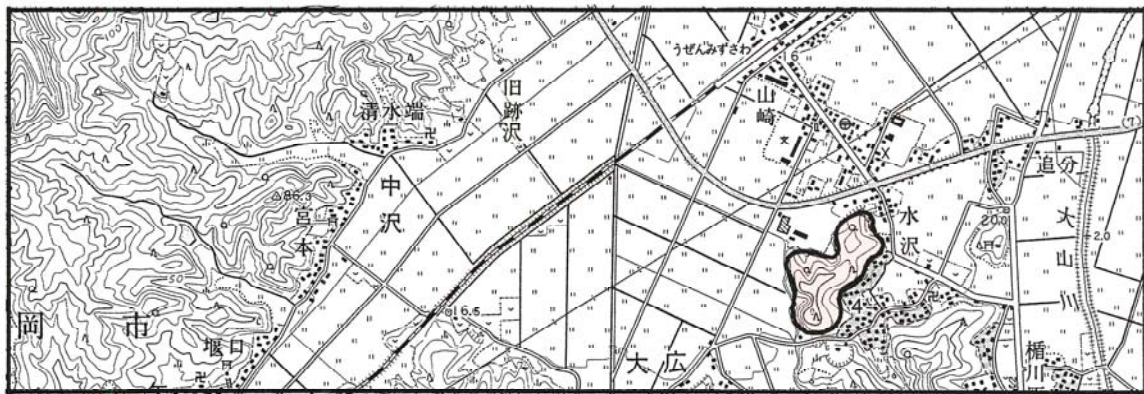
No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
21	散布地	にし 谷 ち a 西 谷 地 a	米沢市大字川井字道下1498他	奈良時代 平安時代	河岸段丘 (235m)	水 田
22	城館跡	おおうらたて の うちたて 大浦館ノ内館	米沢市中田町字館ノ内	中 世	河岸段丘 (230m)	宅水道 地田路
23	城館跡	と の うち だて 外ノ内館	米沢市中田町字外ノ内	中 世	河岸段丘 (231m)	境宅水 内地田
24	集落跡	おん だし 押 出	東置賜郡高畠町大字深沼字押出	縄文時代 (前期)	平 地 (212m)	水道 田路
25	散布地	まつ ざわ まえ 松 沢 前	南陽市松沢字松沢前三六	縄文時代	山 麓 (214m)	畑宅水 地地田
26	散布地	まつ ざわ 松 沢	南陽市松沢字松沢前三	縄文時代	山 麓 (214m)	宅畑 地地
27	包蔵地	こ いわ さわ 小 岩 沢	南陽市小岩沢字水上1501-1他	縄文時代 (中・後期)	山 麓 (290m)	宅畑 地地
28	墳墓	こ いわ さわ ぶん ぼ 小 岩 沢 墳 墓	南陽市小岩沢字水上1528	平安時代 (?)	台 地 (296m)	山墓 林地
29	集落跡	つか だ 塚 田	山形市大字志戸田字茨田	弥生時代 古墳時代 奈良時代	平 地 (103m)	水宅 田地
30	散布地	とう し や しき 藤 治 屋 敷	山形市大字中野字藤治屋敷	平安時代	自然堤防 (97m)	水畑 田地
31	散布地	うま あらい ば 馬 洗 場 B	山形市大字中野字馬洗場	平安時代	自然堤防 (96m)	水畑果 樹 田地園



第6図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(1)

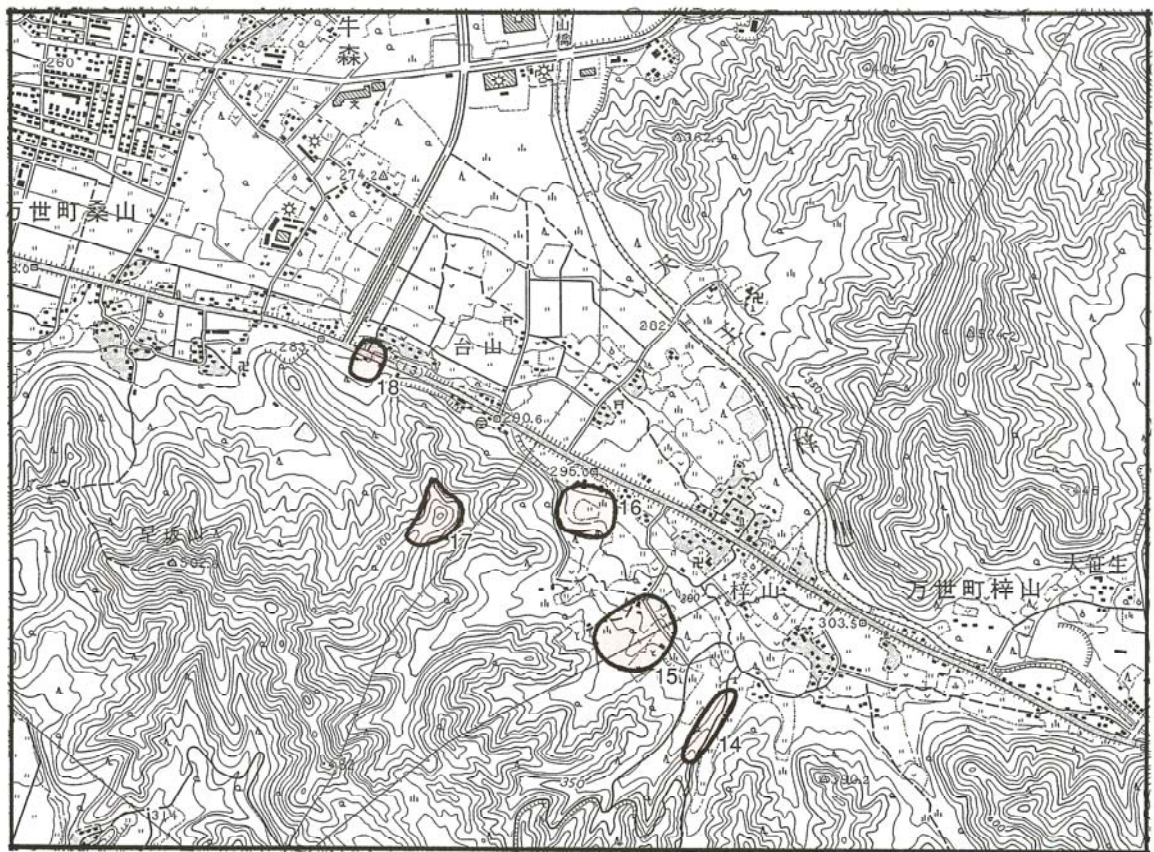
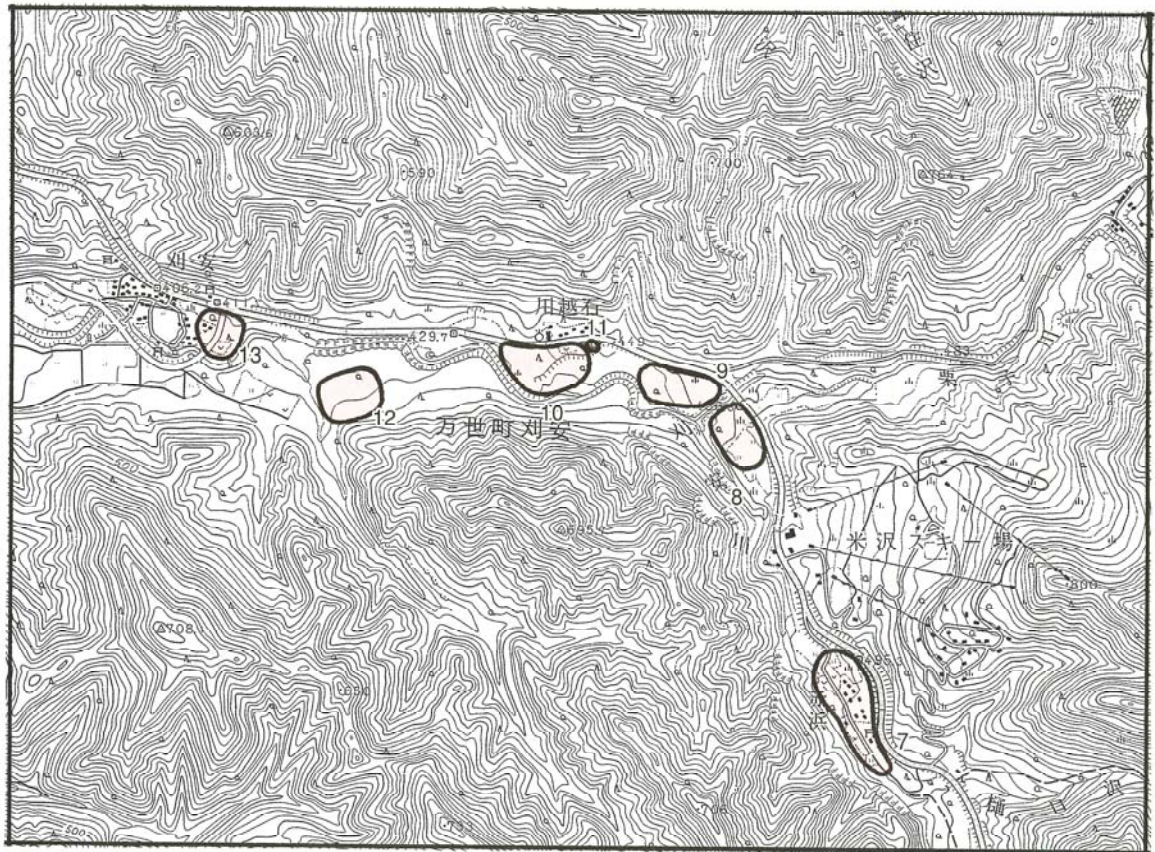


遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
J R 奥羽本線米沢駅の北東2kmに位置し、羽黒川右岸の段丘上に立地する。東西200m、南北350mの範囲と考えられる。	今回はなし	米沢市遺跡地図 No351
J R 奥羽本線米沢駅の北方3.3km、最上川と羽黒川の合流地点の北方の段丘上に立地する。地上遺構は消滅しており、詳細は不明である。	今回はなし	米沢市遺跡地図 No517
J R 奥羽本線米沢駅の北方3.5kmに位置する。地上遺構は消滅しており、詳細は不明であるが、東西80m、南北90mの範囲に及ぶとみられる。	今回はなし	米沢市遺跡地図 No514
J R 奥羽本線赤湯駅の南東2.8kmに位置する。縄文時代の低湿地集落。昭和60～62年の発掘調査で縄文時代観を塗りかえる成果が得られた。	今回はなし	No1302
J R 奥羽本線赤湯駅の東方3.8kmに位置し、南面する山麓に立地する。畑地に縄文時代の剥片や碎片の散布がみられる。	剥片、碎片	平成10年度登録
松沢前遺跡の東の宅地となっている南面する山麓斜面に立地する。かつて、37cmを越える長さの儀器とみられる磨製石斧等が出土している。	今回はなし	南陽市史 A14
J R 奥羽本線中川駅の南東500mに位置する。山麓の平地に立地し、畑地内に若干の遺物が散布している。	縄文土器、スクレーパー	No1248
J R 奥羽本線中川駅の南東400mの周囲より一段高い台地の東端部に立地する。かつて、須恵器系の蔵骨器が出土している。	今回はなし	No1249
茨田集落の南側に位置する。昭和42年の基盤整備の工事中に発見された。遺跡範囲修正。	今回は未検出	No126 平成10年7月県教委試掘調査
中野地区の東側400m、白川左岸に形成された自然堤防上に連なる遺跡群のひとつ。県道のすぐ南側に位置する。	今回は未検出	平成2年度登録 平成10年10月県教委試掘調査
中野地区の東側400m、白川左岸に形成された自然堤防上に連なる遺跡群のひとつで県道北側約150mに位置する。	今回は未検出	平成2年度登録 平成10年10月県教委試掘調査



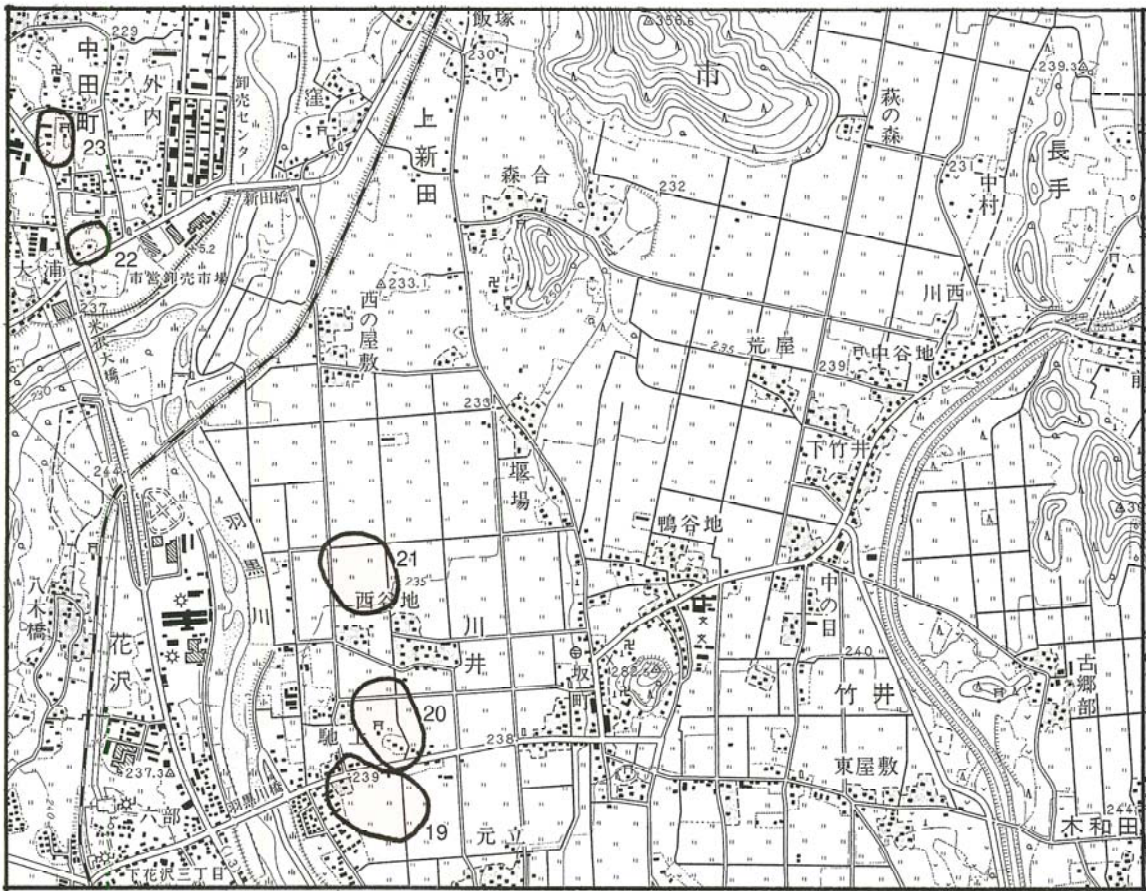
第7図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(2)





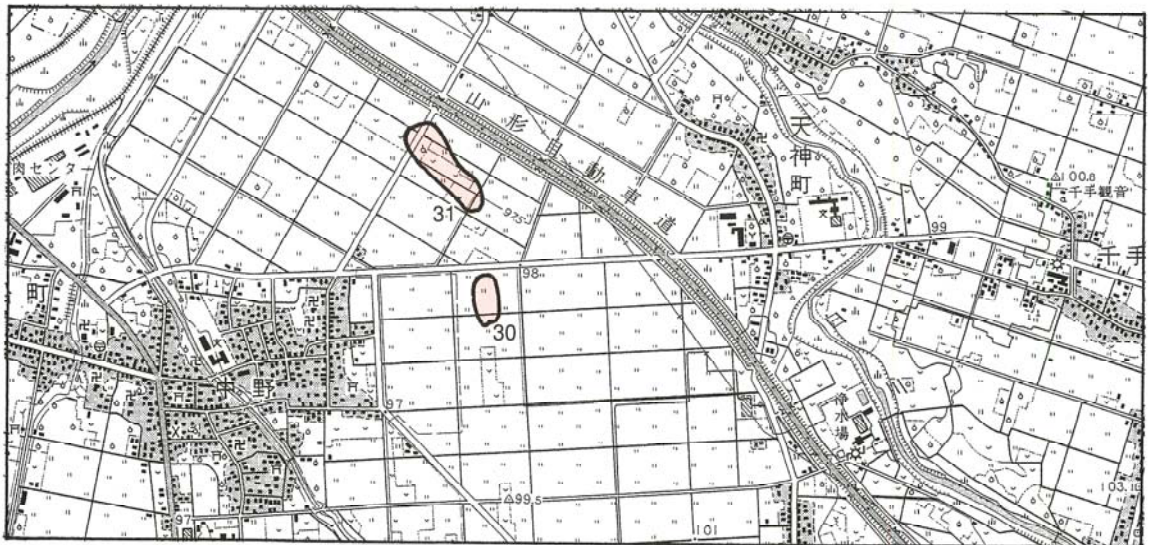
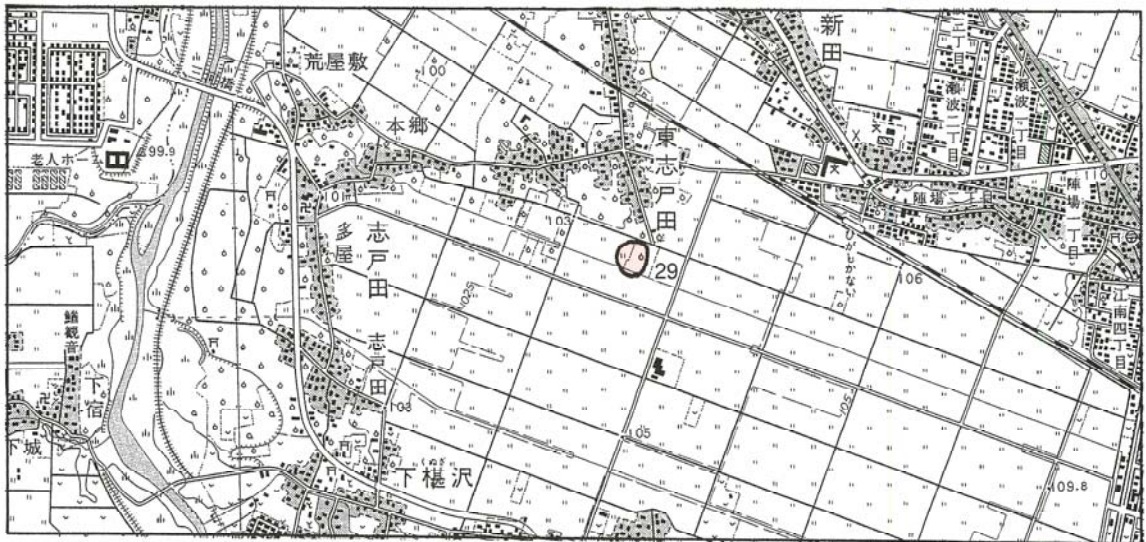
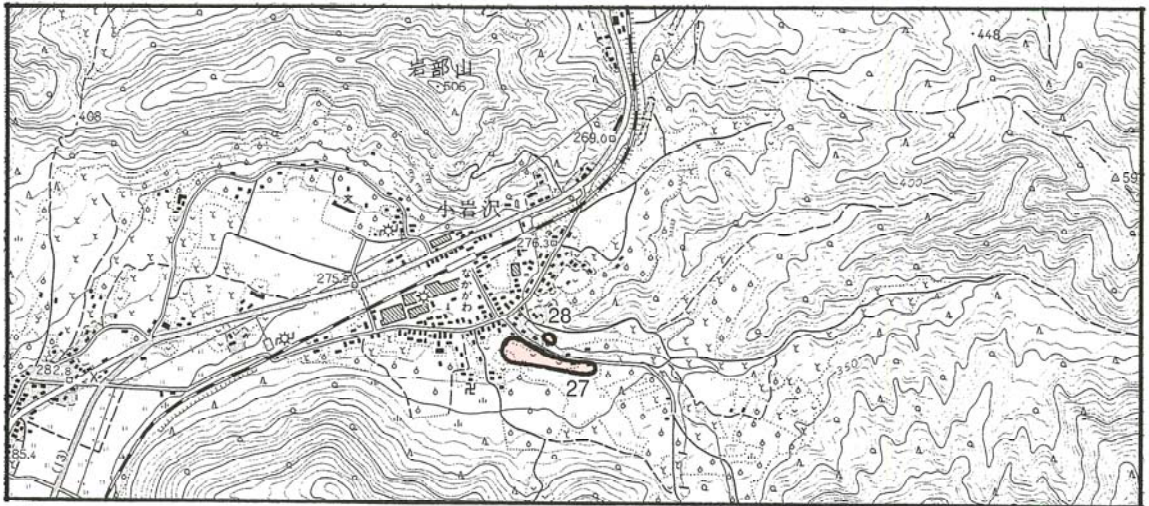
第8図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(3)





第9図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(4)





第10図 日本道路公団事業関係遺跡位置図(5)



矢馳A遺跡近景（南から）



矢馳A遺跡採取遺物



矢馳B遺跡近景（西から）



清水新田遺跡近景（北東から）



木の下館跡近景（南西から）



堅苔沢館跡近景（北西から）



堅苔沢館跡東端堀切（南西から）



河内袋遺跡近景（南から）





赤浜遺跡近景（北から）



栗子橋遺跡近景（南から）



栗子橋遺跡採取遺物



川越石 b 遺跡近景（北西から）



川越石 a 遺跡近景（北西から）



川越石 a 遺跡採集遺物



川越土壇近景（北西から）



刈安 a 遺跡近景（南西から）



刈安 b 遺跡近景 (南西から)



刈安 b 遺跡採取遺物



梓山 a 遺跡近景 (南東から)



梓山 d 遺跡近景 (南から)



梓山 d 遺跡採集遺物



町在家館跡近景 (東から)



万世山館跡遠景 (東から)



稻荷山館跡近景 (北から)



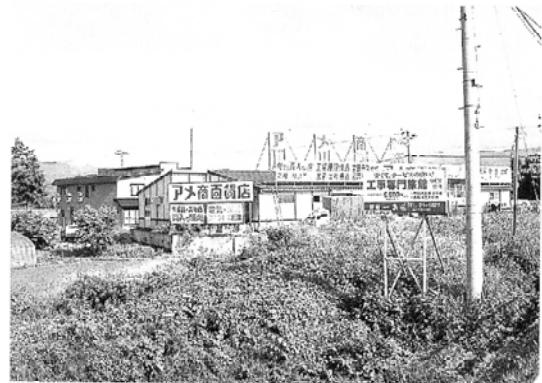
馳上遺跡遠景（南から）



西谷地b遺跡近景（北から）



西谷地a遺跡近景（南西から）



大浦館の内館跡近景（北西から）



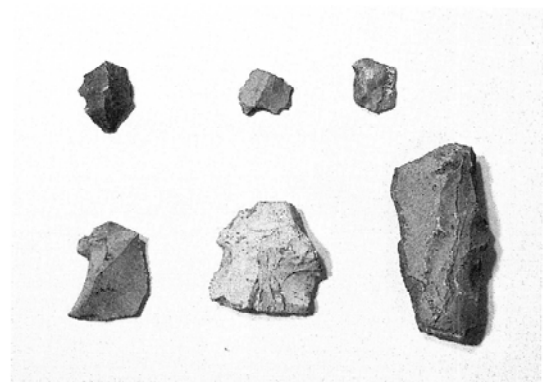
外ノ内館跡近景（北東から）



押出遺跡近景（東から）



松沢前遺跡近景（南東から）



松沢前遺跡採集遺物





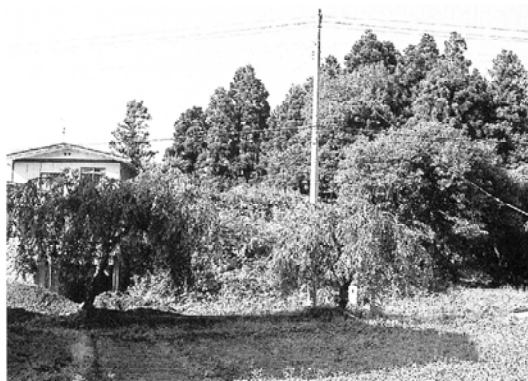
松沢遺跡近景（南西から）



小岩沢遺跡近景（西から）



小岩沢遺跡採集遺物



小岩沢墳墓近景（南から）



塚田遺跡近景（南から）



塚田遺跡 T 1 調査状況（北から）



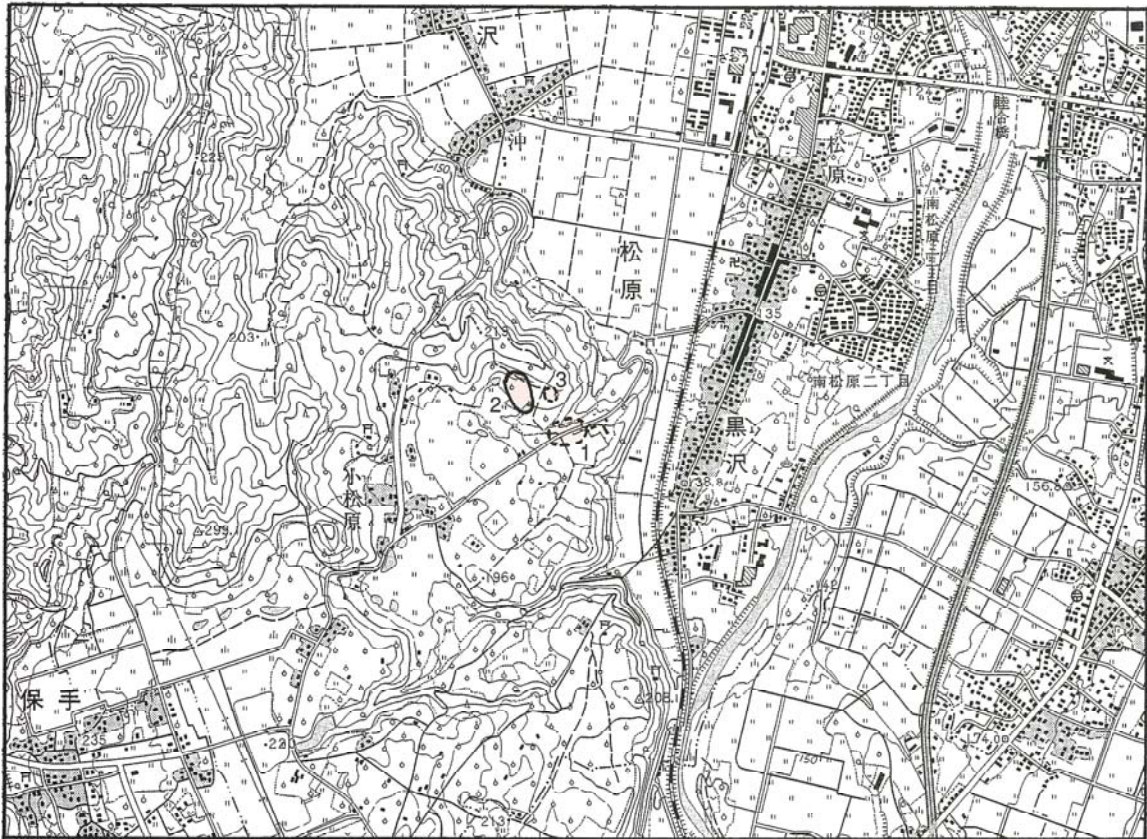
藤治屋敷遺跡近景（東から）



馬洗場 B 遺跡近景（南から）

(4) 地域振興整備公団事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	二ツ石	山形市大字松原字弥陸原1408 他	旧石器時代	段丘 (167m)	畑地
2	散布地	八ヶ森	山形市大字松原字八ヶ森1243 -8他	旧石器時代 縄文時代	山麓 (180m)	畑地 樹園
3	祭祀跡	あきばさん山	山形市大字松原字八ヶ森	奈良時代	山麓 (190m)	畑地



第11図 地域振興整備公団事業関係遺跡位置図



二ツ石遺跡近景 (西から)



二ツ石遺跡試掘溝 (T T 1 東から)

図版16 地域振興整備公団事業関係遺跡 (1)



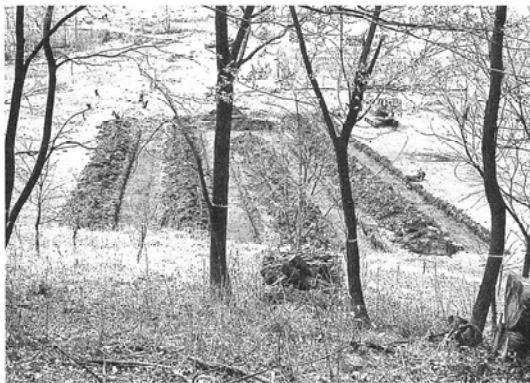
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
トレンチ調査の結果、遺構・遺物は確認されず。遺跡は山形市南山形配水場建設時に消滅したものと考えられる。	なし	遺跡登録抹消 No68 平成9年3月県教委試掘調査実施
遺跡北西隅にトレンチ調査実施。この部分は遺構・遺物未検出。遺跡南側畑地でフレイク表採。範囲は南側にやや広がるものとみられる。	フレイク(表採)	遺跡範囲要修正 No69 平成9年3月県教委試掘調査実施
遺跡とされる全城に6本のトレンチを設定。遺構・遺物は未検出。古代刀一振出土と伝えられるが、調査地点に遺跡は所在しない。	なし	遺跡位置不明 No72 平成9年3月県教委試掘調査実施



秋葉山遺跡近景（南から）



秋葉山遺跡調査状況（北から）



秋葉山遺跡調査状況（北から）



八ヶ森遺跡近景（北西から）



八ヶ森遺跡試掘溝（TT1、東から）

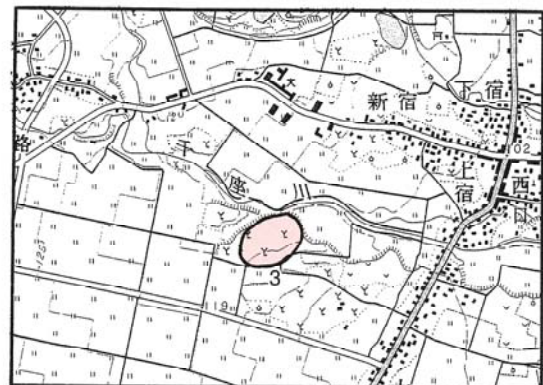
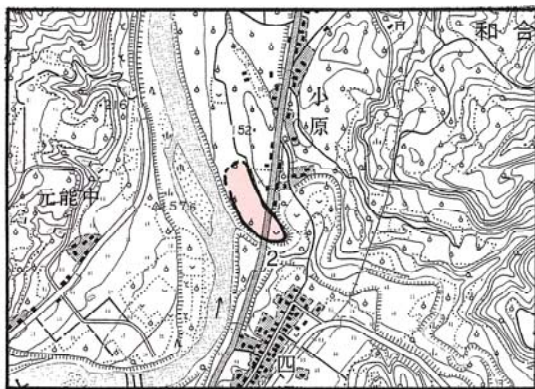
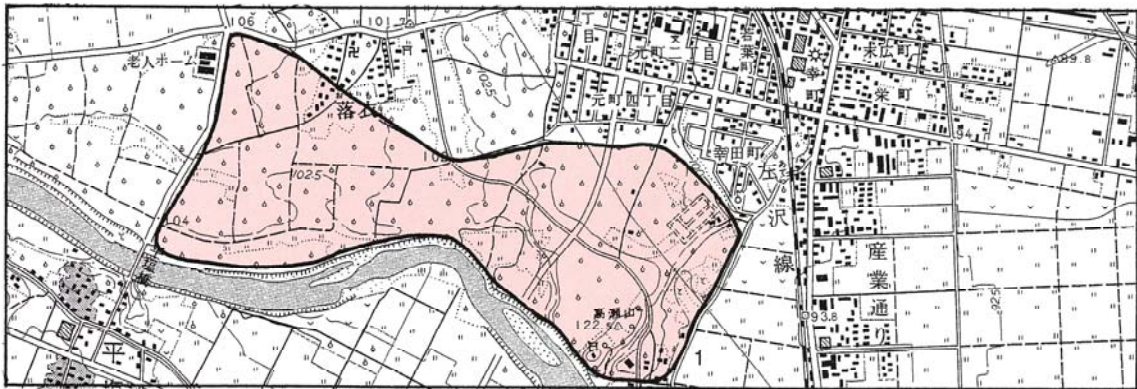


八ヶ森遺跡試掘溝（TT3、東から）



(5) 県土木事業関係遺跡

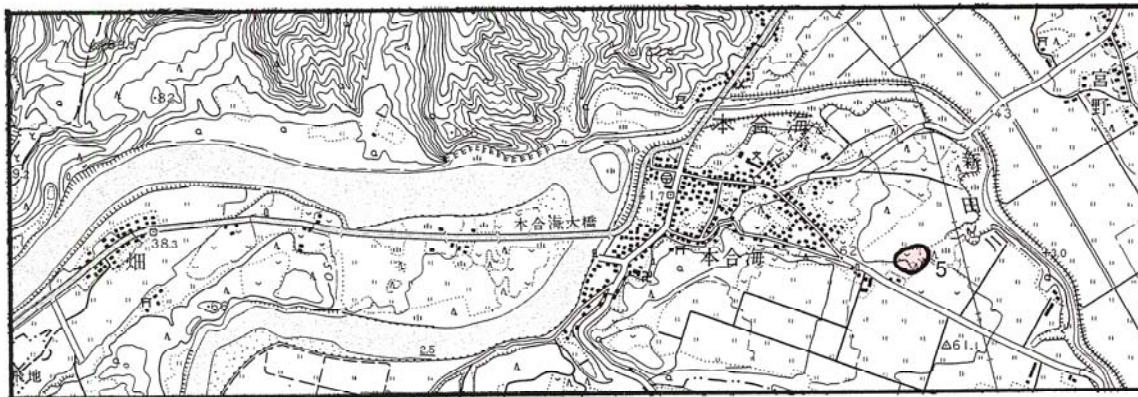
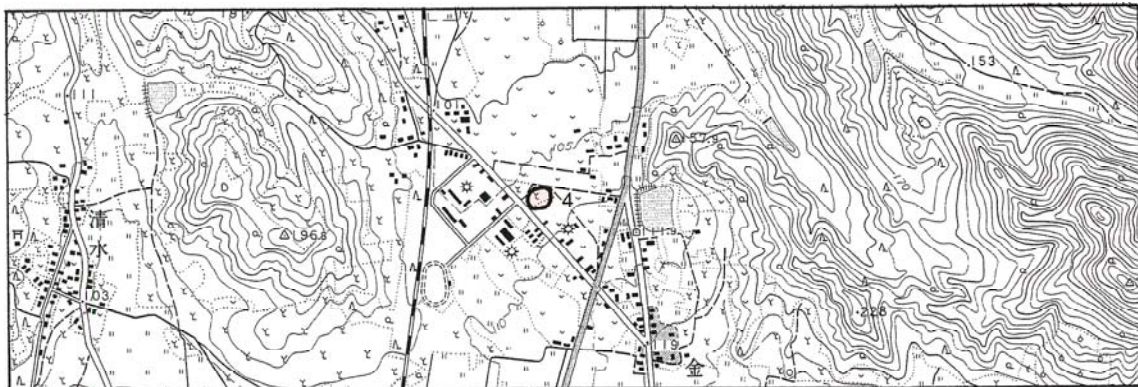
No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	たか せ やま 高 瀬 山	寒河江市大字柴橋字落衣他	旧石器 時代 中世	段丘 (105m)	畑地
2	包蔵地	お小 ざさ 小 笹	西村山郡朝日町大字和合字小笹	縄文時代 弥生時代	段丘 (144m)	果樹園地 畑地
3	散布地	たか かけ 高 崖	村山市大字湯野沢字高崖	縄文時代	段丘 (121m)	果樹園地 畑地
4	集落跡	だい に のう じょう 第 二 農 場	村山市大字本飯田柳堤2485	縄文時代 (前期?)	微高地 (104m)	畑地
5	散布地	もと あい かい うえ の 本 合 海 上 野	新庄市大字本合海上野	旧石器 時代	段丘 (60m)	畑地 山林
6	包蔵地	さん 三 たき 三 滝	最上郡真室川町大字川の内字上三滝6の乙	縄文時代 (中期)	段丘 (165m)	水田 畑地
7	散布地	さん 三 たき 三 滝	最上郡真室川町大字川の内字上三滝	縄文時代	段丘 (162m)	畑地 水田
8	集落跡	いし ばたけ 石 畑	南陽市金山川西字石畑3519番地他	縄文時代 中期末	段丘 (290m)	宅地
9	集落跡	こ まつ ばら 小 松 原	米沢市大字季山字堤尻	縄文時代	段丘 (340m)	果樹園地 畑地
10	集落跡	まえ ざい け 前 在 家	米沢市大字季山字前ノ在家	縄文時代	段丘 (342m)	宅地 畑地
11	包蔵地	いわ き 木 B 岩 木 B	西村山郡河北町大字岩木220他	縄文時代	段丘 (122m)	畑地



第12図 県土木事業関係道路位置図(1)

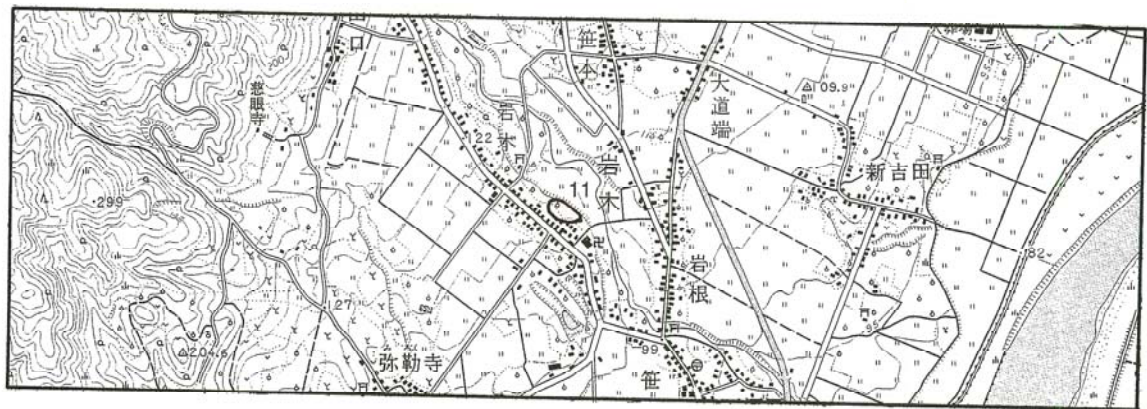
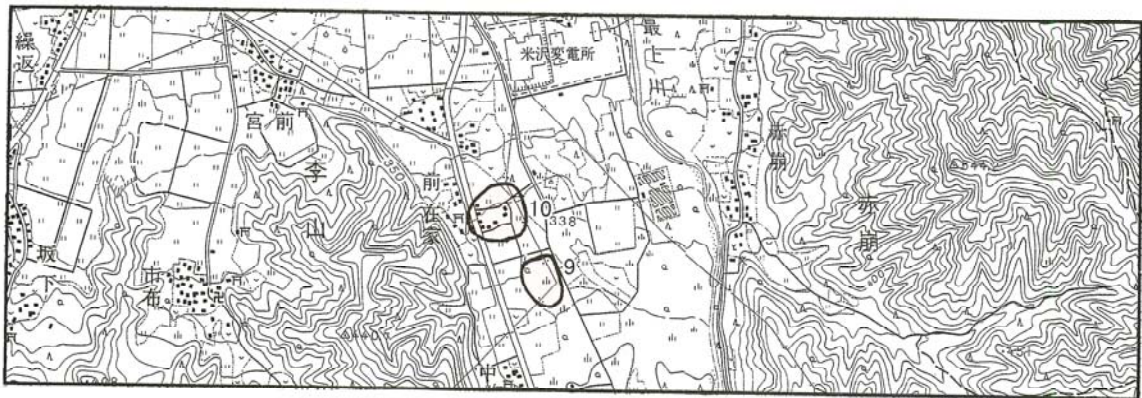
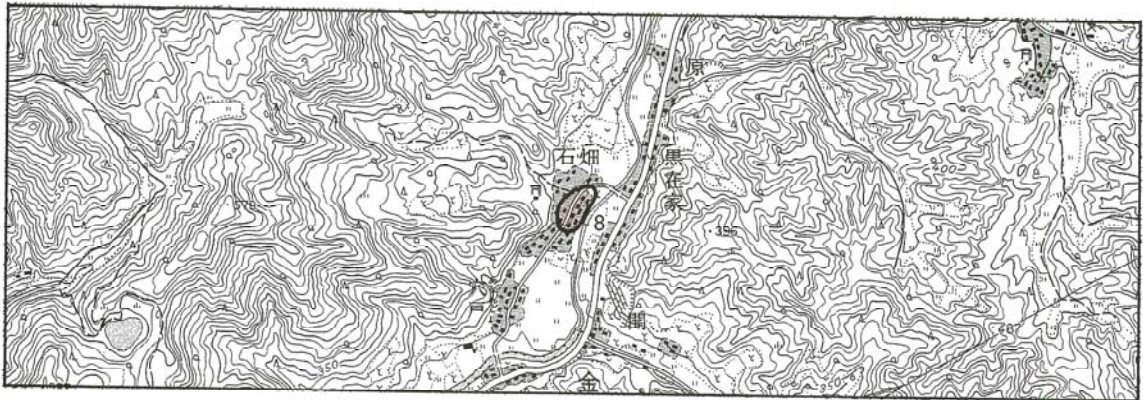
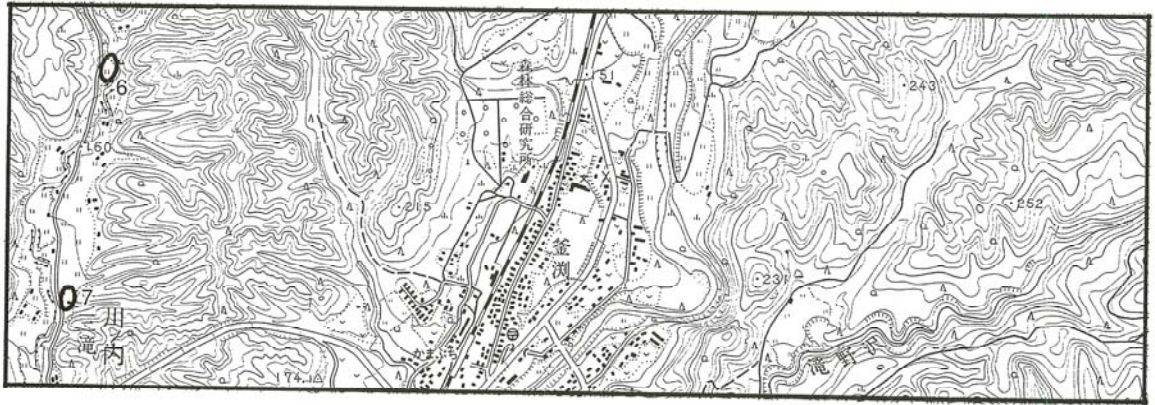


遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
寒河江市郊外南から南西方向、最上川左岸沿いの丘陵地である高瀬山一帯に大きな広がりをもって位置する。	今回は未検出	No430 平成10年7月県教委立 会調査実施
最上川右岸沿いの段丘上、国道287号送橋北側に位置する。道路改良予定地に11本のトレンチを設定。対象地では遺構・遺物未検出。	今回はなし	平成8年度登録 平成 10年8月県教委試掘調 査実施範囲修正
千座川右岸の段丘上に立地する。道路予定地に9本のトレンチを設定。対象地では遺構・遺物は未検出。予定地外でフレイク表採。	剥片	No577 平成10年11月県教委試 掘調査実施
金谷地区の北西約500m、金谷工業団地北側の県立村山農業高等学校第二農場に位置する。		No630 平成10年12月県教委試 掘調査実施
JR陸羽西線升形駅の南南西2.9km、新田川の形成した段丘上に立地する。今回の試掘地には遺物の分布がなく、範囲の訂正が必要である。	今回はなし	平成6年度登録 平成10年12月県教委試 掘調査実施
JR奥羽本線釜淵駅の西北西1.5kmに位置する。今回の工事立会で、二次移動した層位で土器片と石器が出土したが、遺構は未検出であった。	縄文土器片、スクレーパー 剥片	No990 平成10年11月県教委立 会調査実施
JR奥羽本線釜淵駅の西1.3kmの段丘上に立地する。今回の工事立会地点では、遺構・遺物は未発見であったが、隣接地で剥片を採集した。	剥片	平成6年度登録 平成10年9月県教委立 会調査実施
石畑地区内の北側、吉野川右岸沿いの集落内道路両側に位置する。		南陽市M1
最上川左岸、東北電力米沢変電所南側700mに位置する。東西120m、南北160mの範囲。今回の事業については地区外。	今回はなし	米沢市遺跡地図 E 127
最上川左岸、東北電力米沢変電所南側400mに位置する。河川改修に伴い立会調査を実施。対象地は盛土整地層が厚く、遺構・遺物未検出。	今回はなし	米沢市遺跡地図 E 128 平成11年1月県教委立 会調査実施
岩木地区東側の法師川右岸の河岸段丘上に立地する。東西30m、南北100mの畑地に遺物が散布する。今回の事業については地区外。	剥片	No480



第13図 県土木事業関係遺跡位置図（2）



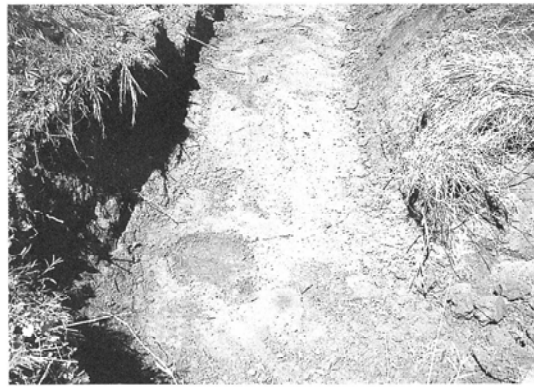


第14図 県土木事業関係遺跡位置図(3)





高瀬山遺跡近景（西から）



高瀬山遺跡ピット検出状況（東から）



小笹遺跡近景（北から）



小笹遺跡試掘溝（TT1、北から）



高崖遺跡遠景（南から）



高崖遺跡試掘溝（TT2、北から）



第二農場跡遺跡（北東から）



第二農場跡遺跡T1調査状況（北から）



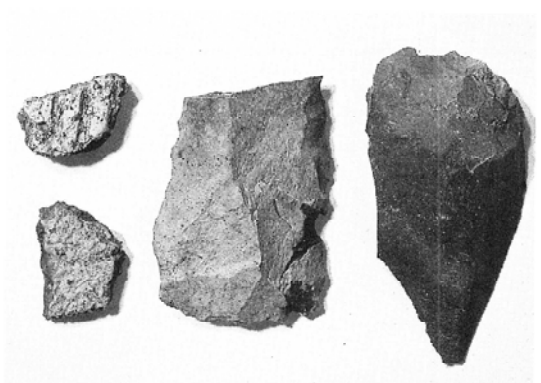
本合海上野遺跡近景（北西から）



本合海上野遺跡T T 1 全景（南から）



三滝遺跡調査区全景（北から）



三滝遺跡出土遺物



三滝2 遺跡調査区全景（北から）



三滝2 遺跡採集遺物

図版19 県土木事業関係遺跡（2）

(6) 教育庁事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	城館跡	ふじ しま じょう 藤 島 城	東田川郡藤島町大字藤島字古楯跡	中世	平地 (10m)	宅地 学校敷地
2	集落跡	やまがたにしこうしきちない 山形西高敷地内	山形市鉄砲町1-15-64	縄文時代 ~ 平安時代	扇状地 (134m)	学校敷地
3	集落跡	や 谷 がしわ 谷 柏	山形市大字谷柏	古墳時代 奈良時代 平安時代	平地 (126m)	畑地 宅地 水田
4	散布地	にい 新 がた 新 形	鶴岡市新形町村東1-105	平安時代	平地 (15m)	学校敷地
5	散布地	むら やま のう こう 村 山 農 高	村山市大字楯岡字西大旦	縄文時代	平地 (105m)	学校敷地



石畑遺跡近景（東から）



石畑遺跡近景・吉野川右岸（東から）



小松原遺跡近景（北から）



前在家遺跡近景（北から）



前在家遺跡近景（北から）

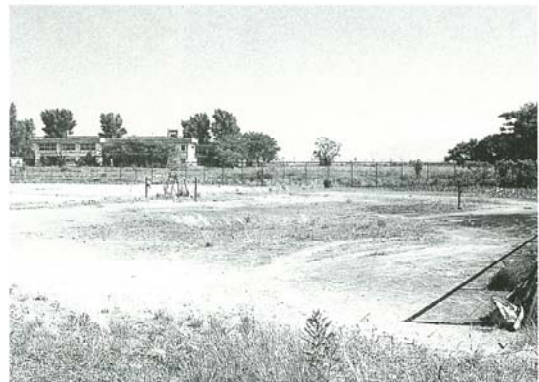
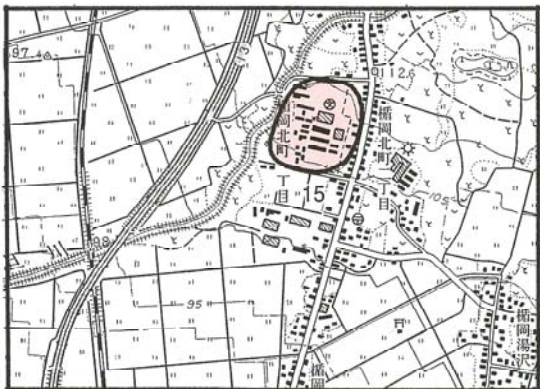
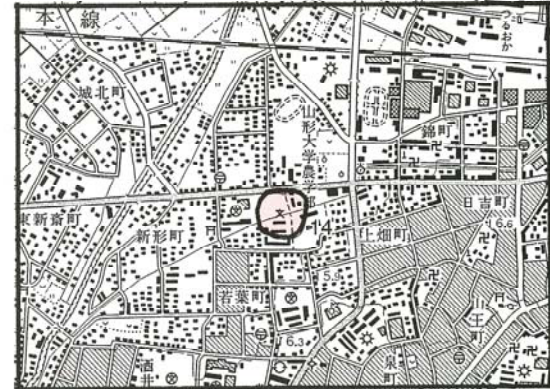
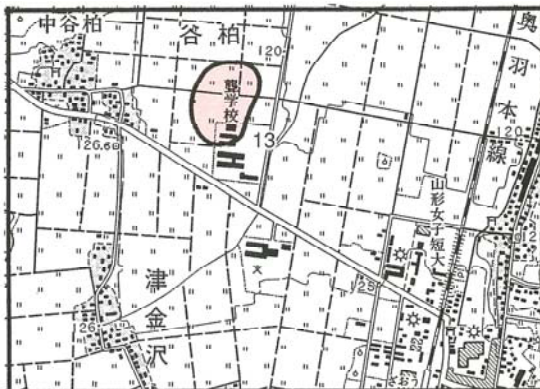
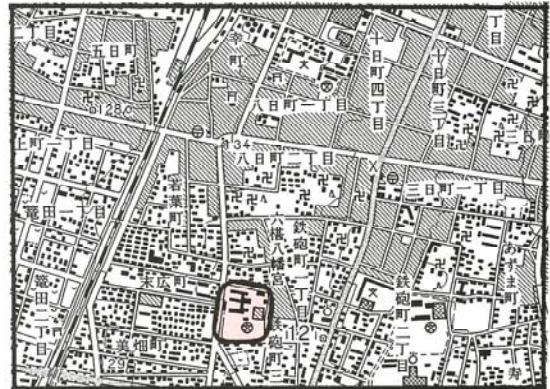
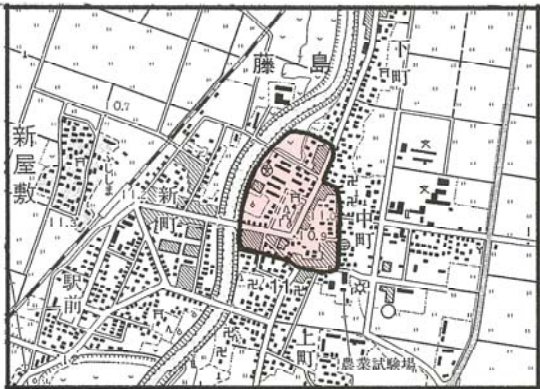


岩木B遺跡近景（南から）

図版20 県土木事業関係遺跡（3）

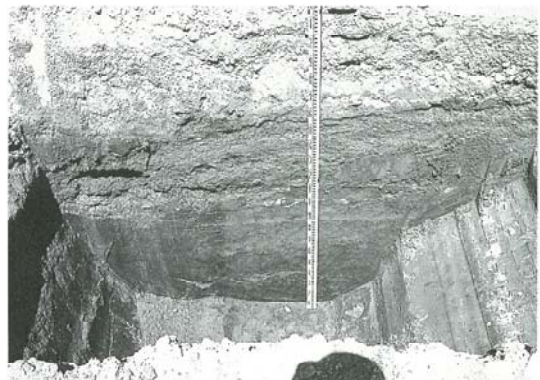
遺跡概要	出土遺物	備考
J R 羽越本線藤島駅の東方500mの藤島川右岸に位置する。今回、北部の試掘で堀の確認面まで1.8m以上となることが明らかとなった。	今回はなし	No1716 平成10年7月県教委試掘調査実施
J R 奥羽本線山形駅の南方1.2kmに位置する。今回の校舎解体に伴う調査で敷地内の北東部隅は旧河道で遺構の分布以外にあると判断された。	縄文土器	No29 平成10年12月、11年1月 工事立会実施
J R 奥羽本線蔵王駅の北西1.2kmに位置する。山形ろう学校内の試掘調査で二次移動の風化の著しい土師器が出土したが、遺構は未検出。	土師器、赤焼土器	No85 平成10年9月県教委試掘調査
J R 羽越本線鶴岡駅の南西900mの平地に立地する。遺跡の中心は三小、山大農学部境界付近であり、家政高校敷地は範囲外となる。	今回はなし	No1533 平成11年3月県教委隣接地工事立会実施
J R 奥羽本線楯岡駅の北2.5kmに位置する。かつて、石鏃が採取されているが、詳細は不明。今回の試掘でも遺物、遺構は未検出。	今回はなし	No567 平成10年10月県教委試掘調査



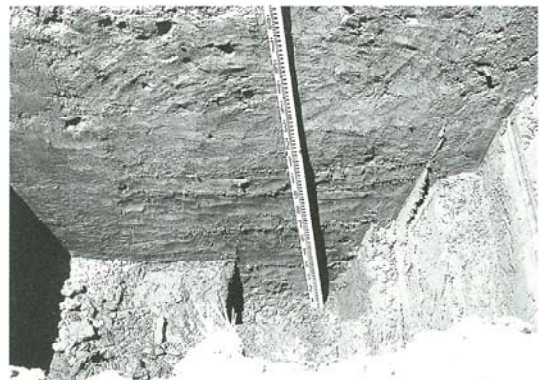


藤島城跡調査区近景 (南東から)

第15図 教育庁事業関係遺跡位置図



藤島城跡T1土層 (東から)

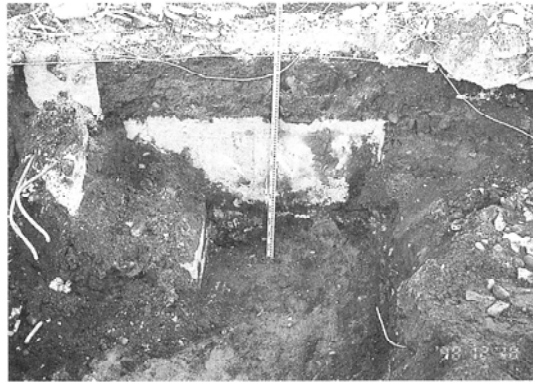


藤島城跡T3土層 (東から)

図版21 教育庁事業関係遺跡 (1)



山形西高敷地内遺跡第2 体育館基礎解体  
立会トレンチ土層（南から）



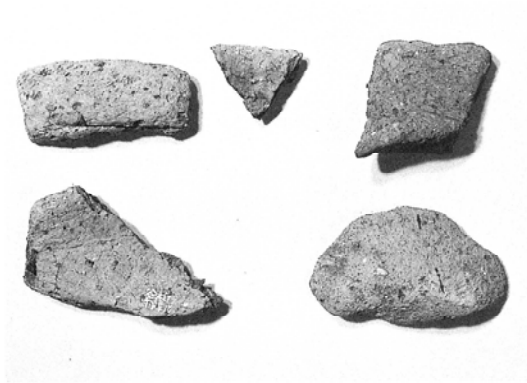
山形西高敷地内遺跡音楽堂解体  
トレンチ土層（西から）



谷柏遺跡調査区近景（南から）



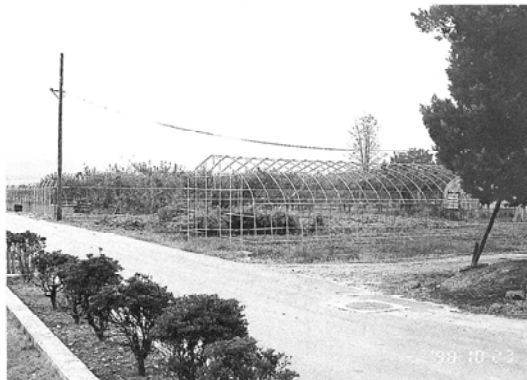
谷柏遺跡調査トレンチ土層（西から）



谷柏遺跡出土遺物



新形遺跡隣接地土層（南から）



村山農高遺跡調査区近景（南東から）



村山農高遺跡調査トレンチ全景（南から）



## 2 試掘調査の概要

### (1)横沼遺跡 (平成10年度登録)

所在地 山形県東田川郡余目町大字前田野目字横沼

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成10年11月5・6日

起回事業 県営ほ場整備事業 (十六合地区)

遺跡環境 前田野目集落の中心部から西北西約600mの平地に立地する。地目は水田であり、標高9.5~9.7mを測る。本遺跡の西方750m~1kmにかけて、何れも平安時代の大縄1、2、3の各遺跡が所在し、平成10年度に工事立会の調査が実施された。

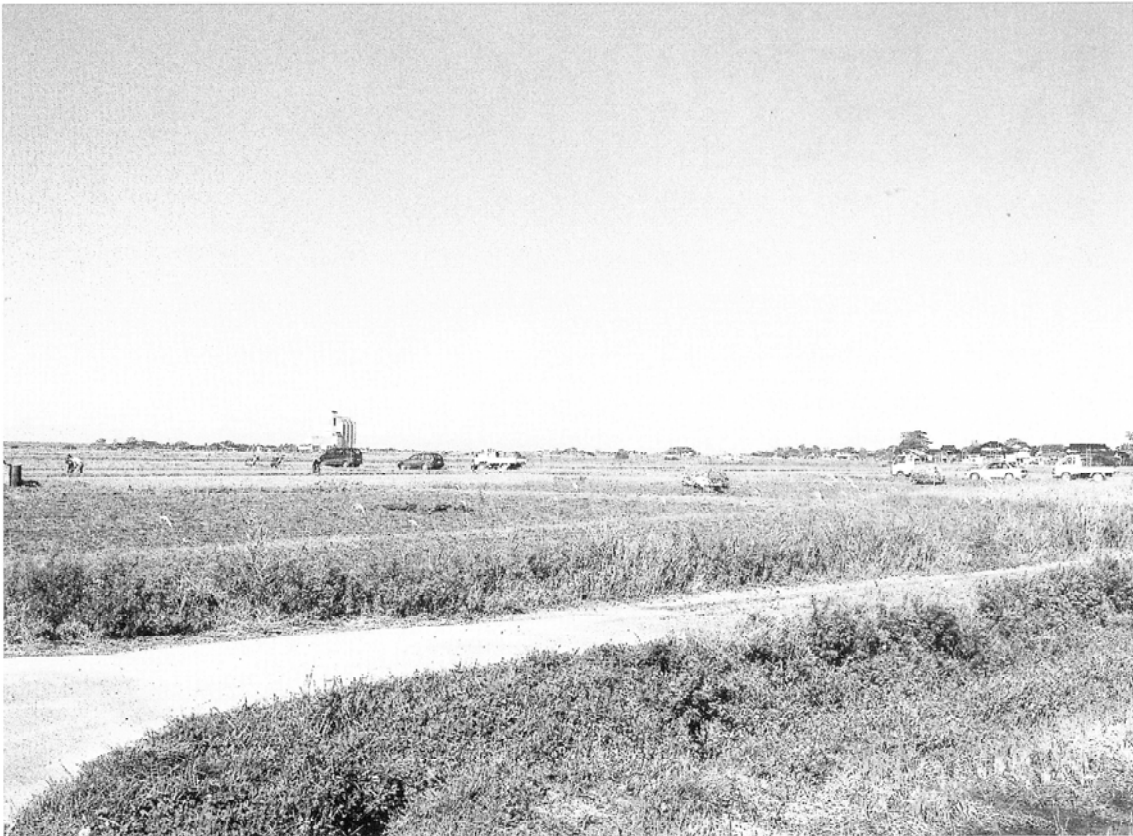
試掘状況 平成8年度の表面踏査で平安時代の遺物が採集された地点を含めて東西120m、南北210mの範囲に1×1mの試掘坑を合わせて42ヶ所設定して坪掘りを行った。

調査結果 42ヶ所の試掘坑の内3ヶ所で平安時代の遺物が出土した。TP7ではIV層上面からヘラ切りの須恵器が1点、TP12では同層位で赤焼土器の破片が3点出土した。また、TP28ではIV層にくだんで須恵器の破片が1点出土した。これらの遺物は9世紀代のものと考えられる。遺跡の範囲は東西110m、南北120mに及ぶものとみられるが、試掘坑で遺構の発見はなく、遺物の分布も極めて散漫である。隣接する大縄1~3遺跡と同様、比較的深い位置に生活面があり、ほ場整備事業での面工事の影響はほとんどないと判断された。

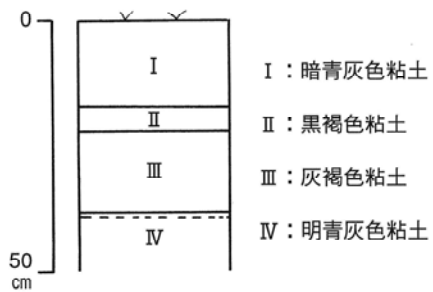


第16図 横沼遺跡概要図





遺跡遠景（南から）



T P 17土層柱状図



T P 7土層断面（北から）



T P 12土層断面（北から）



出土遺物

(2) <sup>なかざと</sup>中里遺跡 (米沢市遺跡地図J250)

所在地 山形県米沢市窪田町字倉京3305他

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成10年10月12・13日

起因事業 担い手育成基盤整備事業 (外ノ内下窪田地区)

遺跡環境 米沢市役所から北北東約5Kmに位置し、最上川の形成した低位段丘上に立地する。地目は畑地、果樹園及び水田であり、標高221mを測る。

試掘状況 登録地とその周辺におよそ10mおきに1×1mの試掘坑を86ヶ所設定して遺構確認面までの掘り下げを行った。

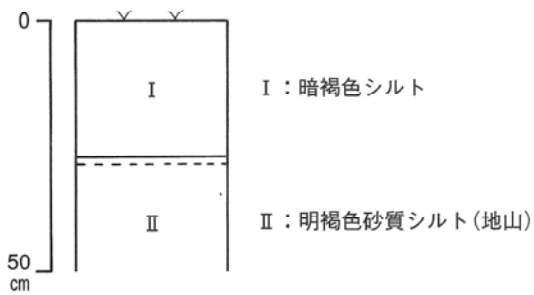
調査結果 86ヶ所の試掘坑のうち28ヶ所で遺構や遺物が検出された。遺構の確認面は表土直下のⅡ層上面である。検出された遺構は柱穴になるとみられるピットが大半で、その数も多い。竪穴状遺構や溝状遺構、土坑も僅かに存在する。遺物は須恵器系の中世陶器がTP46で、また、TP47で磨滅した縄文土器片が出土したにすぎない。このため、遺構群の時期を確定することは困難であるが、その大半は中世のものではないかと考えられる。遺跡の範囲は米沢市教育委員会で登録した範囲より狭くなり、東西150m、南北90m、面積は約11,200㎡となる。



第17図 中里遺跡概要図



遺跡遠景（北西から）



T P 25土層断面図



T P 5土層断面・遺構検出状況（南から）



T P 38土層断面・遺構検出状況（南東から）



出土遺物



(3) 太夫小屋<sup>たゆうこや</sup>2遺跡 (平成8年度登録)

所在地 山形県東置賜郡川西町大字時田字太夫小屋

調査員 渋谷孝雄

調査期日 平成10年10月19～22、29・30日

起回事業 担い手育成基盤整備事業 (諏訪江地区)

遺跡環境 J R米坂線羽前小松駅の南東約2.8kmに位置し、黒川右岸の自然堤防上に立地する。地目は水田、宅地、畑地で標高は215m前後を測る。

試掘状況 昨年度に29ヶ所の試掘を実施し、遺跡のおおよその範囲を捉えていたが、範囲の確定と時代の特定のために平成10年度にも調査を追加したものである。1×1mの試掘坑の数は昨年度分と合わせて109ヶ所となった。

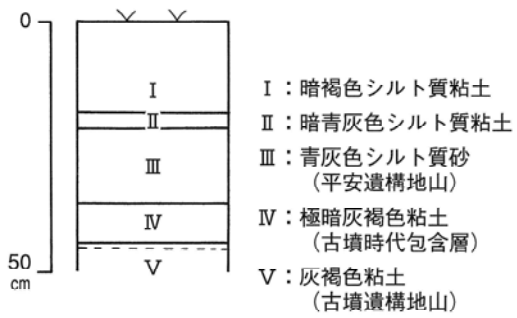
調査結果 今年度の試掘坑80ヶ所のうち45ヶ所で遺構や遺物が検出された。現地表下約20～35cmの間に平安時代の遺構確認面があり、柱穴や土坑などの遺構と須恵器、土師器片が検出された。また、平安時代の遺構地山の下に古墳時代の遺物包含層があり、竪穴住居等の遺構が存在することが確認された。古墳時代の遺構・遺物は現地表から40～70cmの深いところで検出された。土師器埴、高坏等の一括遺物の存在も明らかとなり、分布密度の高い遺跡であることが判明した。遺跡の範囲は昨年度の推定より北東側にやや拡大し東西100m、南北320m、面積は約27,000m<sup>2</sup>に及ぶと考えられる。



第18図 太夫小屋2遺跡概要図



遺跡近景（南から）



T P 85土層柱状図



T P 42土層断面・土師器出土状況（東から）



T P 86土師器出土状況（南から）



出土遺物

(4) 太夫小屋<sup>たゆうごや</sup>3遺跡 (平成8年度登録)

所在地 山形県東置賜郡川西町大字時田字矢測

調査員 渋谷孝雄

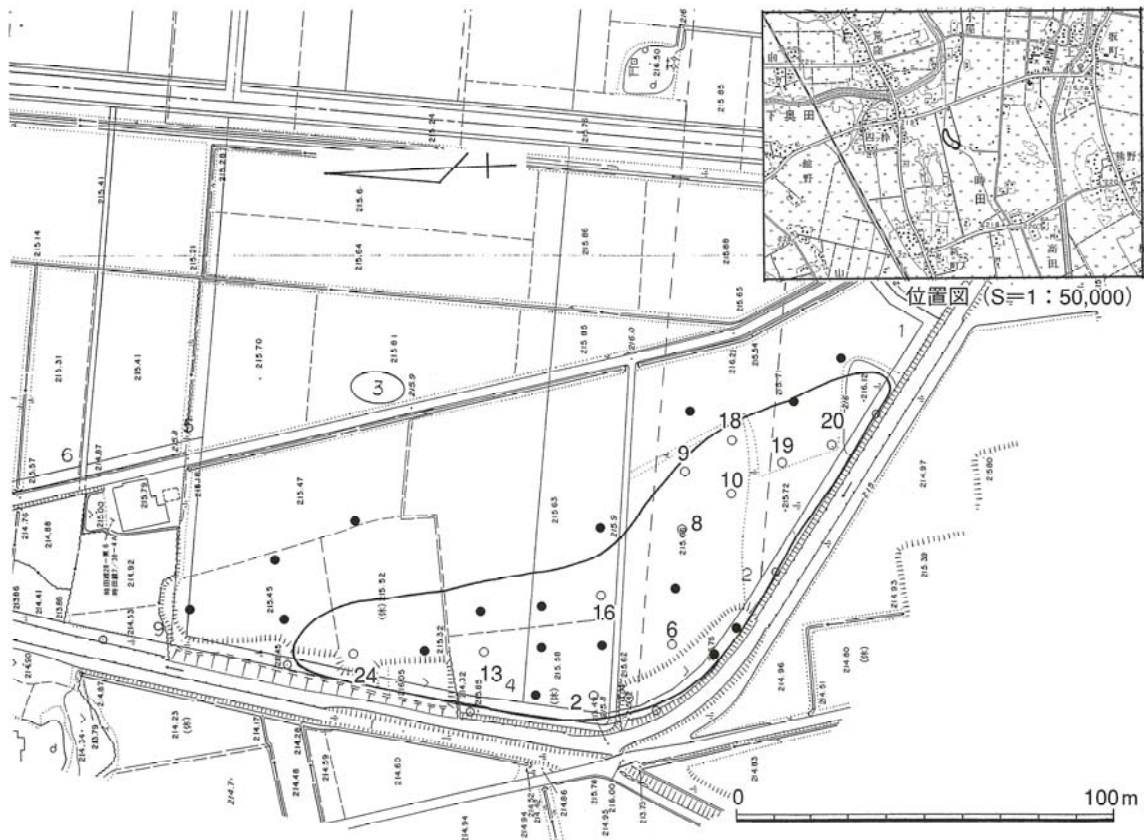
調査期日 平成10年10月21・22日

起回事業 担い手育成基盤整備事業 (諏訪江地区)

遺跡環境 JR米坂線羽前小松駅の南東約3.3km、太夫小屋2遺跡の南方500mに位置し、黒川右岸の自然堤防上に立地する。地目は水田、畑地となっており標高は215~216m前後を測る。

試掘状況 平成8年度の登録地を中心に1×1mの試掘坑を28ヶ所設定して遺構確認面までの掘り下げを行った。

調査結果 28ヶ所の試掘坑のうち13ヶ所で平安時代の遺構や遺物が検出された。高盛土となっているTP3・4・5のある地区を除き現地表下約25cm前後で遺構確認面となる。TP8で層厚4cmの、TP12で5cmの遺物包含層が確認されたが、そのほかの試掘坑では遺物包含層は確認されなかった。堅穴住居の一部や土坑、柱穴が検出された。遺物には須恵器と赤焼土器があり9~10世紀前半のものと考えられる。遺跡の範囲は東西40m、南北150mとなり、面積は約3,500㎡となる。

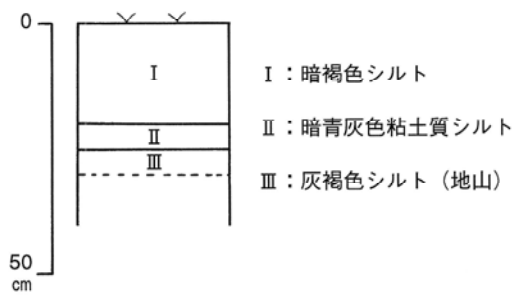


第19図 太夫小屋3遺跡概要図

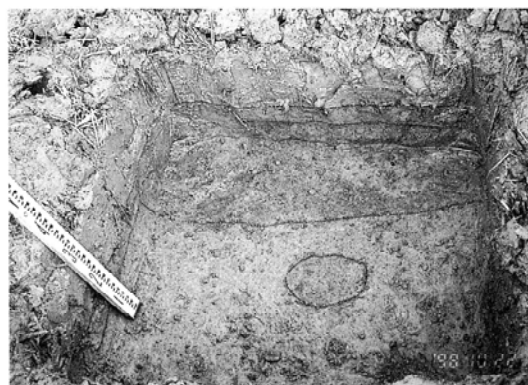




遺跡近景（南東から）



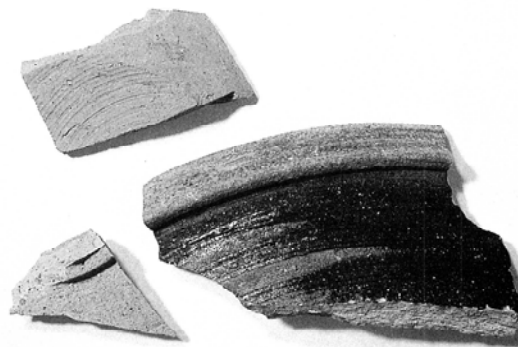
T P 10土層柱状図



T P 10土層断面・遺構検出状況（西から）



T P 13土層断面・遺構検出状況（南から）



出土遺物

(5) <sup>なかがわら</sup>中川原C遺跡 (平成8度登録)

所在地 山形県新庄市大字十日町字中川原

調査員 長橋 至

調査期日 平成10年10月21～23日

起因事業 担い手育成基盤整備事業 (野中地区)

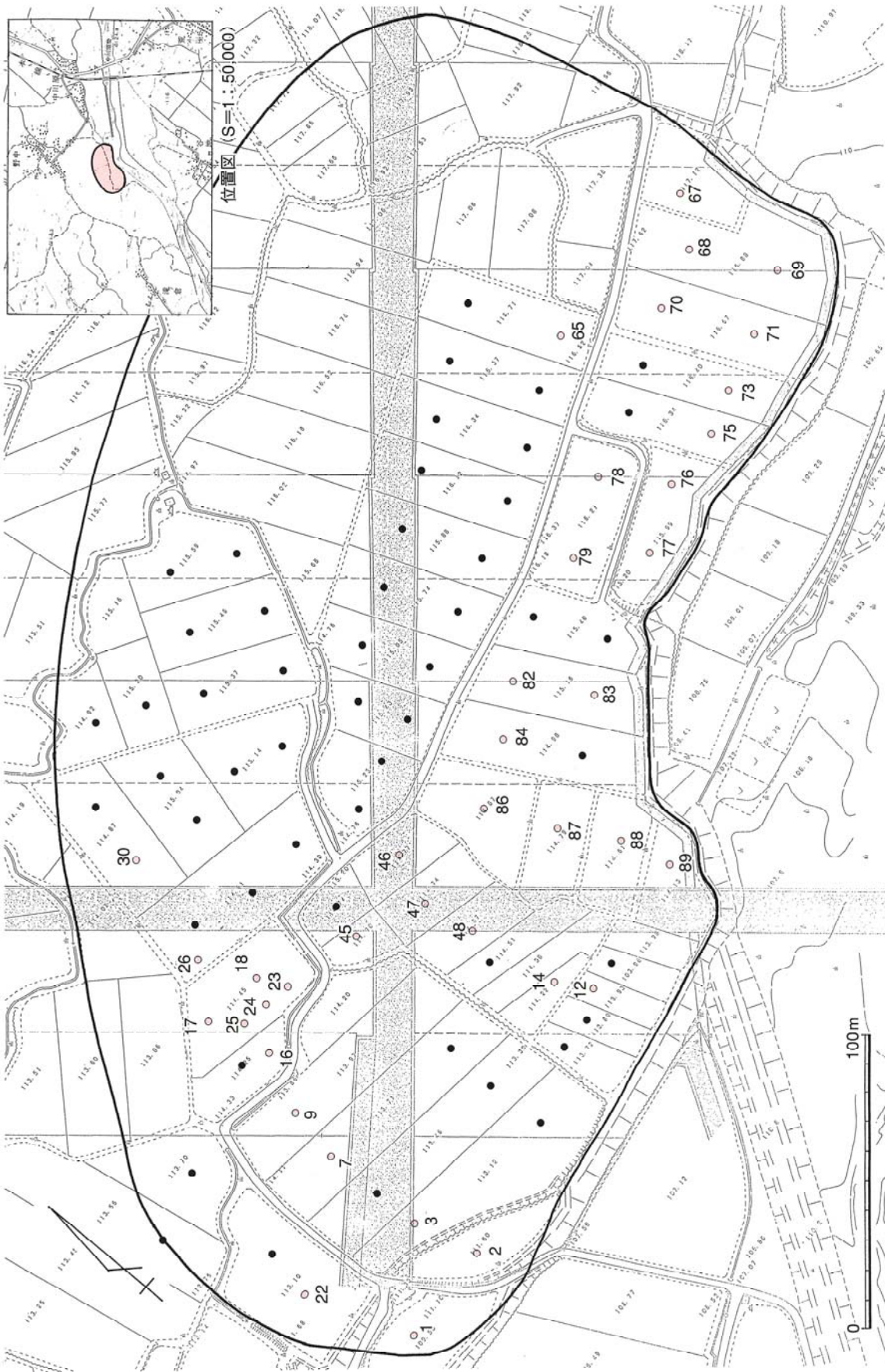
遺跡環境 新庄盆地を流れる泉田川右岸の河岸段丘上に立地する。地目は水田、標高は113～117mを測る。周辺には、中川原・立泉川遺跡等縄文時代の遺跡が所在している。

試掘状況 平成9年度に遺跡範囲の西側約3分の1について試掘調査を実施した。今回は残り部分について1.5×2mまたは1.5m四方の試掘坑を69カ所設定した。調査は重機による表土除去、人力による調査後、重機による埋め戻し、畦畔等の復旧作業を行った。なお、遺跡北東の一部については事業計画との関連で試掘調査対象から除外している。

調査結果 調査対象地区の南半で遺構・遺物が検出された。縄文時代中期を中心とする集落跡と考えられる。北半部は湿地となっており、昨年度遺物が集中したTP16～26域以外は遺構・遺物の分布状況は希薄となる。TP45～47では良好な遺物包含層と柱穴・竪穴住居跡と推定される土色変化が検出された。TP82～89では西側で遺物包含層がみられた。段丘縁辺部TP67～79域では表土(耕作土)直下で遺構検出面となる例が多く、遺構は検出されたが過去の開田により遺物包含層・遺構面が部分的に削平されている状況を呈した。

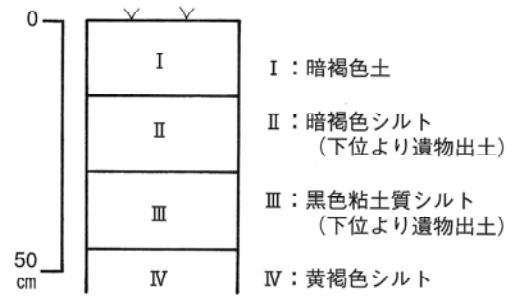
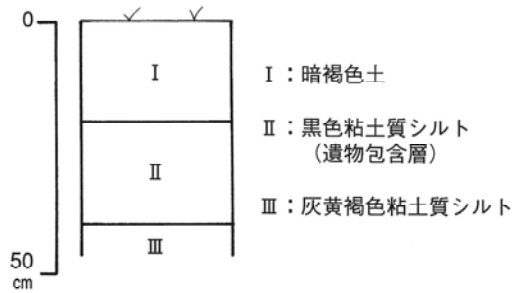


遺跡近景 (南から)

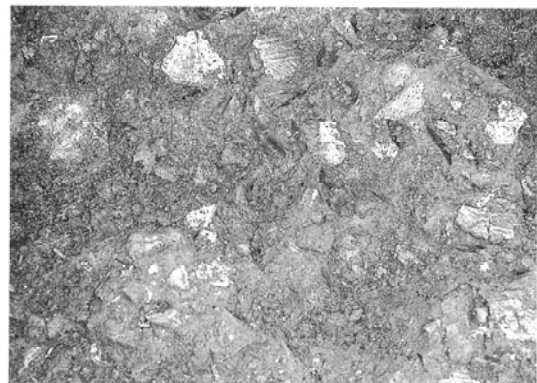


第20図 中川原C遺跡概要図





T P 45遺物出土状況・土層断面 (西から)



T P 45遺物出土状況 (西から)



T P 48検出遺構・土層断面 (西から)



T P 67検出遺構・土層断面 (東から)



T P 71検出遺構・土層断面 (南から)



T P 84検出遺構・土層断面 (北から)



出土遺物 (1) (1/2)



出土遺物 (2) (1/1)

(6) <sup>なかじぞう</sup>中地藏遺跡 (平成2年度登録)

所在地 山形県山形市大字山寺字中地藏

調査員 名和達朗

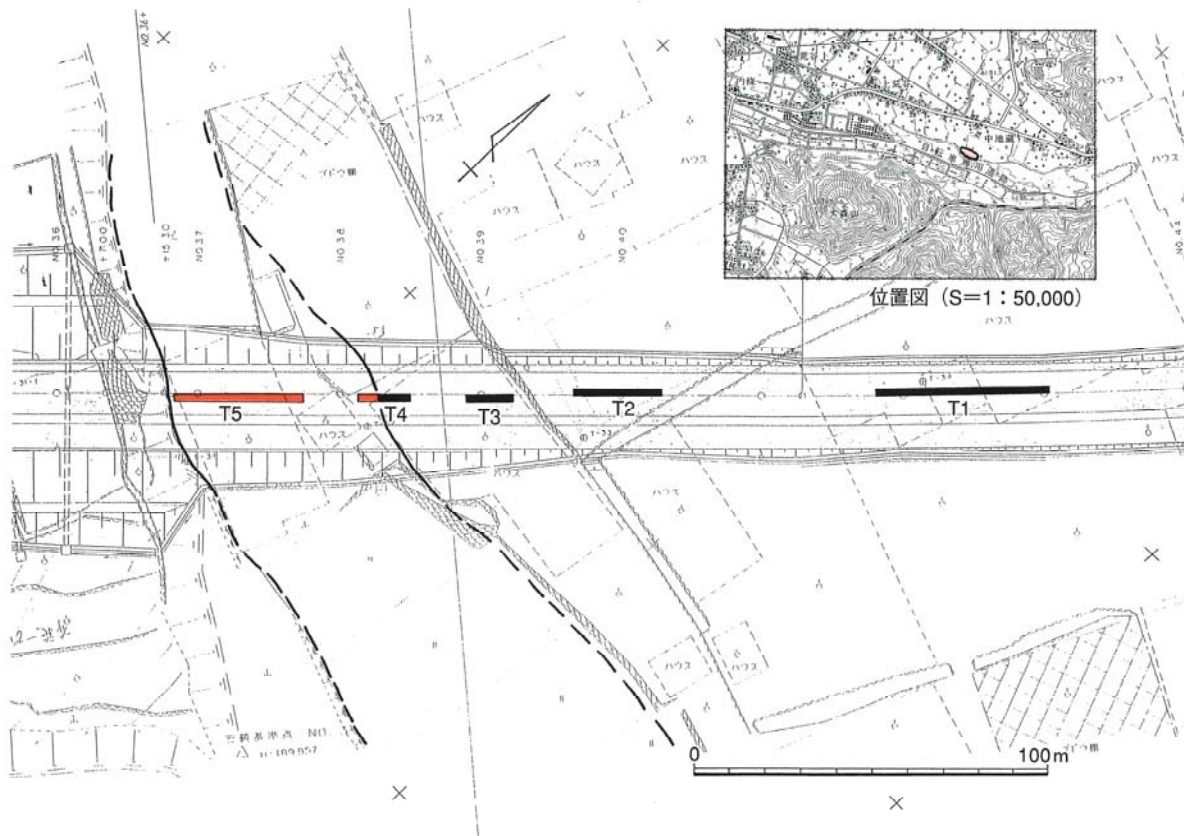
調査期日 平成10年12月21日

起因事業 広域営農団地農道整備事業・村山東部第二期地区

遺跡環境 遺跡は、旧山寺中学校の南西約300m、立谷川右岸の河岸段丘沿いに立地する。地目は、畑地である。土壤に多量に河原石を含む地域であるため、耕作地の周囲には、これまで取り除かれた大小の石が土塁状に積まれている。標高は、196mを測る。遺跡範囲は、東西100m以上、南北28mの河川に沿った細長い広がりをもつ。

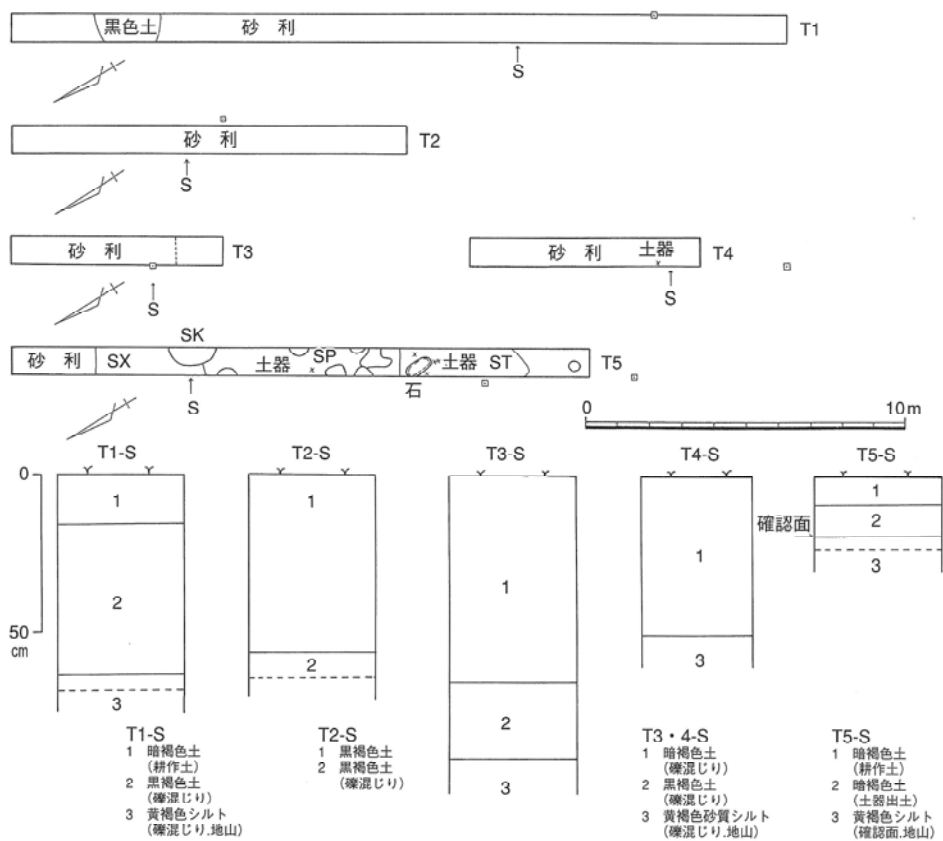
試掘状況 計画道路センター杭を基準にトレンチを5ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山面まで掘り下げ、人力で面削りを行いながら調査を進めた。

調査結果 T1～4は、礫混じり土が広がり、T4から土器を1点出土したのみである。段丘縁の平坦面に位置するT5は、北側2.5m付近から砂質シルト地山になり、遺構・遺物がみとめられ、出土遺物の広がりによりT4南端からT5までを遺跡の南北範囲と確認した。検出遺構は、平面円形及び方形の土色変化により、住居跡、土坑、柱穴等と考えられる。確認面は、3層上面で地表面下21～33cmである。出土遺物は、T5北側から表面採集され、遺構同様に3層上面出土で縄文土器、土師器、須恵器合わせて1袋である。それらの結果により、本遺跡は、縄文時代、奈良・平安時代の集落跡と考えられる。



第21図 中地藏遺跡概要図





第22図 中地藏遺跡検出遺構平面・断面略図



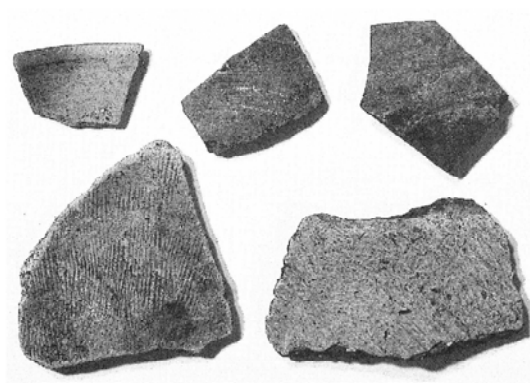
遺跡近景 (北から)



T5 南半部調査状況 (北から)



T5 土層断面 (東から)



出土遺物

(7)ニタ子<sup>またこ</sup>A遺跡 (遺跡番号2,255)

所在地 山形県飽海郡八幡町大蔵字ニタ子

調査員 渋谷孝雄

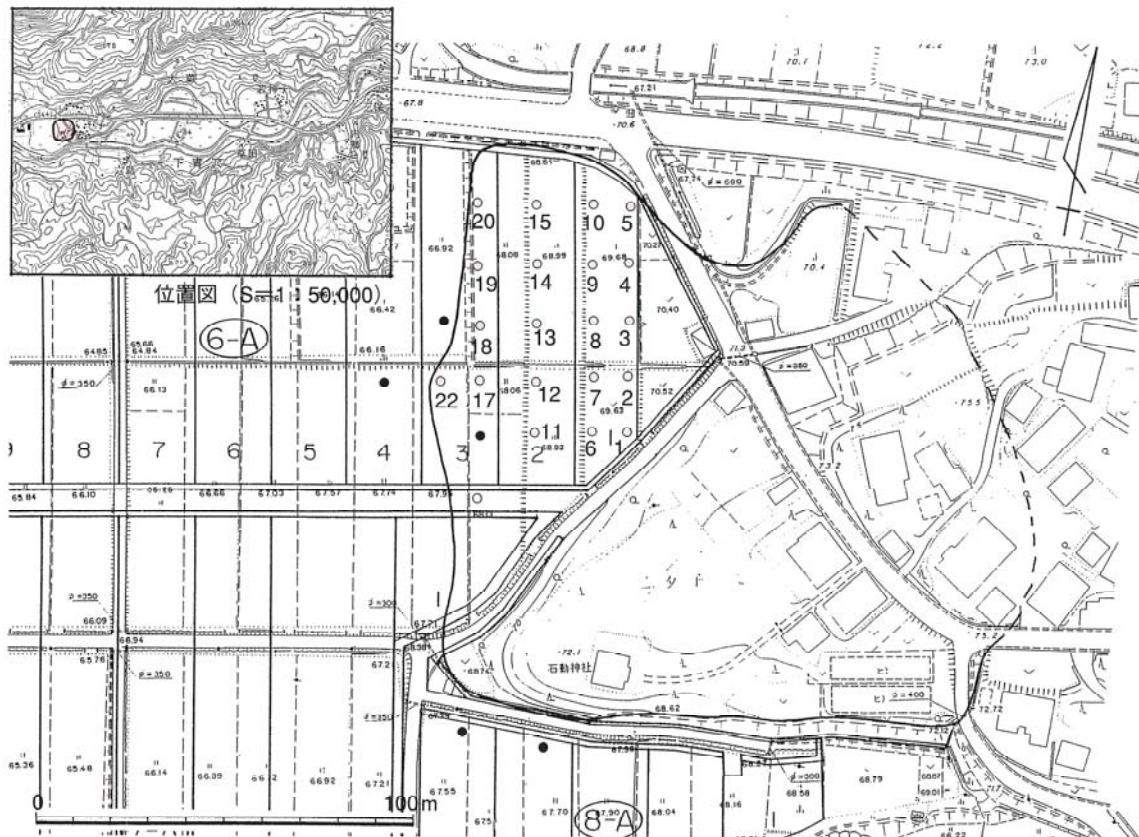
調査期日 平成10年10月26・27日

起因事業 中山間総合整備事業 (下青沢地区)

遺跡環境 八幡町役場の東方約5kmに位置し、荒瀬川右岸の段丘上に立地する。地目は水田、畑地、神社境内となっており標高は68~72m前後を測る。

試掘状況 登録地を中心に1×1mの試掘坑を27ヶ所設定して地山までの掘り下げを行ったが、北部では砂礫層に阻まれて、地山までの掘り下げを断念した箇所がある。

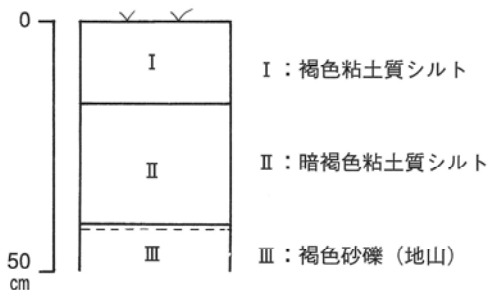
調査結果 27ヶ所の試掘坑のうち21ヶ所で縄文時代晩期の土器と石鏃、磨石、石刀、石核、剥片などの遺物が整理箱に1箱分出土した。遺物の分布する範囲は今回の調査対象区を含め、石動神社境内を中心に東西150m、南北150mの広がりをもっている。しかし、今回の調査対象区では、磨滅した遺物が多く、大半の試掘坑で礫の混入した層位からの出土であり、過去のほ場整備で動いたものである可能性が高い。遺構の検出もなく、検出面が既にあるのか、或いは人力では掘りきれなかった遺物の混じる礫層の下位に残っているのかどうかを明らかにすることはできなかった。次年度に重機を投入して礫層下の状況を把握する必要があるものと考えられる。



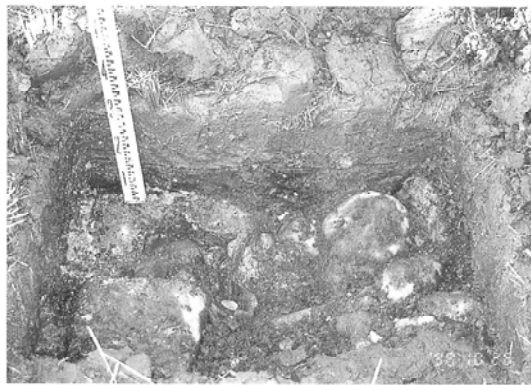
第23図 ニタ子A遺跡概要図



遺跡近景（北から）



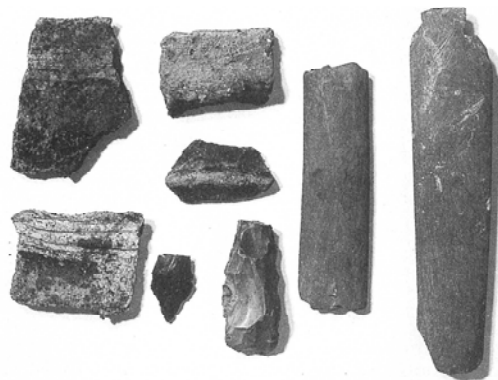
T P 7 土層柱状図



T P 3 土層断面（南から）



T P 15 土層断面（南から）



出土遺物（1/3）



(8) 田尻遺跡 (遺跡番号 903)

所在地 山形県最上郡金山町大字有屋字長野沢

調査員 長橋 至

調査期日 平成10年12月14～16日

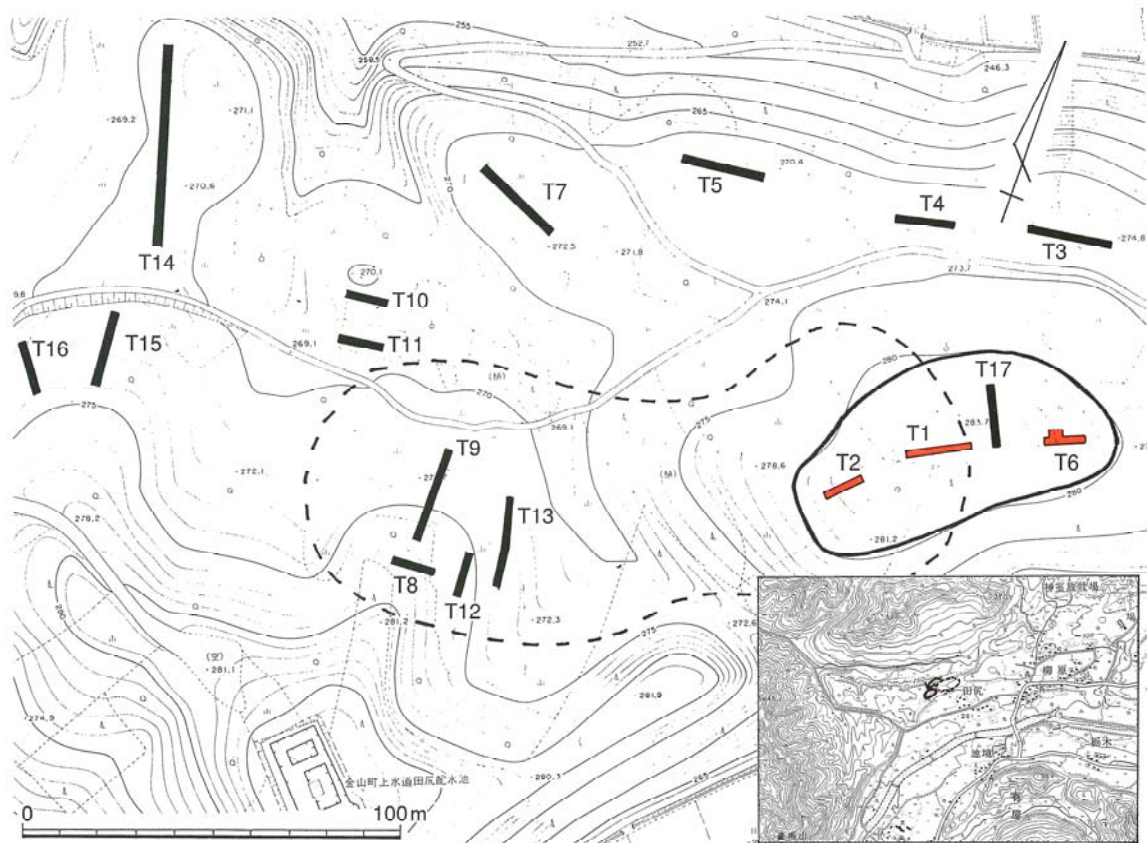
起回事業 遊学の森整備事業 (交流の森ゾーン)

遺跡環境 神室山系を源とする小河川は神室ダムで貯水され、金山川として金山盆地を流れる。遺跡は金山川右岸の丘陵に立地し、標高は 270～ 283m を測る。遺跡および遺跡周辺は、過去に開拓地として造成されたとのことであった。

試掘状況 事業予定地のうち地形等を考慮し、19箇所の試掘溝 (重機使用) 設定した。

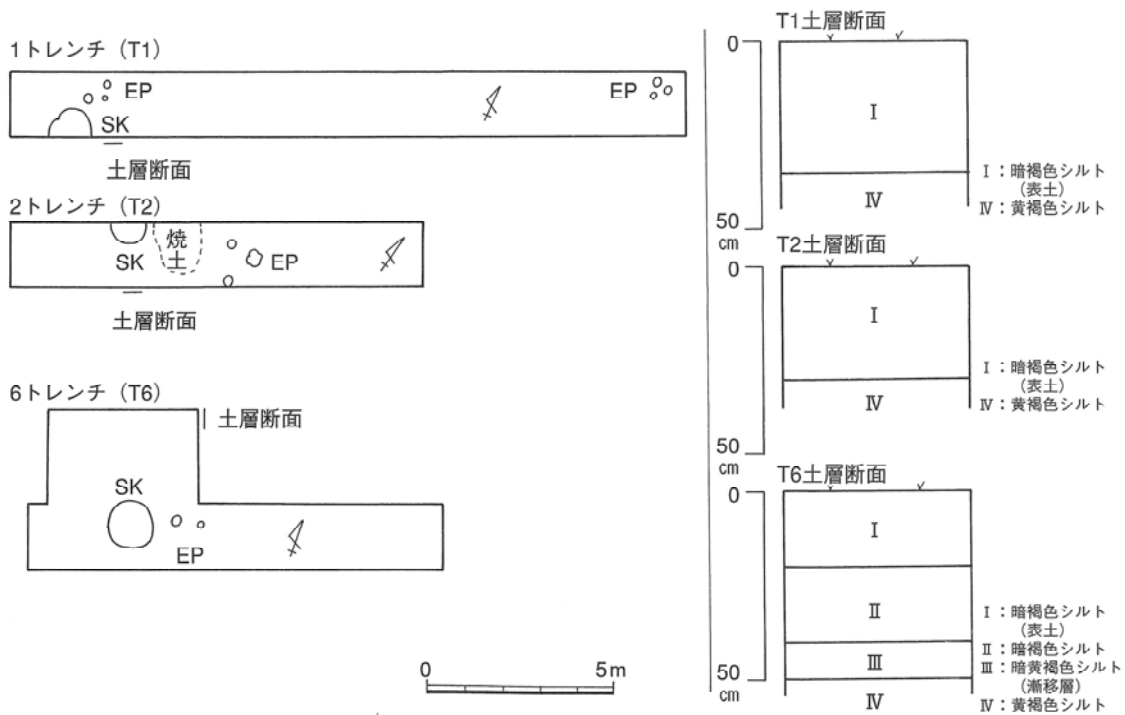
調査結果 遺跡として登録されている丘陵は現地の状況からやや西側にずれるものと考えられ、まず遺跡範囲を概要図破線で示した範囲に変更した。試掘調査の結果、T1・2・6・17を設定した小丘陵上から希薄であるが縄文時代の遺構・遺物が確認された。鞍部をはさみ西側の丘陵の4本のトレンチでは、いずれからも遺構・遺物は未検出で、土層の状況も過去に重機により造成され、地形は改変されていることが明らかとなった。

さらに遺跡範囲と想定された地区以外に範囲を広げトレンチを設定し、遺構・遺物の分布状況を探ったが、すべて過去の畑地造成で表土直下がすぐ黄褐色土の地山となり、遺跡の痕跡はない状況を呈した。以上により、本遺跡については、遺跡位置および遺跡範囲を訂正することとした。



位置図 (S=1:50,000)

第24図 田尻遺跡概要図



第25図 田尻遺跡検出遺構平面図・断面図



遺跡遠景 (南から)



T1 遺構検出状況 (北から)



T3・4 調査状況 (東から)



出土遺物

図版32 田尻遺跡



(9) <sup>なかやまじょう</sup>中山城跡 (平成7年度登録)

所在地 山形県上市市大字天守山他

調査員 渋谷孝雄

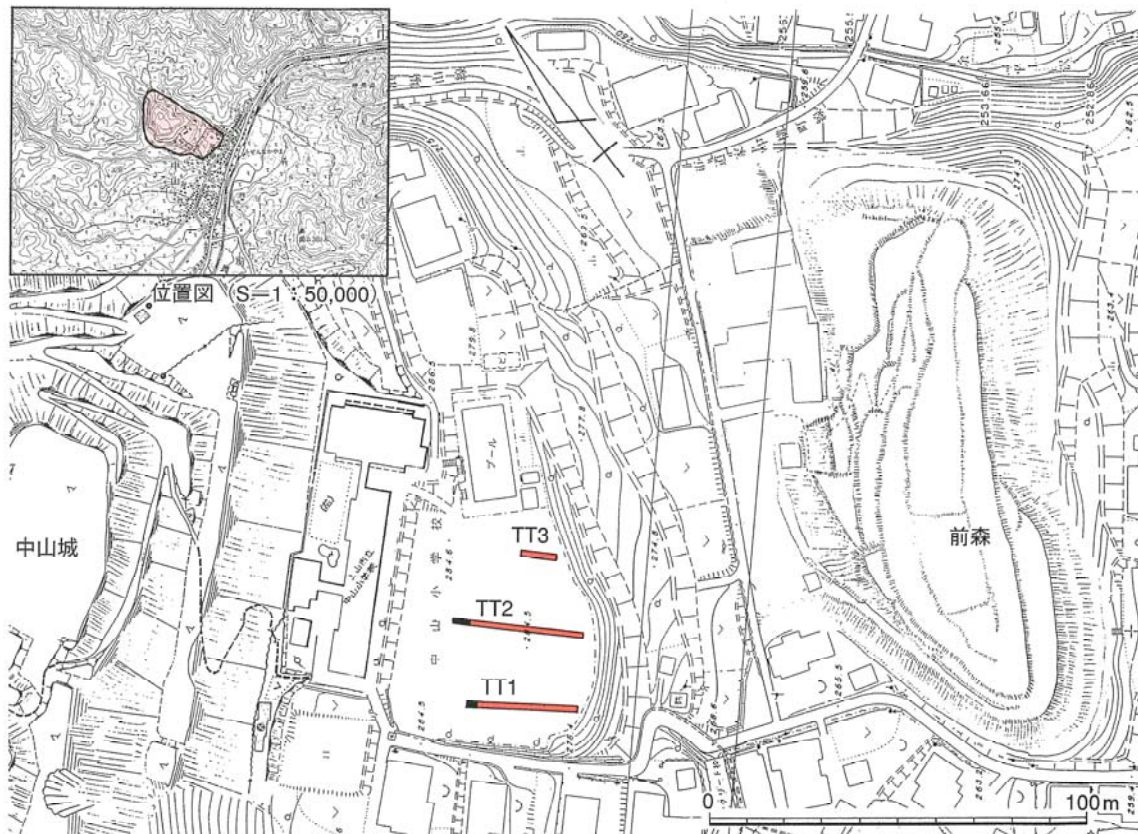
調査期日 平成10年12月21・22日

起因事業 国道13号線上山南バイパス建設

遺跡環境 中山城はJR奥羽本線羽前中山駅の北西約600mの独立丘の山頂に本曲輪をもつ山城である。その前面には中山城より遡るとみられる前森があり、置賜地域最北端の境目の城として中世から近世初頭まで重要な位置を占めていた。平成9年度にバイパス本線が通過する予定となっている「家中」の試掘調査を行った結果、近世の遺構と遺物が検出されたが、確実に近世初頭、中世に遡る遺構や遺物は発見することができなかった。

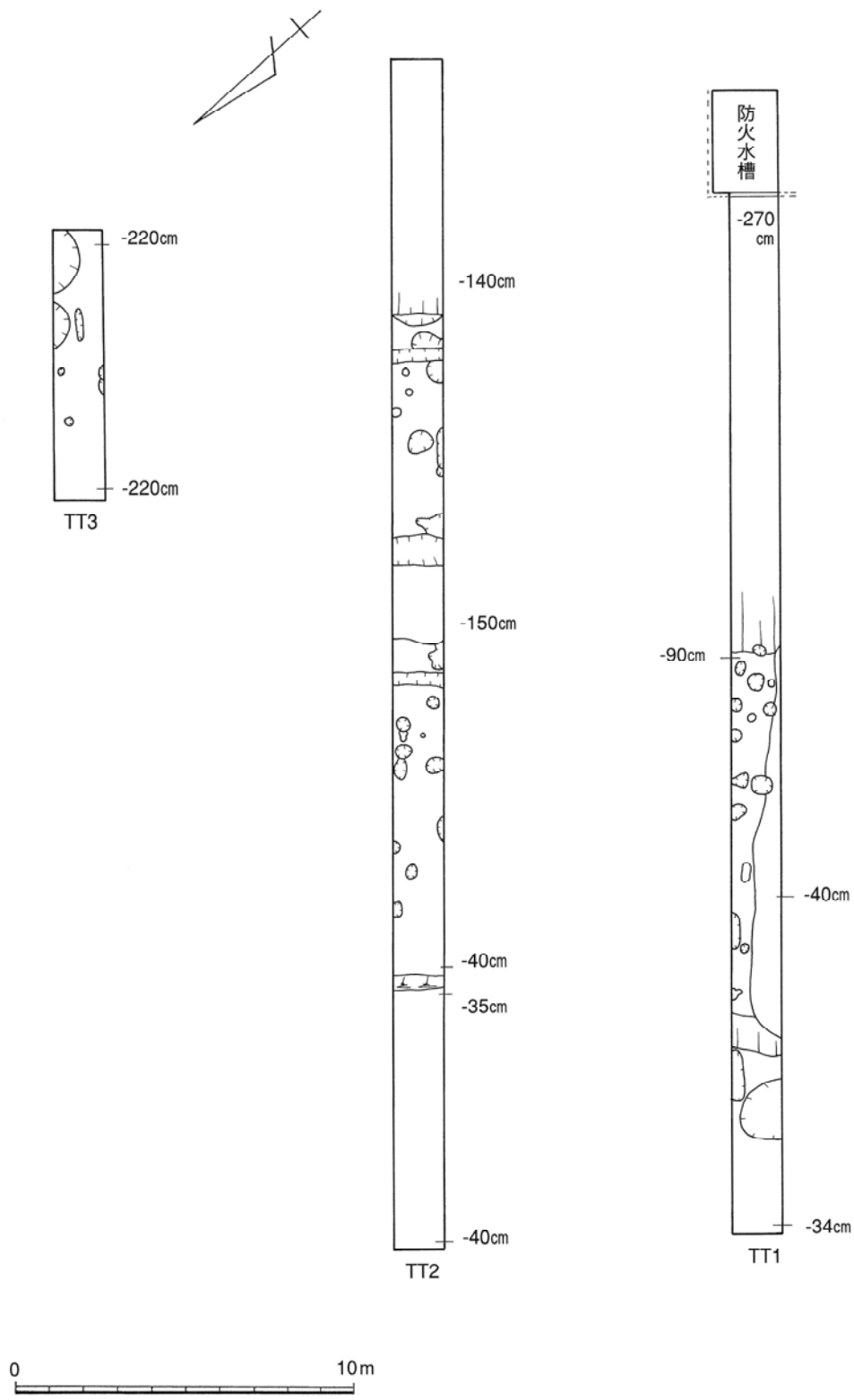
試掘状況 バイパス建設と遺跡の保護との調整資料を得るため、旧中山小学校のグラウンドに3本の試掘溝を設定して遺構の分布状況と保存状況の調査を行った。

調査結果 グラウンドの南東部では東端から西側におよそ15mにわたって200cm以上の盛土が確認された。盛土の下に遺構が存在するかどうかは不明である。TT2では幅約10mの曲輪が少なくとも4段存在することが明らかとなった。最下段での遺構の状況は不明であるが下から2段目、3段目の平場には柱穴や土坑、溝跡が存在し、その分布密度も低くはない。4段目はグラウンド造成で削平され、既に遺構は存在しない。遺物は18～19世紀の陶磁器しか出土していない。



第26図 中山城跡概要図





第27図 中山城跡試掘溝平面図



調査区近景（北西から）



T T 1 東部盛土（南から）



T T 1 西半部土坑等検出状況（西から）



T T 1 西半部遺構検出状況（東から）



T T 1 柱穴検出状況（南東から）



TT1 柱穴検出状況 (南から)



TT2 調査状況 (東から)



TT2 東半部土坑等検出状況 (北から)



TT2 東半部土坑等検出状況 (東から)



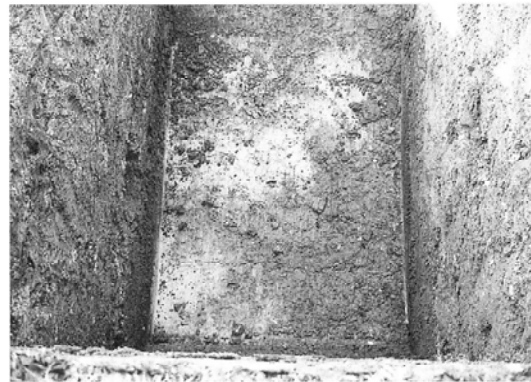
TT2 中央部遺構検出状況 (東から)



TT2 西半部柱穴等検出状況 (北東から)



TT3 全景 (東から)



TT3 東端部土坑検出状況 (東から)



なかもみ  
(10)中道南遺跡 (平成10年度登録)

所在地 山形県山形市飯塚

調査員 名和達朗

調査期日 平成10年10月19・20日

起回事業 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事(上山～東根間)

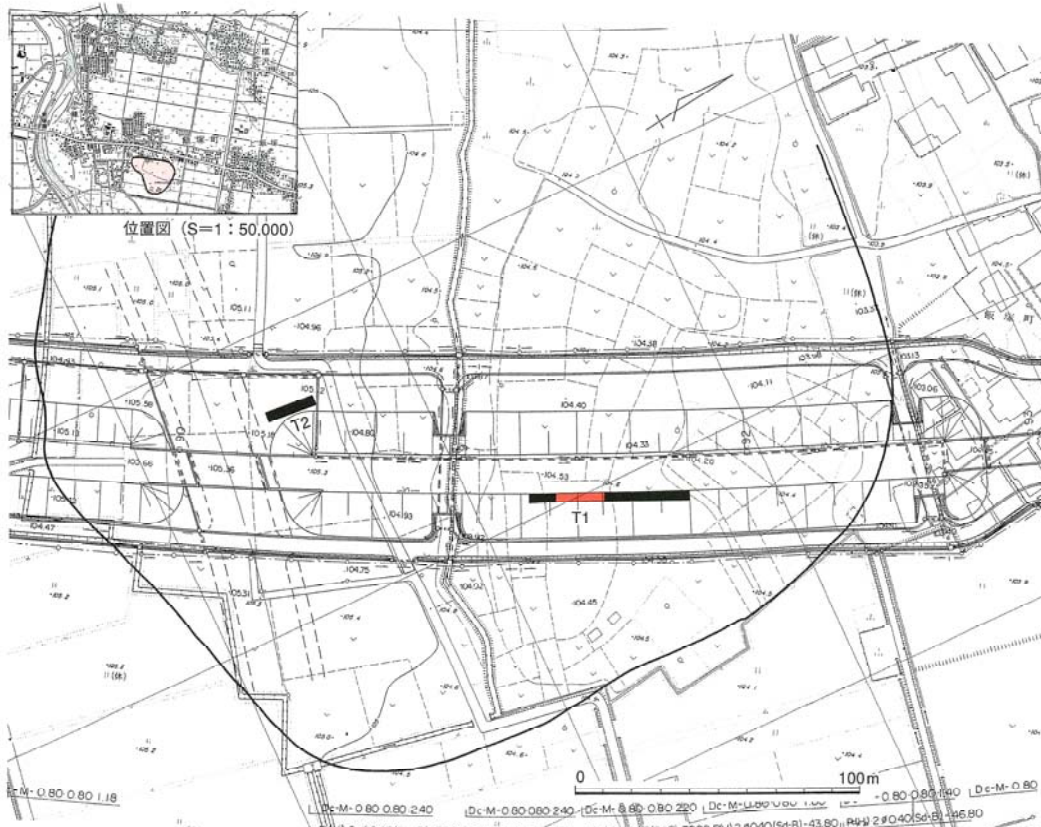
遺跡環境 遺跡は、飯塚地区南側の微高地に立地する。地目は、畑地である。標高は、104mを測る。遺跡推定範囲は、地形を参考に東西380m、南北300mが考えられる。

試掘状況 計画道路幅杭及び農道の方向に合わせトレンチを2ヶ所設定し、重機使用により地山面まで掘り下げたところ、水位が高くすぐに水が湧いてくる状況で、部分的な面削りを行いながら調査を進めた。

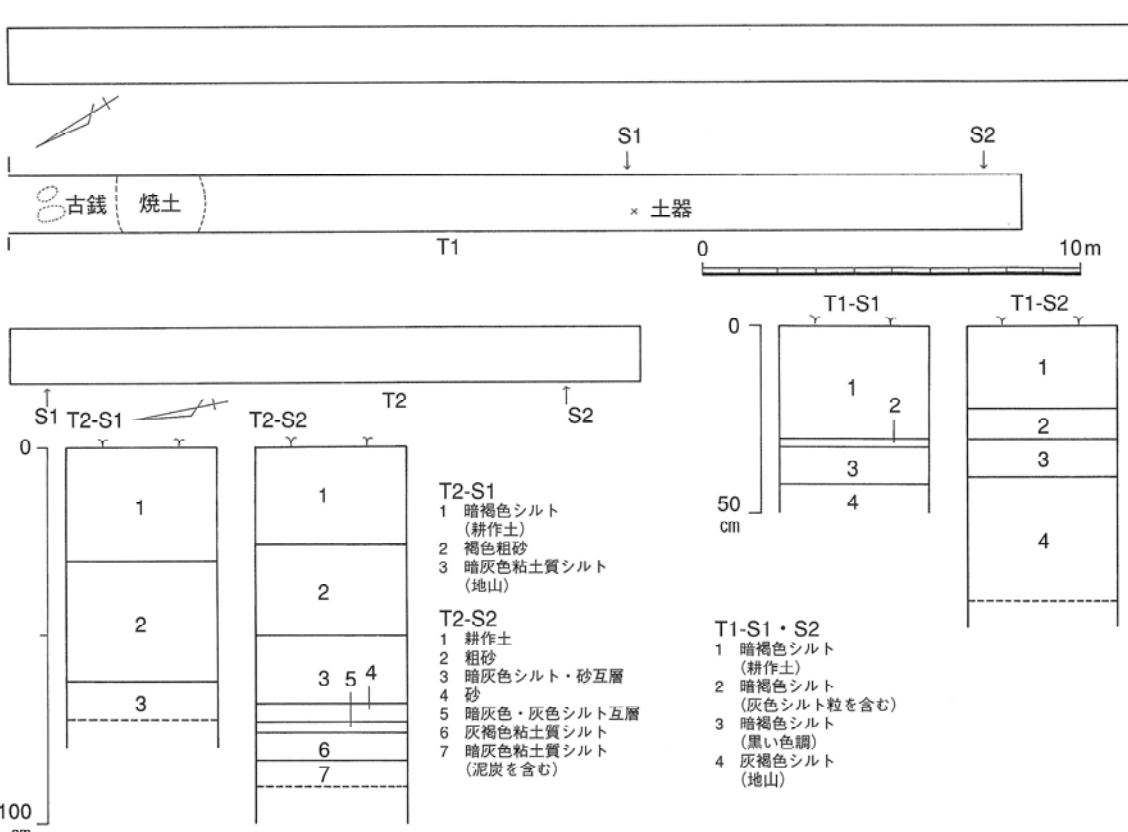
調査結果 遺跡の時期及び種別詳細は、不明である。出土遺物は、T1からのみである。南側10m付近で地山上面から出土土器がみとめられ、深さは地表面下45cmである。南側26m付近では、約80cmの深さから古銭・寛永通寶と板が検出された。調査後、(財)県埋蔵文化財センターが行った予備調査では、土器は縄文土器で古銭と板は近世墓と確認された。



図版35 中道南遺跡(1)遺跡近景(南から)



第28図 中道南遺跡概要図



第29図 中道南遺跡検出遺構平面・断面略図



T 1 調査状況 (南から)



T 1 出土木棺 (北から)



T 1-S 1 土層断面 (西から)



出土遺物

(11)熊ノ木遺跡 (平成10年度登録)

所在地 山形県山形市大字陣馬新田字熊ノ木

調査員 名和達朗 長橋 至

調査期日 平成10年7月9日

起因事業 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

遺跡環境 遺跡は、山形市街地から北西方向に位置する県道山形・山辺線沿い、集落北側に広がる平地に立地する。地目は、水田である。標高は、100mを測る。遺跡範囲は、東西75m、南北180mが考えられる。

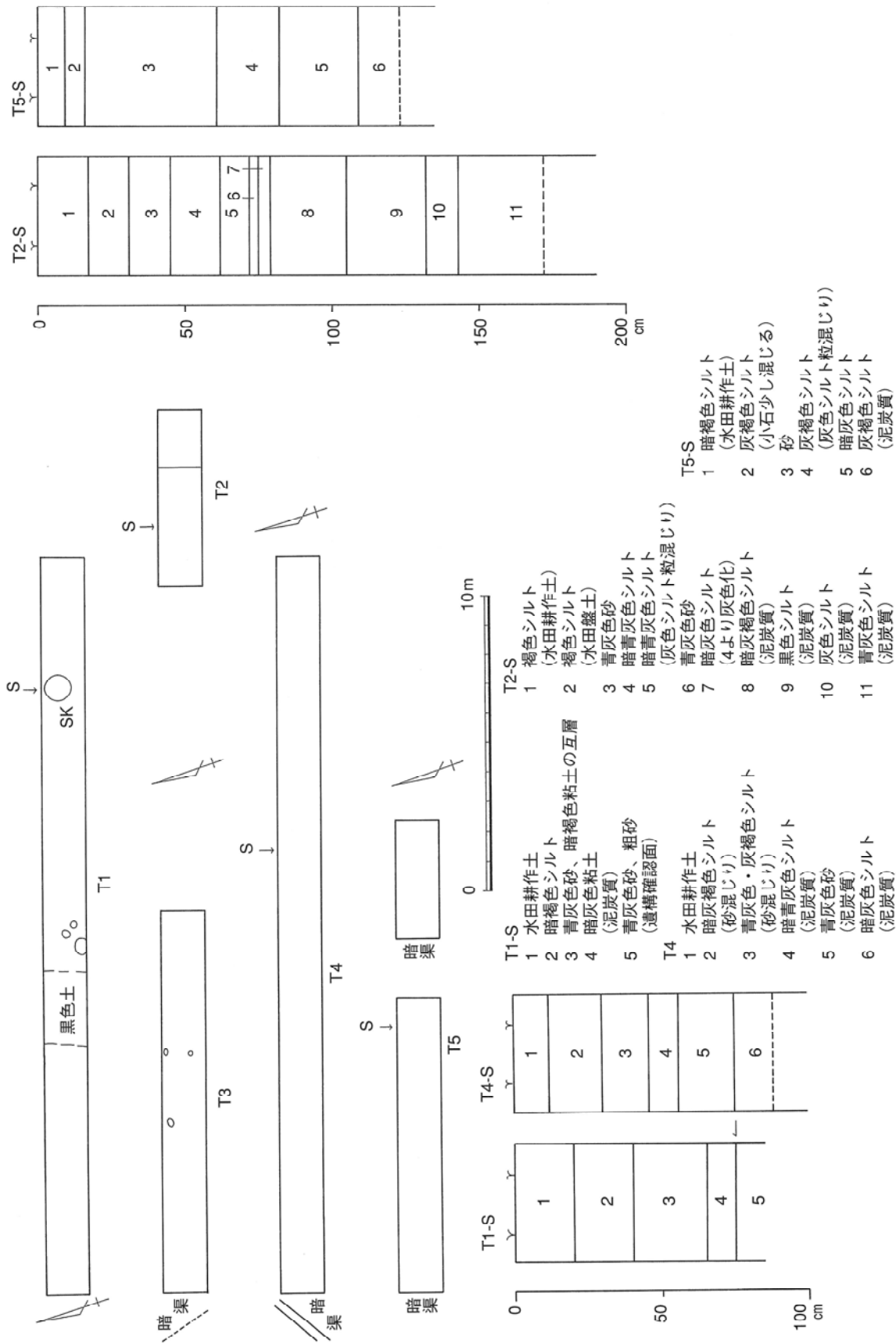
試掘状況 東西に長い水田畦畔に合わせてトレンチを5ヶ所平行に設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山上面まで掘り下げ、部分的に面削りを行いながら調査を進めた。

調査結果 T1東端から4.5m付近から土坑が検出された。T1及び3の中央付近からもピット状のプランがみとめられたが、明確な遺構・遺物は、その地点のみである。覆土は黒色砂で、面精査で覆土検出面から土師器数点が確認された。確認面は5層青灰色砂で、深さは水田面下75cmである。遺構・遺物の検出数が少なく、遺跡の時期詳細は不明であるが、出土土器の特徴から古墳時代の集落跡と考えられる。



第30図 熊ノ木遺跡概要図





第31図 熊ノ木遺跡検出遺構平面・断面略図



遺跡近景（北西から）



T 1 調査状況（東から）



T 1 土層断面 SK 1



T 5 土層断面



出土遺物（2/3）

(12) 志戸田縄遺跡 (平成10年度登録)

所在地 山形県山形市大字陣馬字志戸田縄

調査員 名和達朗

調査期日 平成10年7月23日

起因事業 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

遺跡環境 遺跡は、山形市街地から北西部に位置するJR左沢線東金井駅西方700m、東志戸田地区の線路すぐ南側の平地に立地する。地目は水田で、西側は集落沿いに畑地が延びる微高地である。標高は、102mを測る。遺跡範囲は、微高地を含め東西110m、南北200mが考えられる。

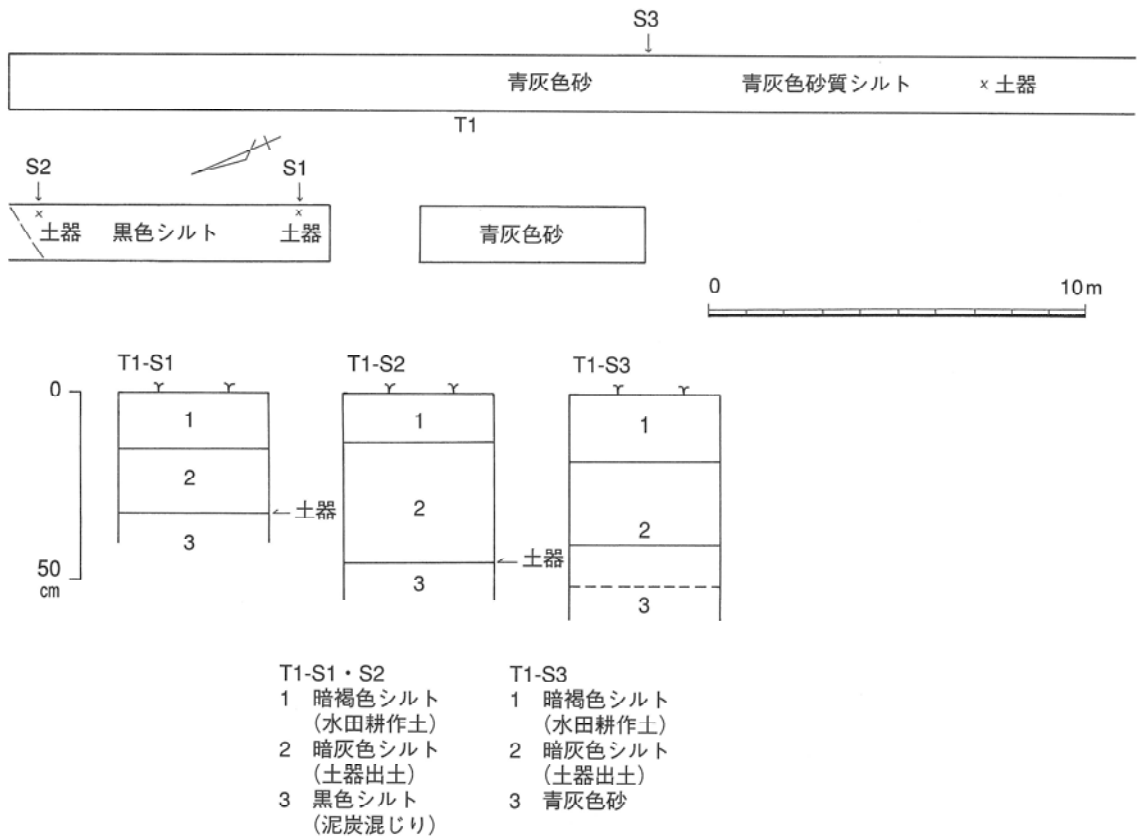
試掘状況 畑地東側の計画道路幅杭方向に合わせトレンチを1ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山上面まで掘り下げ、部分的に面削りを行いながら調査を進めた。調査区は水位が高く、掘り進めるとすぐ水が湧いてくる。

調査結果 T1南端から9m付近から深さ30cm前後の地山上面に黒色シルトの広がり及び遺物出土がみとめられ、調査区を斜めに横断する。南側は青灰色砂、北側は青灰色砂質シルトの間に覆土状に検出され、堆積層から溝状遺構の所在が考えられる。出土遺物は土師器で、同様にその範囲から北側に検出され、一括土器出土地点もみとめられた。深さは、水田面下32～45cmの3層上面である。それらの特徴から、遺跡は、古墳時代の包蔵地と考えられる。



第32図 志戸田縄遺跡概要図





第33図 志戸田縄遺跡検出遺構平面・断面図



遺跡近景 (南から)



調査状況 (南から)



S2土層断面 (西から)



出土遺物

はっとり  
(13)服部遺跡 (遺跡番号156)

所在地 山形県山形市大字中野字服部

調査員 名和達朗

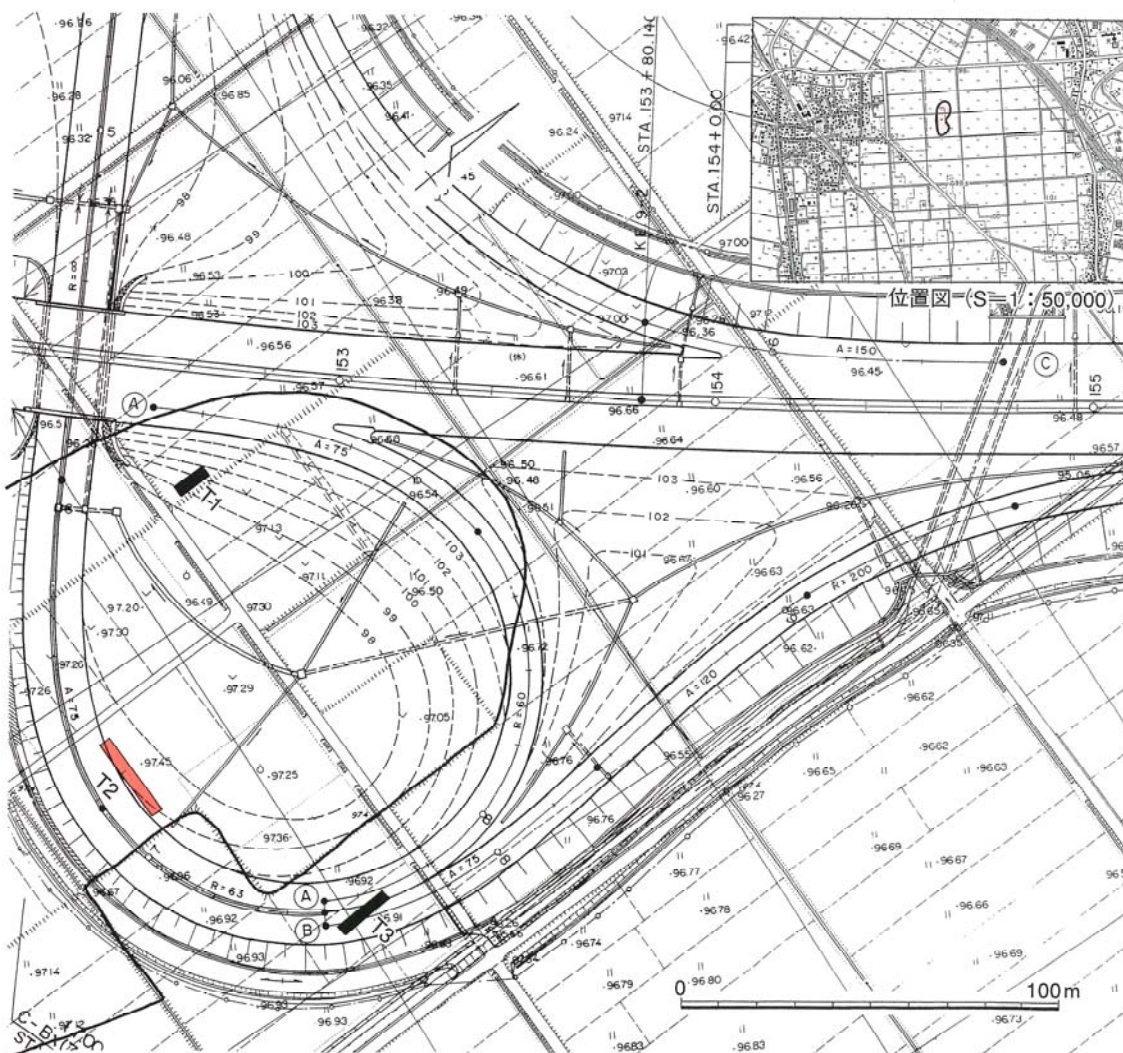
調査期日 平成10年10月21日

起回事業 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

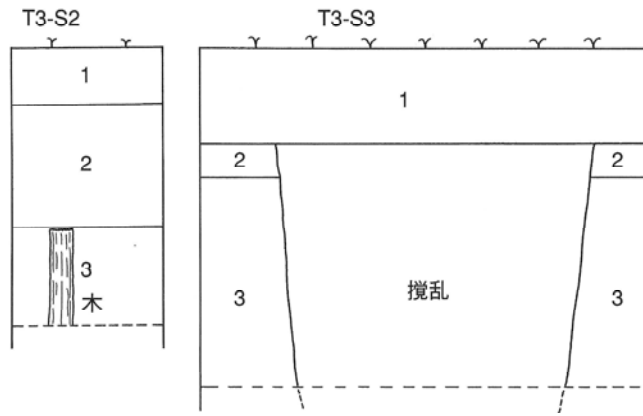
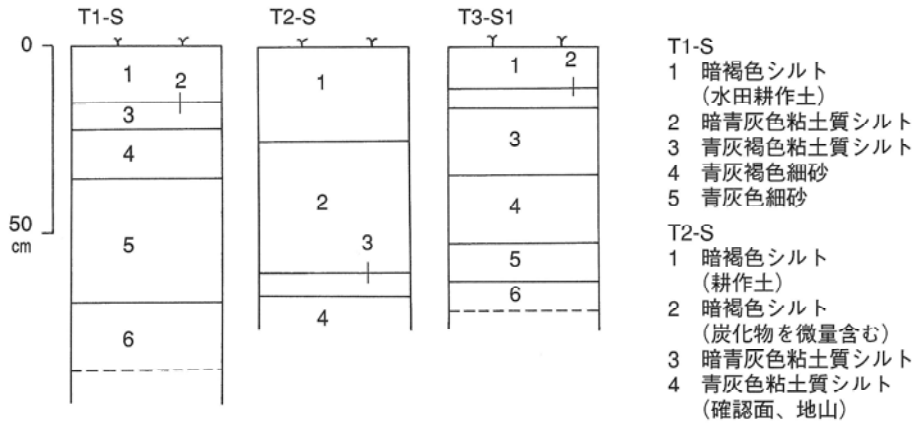
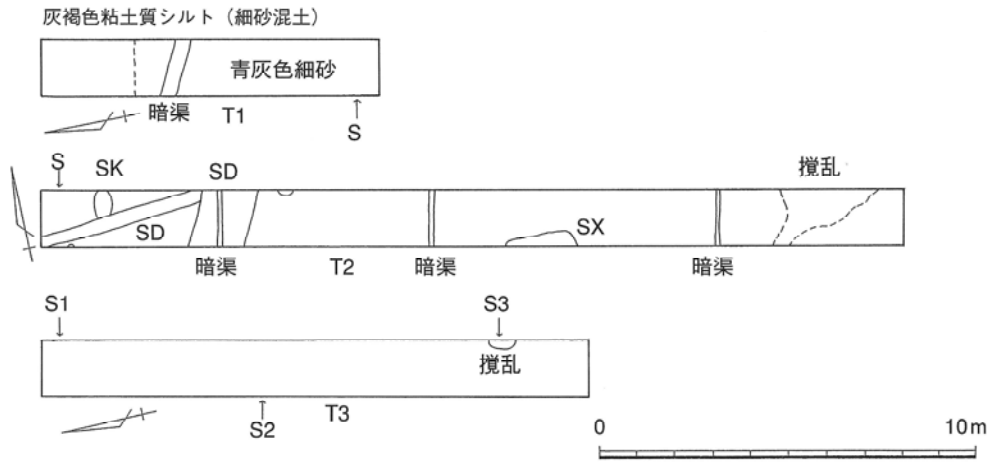
遺跡環境 遺跡は、山形市北部に位置する中野地区東側、県道中野・大森線南側及び県道中野・長町線北側を南北方向に延びる微高地に立地する。地目は畑地・水田で、標高は、97mを測る。遺跡範囲は、東西146m、南北280mが考えられる。遺跡北側には、藤治屋敷遺跡が隣接する。

試掘状況 水田畦畔及び農道方向に合わせトレンチを3ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山上面まで掘り下げ、面削りを行いながら調査を進めた。

調査結果 遺跡は、平安時代の集落跡と考えられる。畑地に設定したT2から、土坑、溝跡、土師器が検出された。確認面は、地山と思われる4層青灰色粘土質シルト上面で、深さは66cmを測る。



第34図 服部遺跡概要図



- T3-S1**
- 1 暗褐色シルト (水田耕作土)
  - 2 青灰色砂質シルト
  - 3 茶褐色粘土質シルト (砂混土)
  - 4 黒色粘土質シルト
  - 5 暗灰色粘土質シルト (6をブロック状に含む)
  - 6 青灰色粘土質シルト
- T3-S2**
- 1 耕作土
  - 2 砂
  - 3 青灰色粘土質シルト
- T3-S3**
- 1 耕作土
  - 2 灰褐色粘土質シルト
  - 3 青灰色粘土質シルト

第35図 服部遺跡検出遺構平面・断面略図





遺跡近景（東から）



T 2 調査状況（西から）



T 2 調査状況（北西から）



T 2-S 1 土層断面



T 2 調査状況（東から）

むかいがわら  
(14)向河原遺跡 (平成10年度登録)

所在地 山形県山形市大字渋江字向河原

調査員 名和達朗

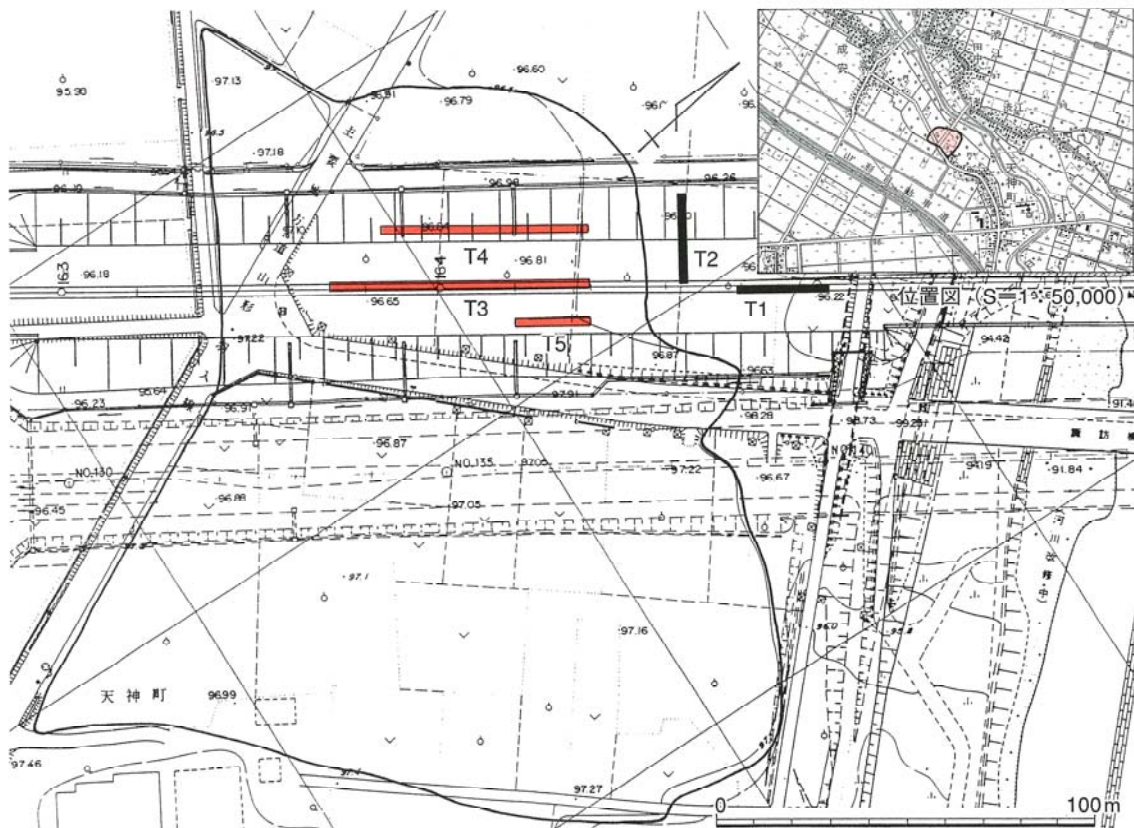
調査期日 平成11年3月18・19日

起回事業 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

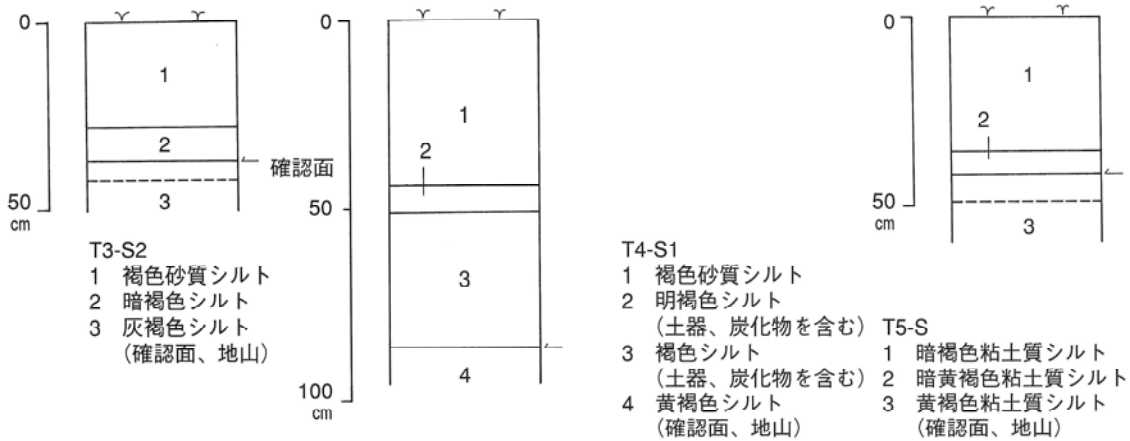
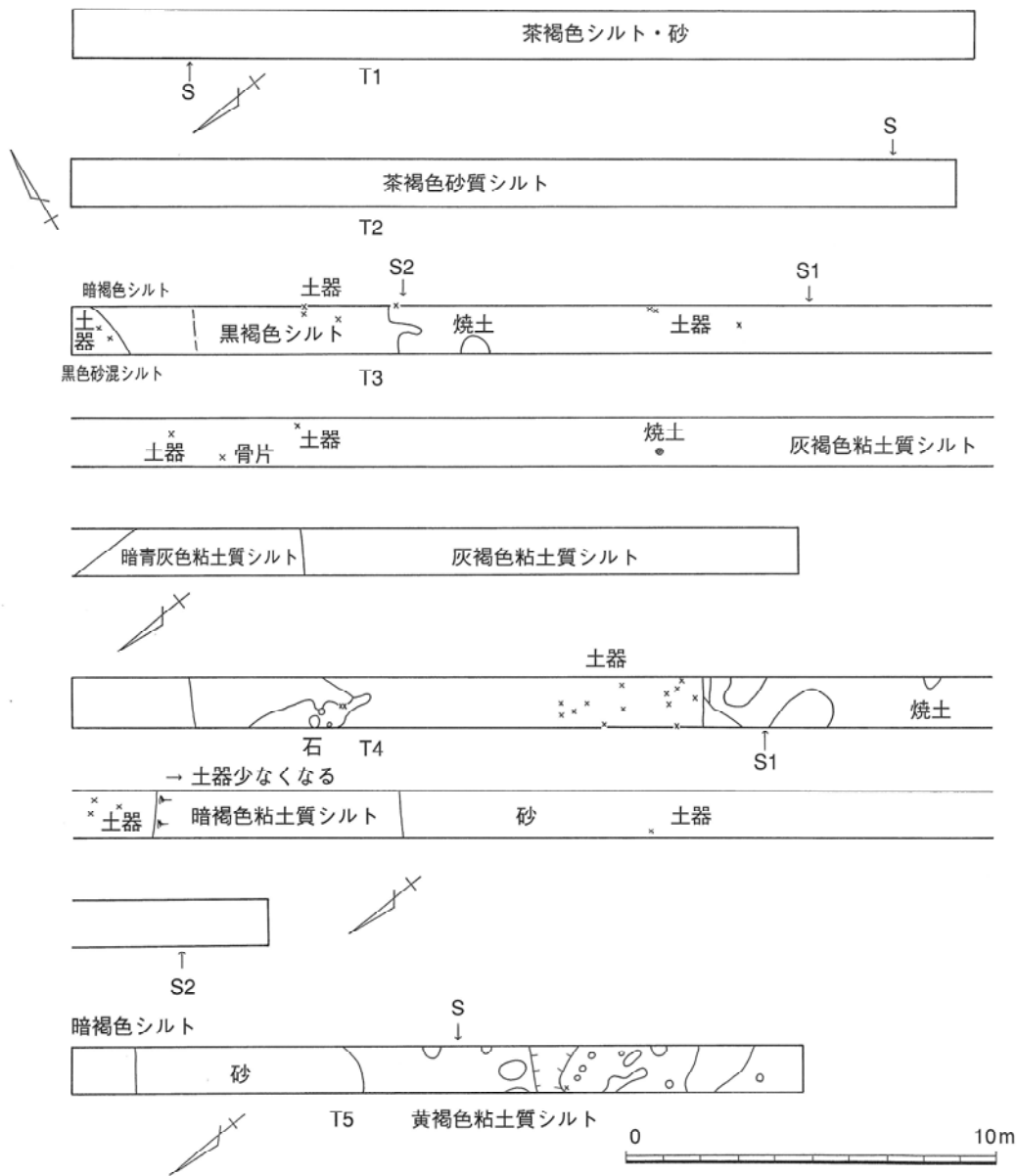
遺跡環境 遺跡は、渋江地区南側に位置する。山形市北部を北西方向に流れる白川兩岸は、自然堤防が形成され、遺跡は、その左岸に立地する。右岸の北側には、渋江遺跡が隣接する。南側は、主要地方道山形・羽入線が通る。地目は、畑地である。標高は、96.8mを測る。遺跡範囲は、東西240m、南北200mが考えられる。

試掘状況 調査は、計画道路センター杭に合わせ南北にトレンチを5ヶ所設定した。重機使用により遺構確認面と考えられる地山上面まで掘り下げ、人力で面削りを行いながら調査を進めた。

調査結果 T1と2は、河川からの堆積と考えられる砂質及び粘土質シルトが深く、遺構・遺物は確認できなかった。T3～5は、それぞれ地山上面から遺構と思われる土色プラン及び出土遺物が確認された。検出遺構は、住居跡、焼土、土坑、ピットである。確認面は、畑表面から深さ37～42cmを測る。出土遺物は、弥生土器1点 (T3)、土師器、須恵器合わせて3袋である。それらにより、遺跡は、弥生時代の包蔵地、平安時代の集落跡と考えられる。



第36図 向河原遺跡概要図



第37図 向河原遺跡検出遺構平面・断面略図





遺跡近景（南から）



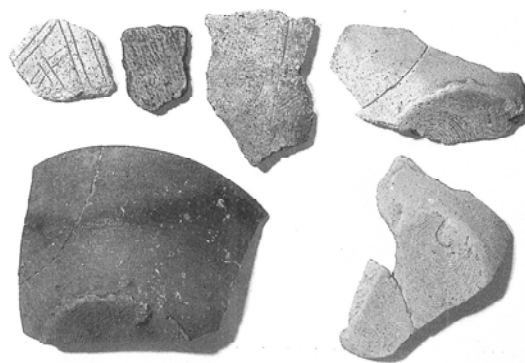
T 3 調査状況



T 4 調査状況



T 3-S 2 土層断面（西から）



出土遺物（1/3）

(15) <sup>さんじょうのめ</sup>三条ノ目遺跡 (平成10年度登録)

所在地 山形県山形市大字渋江字三条

調査員 名和達朗

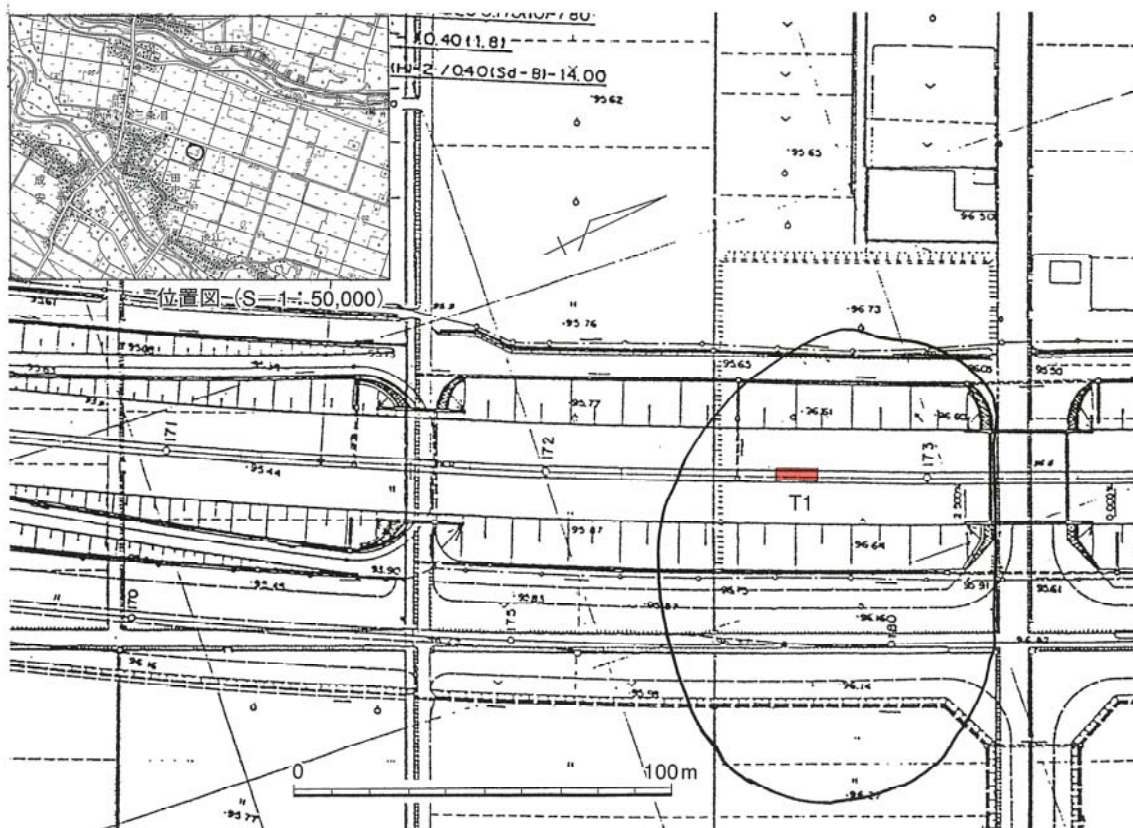
調査期日 平成10年10月26日

起因事業 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

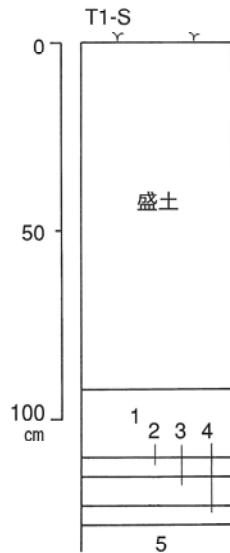
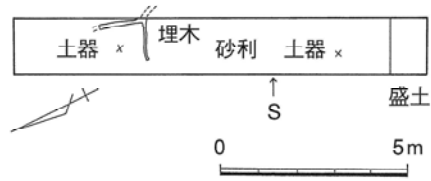
遺跡環境 遺跡は、渋江地区北側に位置する。北西方向に流れる白川右岸と、西流する立谷川左岸との間に広がる水田地帯の微高地に立地する。遺跡北側は、市道中丁新道線が通り、南側500mには、渋江遺跡が位置する。地目は、畑地である。標高は、96.7mを測る。遺跡範囲は、東西126m、南北90mが考えられる。

試掘状況 調査区は1ヶ所のみで、計画道路にセンター杭に合わせトレンチを設定した。重機使用により遺構確認面と考えられる地山上面まで掘り下げ、面削りを行いながら調査を進めた。

調査結果 調査区は厚さ80cm前後に盛土で整地された場所で、トレンチを深く掘り下げて確認を行った。4層灰褐色粘土質シルト上面から土師器、炭化物及び埋木(自然木)の出土がみとめられた。確認面は、地表面から深さ123cmを測る。その下は、5層青灰色粗砂と砂利であり、出土遺物は近辺からの流れ込みの可能性も考えられる。遺跡は、出土土器の特徴から古墳時代の包蔵地と考えられる。



第38図 三条ノ目遺跡概要図



- T1-S
- 盛土
  - 1 暗褐色粘土質シルト
  - 2 黒色シルト
  - 3 暗灰色シルト  
(炭化物を含む)
  - 4 灰褐色粘土質シルト  
(上面に炭化物、土器出土)
  - 5 青灰色粗砂、砂利

第39図 三条ノ目遺跡調査区平面・断面略図



遺跡近景 (南から)



調査状況 (南から)



土層断面 (東から)



出土遺物

図版41 三条ノ目遺跡



(16) <sup>かげさわきた</sup>影沢北遺跡 (平成2年度登録)

所在地 山形県天童市大字高揣字松葉、影沢北

調査員 名和達朗 長橋 至

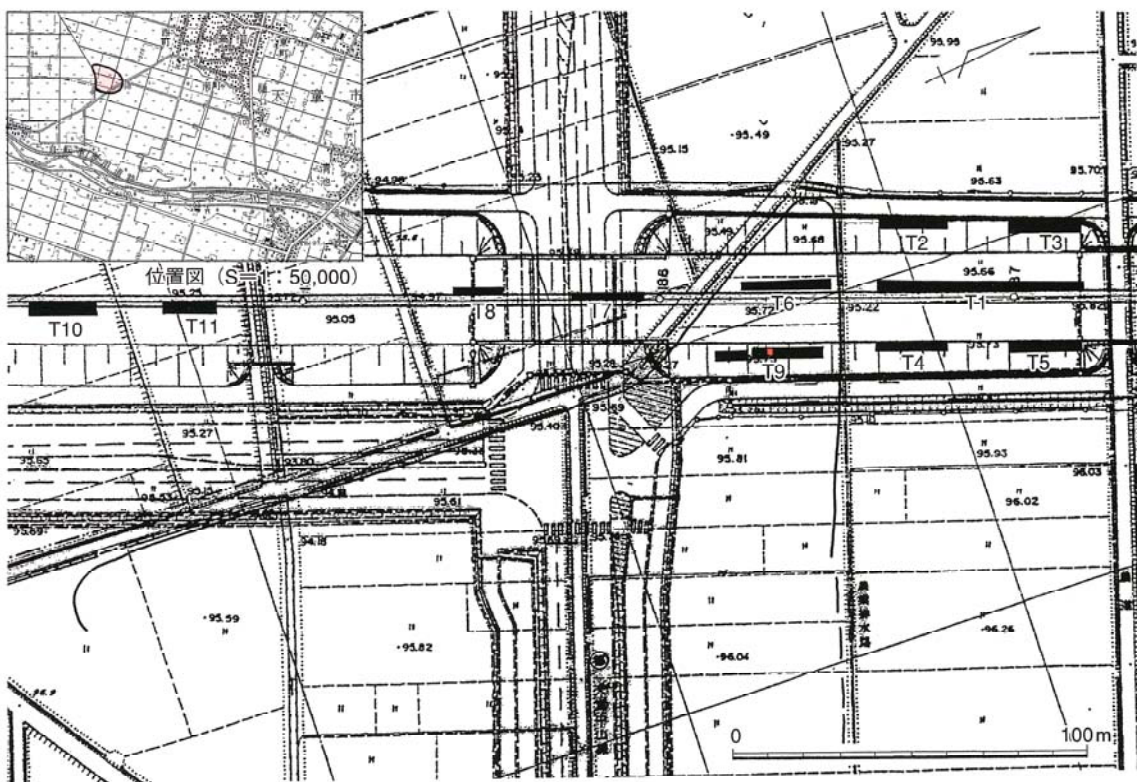
調査期日 平成10年7月10日、10月26・27日

起因事業 東北中央自動車道相馬尾花沢線建設工事 (上山～東根間)

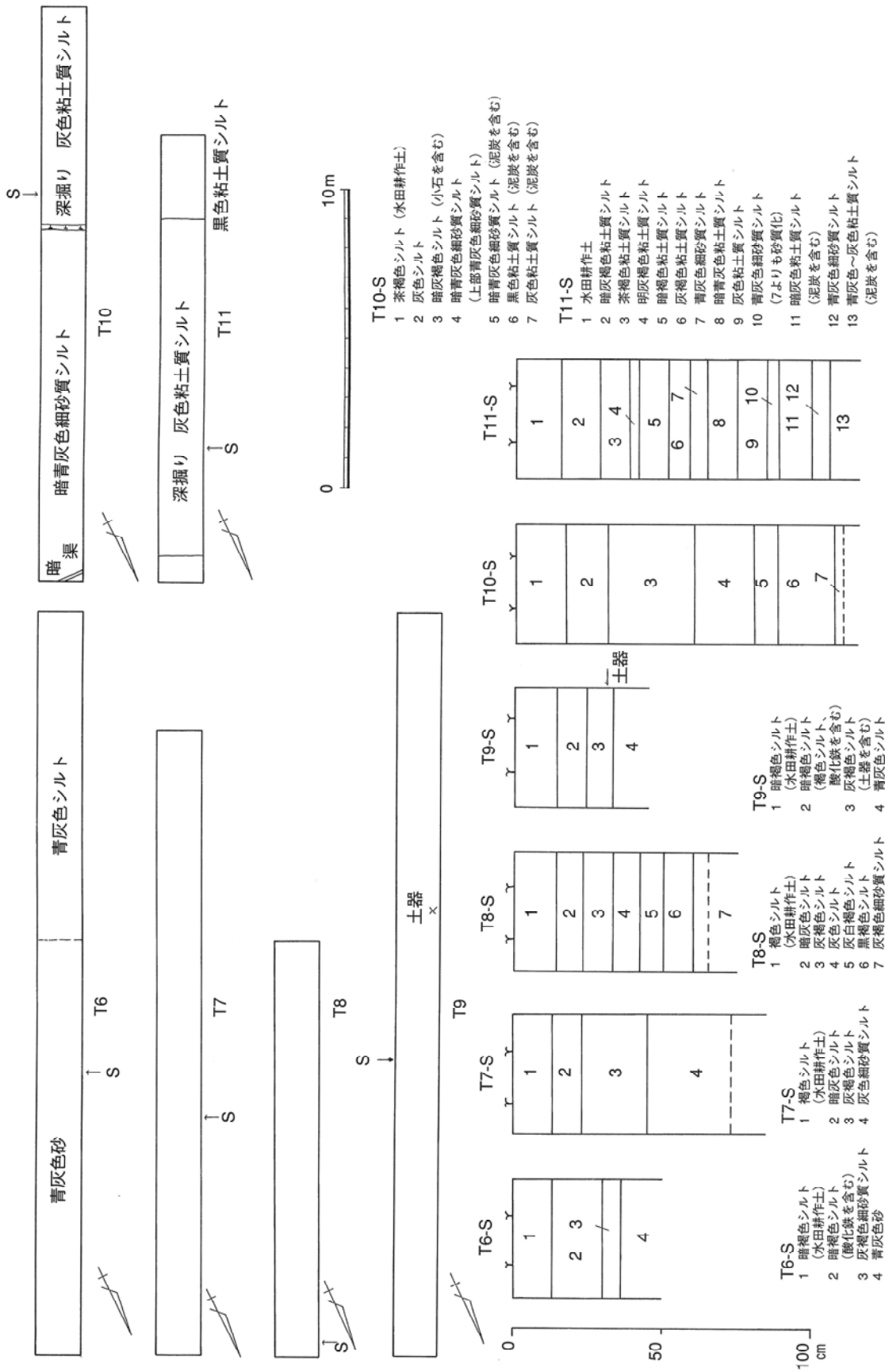
遺跡環境 遺跡は、高揣地区南西約700m、山形市灰塚地区に至る道路の東側から西側に分布する。南側約500mは西流する立谷川右岸で、その北側の平地に立地する。地目は、水田である。標高は、93mを測る。遺跡範囲は、東西240m、南北150mが考えられる。

試掘状況 北側については、平成9年度に試掘調査が行われその範囲が確認されたので、今回は、その結果を基に南側への広がりを把握するため7月と10月に試掘を行った。調査は、計画道路センター杭に合わせ南北にトレンチを6ヶ所設定した。番号は、前回からの通しである。重機使用により遺構確認面と考えられる地山上面まで掘り下げ、人力で面削りを行いながら調査を進めた。

調査結果 遺構は検出できず、出土遺物を確認できたのは、T9中央部から土師器数点である。確認できたのは3層灰褐色細砂質シルトで、深さは水田面下31cmを測る。すぐ下は、4層青灰色シルトの地山面である。今回確認できたのは1地点のみで、時期詳細は不明であるが、遺物の表面採集できる範囲は東側にかけて範囲が広いことから、それらを基に遺跡は古墳時代、奈良時代の包蔵地と推定される。



第40図 影沢北遺跡概要図



第41図 影沢北遺跡調査平面・断面略図



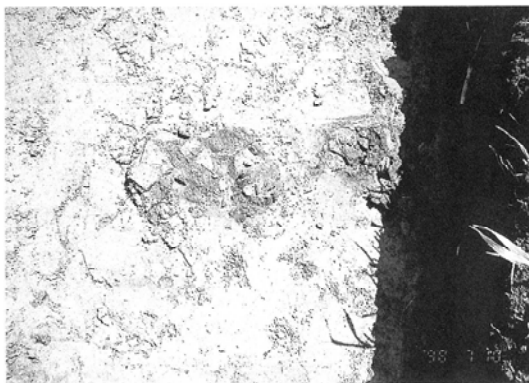
遺跡近景（北から）



T 9 調査状況（南から）



T 9 土層断面（西から）



T 9 遺物出土状況（北から）



出土遺物



(17) <sup>こまつばら</sup>小松原窯跡群 (遺跡番号71 石原坂B遺跡から小松原窯跡群に遺跡名変更)

所在地 山形県山形市松原字石原坂

調査員 渋谷孝雄 長橋 至

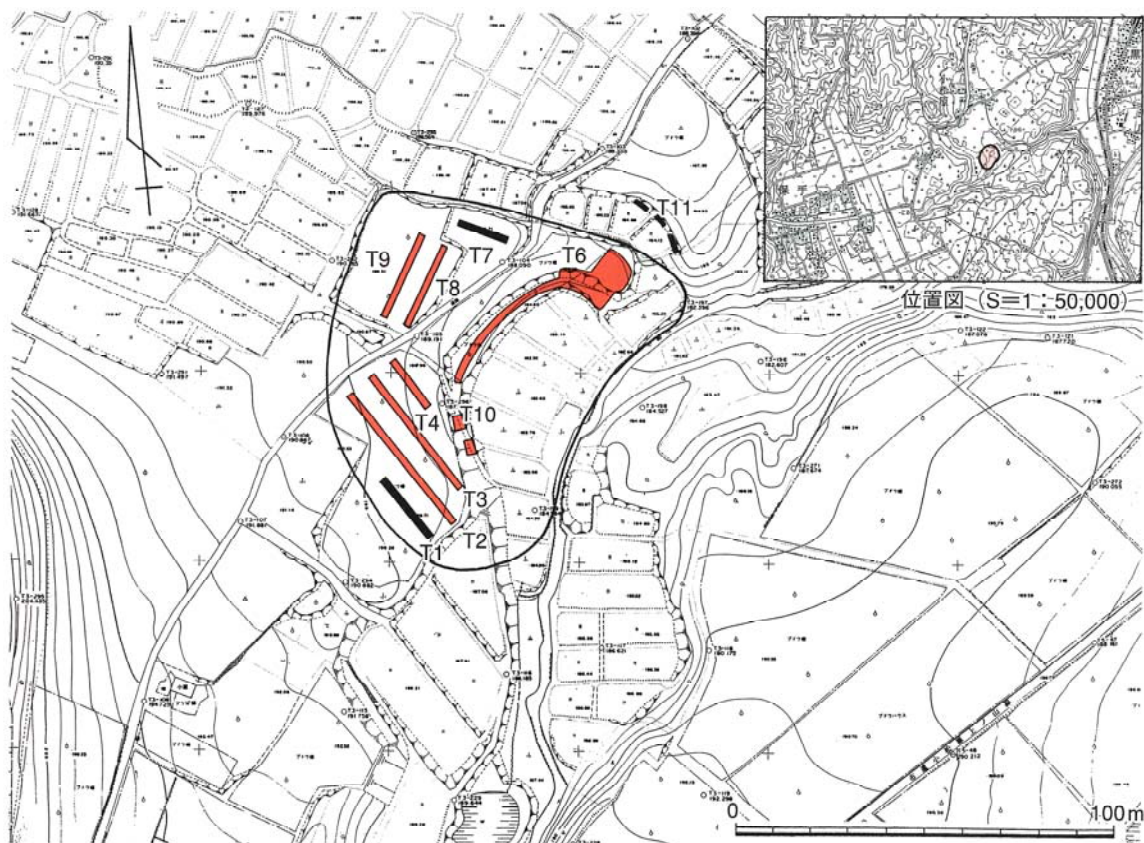
調査期日 平成10年12月24・25日

起因事業 山形新都市整備事業

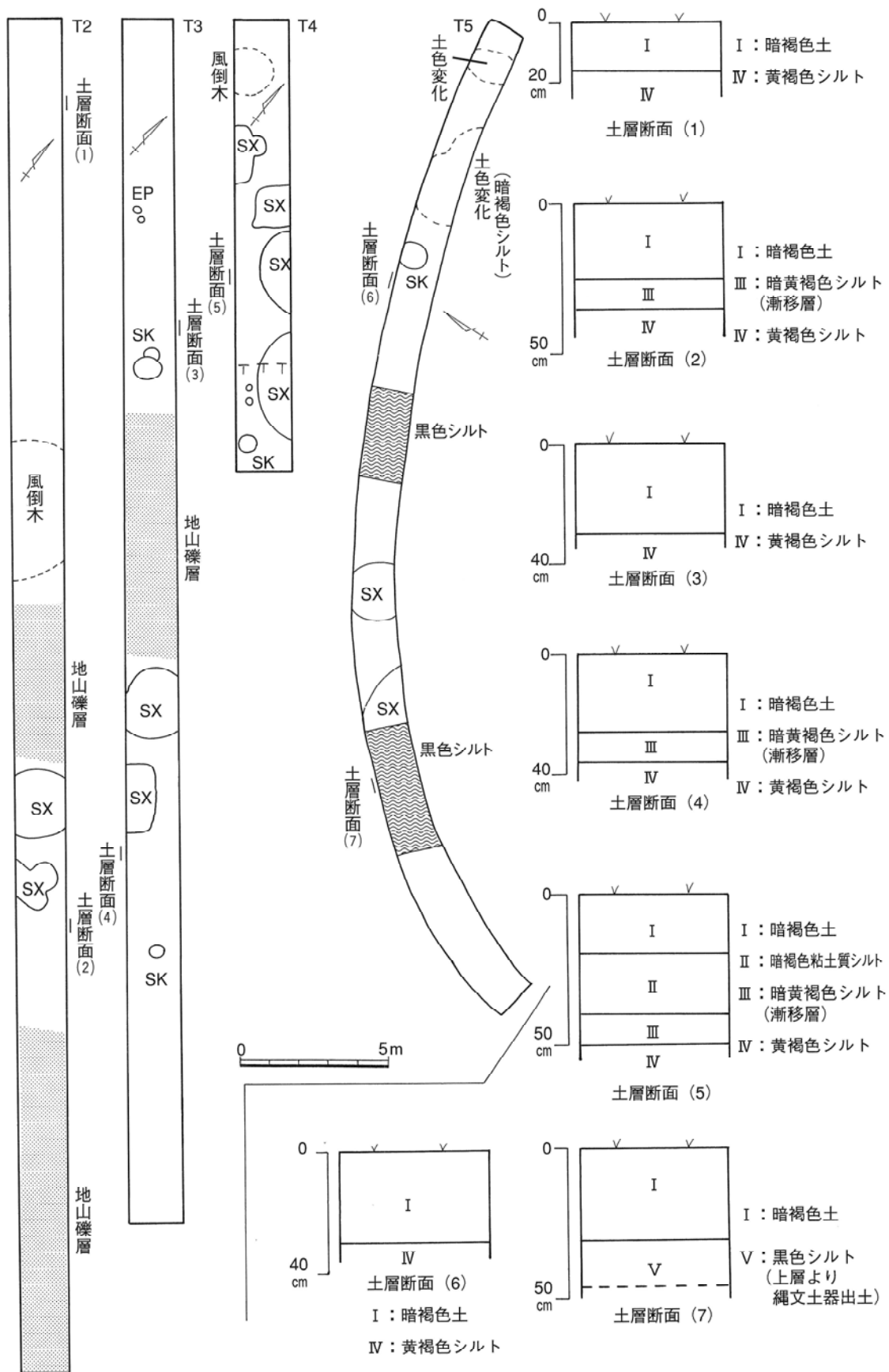
遺跡環境 山形盆地南西部、須川左岸の丘陵上に立地する。遺跡周辺は果樹・水田・畑地等となっており、昭和40年に山形大学により1号窯跡(今回の試掘調査検出の1号窯跡と同一か)の調査が行われている。不動沢対岸斜面に長者屋敷窯跡が所在する。

試掘状況 11箇所の試掘溝(重機使用)を設定した。

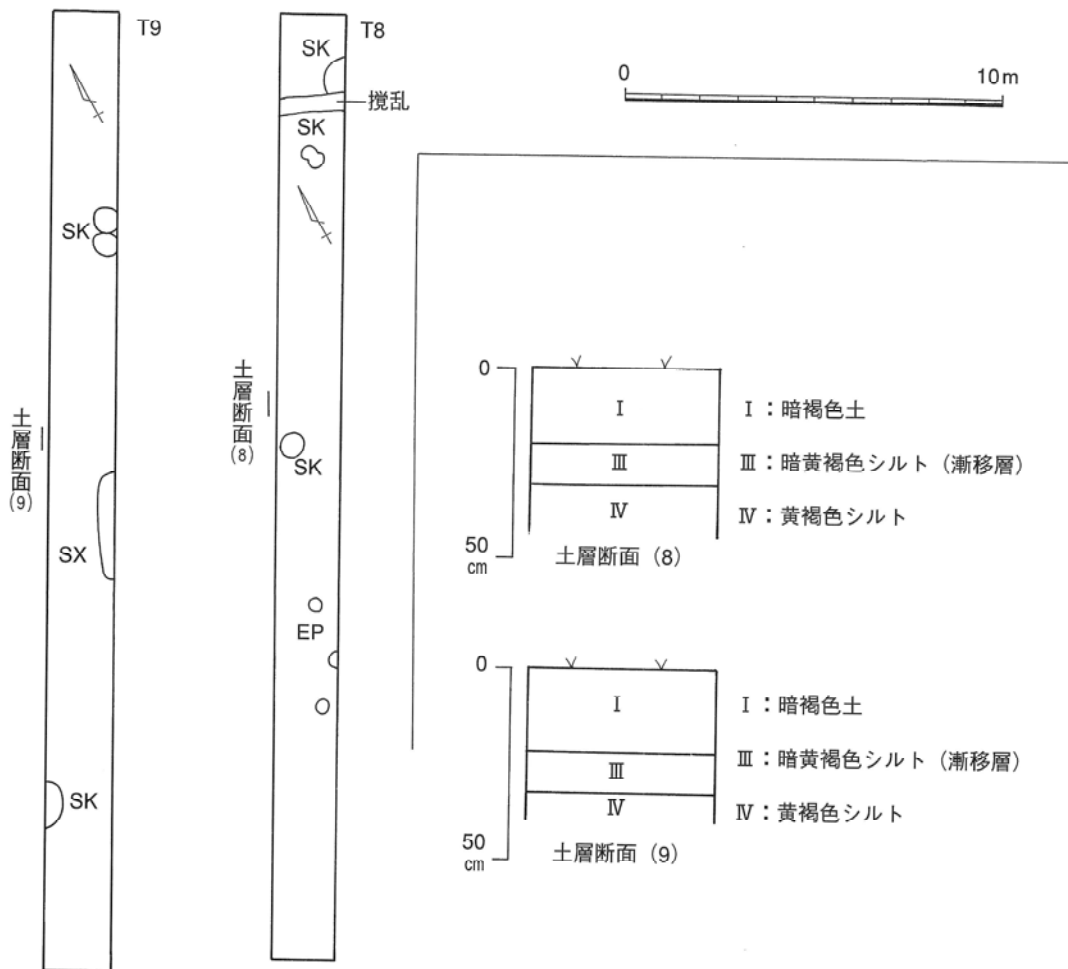
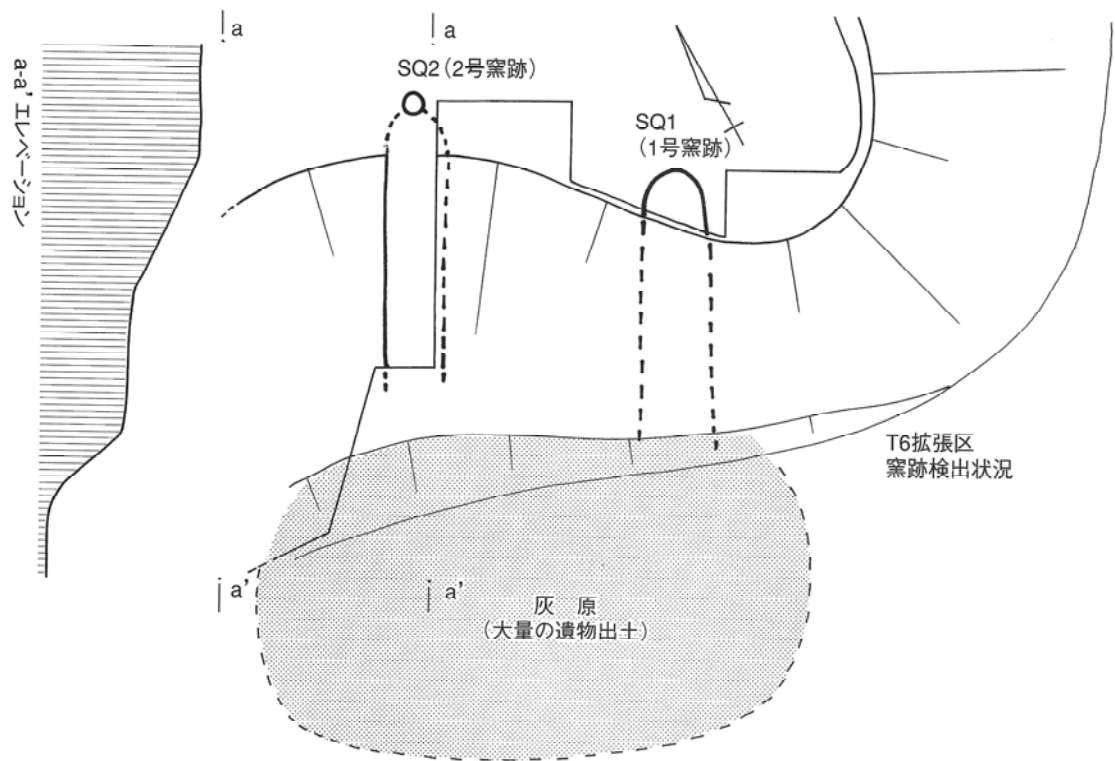
調査結果 T6拡張区(従来の小松原窯跡A地点)で窯跡2基を確認した。SQ1は不動沢寄り(東側)で斜面上部の平坦面で窯跡上部のプランを確認した。窯本体は未検出だが斜面下(現湿地)の捨場と考えられる試掘区で須恵器片が多量に出土した。SQ2はSQ1の西側約5mで検出したが、窯跡本体のプラン検出にとどめた。全体で約1箱の瓦を中心とする遺物が出土した。時期は出土遺物から9世紀初頭と考えられる。なお、SQ1は昭和40年に調査が行われているが、捨場を含む窯跡全体は未調査と考えられる。SQ2は未調査である。T10(従来小松原窯跡のB地点)では、立木や斜面下の湿地状況から部分的な試掘となったが、多量の瓦が出土した。(参考「山形県史考古資料編」山形県「上山市久保手窯跡発掘調査報告書」上山市教育委員会ほか)



第42図 小松原窯跡概要図



第43図 小松原窯跡検出遺構平面図・断面図(1)



第44図 小松原窯跡検出遺構平面図・断面図 (2)





遺跡近景 (南から)



SQ1・2近景 (南西から)



SQ1検出状況 (北から)



SQ2検出状況 (南西から)



T3遺構検出状況 (南から)



T5調査状況 (北東から)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

(18) <sup>ちようじゃやしき</sup>長者屋敷遺跡 (遺跡番号77)

所在地 山形県山形市松原字石原坂1733-17他

調査員 渋谷孝雄

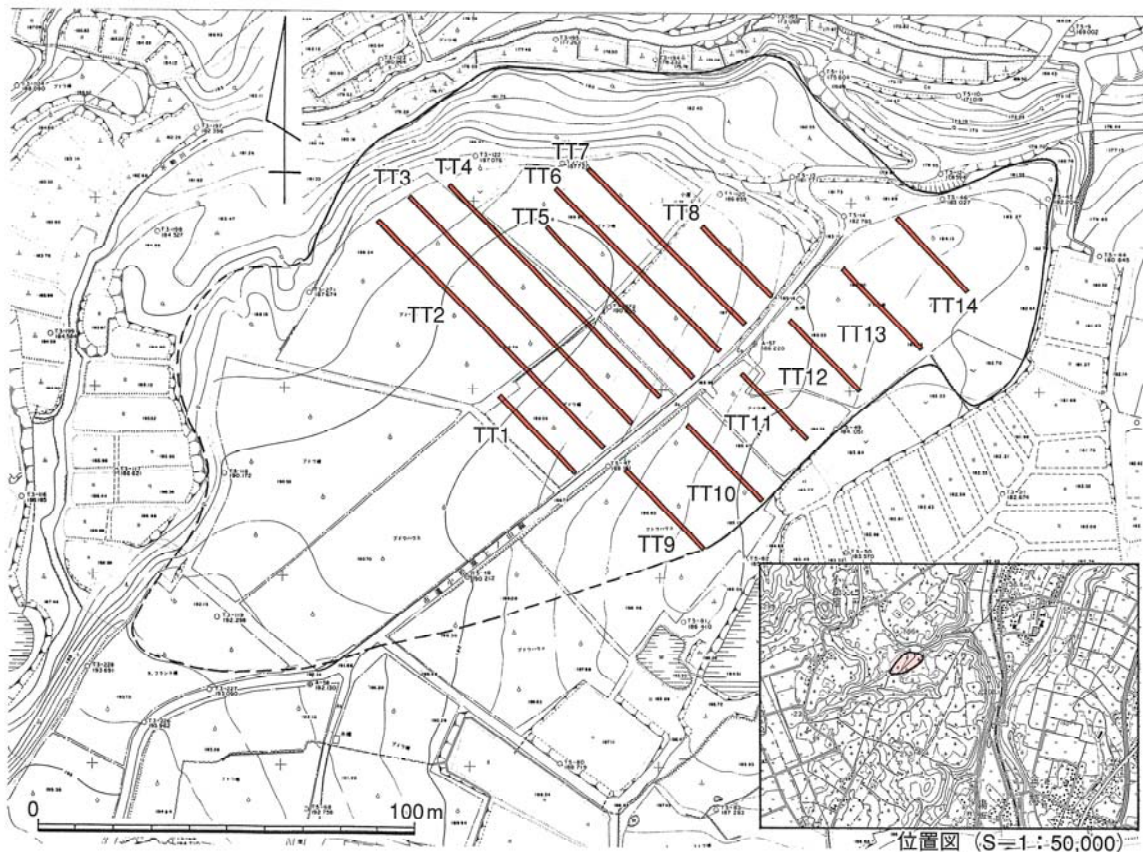
調査期日 平成11年3月25・26日

起因事業 山形新都市整備事業

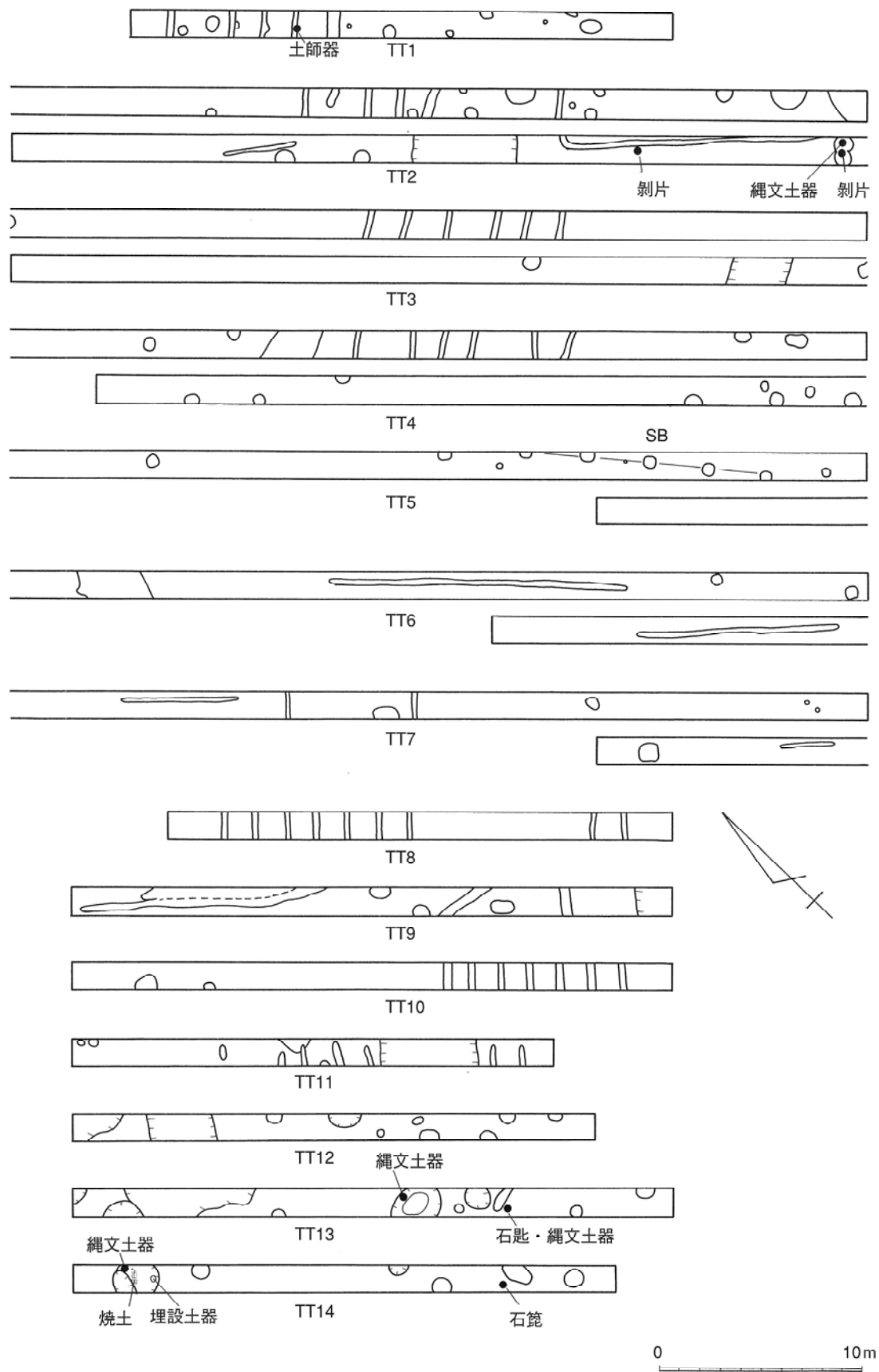
遺跡環境 JR奥羽本線蔵王駅の南西約2.1kmに位置し、不動川右岸の丘陵上に位置する。不動川を挟んで北西に小松原窯跡があり、本遺跡も平安時代の窯跡として登録されていた。窯跡は丘陵から不動川への北斜面に立地する。

試掘状況 今回の調査対象区は丘陵上の平坦地で、工房跡の存在が予想される場所に14本の試掘溝を設定して、地山までの掘り下げを行った。

調査結果 TT1、2でピットや溝跡が検出され、土師器や縄文土器、石器が出土した。TT5では掘り方列が検出され、TT4、6、7でもピットが確認された。遺跡の北東部のTT12~14では縄文時代の竪穴住居とみられる土色変化や焼け面が検出され、ややまとまった縄文土器も出土した。また、各トレンチで溝状の遺構が検出されているが所属時期は不明であり、中には現代の耕作によるものも存在すると考えられる。遺跡は東西250m、南北150m程の広がりをもつが、西側の範囲は確定していない。なお、窯の工房に関連する遺構、遺物は見つかっていない。



第45図 長者屋敷遺跡概要図



第46図 長者屋敷遺跡試掘溝平面図





遺跡近景（南西から）



T T 1 全景（西から）



T T 2 西半部全景（南東から）



T T 2 縄文土器・石器出土状況（東から）



T T 4 東半部溝群検出状況（北西から）



T T 5 掘り方列検出状況（南東から）



T T 6 東半部全景（南東から）



T T 6 西半部溝検出状況（南東から）



T T 12全景 (北西から)



T T 12土坑検出状況 (西から)



T T 13全景 (北西から)



T T 13土坑検出状況 (西から)



T T 13縄文土器出土状況 (西から)



T T 14土坑検出状況 (南から)



T T 14全景 (北西から)



出土遺物

(19)鶴ヶ岡城<sup>つるがおかじょう</sup> (遺跡番号1,532)

**所在地** 山形県鶴岡市馬場町

**調査員** 長橋 至

**調査期日** 平成10年6月25・26日

**起因事業** 都市計画街路事業羽黒橋加茂線

**遺跡環境** 鶴岡市中心部に位置する。現在の鶴岡公園が鶴ヶ岡城本丸と二の丸にあたり、水堀と土塁の一部が遺存している。鶴ヶ岡城（旧大宝寺城）の沿革は以下のとおりである。

鶴岡は古代から中世は大泉庄として、武藤氏（大泉氏と称する）が勢力をふるい鎌倉時代末から室町時代初めに大宝寺城を根拠としていた。戦国時代末期に武藤氏（大宝寺氏）は居城を鶴岡市大山の尾浦城に移している。その後上杉氏の領国に編入され、太閤検地への反対勢力の拠点となるが、一揆鎮圧の上杉氏重臣直江兼統により再興され、越後侍在番の城となった。関ヶ原の戦い後、1601年最上氏の領国となり、城名を大宝寺城から鶴ヶ岡城と改めている。最上氏改易後、1622年に譜代大名の酒井忠勝が庄内13万8千石で入部し、以後酒井氏の居城として明治を迎える。鶴ヶ岡城と鶴岡の城下が整備されるのは酒井氏入部以後で、本丸・二の丸の整備、新たに三の丸の縄張りをおこなうなど、城としての体裁が整ったのは入国後50年を経た頃という。明治9年に城は解体され、本丸には庄内神社が建立され、現在まで公園として市民の憩いの場となっている。昭和62年に内堀護岸整備事業に伴い本丸南西隅の試掘調査がおこなわれ、鉢巻石垣や乱杭等の遺構が確認されている。

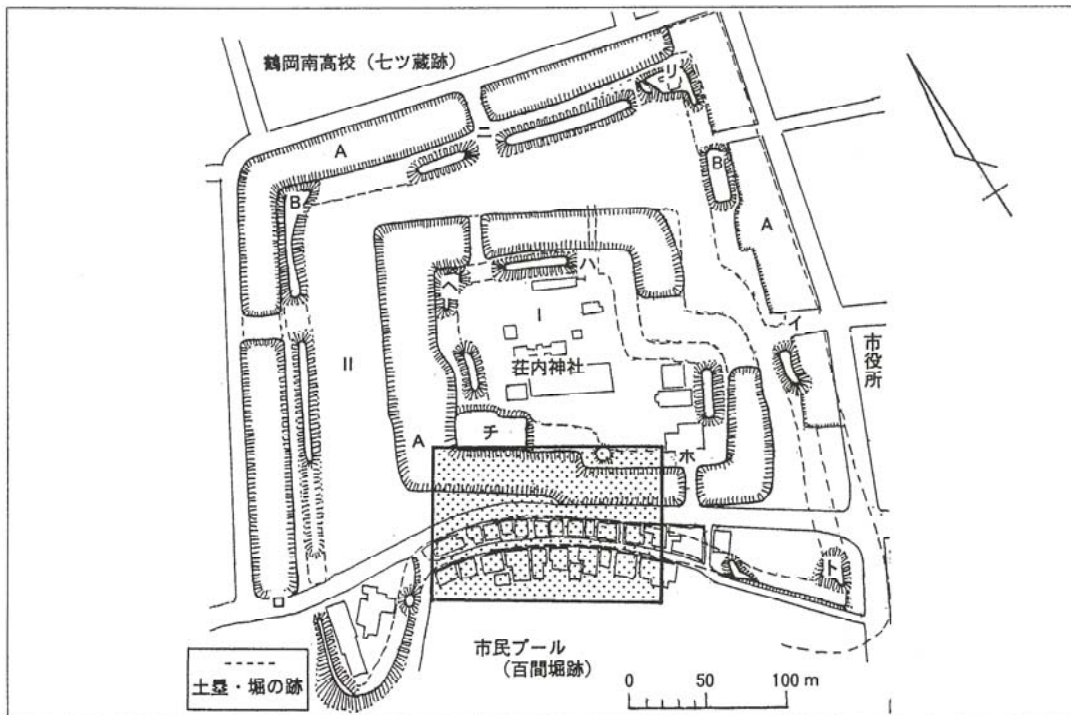
**試掘状況** 試掘調査可能な部分に7箇所の試掘溝（重機使用）を設定した。

**調査結果** 近現代の攪乱が一部で見られるが、平安時代・中世・近世の遺構・遺物が確認された。各トレンチの状況は以下のとおりである。

T1：西側で暗褐色シルトの土色変化（SX）、重複して焼土遺構が検出された。また土壌5、溝状遺構2が確認された。遺構の性格を把握するため一部の遺構を半截掘り下げたところ、中央東側の土壌から青磁片（龍泉窯・13世紀）が1点出土した。T2：柱穴1が検出された。時期は不明。T3：柱穴3を検出。時期不明。T4：柱穴6・焼土遺構1を検出。瀬戸1片出土。T5：溝状遺構1、柱穴が比較的まとまって検出された。遺構検出面で平安時代の赤焼き土器坏2片が出土した。T6：西側の深掘り区で土壌1、断面観察で10層からなる土層堆積状況がみられた。T7：約2mの深掘りによる土層断面観察により土壌1基・柱穴1および14層の土層堆積状況がみられた。遺物は、土壌覆土から瓷器系の陶器1点、13層から平安時代の赤焼き土器坏底部片が1点出土した。

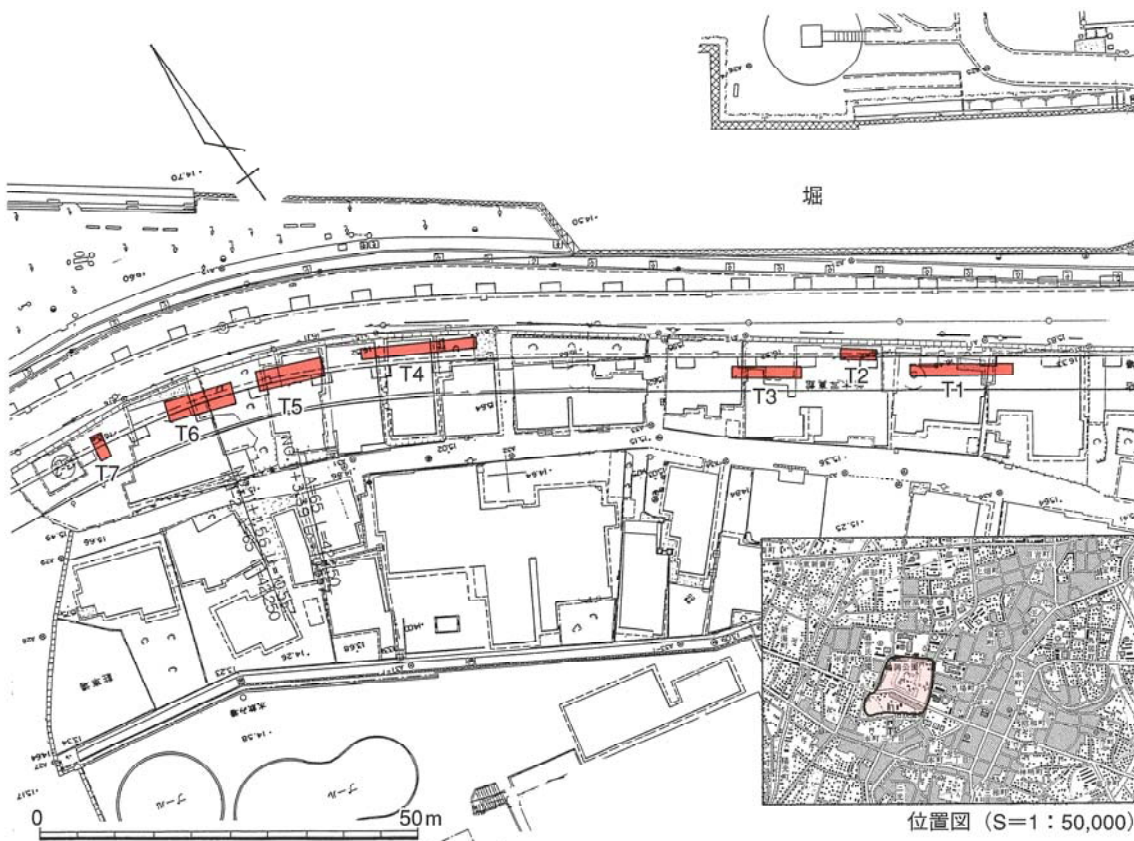
今回の調査地点を縄張図と照合すると、対象地区は二の丸の一部と土塁部分に相当する。T1・2は二の丸と土塁のほぼ境界付近、T3～7は土塁と重なるようである。13世紀の青磁を含む土壌の存在や平安時代の遺物が散見されることは、大宝寺城築城以前の何らかの古代・中世遺構の存在を予想させる。



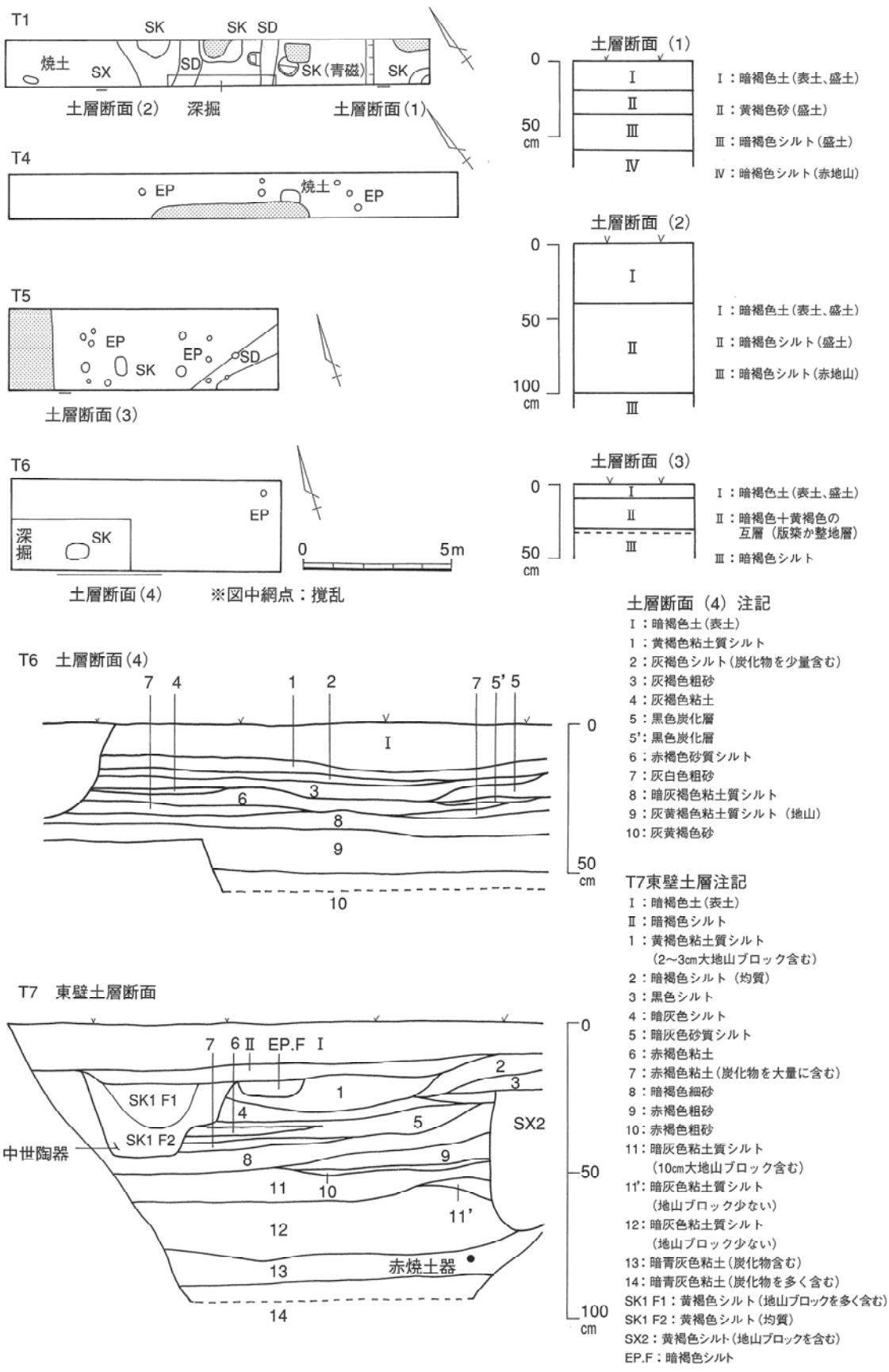


第47図 鶴ヶ岡城略図

※山形県中世城館跡調査報告書第三集より 概要図範囲



第48図 鶴ヶ岡城概要図



第49図 鶴ヶ岡城検出遺構平面図・断面図



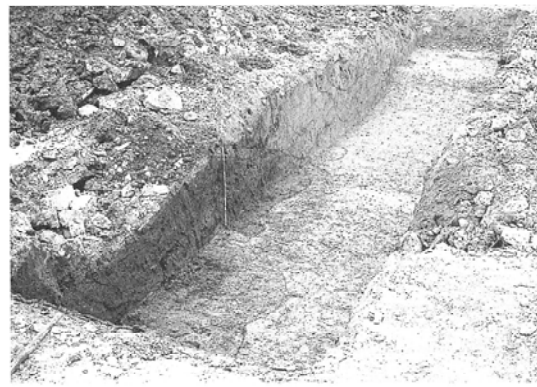
遺跡近景（東から）



T 1 遺構検出状況（東から）



T 1 土坑半載青磁出土状況



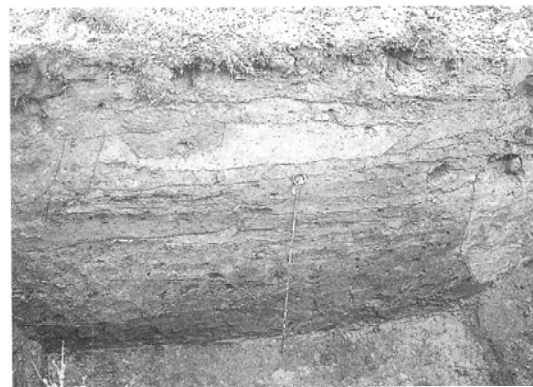
T 3 遺構検出状況（東から）



T 4 西半部遺構検出状況（東から）



T 6 土層断面（北から）



T 7 土層断面（西から）



出土遺物



(20) <sup>やまだ</sup>山田遺跡 (遺跡番号 1,655)

所在地 山形県鶴岡市大字山田字油田他

調査員 長橋 至

調査期日 平成10年8月24・25日、11月10・11日

起回事業 都市計画街路事業山田善宝寺線

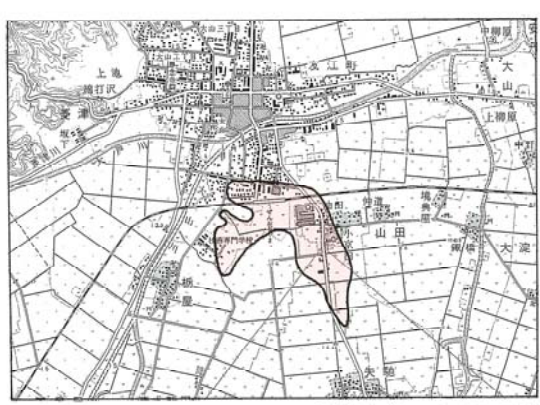
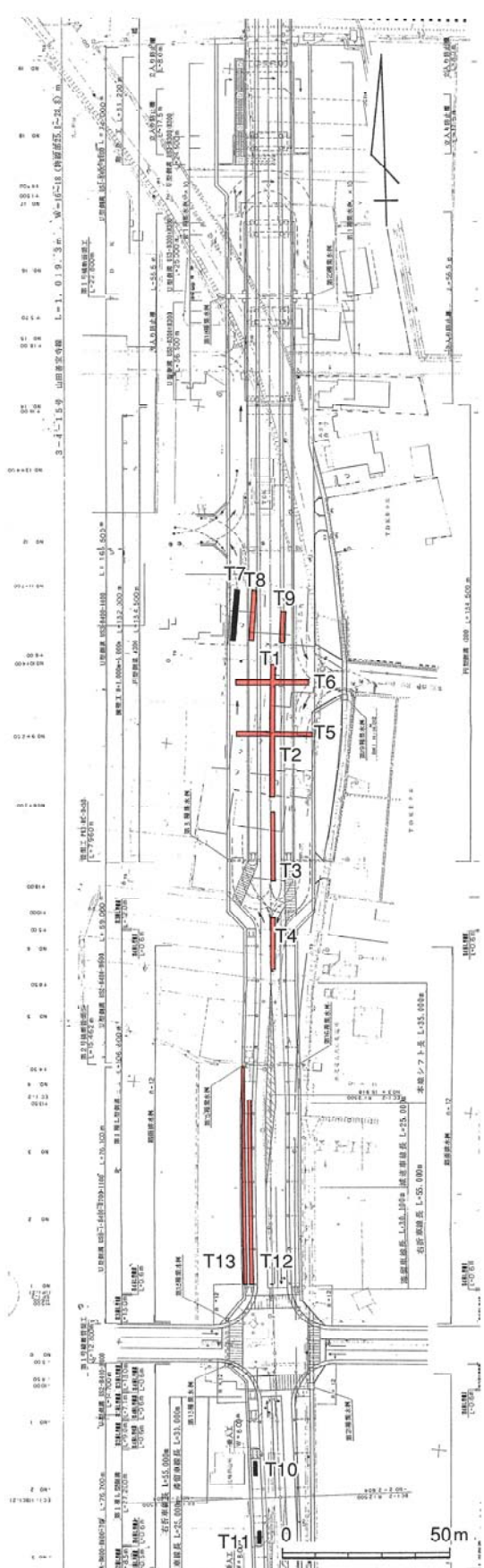
遺跡環境 JR羽越本線大山駅周辺及び南側の標高13m前後の微高地に立地する古墳時代から平安時代の大規模な集落跡である。地目は畑地・水田・宅地・工場用地等となっている。昭和63年度に県営ほ場整備関係で県教委が、平成8年度からは工業団地造成に伴い鶴岡市教委が継続して発掘調査を実施している。

試掘状況 事業予定地のうち試掘調査可能な部分に11箇所の試掘溝（重機使用）を設定した。なお、T12・13は平成8・9年度に県教委が実施した試掘調査トレンチである。

調査結果 T1～6を中心に遺構と遺物が確認された。検出遺構は土壇10、溝状遺構7、柱穴約60などである。遺物は、古式土師器壺口縁部片、平安時代の須恵器・赤焼き土器片数点、内黒土師器片がそれぞれ出土した。その他近世陶磁器も少量出土している。隣接する鶴岡市教委の発掘調査状況や今回出土した遺物、遺構覆土の状況から、古墳時代と平安時代の2時期の遺構の存在が想定される。北側では川砂層が検出された。鶴岡市教委の発掘調査で検出されている河川跡の延長にあたる可能性がある。なお、南側T10・11は削平・盛土整地されており、遺構・遺物は確認されない。



遺跡近景（北から）



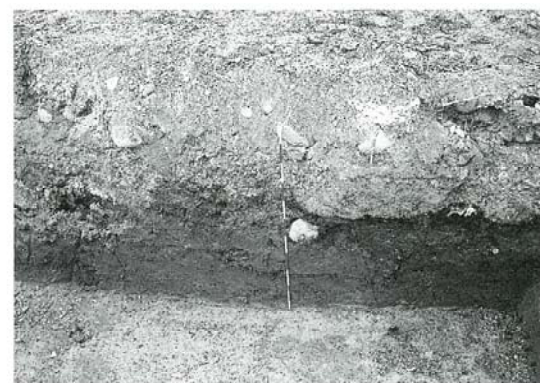
位置図 (S=1:50,000)



T 2 遺構検出状況 (北から)



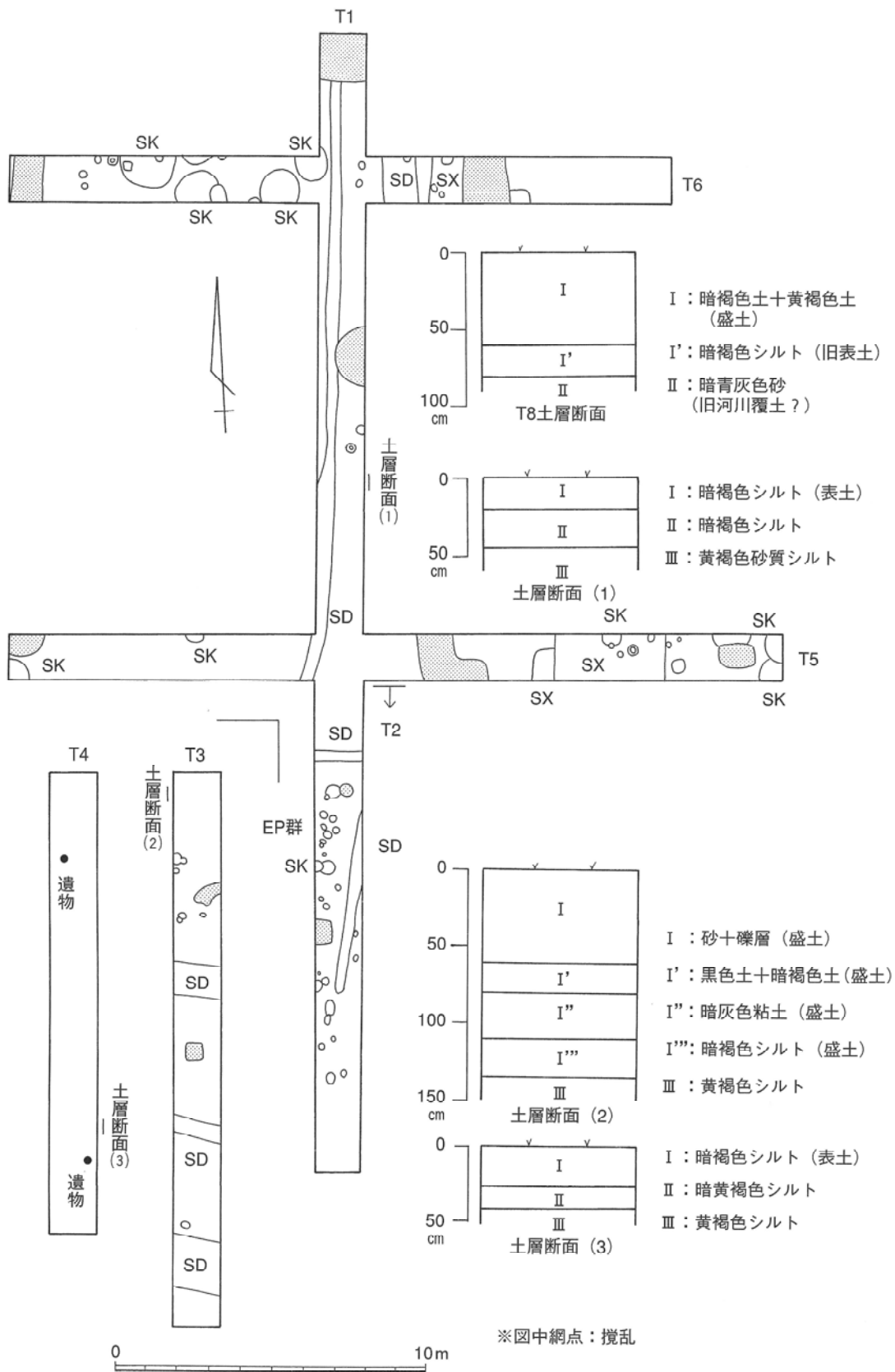
T 3 遺構検出状況 (北から)



T 4 土層断面 (東から)

第50図 山田遺跡概要図

図版48 山田遺跡 (2)

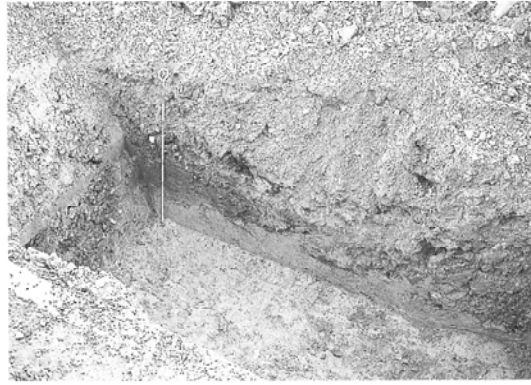


第51図 山田遺跡検出遺構平面図・断面図

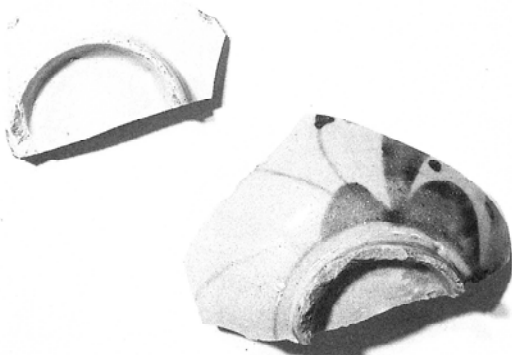




T 5 東側遺構検出状況（西から）



T 7 土層断面（西から）



出土遺物（1）中・近世



出土遺物（2）古墳・古代



T 6 遺構検出状況

おだしまじょう  
(21)小田島城跡 (遺跡番号668)

所在地 山形県東根市大字東根字小楯

調査員 名和達朗

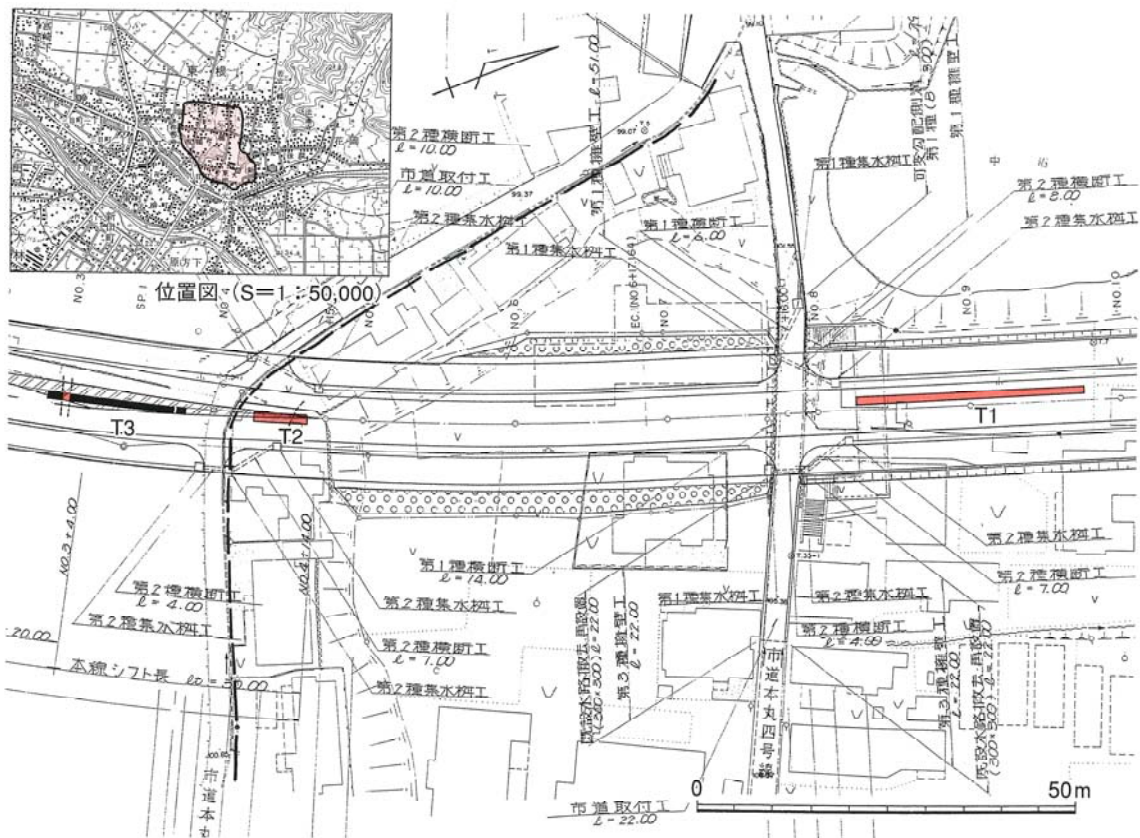
調査期日 平成10年11月11・12日

起回事業 都市計画街路事業・長瀬神町線

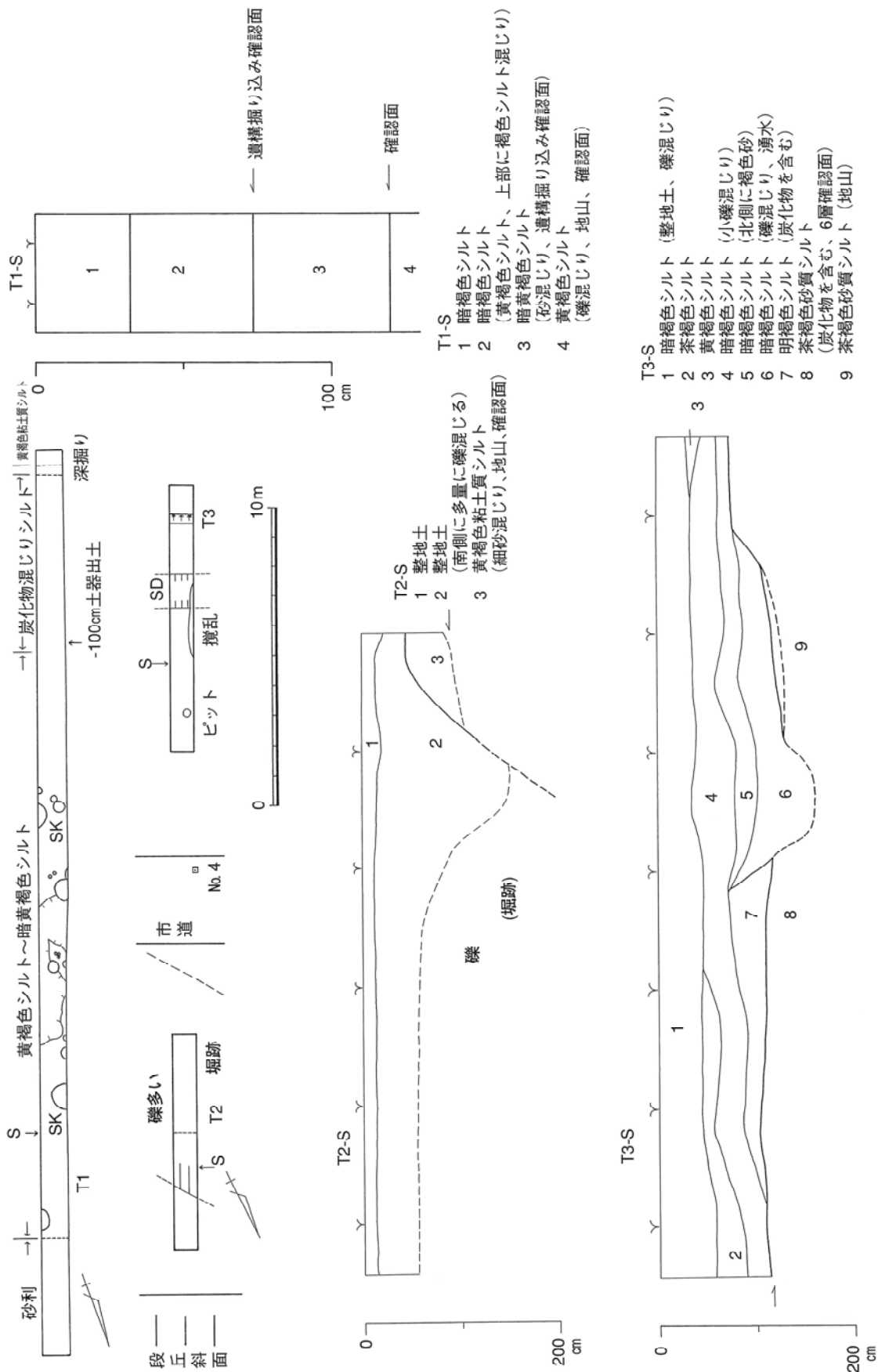
遺跡環境 遺跡は、東根市街地北部に位置する。東側の山麓部から広がる白水川と日塔川合流点右岸の河岸段丘に立地する。遺跡の南側の東根小学校校庭が、本丸である。標高は、120～130mを測る。遺跡範囲は、東西570m、南北740mで、一体に市街地を含む。

試掘状況 今回の調査は、竜興寺沼の南側と段丘下の部分について行った。調査は、計画道路センター杭と平行に南北トレンチを3ヶ所設定し、重機使用により遺構確認面と考えられる地山上面まで掘り下げ、人力で面削りを行いながら調査を進めた。

調査結果 T1では、土坑、柱穴が検出された。確認面は、4層黄褐色シルトで、深さは地表面から120cmを測る。また、土層断面観察では、深さ74cmの3層暗黄褐色シルト上面からの遺構掘り込みも認められ、確認面は1段浅い可能性がある。出土遺物は、縄文土器、中世陶器である。T2では、北端1.5m付近から堀跡と思われる幅5.5m以上の溝状の落ち込みが確認された。覆土内には多量の河原石を含み、人為的に埋められた状況が考えられる。確認面は、黄褐色粘土質シルトで、深さは91cmを測る。T3では、溝跡（河川跡）、ピットが確認された。



第52図 小田島城跡概要図



第53図 小田島城跡検出遺構平面・断面略図

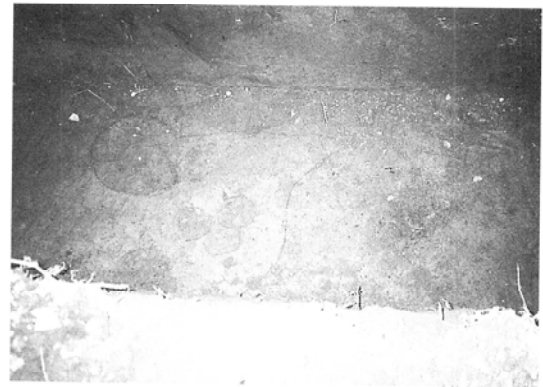




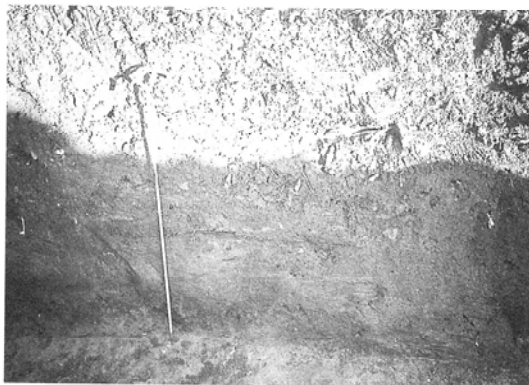
遺跡近景 T1 (南から)



T1 調査状況 (南から)



T1 調査状況 (西から)



T1 土層断面 (西から)



出土遺物



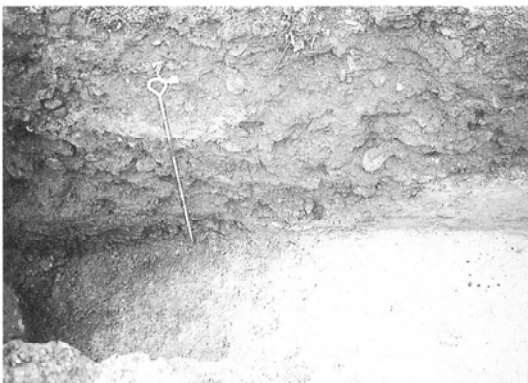
遺跡近景・T2（南から）



T2 調査状況（北から）



T2 調査状況（南から）



T2 堀跡土層断面（東から）



T2 堀跡土層断面（西から）

(22) <sup>ふじしま</sup>藤島D遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県飽海郡藤島町中町

調査員 長橋 至

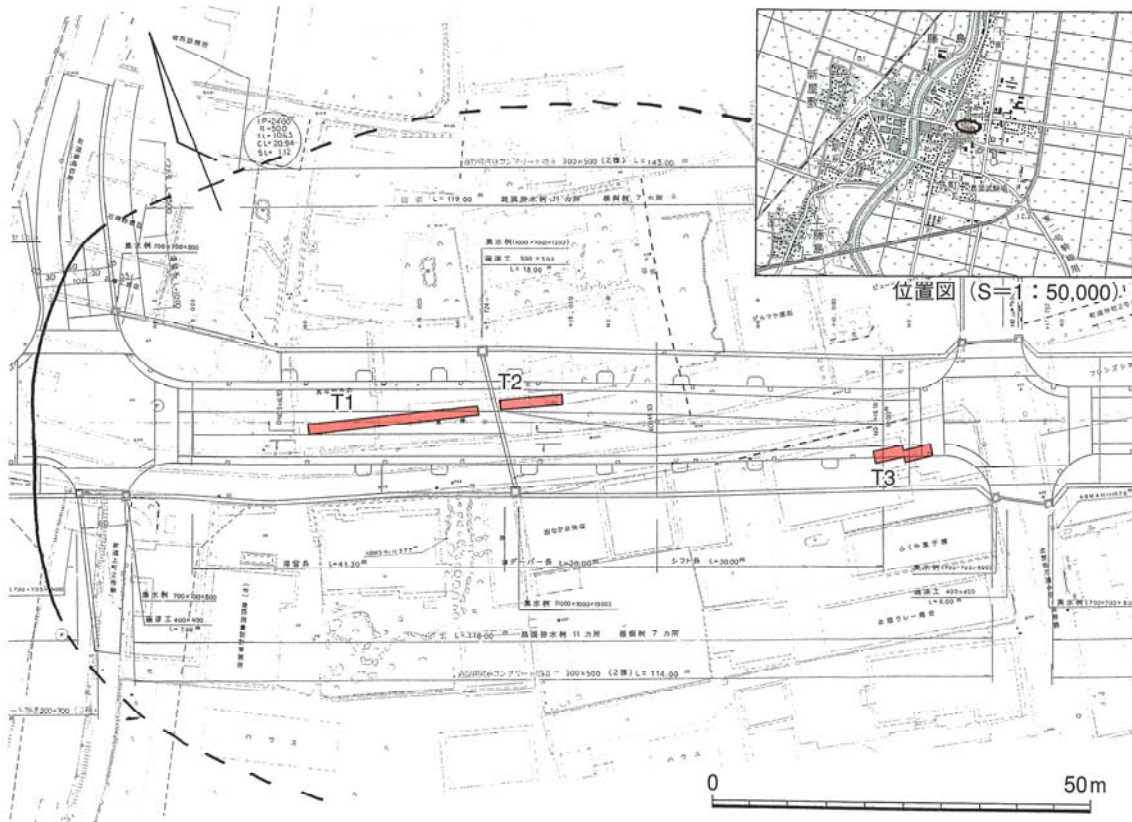
調査期日 平成10年11月12・13日

起回事業 都市計画街路事業藤島駅笹花線

遺跡環境 藤島町中心部に位置する。西側約150mに藤島城本丸跡が残る。本遺跡は藤島城二の丸の外側に隣接する。平成10年度に都市計画街路事業に伴い、東側部分について財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。その結果、輸入陶磁器の青磁片やかわらけ等の中世の遺物や近世陶磁器などが出土し、中世から近世の街並みの一部が明らかになった。

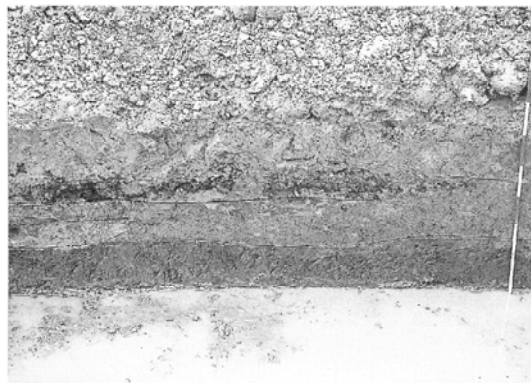
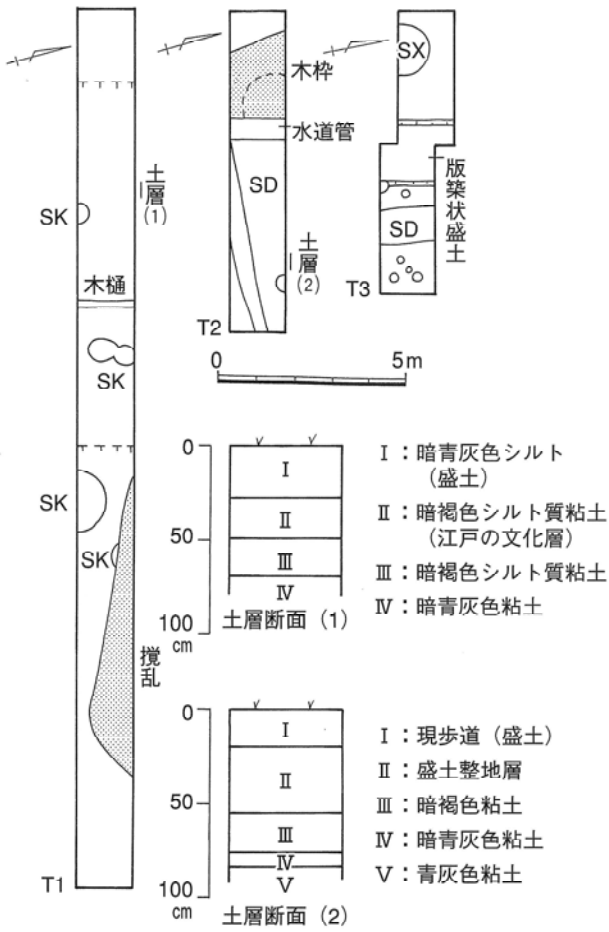
試掘状況 事業予定地内の試掘調査可能地点に3箇所の試掘溝(重機使用)を設定した。

調査結果 T1では、現地表から50cmで江戸時代の陶磁器が出土する文化層が部分的に認められた。また、その下層(現地表から70cm)では中世から江戸時代の土壌・木柢の残る落ち込みなどが検出された。遺物は主に江戸時代の陶磁器が整理箱1箱ほど出土したが、赤漆の木椀も1点出土している。T2は西側が一部攪乱を受けていたが、東半部で溝状遺構と小土壌が検出された。遺物は近世の陶磁器数片が出土した。T3では柱穴6・土壌1・溝状遺構1の他、中央部で焼土を含む版築状の遺構が検出された。遺物は近世の陶磁器が数片、時期不明の砥石が1点出土した。



第54図 藤島D遺跡概要図





図版52 藤島D遺跡

(23)梅ノ木遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県山形市大字漆山字梅ノ木

調査員 名和達朗 渋谷孝雄

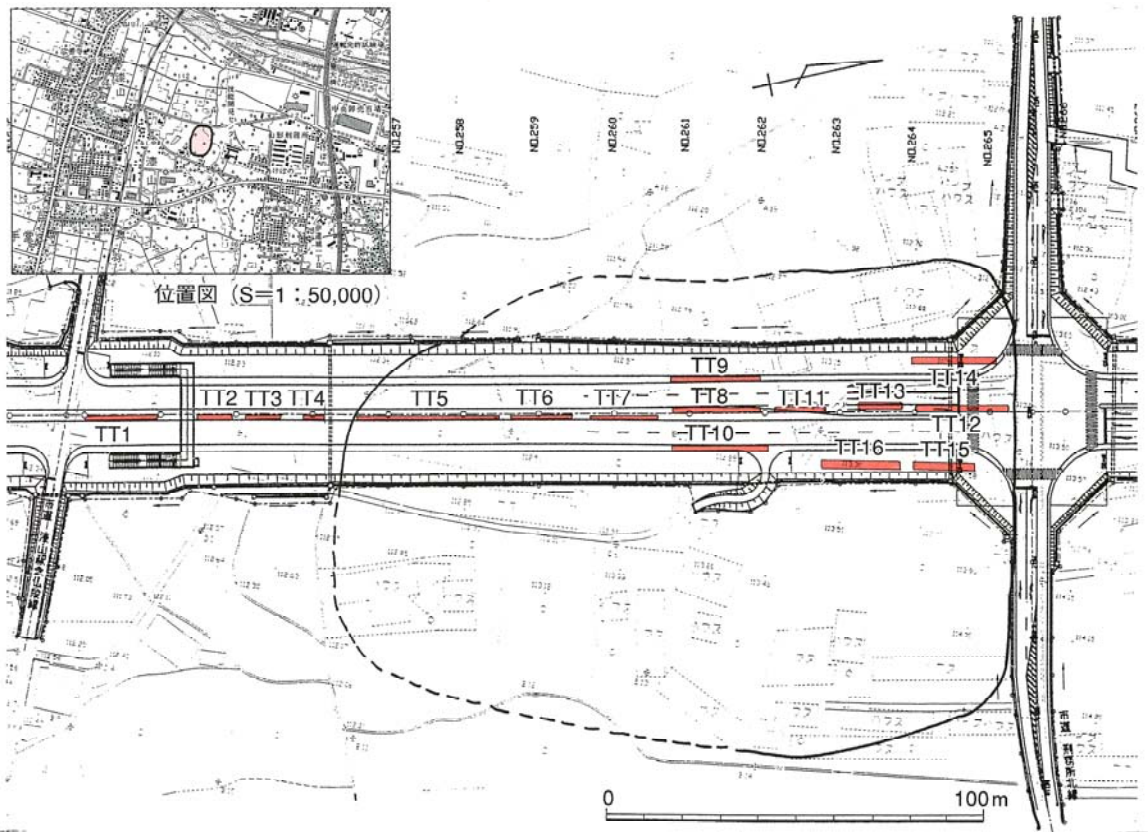
調査期日 平成10年12月15日

起因事業 道路改築主要地方道山形天童線

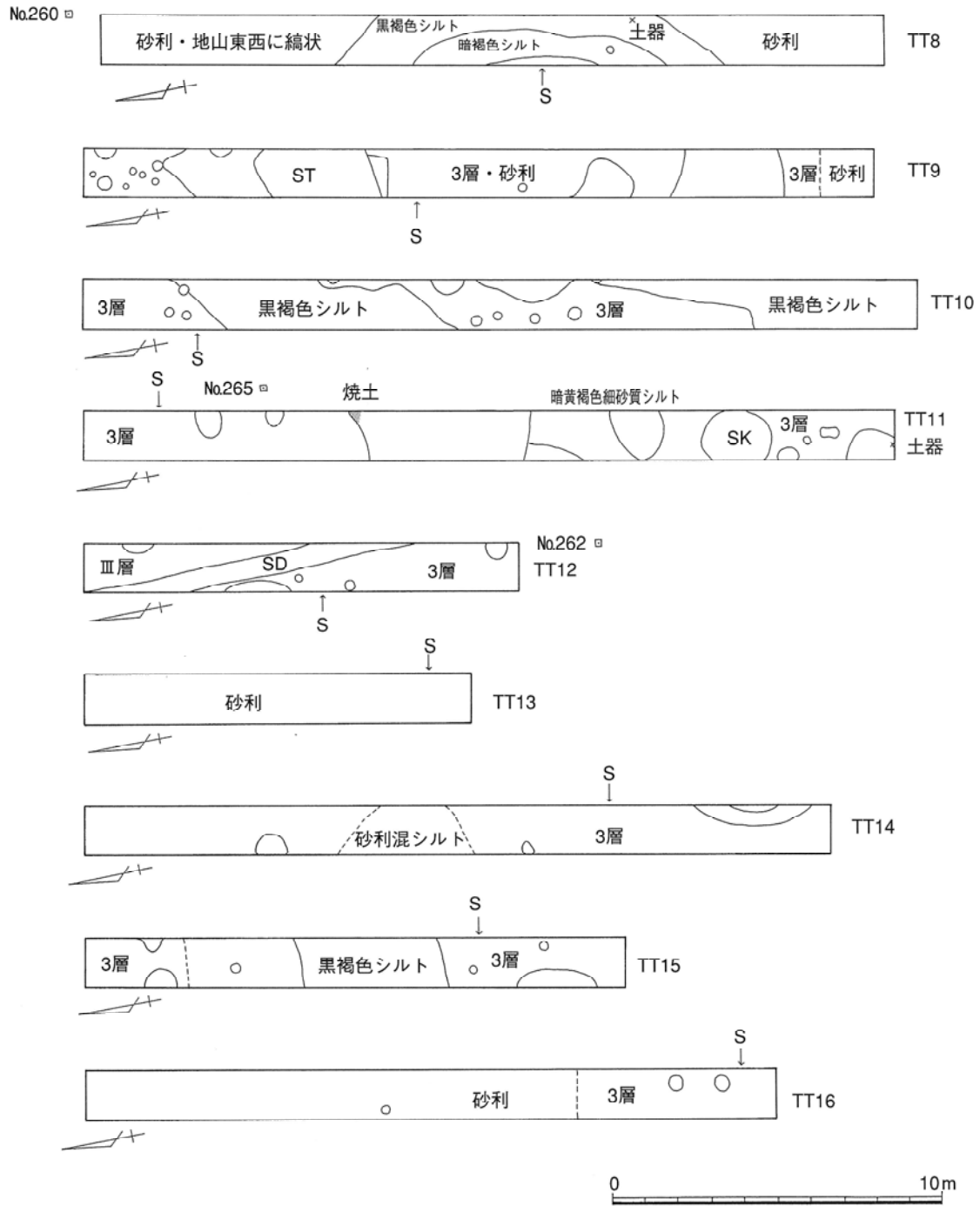
遺跡環境 遺跡は、JR漆山駅の東方450m、国道13号の西方850mに位置する。さらに、北側500mは立谷川が西流し、その左岸に広がる扇状地に立地する。地目は、畑地である。標高は、113mを測る。遺跡範囲は、東西130m、南北175mが考えられる。遺跡の北側400mには、一ノ坪遺跡が隣接する。

試掘状況 平成9年度に遺跡の南側範囲について試掘調査が行われ、今回はその北側区域についての調査である。調査は、計画道路センター杭に合わせ南北平行にトレンチを9ヶ所設定して行った。重機使用により遺構確認面と考えられる地山上面まで掘り下げ、人力で面削りを行いながら調査を進めた。トレンチは、前年度から通し番号である。

調査結果 T8～16全部から遺構・遺物を確認できた。確認面は、黄褐色細砂質シルト T1と2は、河川からの堆積と考えられる砂質及び粘土質シルトが深く、畑表面から43～58cmを測る。検出遺構は、住居跡、焼土、土坑、溝跡、ピットである。出土遺物は、土師器、須恵器合わせて5袋で、特にT10、15が多い。それらにより、遺跡は、奈良・平安時代の集落跡と考えられる。

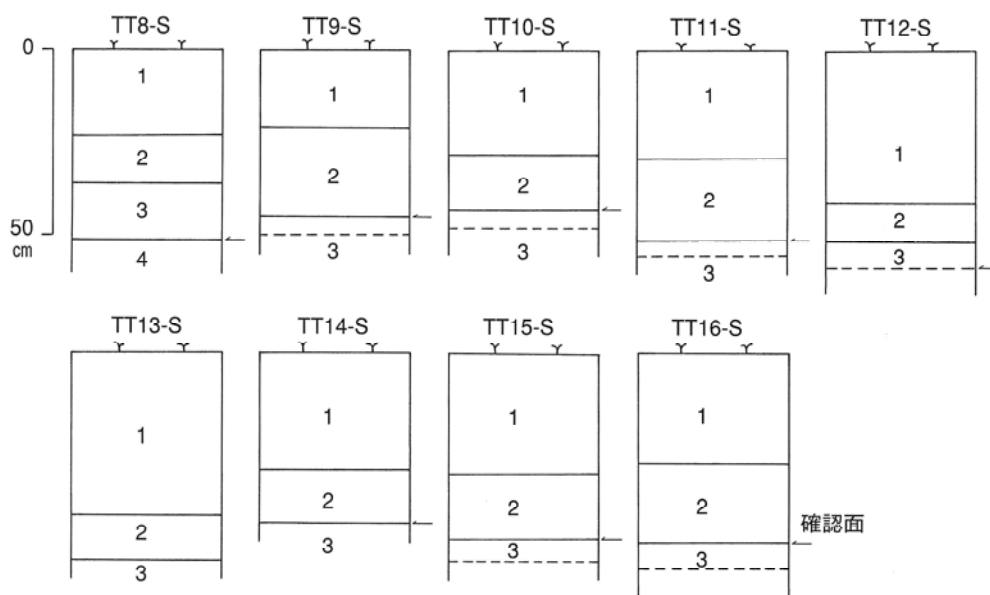


第56図 梅ノ木遺跡概要図



第57図 梅ノ木遺跡検出遺構平面略図





TT8-S

- 1 暗褐色砂質シルト (耕作土)
- 2 明褐色砂質シルト
- 3 暗褐色細砂質シルト (黒っぽい色調)
- 4 黄褐色細砂質シルト (地山、遺構確認面)

TT9~14・16-S

- 1 暗褐色砂質シルト (耕作土)
- 2 暗褐色細砂質シルト
- 3 黄褐色細砂質シルト (地山、遺構確認面)

TT13・15-S

- 1 暗褐色砂質シルト (耕作土)
- 2 暗褐色細砂質シルト
- 3 黄褐色細砂質シルト (砂利混入)

第58図 梅ノ木遺跡土層断面略図



遺跡近景 (南から)



TT12調査状況 (南から)



TT12土層断面 (西から)



出土遺物 (1/3)

図版53 梅ノ木遺跡

(24) <sup>さくらえ</sup>桜江遺跡 (天童市教育委員会平成7年度登録)

所在地 山形県天童市大字高揃字桜江

調査員 名和達朗

調査期日 平成11年9月11日

起回事業 緊急地方道整備事業主要地方道天童寒河江線

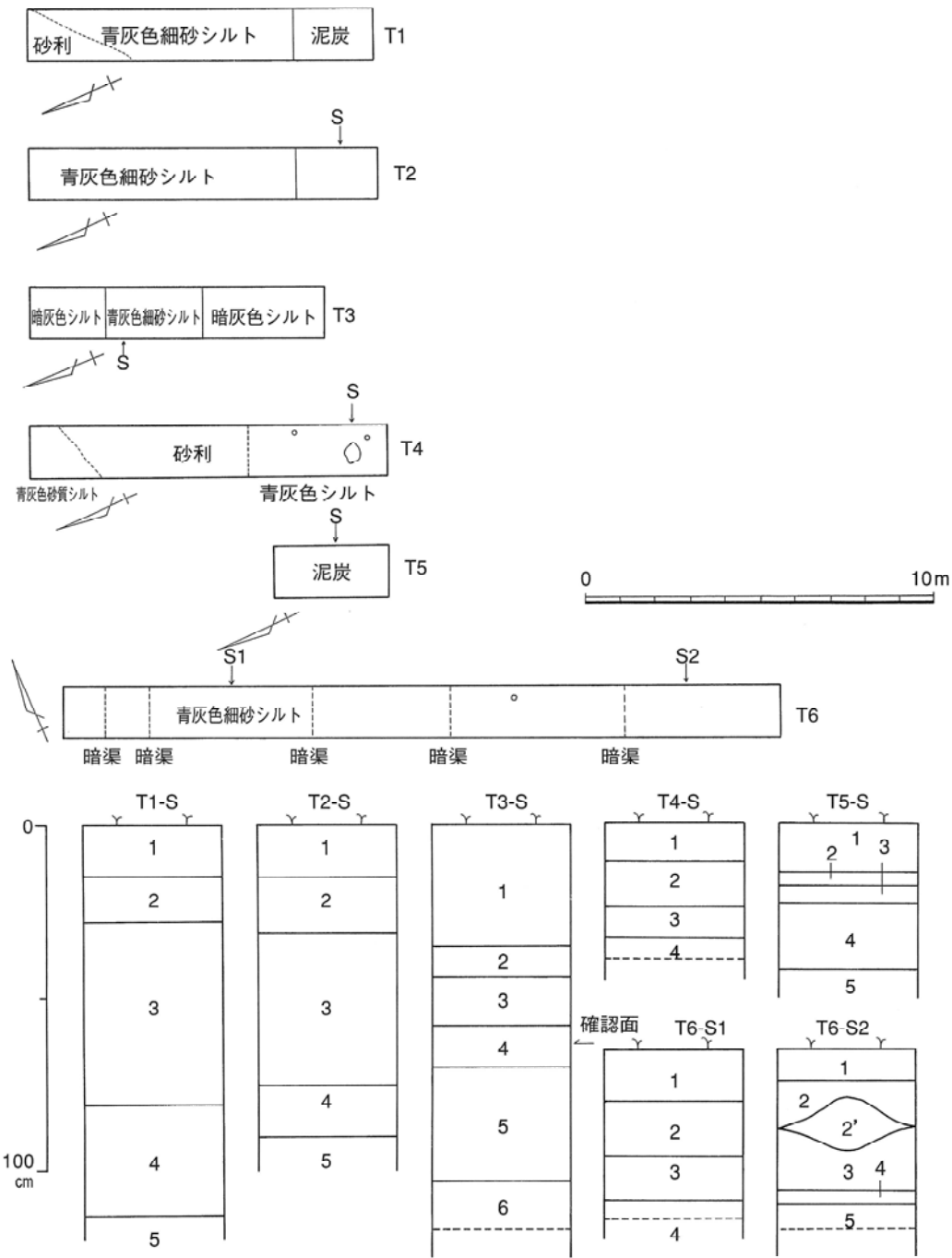
遺跡環境 遺跡は、高揃地区の南側250mに位置する。さらに南側400mは立谷川が西流し、遺跡はその右岸に広がる平地に立地する。地目は、水田である。標高は、101mを測る。遺跡範囲は、東西160m、南北160mが考えられる。周辺遺跡では、遺跡の西方700mの計画道路延長上には菖蒲江1遺跡、南西側200mの水田には高揃南遺跡が分布する。

試掘状況 調査は、水田畦畔に合わせ南北平行にトレンチを6ヶ所設定して行った。重機使用により遺構確認面と考えられる地山上面まで掘り下げ、人力で面削りを行いながら調査を進めた。

調査結果 遺構・遺物は少なく、明らかなのはT4南半のみである。検出遺構は、柱穴と考えられるピット3本である。確認面は、4層青灰色シルト・礫混じりである。深さは、水田面下33cmを測る。出土遺物は、土師器片9点のみである。それらにより時期詳細は不明であるが、遺跡は、古墳～奈良・平安時代の集落跡と推定される。



第59図 桜江遺跡概要図



- |   |  |  |  |   |
|---|--|--|--|---|
| <p>T1・2-S</p> <p>1 暗褐色シルト (耕作土)</p> <p>2 黒色シルト (植物を含む)</p> <p>3 植物埋設土</p> <p>4 青灰色細砂シルト</p> <p>5 砂利</p> | <p>T3-S</p> <p>1 耕作土 (盛土)</p> <p>2 暗褐色シルト</p> <p>3 黒褐色シルト</p> <p>4 灰褐色シルト</p> <p>5 暗灰褐色シルト (泥炭を含む)</p> <p>6 青灰色細砂シルト</p> | <p>T4-S</p> <p>1 耕作土</p> <p>2 黒色シルト (小石混じり)</p> <p>3 茶褐色シルト (小石混じり)</p> <p>4 青灰色シルト (礫混じり、確認面)</p> | <p>T5-S</p> <p>1 耕作土</p> <p>2 灰褐色シルト</p> <p>3 黒色シルト</p> <p>4 暗灰色シルト (小石を含む)</p> <p>5 暗青灰色シルト (泥炭を含む)</p> | <p>T6-S1・S2</p> <p>1 耕作土</p> <p>2 黒色シルト</p> <p>2' 砂</p> <p>3 暗灰褐色シルト</p> <p>4 青灰色細砂質シルト</p> <p>5 青灰色シルト</p> |
|---|--|--|--|---|

第60図 桜江遺跡検出遺構平面・断面略図





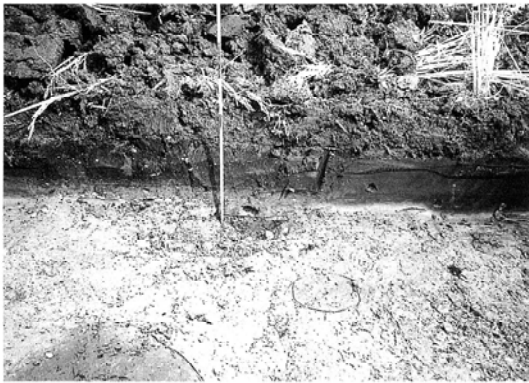
遺跡近景（西から）



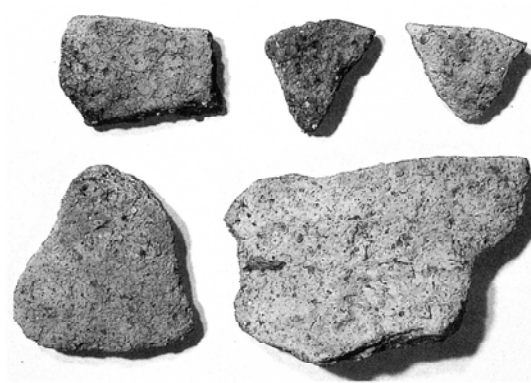
T 4 調査状況（南から）



T 4 調査状況（北から）



T 4 土層断面（西から）



出土遺物

(25) 菖蒲江1遺跡 (平成10年度登録)

所在地 山形県天童市大字高掬字高田、菖蒲江

調査員 名和達朗

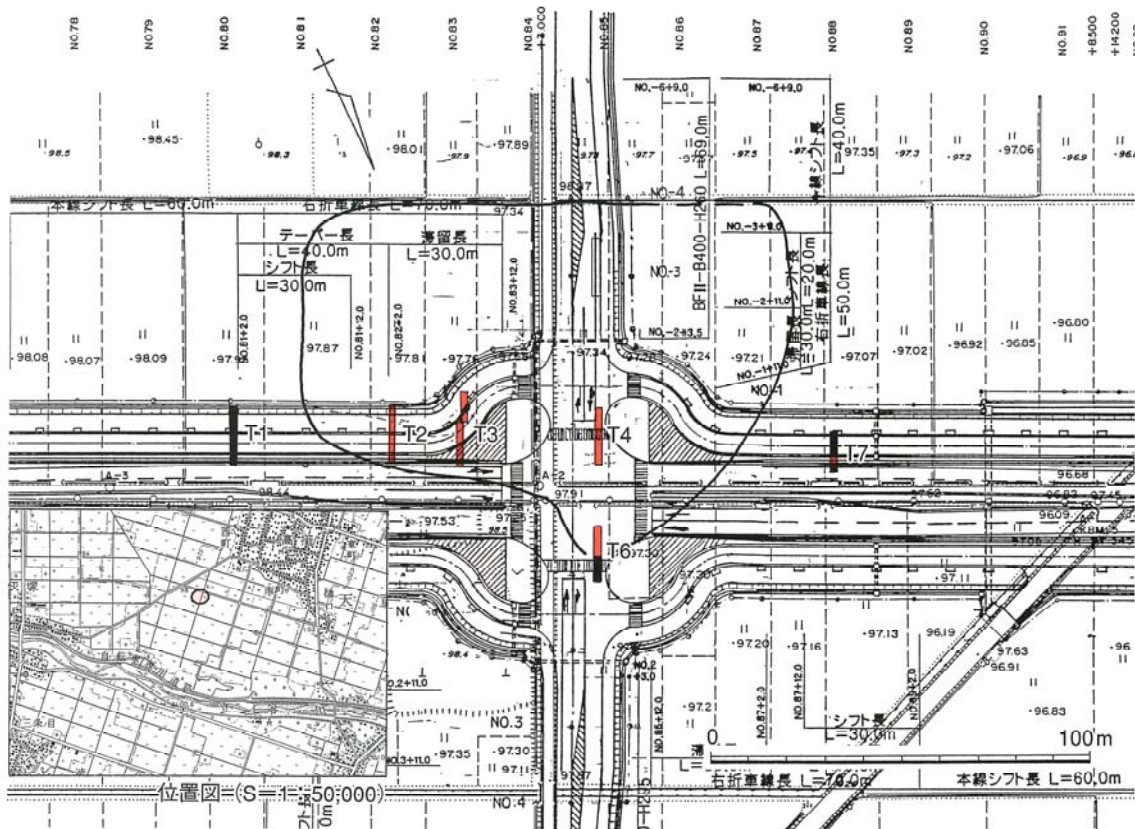
調査期日 平成11年9月9・10日

起因事業 緊急地方道整備事業主要地方道天童寒河江線

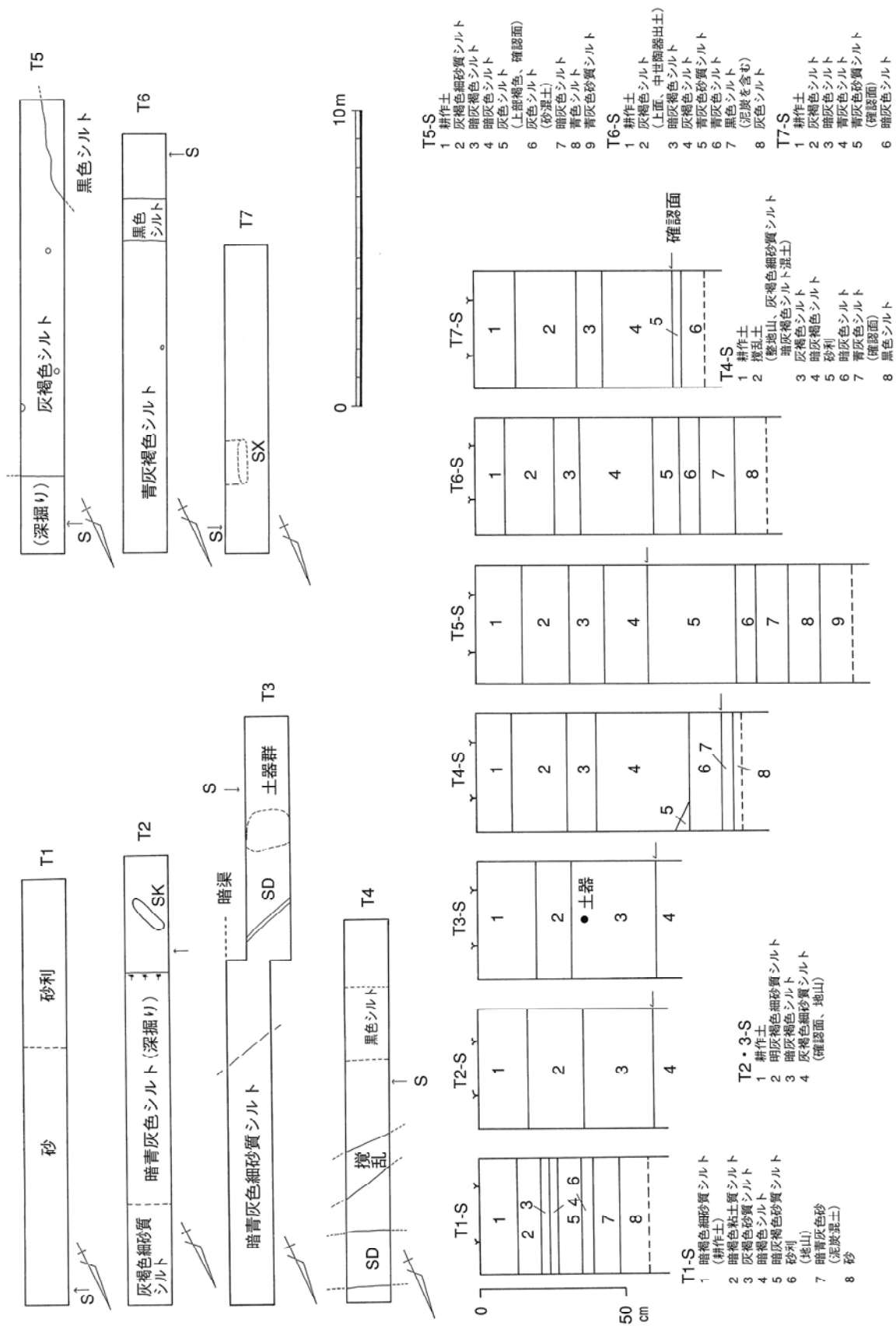
遺跡環境 遺跡は、高掬地区の南西350mに位置する。さらに南側600mは立谷川が西流し、遺跡はその右岸に広がる平地に立地する。地目は、水田である。標高は、97mを測る。遺跡範囲は、東西130m、南北220mが考えられる。周辺遺跡では、遺跡の東方700mの計画道路延長上には桜江遺跡、同じく西方100mには影沢北遺跡、南側250mの水田には高掬南遺跡が分布する。

試掘状況 調査は、水田畦畔に合わせて南北平行にトレンチを7ヶ所設定して行った。重機使用により遺構確認面と考えられる地山上面まで掘り下げ、人力で面削りを行いながら調査を進めた。

調査結果 遺構・遺物を検出できたのはT2～7からである。T3、4で溝跡、T5でピット、T7で楕円形のプラン(SX)が確認された。確認面は、水田面下深さ60～84cmである。出土遺物は、フレイク1点、土師器2袋、須恵器、中世陶器(T4、6)、磁器(T4)、漆器(T4北端検出の溝跡)である。出土土器の特徴から遺跡は、縄文時代、古墳時代、平安時代、中世と時期が複合する集落跡と考えられる。



第61図 菖蒲江1遺跡概要図



第62図 菅浦江1遺跡検出遺構平面・断面略図





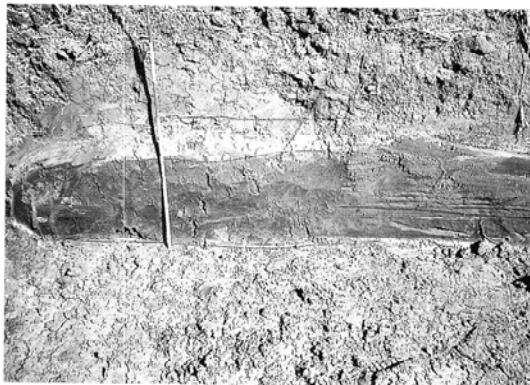
遺跡近景（東から）



T 3 調査状況（南から）



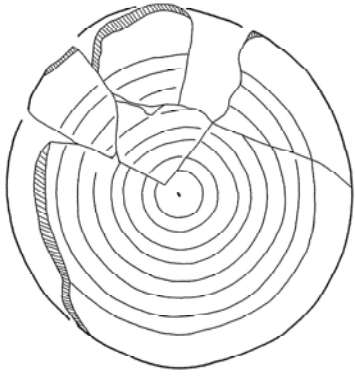
T 3 調査状況（北から）



T 3 土層断面（東から）



T 3 遺物出土状況（南から）



T4出土  
漆器皿  
口径 91mm  
底径 77mm  
器高さ 12mm  
厚さ 4mm

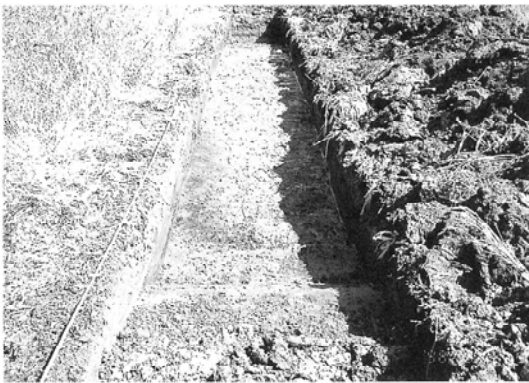


T 4 調査状況 (北から)

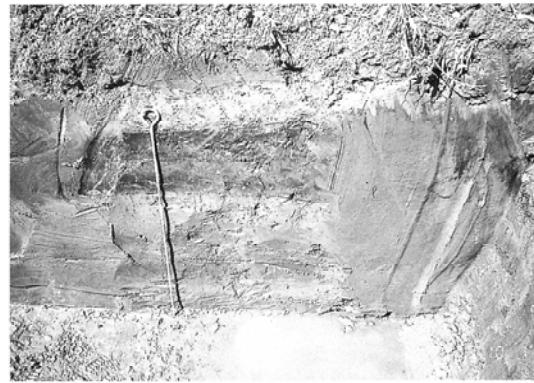


T 4 土層断面 (東から)

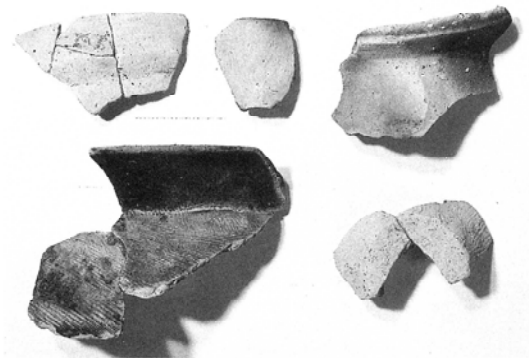
第63図 菖蒲江1遺跡出土遺物実測図



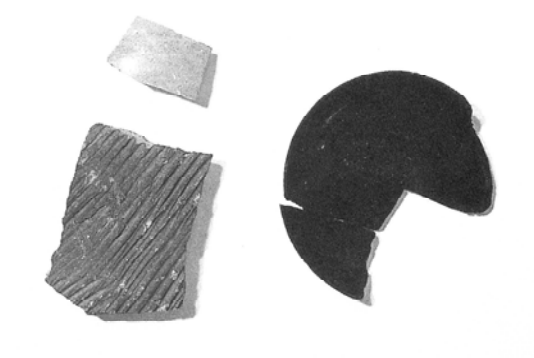
T 5 調査状況 (南から)



T 5 土層断面 (東から)



出土遺物 (1) (1/3)



出土遺物 (2) (1/3)

図版56 菖蒲江1遺跡 (2)



はせがみ  
(26) 馳上遺跡 (米沢市遺跡地図A353・355)

所在地 山形県米沢市大字川井字元立

調査員 長橋 至

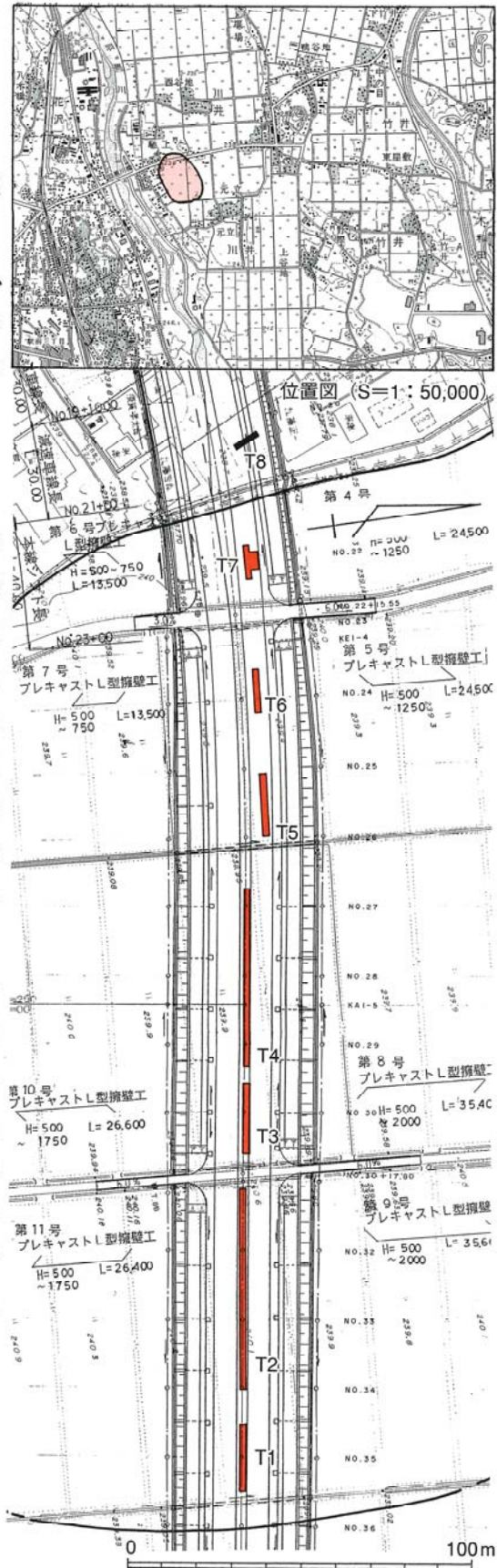
調査期日 平成10年9月24・25日

起因事業 主要地方道米沢高畠線緊急地方道  
路整備事業

遺跡環境 JR奥羽本線米沢駅北東約1.4km、  
市街地東側を北流する羽黒川右岸の河岸段丘上  
に立地する。地目は水田・畑地が主で標高は約  
240mを測る。

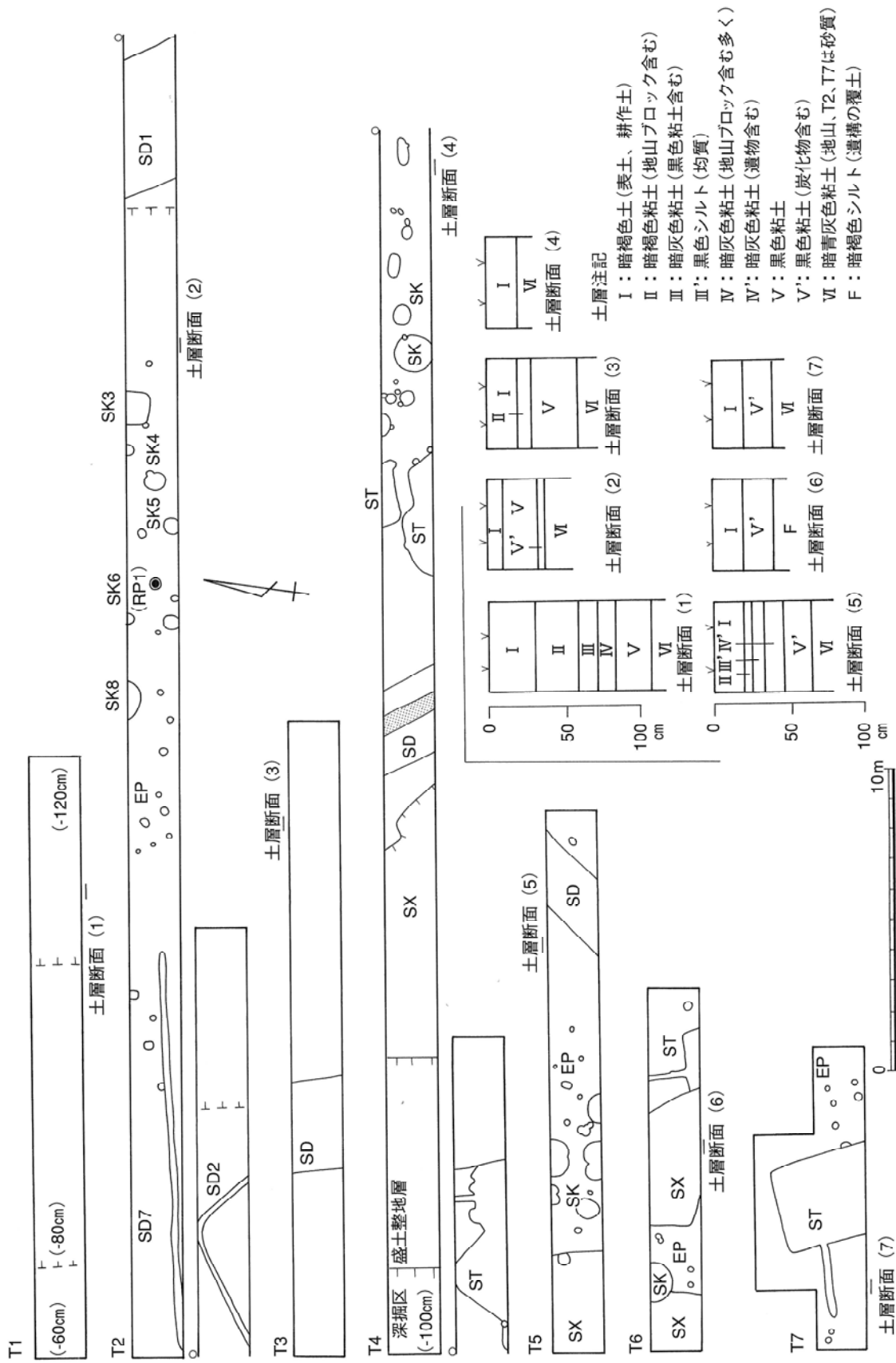
試掘状況 事業予定地内に試掘溝(重機使用)  
を8箇所設定した。

調査結果 T1～7を中心に遺構と遺物が確認された。T1:東側は泥炭質で遺跡の東端部と考えられる。遺物は須恵器・赤焼き土器・内黒土師器片が1袋ほど出土した。T2:幅5mの溝状遺構(SD1)・直角に曲がるSD2・東西に走るSD7・土壌6・柱穴20、遺物はSK6で完形の須恵器坏が、その他土師器・須恵器片が4袋程出土した。T3:幅3mの溝状遺構1、遺物は1袋出土。T4:土壌8・堅穴住居跡と想定される遺構2・柱穴11が検出された。遺物は2袋出土。T5:西側で堅穴住居跡と考えられる土色変化1・土壌6・柱穴12・溝状遺構1を検出、遺物は1袋出土。T6:堅穴住居跡の重複1箇所・覆土に遺物を多量に含む土色変化1・性格不明遺構1・土壌1・柱穴5が検出された。遺物は2袋出土。T7:明瞭な堅穴住居跡1・柱穴8が検出された。T8:宅地跡の調査区で、一段下がる低位段丘となる。宅造で盛土整地されている。遺構・遺物は未確認。遺跡範囲はT7から10m程西の上位の段丘面までと考えられる。なお、米沢市遺跡地図の馳上a及び馳上b遺跡は範囲を修正し、統合したうえで「馳上遺跡」とすることとした。



第64図 馳上遺跡概要図





第65図 馳上遺跡検出遺構平面図・断面図



遺跡近景（東から）



T7 竪穴住居跡検出状況（東から）



T 2 遺構検出状況（東から）



T 4 遺構検出状況（東から）



T 5 遺構検出状況（西から）



T 5 土層断面・遺構検出状況（南から）



T 6 遺構検出状況（東から）



出土遺物（1/3）



出土遺物（1/3）



出土遺物（1/3）



(27) <sup>よつづか</sup>四ツ塚遺跡 (遺跡番号 481)

所在地 山形県西村山郡河北町大字吉田字馬場164他

調査員 長橋 至

調査期日 平成10年11月4日、12月8日

起因事業 山形県立救護施設みやま荘改築整備事業

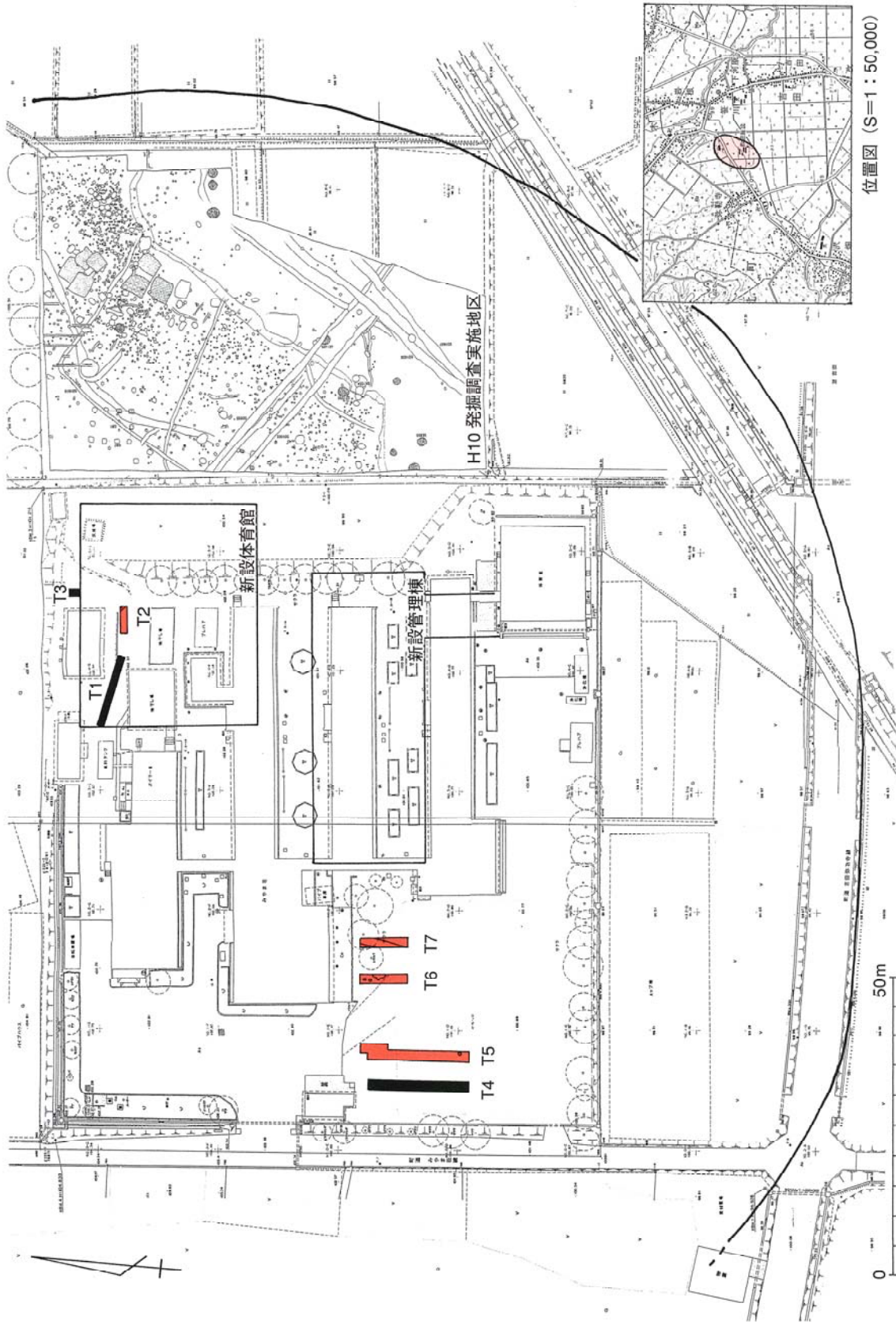
遺跡環境 河北町北西部の山麓の緩傾斜地に立地する。周辺には縄文時代や平安時代の遺跡が散在している。平成10年度に新設の居住棟部分について発掘調査が実施された。

試掘状況 11月に体育館予定地に3箇所(T1～3)、12月に管理棟予定地隣接の現グラウンド部分に4箇所(T4～7)の試掘溝(重機使用)を設定した。

調査結果 T1は排水管等の地下埋設物があり調査は不能。T2では、砂礫の盛土整地層を180cm掘下げ後に東端部で幅40cmほどの溝状遺構が1条検出された。T3は壁の崩壊の危険が生じたため120cmの掘削で中断した。現グラウンド部分のT4～7ではT5で南端部に柱穴、北部に暗褐色土の土色変化が見られた。T6は土壌1・柱穴3・溝状遺構が1条検出された。T7では幅1.6mの溝状遺構が1条確認された。確認面覆土上層から須恵器甕体部片が1出土した。以上により、T1～3の体育館新設予定地部分は、1～2m近い砂礫層の盛土整地層の下に遺構が遺存することが部分的ではあるが確認された。また、現グラウンド部分については、T4・5部分は削平されているが、新設の管理棟予定地に隣接するT6・7部分は遺構が良好に遺存していることが明らかとなった。

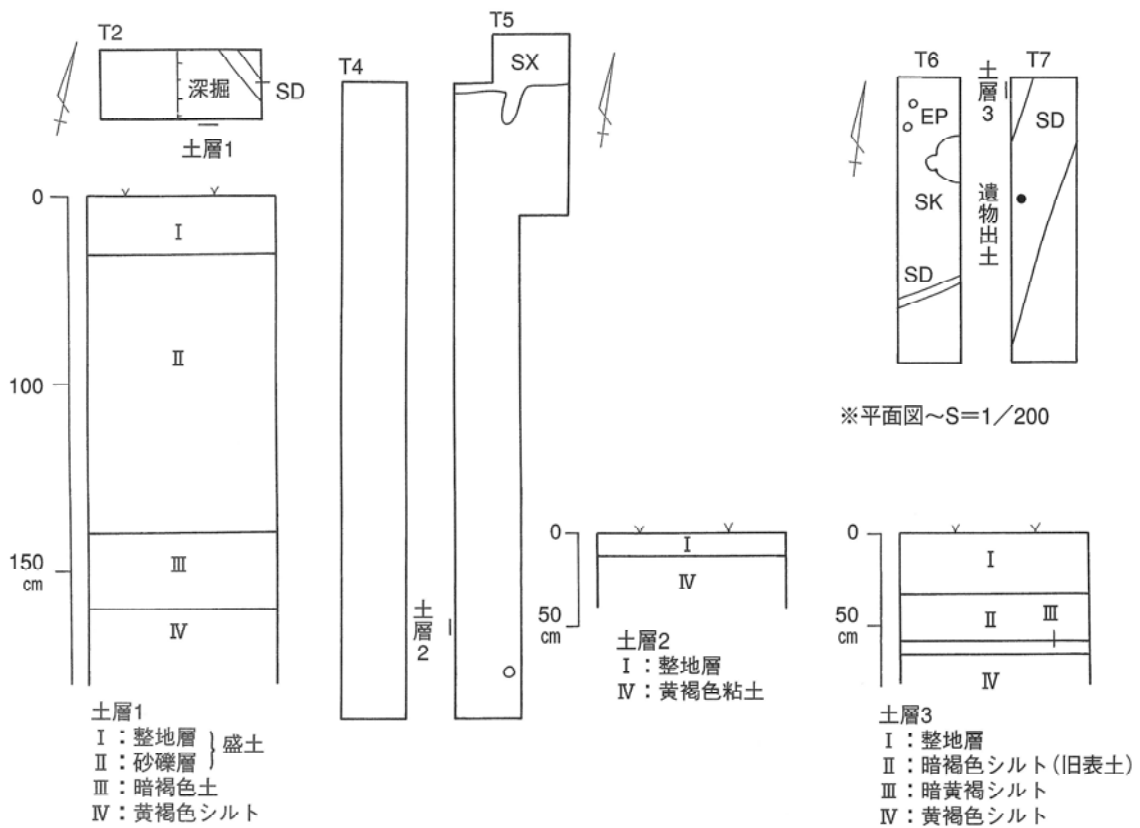


図版59 四ツ塚遺跡(1)



位置図 (S=1 : 50,000)

第66図 四ツ塚遺跡概要図



第67図 四ツ塚遺跡検出遺構平面図・断面図



T 6 遺構検出状況 (北から)





T 1 試掘風景 (西から)



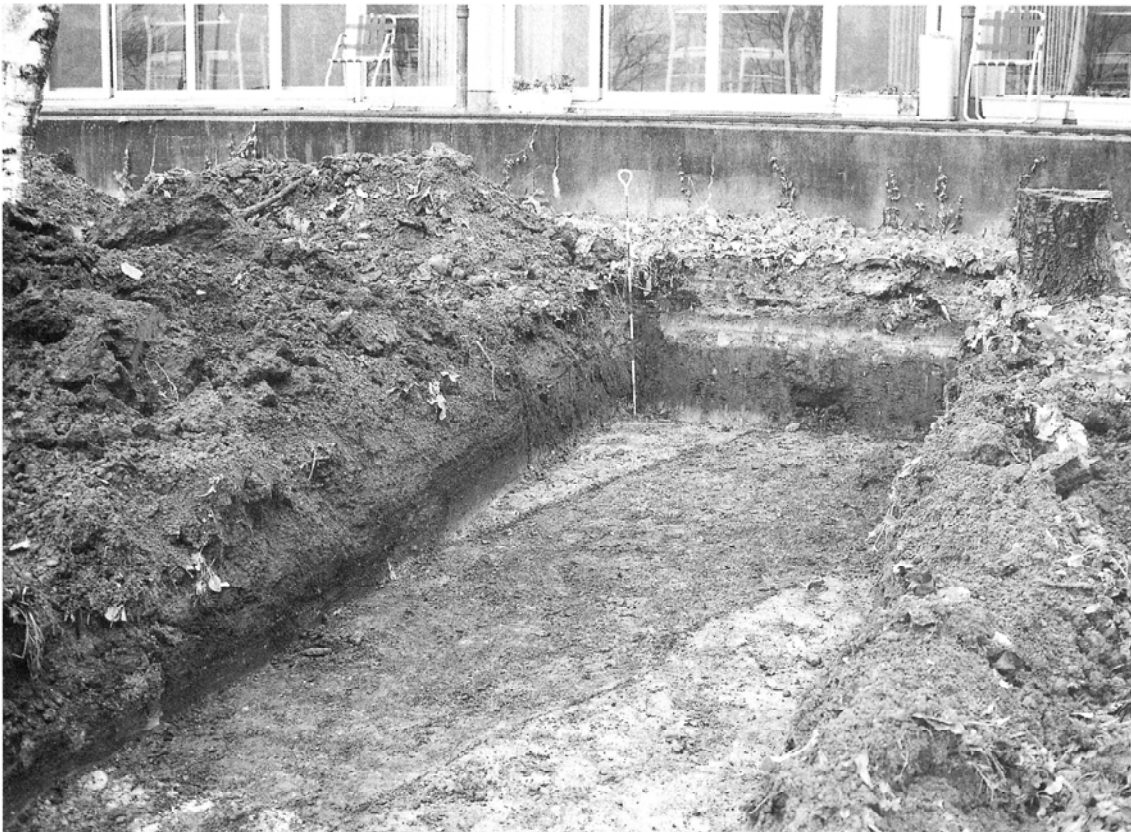
T 2 遺構検出状況 (西から)



T 5 全景 (南から)



出土遺物



T 7 遺構検出状況・土層断面 (南から)

(28)尾浦城跡 (遺跡番号1,658)

所在地 山形県鶴岡市大山城山163

調査員 渋谷孝雄

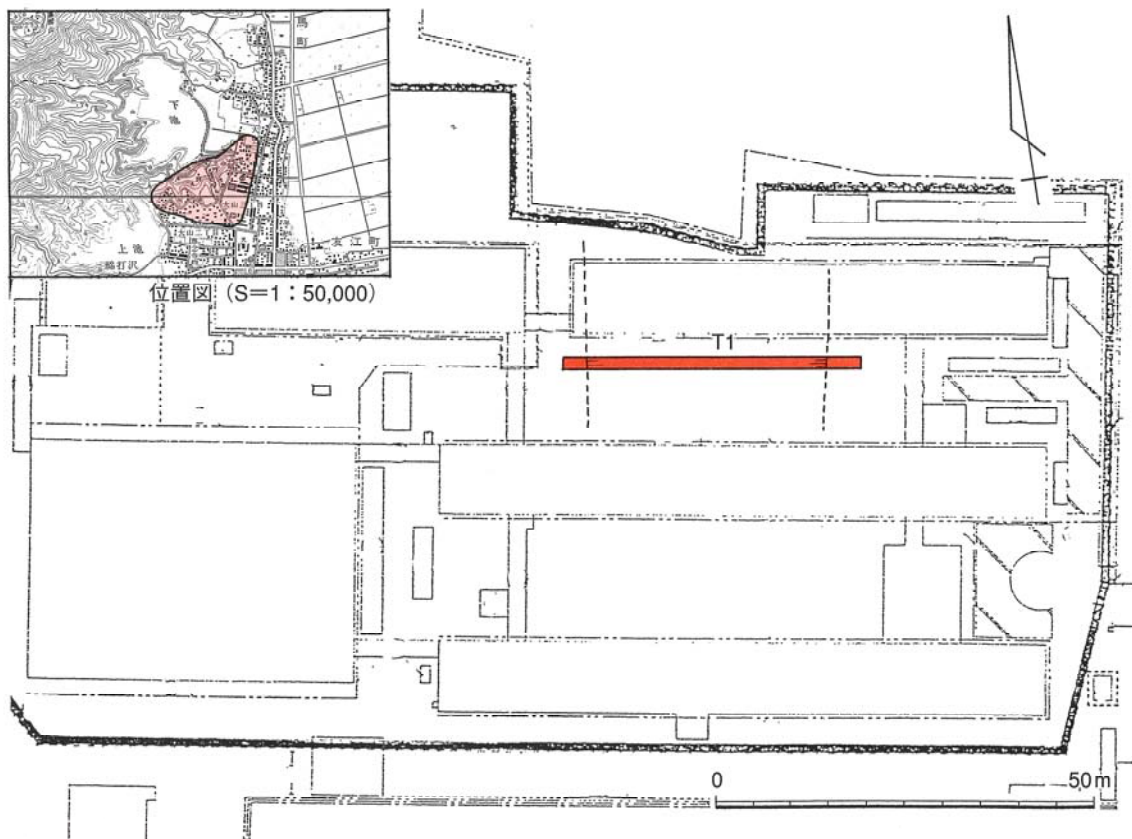
調査期日 平成11年3月1日

起因事業 県立鶴岡西高等学校校舎解体工事

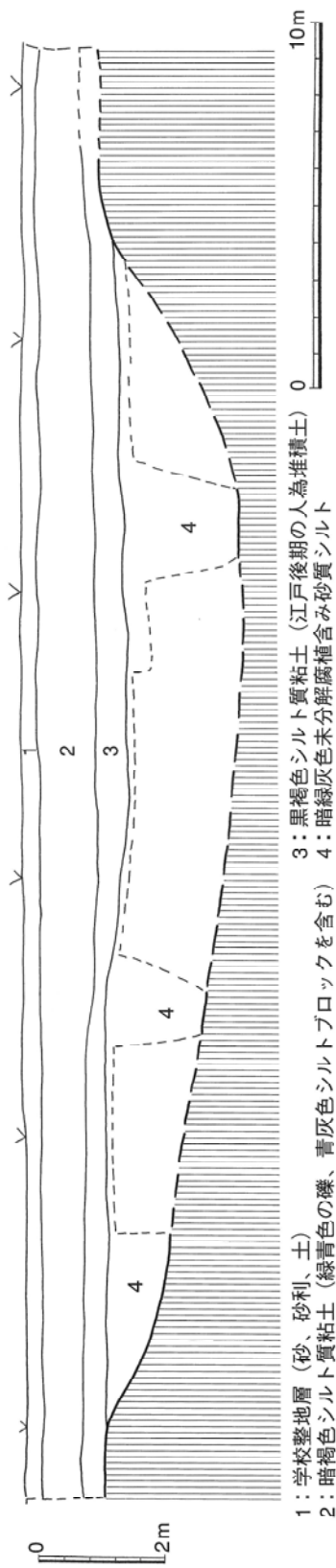
遺跡環境 尾浦城は高館山の東麓の細く突き出た丘陵端に主郭をもつ平山城で眼下を北国街道が走る。戦国時代末期に武藤氏が大宝寺城から居城を移したが、天正11年に炎上し、15年に落城した。その後上杉の配下となったが慶長5年の出羽合戦後に城は山麓に移され、慶長8年に大山城と改められた。最上氏改易後に入部した酒井忠勝は、正保4年に七男の忠解に大山1万石を分地したが寛文8年に廃藩となった。

試掘状況 旧鶴岡西高等学校の敷地内に二の丸と三の丸を画する「御堀」が存在することが地籍図等から明らかとなっていたため、堀跡の検出を目的としてトレンチを設定した。

調査結果 古地図から想定される位置のやや北側に幅32mの堀跡が存在することを確認した。確認面からの深さは1.5m程である。古図面では幅25m前後と想定されたが、今回検出された堀幅はそれを上回った。大手口に近い柵形があった可能性もある。堀の堆積物から出土した遺物で中世に遡る遺物は青磁1点のみである。



第68図 尾浦城跡概要図



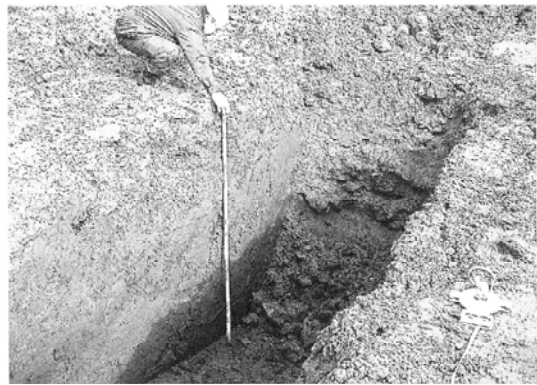
第 69 図 尾浦城跡検出堀跡断面概略図



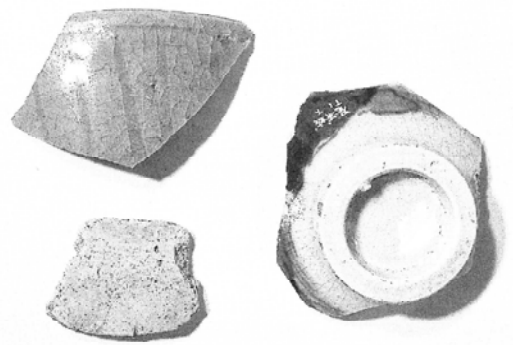
調査区近景 (西から)



T1 全景 (西から)



堀跡推積状況 (南西から)



出土遺物



(29) <sup>たかだまのみ</sup>高揃南遺跡 (遺跡番号249)、<sup>しょうぶ え</sup>菖蒲江 1 遺跡・<sup>しょうぶ え</sup>菖蒲江 2 遺跡 (平成10年度登録)

所在地 高揃南遺跡 山形県天童市大字高揃字菖蒲江  
菖蒲江 1 遺跡 山形県天童市大字高揃字高田、菖蒲江  
菖蒲江 2 遺跡 山形県天童市大字高揃字菖蒲江

調査員 名和達朗

調査期日 高揃南遺跡、菖蒲江 1 遺跡、菖蒲江 2 遺跡 平成10年 8月24～28日  
高揃南遺跡 10月27・28日

起回事業 山形県総合交通安全センター整備事業

遺跡環境 3遺跡は、高揃地区南側に広がる水田地帯に分布する。同地区の南西350mに菖蒲江 1 遺跡、南々西500mに高揃南遺跡、南側500mに菖蒲江 2 遺跡が位置し、約100mの間隔で隣接する遺跡群である。それらは、奥羽山系から西流する立谷川右岸から広がる平地に立地する。標高は、高揃南遺跡が98m、菖蒲江 1・2 遺跡が100mを測る。遺跡範囲は、高揃南遺跡が東西285m、南北180m、菖蒲江 1 遺跡が東西130m、南北100m、菖蒲江 2 遺跡が東西200m、南北150mと考えられる。

試掘状況 水田畦畔方向に合わせ南北にトレンチを設定して行った。重機使用により遺構確認面と考えられる地山上面まで掘り下げ、人力で面削りを行いながら調査を進めた。

試掘ヶ所は、高揃南遺跡が19ヶ所 (10月調査 6ヶ所を含む)、菖蒲江 1・2 遺跡がそれぞれ 6ヶ所である。

### 調査結果

#### 高揃南遺跡

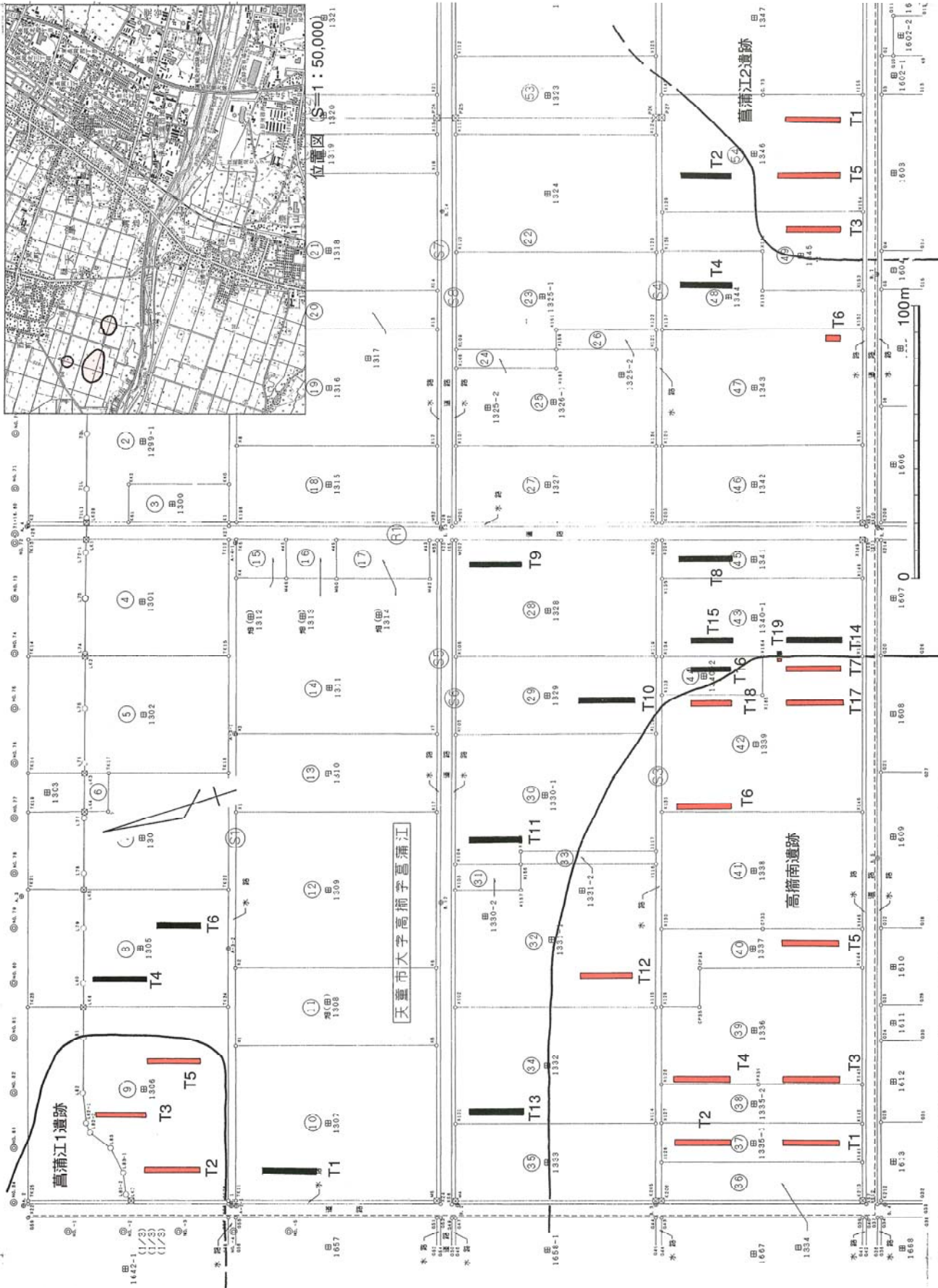
T 1～7、18、17及び19西側で遺構・遺物が検出された。確認面は、水田面下25～58cmを測る。検出遺構は、ピット22本、土坑 1基、溝跡 3条である。出土遺物は、器台、高坏を含む土師器16袋で赤彩片も 2点 (T18) みとめられた。それらにより遺跡は、古墳時代 (前期) の集落跡と考えられる。

#### 菖蒲江 1 遺跡

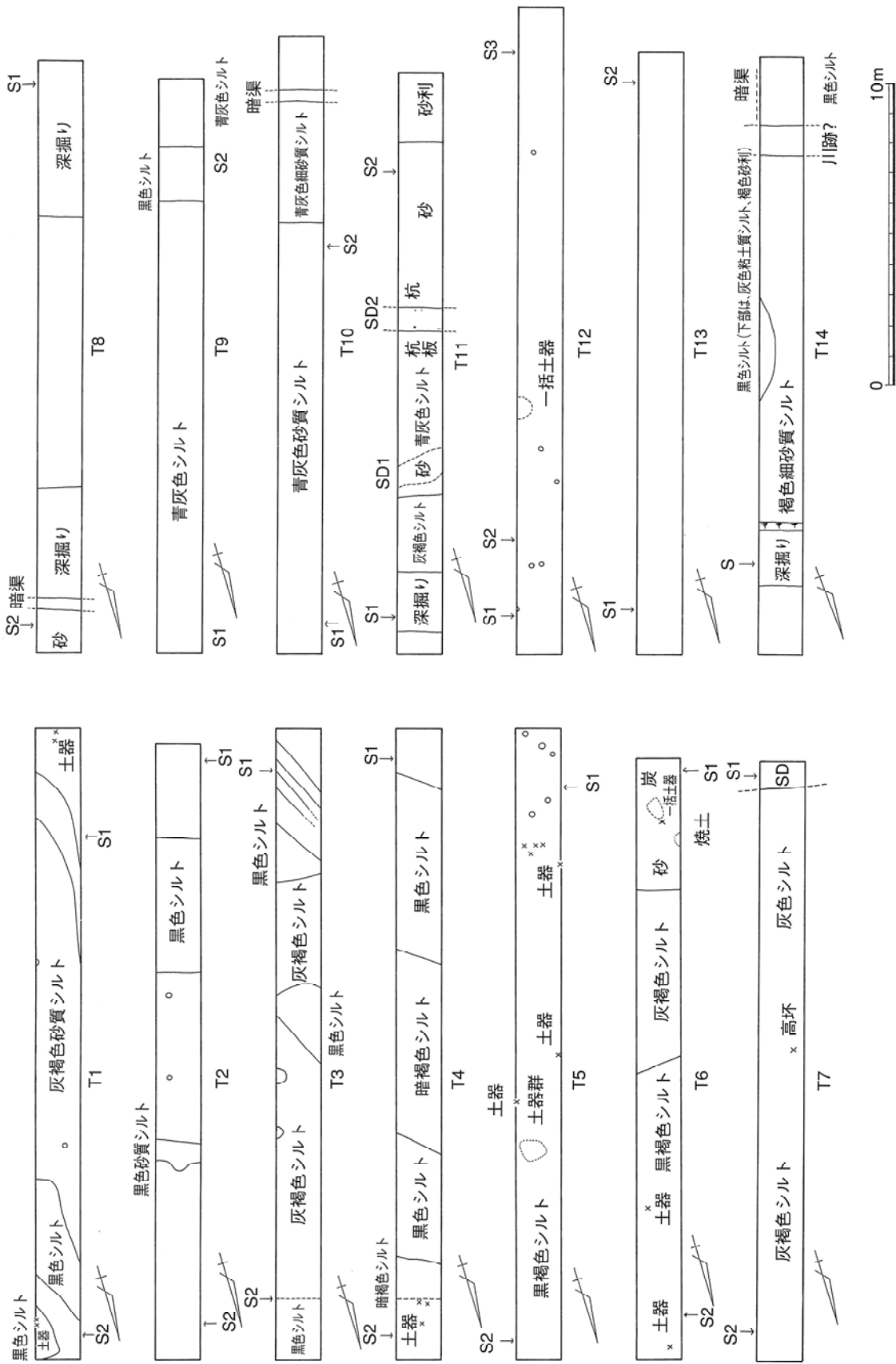
T 2、3、5から遺構・遺物が検出された。確認面は、深さ73～75cmを測る。検出遺構は、溝跡 1条 (T 3)、ピット 2本 (T 5) のみである。出土遺物は、器台を含む土師器 3袋で、一括出土地点 (T 5 中央付近) もみとめられた。本遺跡北側は、主要地方道天童寒河江線計画路線内にも入り、本年 9月に試掘調査が行われた。それらの結果も合わせ、遺跡は縄文時代、古墳時代 (前期)、平安時代、中世と複合する集落跡と考えられる。

#### 菖蒲江 2 遺跡

T 1、3、5から遺構・遺物が検出された。確認面は、深さ56～79cmを測る。検出遺構は、住居跡 1棟・溝跡 1条 (T 1)、土坑・ピット 2基 (T 5) である。出土遺物は、縄文土器 (後期) ・土師器合わせて 3袋、自然木と思われる埋木 (T 1)、打製石斧 1点 (T 3) である。それらにより遺跡は、縄文時代 (後期) の包蔵地及び古墳時代の集落跡と考えられる。



第70図 高榊南遺跡、菖蒲江1遺跡、菖蒲江2遺跡概要図

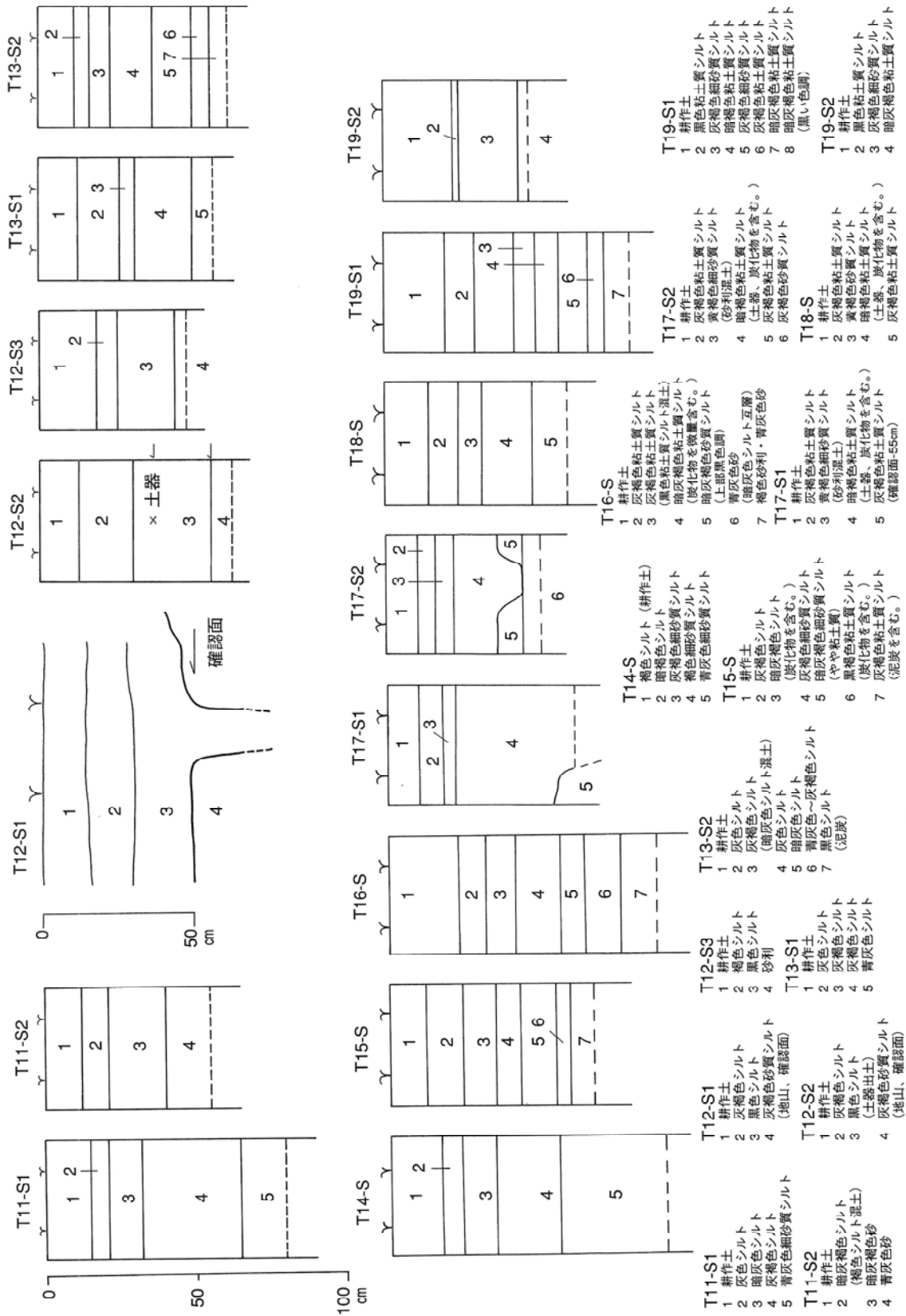


第 71 図 高掬南遺跡検出遺構平面略図









第74図 高槻南遺跡土層断面略図(3)

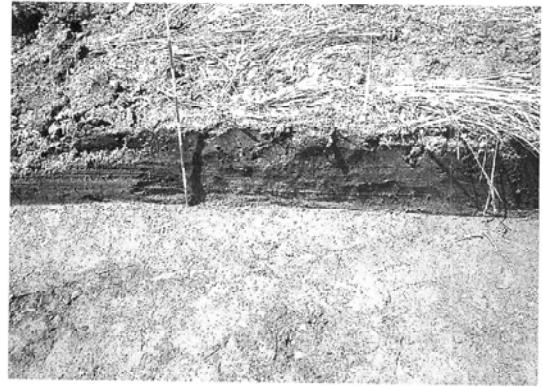




遺跡近景（西から）



T1 調査状況（南から）



T1-S1 土層断面（東から）



T3 調査状況（南から）



T3-S1 土層断面（西から）



遺跡近景 T17 付近 (南東から)



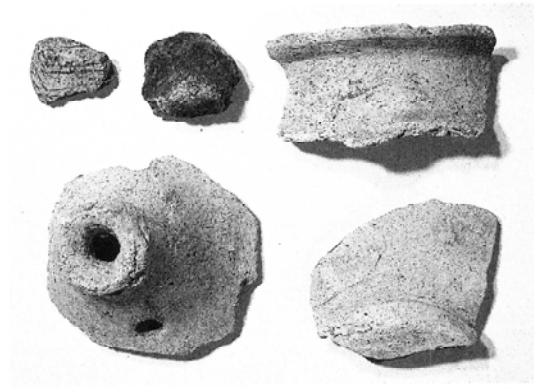
T17 調査状況 (南から)



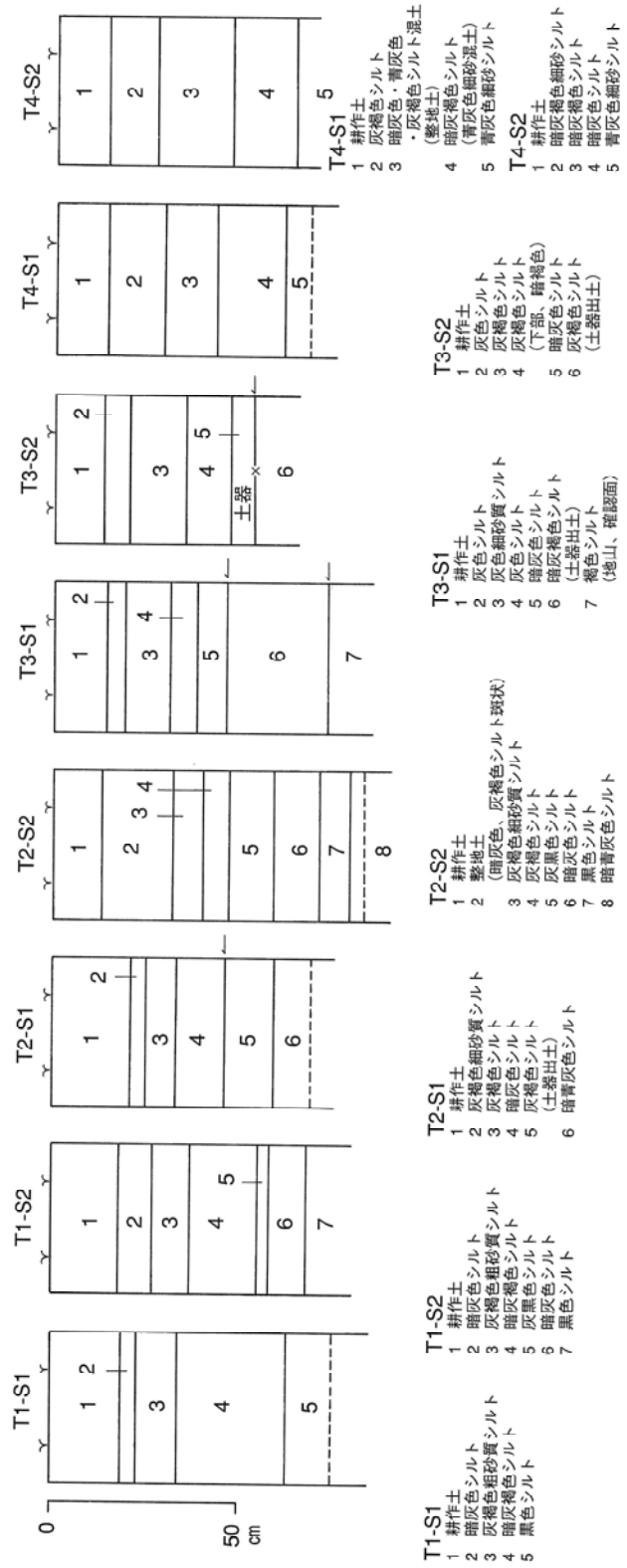
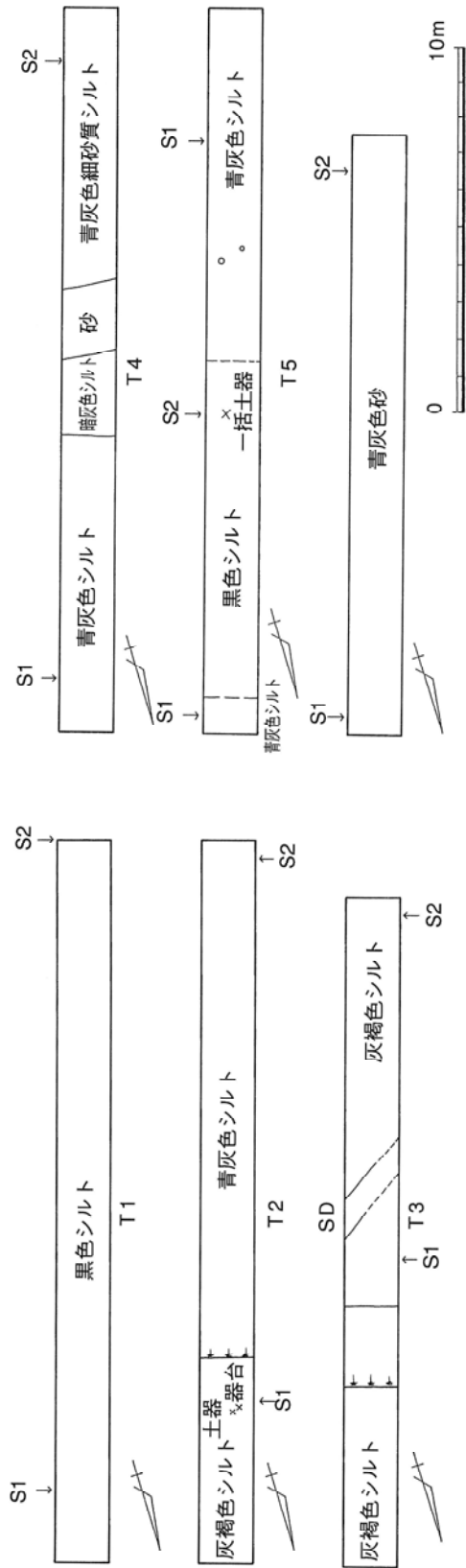
T17-S2 土層断面 (西から)



T1 遺物出土状況 (北東から)

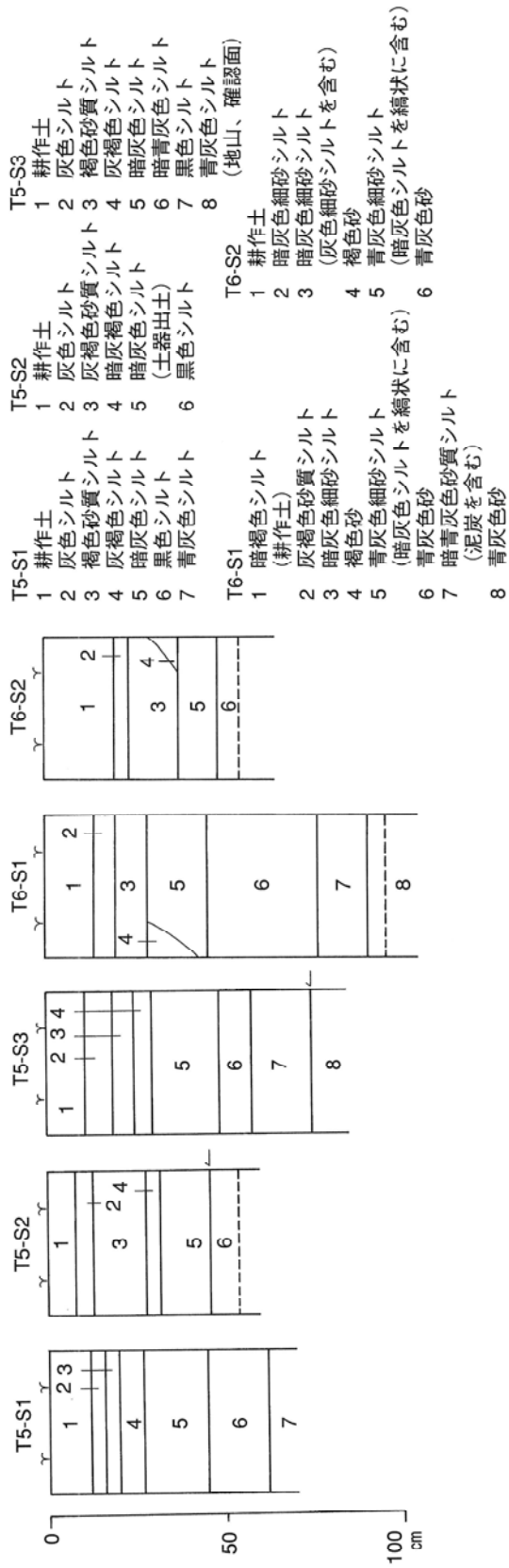


出土遺物 (1/3)



第75図 葛蒲江1遺跡検出遺構平面略図、土層断面略図(1)





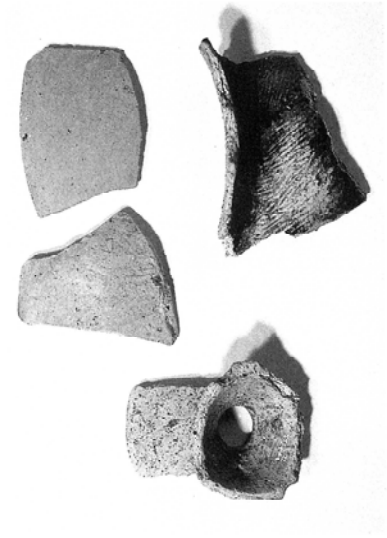
第76図 菖蒲江1遺跡土層断面略図



遺跡近景 (北東から)

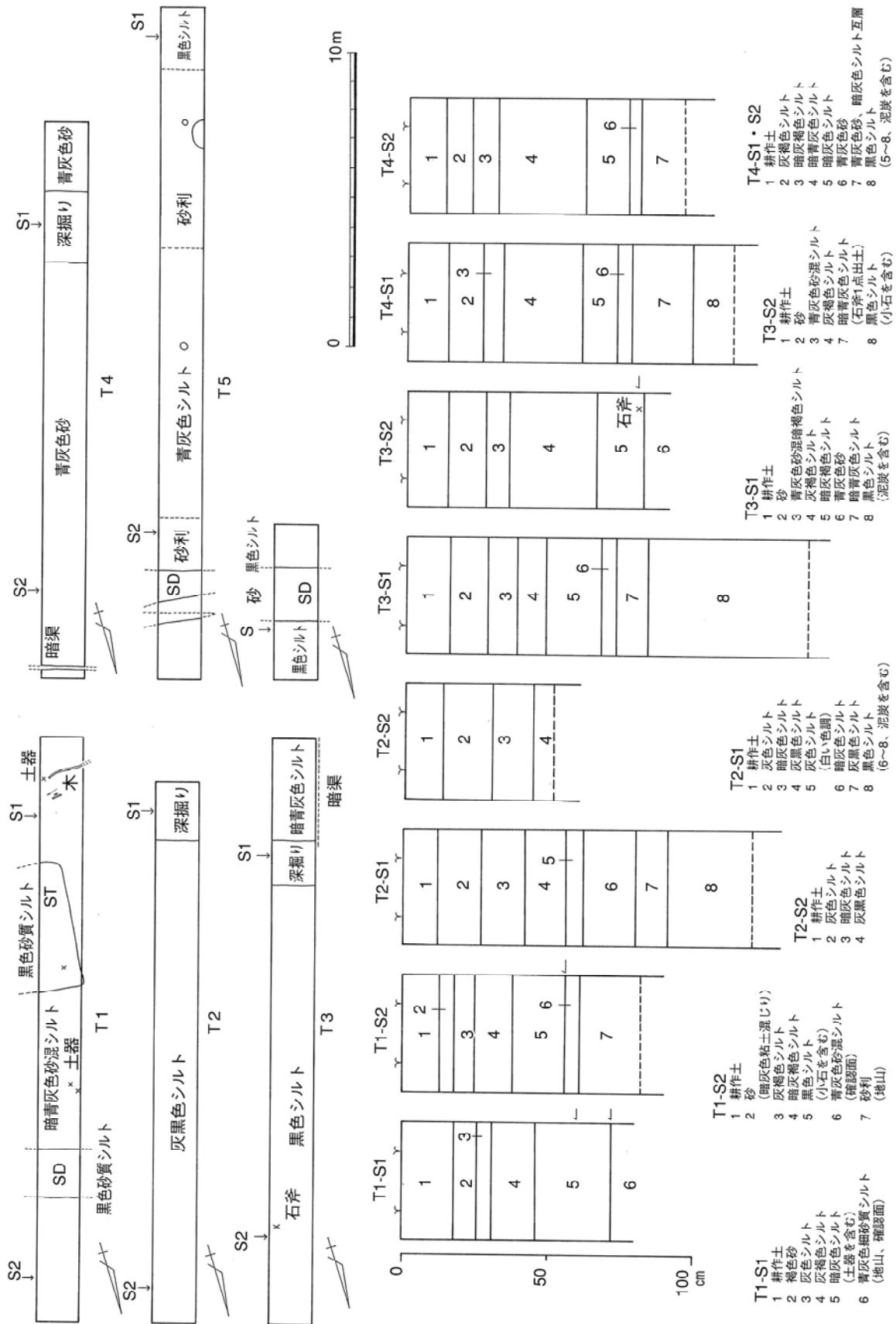


T5-S2土層断面 (西から)

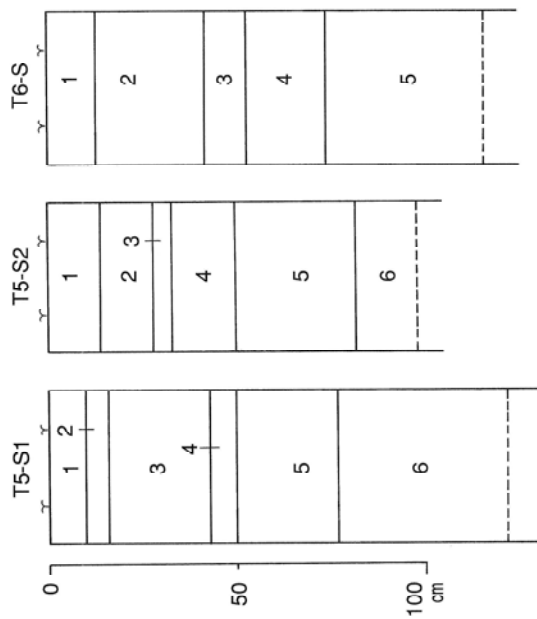


出土遺物

図版65 菖蒲江1遺跡



第77図 高蒲江2遺跡検出遺構平面略図、土層断面略図(1)



T5-S1  
1 耕作土  
2 灰色砂質シルト  
3 砂  
4 暗青灰色シルト  
5 暗灰色シルト  
6 黒色シルト

T5-S2  
1 耕作土  
2 砂  
3 灰褐色シルト  
4 暗灰色シルト  
5 黒色シルト  
6 砂利

T6-S  
1 耕作土  
2 砂  
3 暗灰褐色シルト  
4 暗灰色シルト  
5 暗灰色シルト  
6 黒色シルト

第78図 菖蒲江2遺跡土層断面略図(2)



遺跡近景(西から)



T1-S1土層断面(西から)



出土遺物

図版68 菖蒲江2遺跡



### 3 記録保存調査、立会調査の概要

#### (1) 上川原山ノ神遺跡 (平成9年度登録)

**所在地** 山形県西村山郡朝日町大字玉ノ井乙字上川原

**調査員** 試掘調査 名和達朗 渋谷孝雄 発掘調査 名和達朗 渋谷孝雄 長橋 至

**調査期日** 試掘調査 平成10年4月23日 発掘調査 平成10年9月28日～10月9日

**起因事業** 担い手育成基盤整備事業 (大谷地区)

**遺跡環境** 遺跡は、町の北東部を北流する最上川左岸の河岸段丘上に立地する。同河川に架かる用橋のすぐ西側は東向きの緩やかな傾斜地で、その段丘縁沿いの地形を南北方向に遺跡範囲が広がる。地目は、水田と畑地及び宅地である。標高136m、段丘下からの高さは約22mを測る。

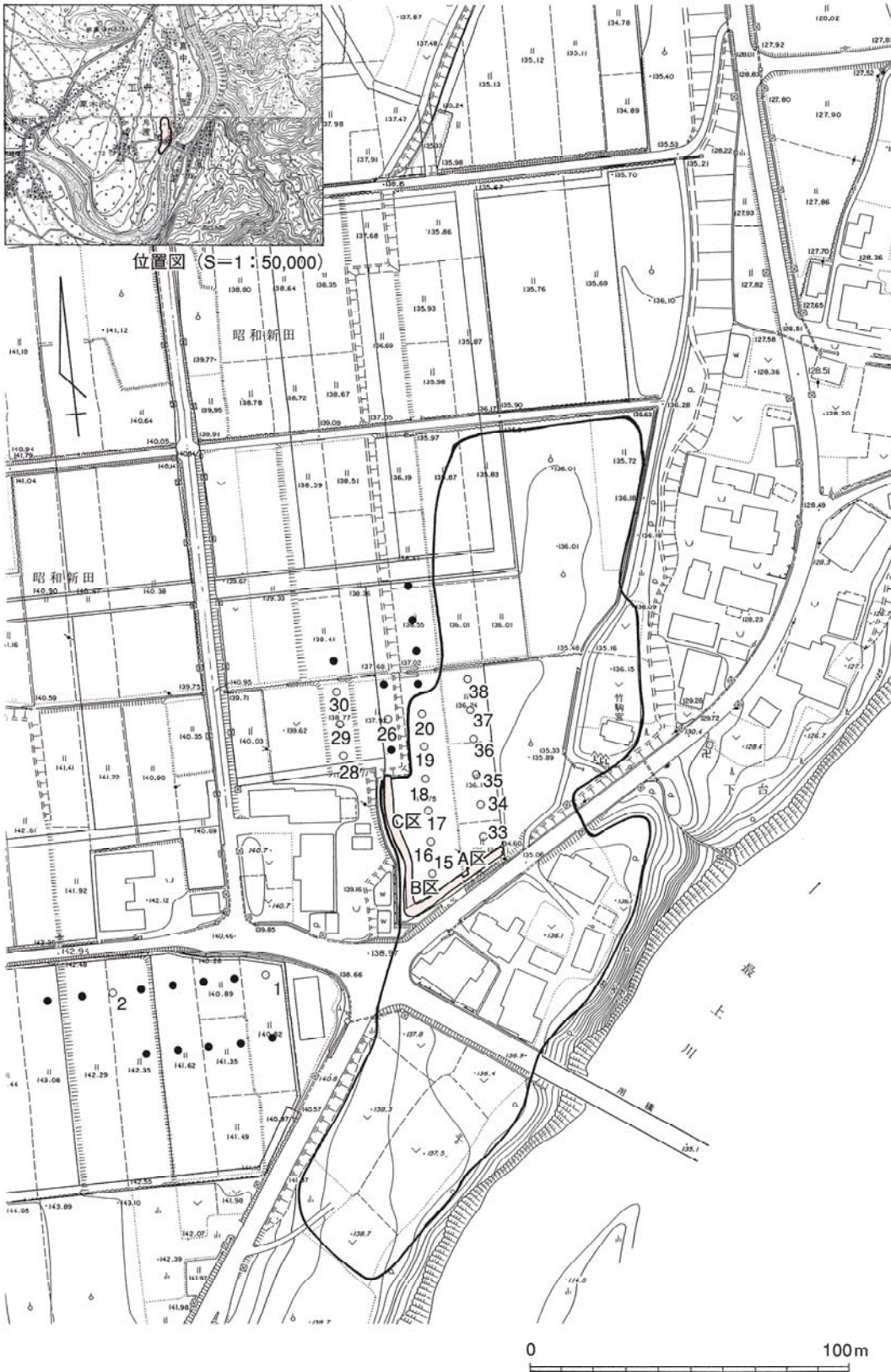
**試掘状況** 遺跡は、平成9年5月15日の分布調査で新規に確認された。遺物採集場所は、用橋の道路南側に位置する川沿いの畑地である。試掘調査は、東西道路の両側の水田に約10～20mの間隔で坪掘り38ヶ所入れて行った。

**試掘結果** 20ヶ所の地点から遺物が確認され、深さは16cm～48cmである。量的なまとまりでは、T P 14、16、32、34、35、38で1袋、T P 36で5袋、T P 37で6袋の出土で、また、畑地寄りのT P 36からは、工字文の台付鉢を2個体確認できた。それらの出土状況及び包含層の確認域により、遺跡範囲は、段丘縁微高地の畑地周辺に遺物集中域がみとめられ、その西側水田まで広がる東西85m・南北270m・面積22,000平米の広がり推定される。時期は、出土土器の内容から縄文時代中期末 (T P 38)、晩期が考えられる。

**発掘調査** 開発事業との調整の結果、遺跡範囲は盛土による整備区域に入り、面的な保存が可能となった。そこで記録保存調査を要する区域は、深く掘り下げる水路部分についてであり、発掘調査は遺跡範囲に係る道路北側から宅地東側に沿って、幅3m・長さ80m・面積200平米について行うこととなった。細長い調査区であることから、北東から中央付近までをA区、道路と宅地との境界までをB区、宅地の東側をC区と便宜上区分した。

表土から重機で50cm前後掘り下げ、順次手掘りで面削りを行ったところ、地山上面で重複する略円形の土色変化がみとめられ、特にA～B区は土器・石器の出土と併せまとまって分布する状況が確認された。C区は、地山まで削平され岩盤の面で遺構もまばらである。土層断面は、東方向に傾斜する堆積で小礫を含み、3層灰色細砂質シルトが覆っている状況から幾度かの川の流れ込みがみとめられ、主な遺構・遺物はその下部層からの検出である。断面の所々には、柱穴ないし土坑の掘り込みが検出され、建物跡等の分布域にトレンチを入れた出土様相である。

遺構は、堅穴住居跡等の壁の立ち上がりは確認できず、大小の柱穴144基、溝跡1条が検出された。特に柱穴はアタリや木柱が明瞭にみとめられ、一見奈良・平安時代の遺構検出状況にも似ているが、周囲から確認される出土遺物は縄文土器・石器であり、柱並びもトレンチ幅の範囲内ではあるが直線的でなくこれまでの検出例とも異なることから、縄文時代の所産であると考えられ、掘立柱方式で木柱が遺存するという県内初の確認となった。



第 79 図 上川原山ノ神遺跡概要図

調査区域についても工法の見直しを行い、工事の深さを遺構確認面から上位に設定することで保存が図られることとなった。そのため、遺跡の現状保存を目的に、調査方法も平面確認を主とする方向に変え、遺構の掘り下げは部分的範囲に留めた。

柱穴群は、略円形ないし楕円形の掘り方で、平面検出及び覆土精査確認を合わせ、木柱が検出できたのはA・B区で25本を数える。配列から建物等の組み合わせを設定することはできず、それらの方向性から推定する。木柱の計測値は、残存部の数値である。

A区は、東側のSP40から南方向へ7までの配列が考えられる。柱間距離は80cmでSP10と7の間は2mと間隔が広い。木柱は、SP21、10、7でみとめられ、直径45cm前後である。半截したSP7は長さ70cmの大きさで、柱の周囲に河原石を積み上げ、さらにその外側に直径20cm前後の丸太材を横木に配置して補強する。掘り方規模は、SP7が大きく直径約170・130cm、推定深さ104cm、21、10が直径70~80cmを測る。

中央付近ではSP4から22、5、23、3b・3a、60、30までの配列が考えられる。さらに、SP4、22、5の間には、検出段階で幅約20cmの溝状の遺構がみとめられた。弧状に連続する方向性もあり、柱並びに関連の掘り込みを想定してSP5までの配列を延長すると円形ないし楕円形の平面形が見えてくる。但し、見方によっては、SP40から29、30までの並びも考えられ、全形の把握はできなかつた。柱間距離は、SP4から23は1mで、23から30までは1.5、1.7、2.6、1.2mの間隔である。木柱は、この並びで全部検出され、直径20~30cm大、半截したSP4は、直径33cm、長さ36cmを測る。掘り方規模は、直径50~90cm、深さはSP4が68cmである。

SP1は、木柱直径40cm、長さ82cm、柱の周囲には一回り小さな丸太材を配置する。掘り方規模は、直径約145cm、深さ118cmである。

SP29は、60の南側に重複する。主柱1本のみで主として粘土で埋めている。木柱直径34cm、長さ110cm、基部の外周には連続する縦の削り加工がみとめられた。掘り方規模は、直径130・106cm、深さ104cmである。

B区は、SP36から35、51の並びに規則性が見られる。柱間距離は、2.8m等間で、木柱は、SP36、51で検出され、直径40cmで、半截したSP36の長さは50cmである。掘り方規模は、直径60~80cm、SP36の深さは54cmである。

SP33は、直径39・35cmで深さ18cmと浅い小ピットである。

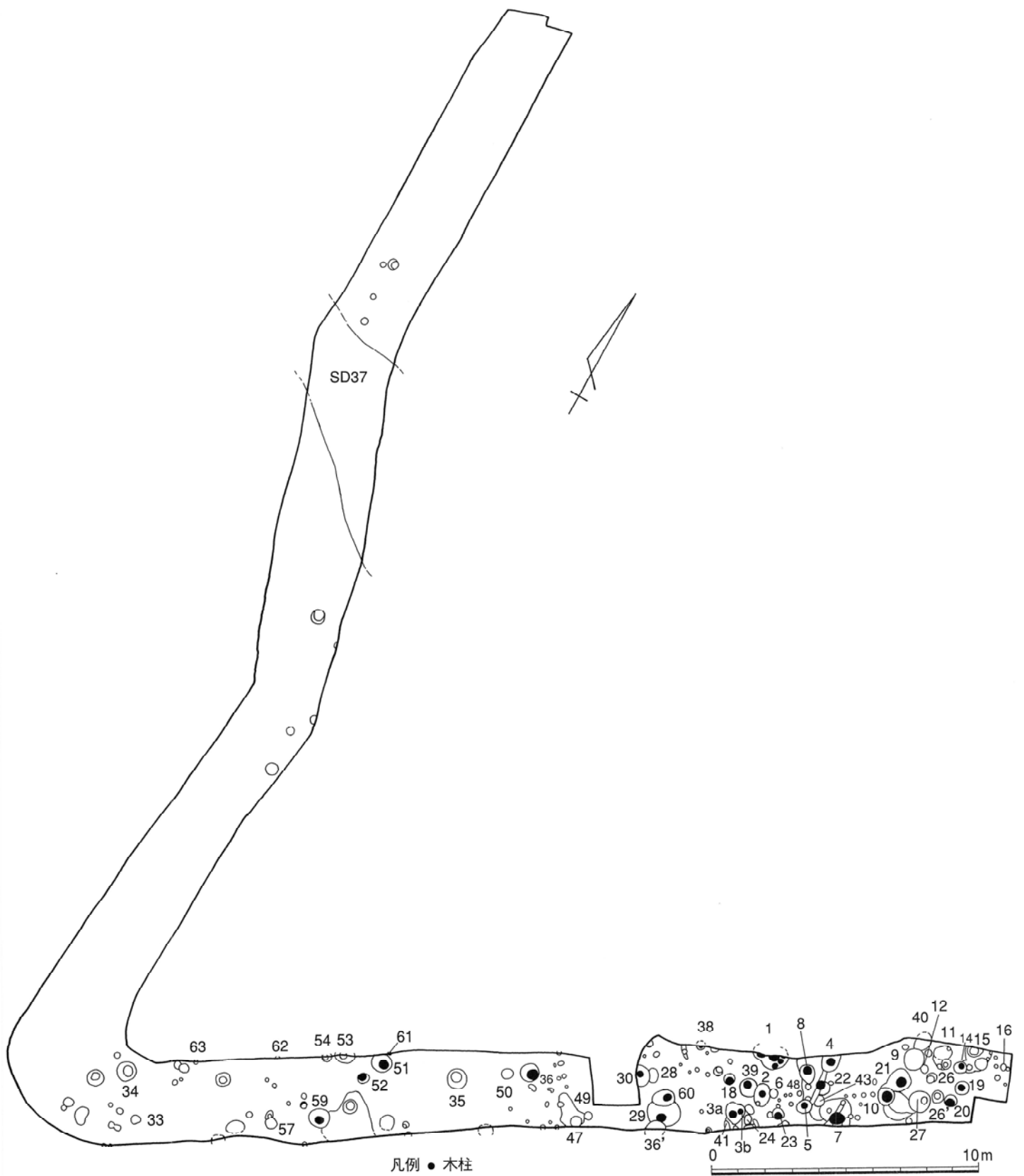
SP34は、直径70・62cm、深さ30cmで覆土に木片がみとめられた。小片であり、木柱の痕跡であるか確認できなかつた。

両区ともそれらの並び以外にも、柱穴及び木柱の分布が重複遺構も含めみとめられるが、全形は把握できなかつた。

木柱遺構については、SP1・主柱に丸太材で補強するもの、SP7・主柱に河原石と丸太材で補強するもの、SP29・主柱だけのものの3者がみとめられた。

出土土器は、SP1、4、7、36で大洞C1・C2式、SP29で大洞A式併行の土器がみとめられ、縄文時代晩期前葉と後葉の2つの時期群が考えられる。





第 80 図 上川原山ノ神遺跡遺構分布図

柱根の用材は、分析結果はほとんどクリ材で、SP21がハンノキである。

C区は、SD37が検出された。調査区を南東方向に横断する溝状遺構である。覆土は、遺物破片と多量に砂礫を含むシルトである。幅は3m前後、深さは10~43cmである。底面は岩盤状で中央の段差北側が深い。遺物の出土状況及び覆土の状態から自然河川と考えられる。時期は、出土土器から縄文時代晩期前葉が考えられる。

出土遺物は、土器・石器それぞれ3箱である。

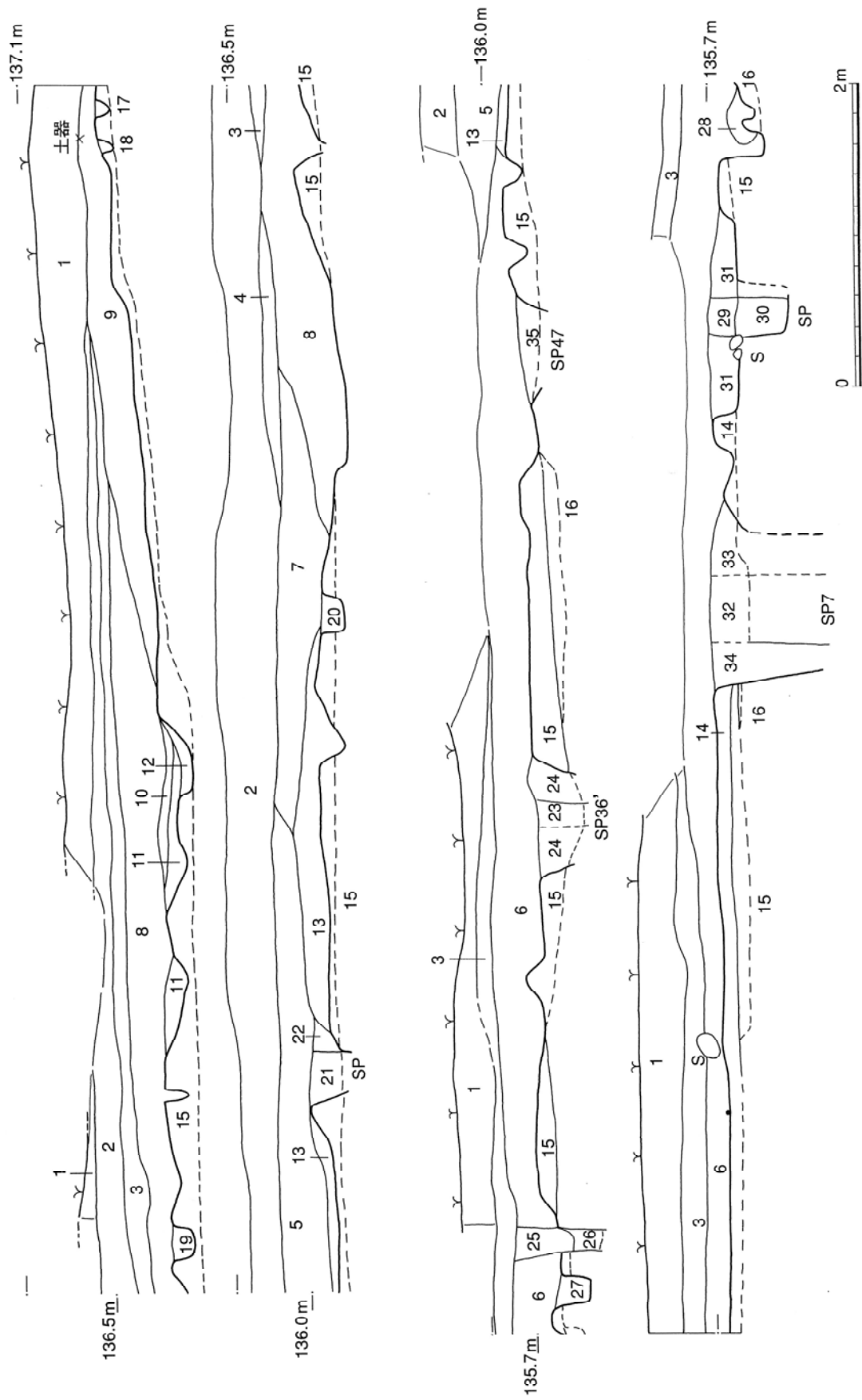
### 土 器

- 1 小型壺 無文、底面は外周から少し上げ底を呈する。
- 2 台付鉢 脚部、9条の細い平行沈線が施文され、下から2・3段の間に短い沈線を加え工字文を描く。体部の見込み部分には、円形に沈線を入れる、大洞A式併行。
- 3 台付鉢 口縁部には小突起を有し、口縁下の平行沈線間を隆起させて短い沈線を推定4単位巡らし、その下に上下に屈曲する沈線を連続させて工字文を描く。体部下半は、無文である。径3mm大の補修孔が9ヶ所みとめられる、大洞A式併行。
- 4 台付鉢 沈線間を鎖状に隆起させて短い沈線を連続させ、その下に上下に屈曲する沈線を連続させて工字文を描く。体部下半は、細い縄文地文で、脚部とのくびれ部に沈線が2条めぐり、大洞A式併行。
- 5 沈線モチーフに縄文・列点状の沈線を施す、中期末大木10式併行。
- 6 口縁部から隆起線に刺突文をもつ、後期初頭宮戸1b式併行。
- 7~11、13~17 羊歯状文及び磨消縄文を施す、晩期前葉大洞BC~C1・C2式併行。
- 12、18、19 工字文を施す、晩期後葉大洞A式併行。

### 石 器

- 1、2 石鏃 1は有茎測縁二等辺三角形、2は基部の丸いやや大ぶりなもの。
- 3~5 石匙 3縦長、4・5横長に分けられる。
- 6~8 籠状石器 撥形に刃部を形成する。7は、片面から調整の刃部である。
- 9 削器 側縁部に両面から剥離を加え刃部を形成する。
- 10~第91図1、2 石剣・石刀ないし石棒の破片。
- 3、4 磨製石斧 刃部欠損。
- 5、6 磨石 両面に磨面をもつ。

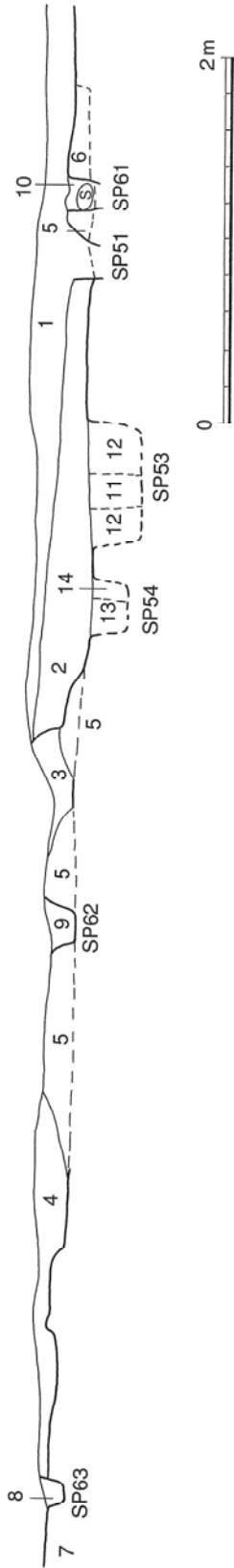
今回の調査では、柱そのものが残っているという貴重な情報を包含する遺跡であることが確認できた。しかも、掘立柱方式で建てられた柱としても県内初めての発見であった。検出できた柱穴及び木柱群の配置や構造の規模の把握はできなかったが、調査区の断面からは掘り込みが確認できず、竪穴構造の建物ではないと考えられる。現時点では、柱穴や木柱の大きさや、柱穴内の根固め補強の状況から、大規模な建物か木柱列構造物の存在を推定するところである。調査後、遺跡は、現状のまま埋め戻され保存された。



第 81 図 上川原山ノ神遺跡 A・B 地区南壁土層断面図



13.793m



**A・B地区南壁土層**

- 1 暗褐色土 (畦畔土)
- 2 暗褐色土 (小礫を含む)
- 3 灰色細砂質シルト (炭化物・小礫を含む、西側灰色シルト・砂利混土)
- 4 暗褐色シルト (やや黒い色調)
- 5 灰褐色シルト (下部に砂利を含む)
- 6 暗褐色シルト (遺物を含む、西側暗灰色で上部灰褐色)
- 7 暗灰色シルト (砂利混土)
- 8 暗灰色シルト (やや黒い色調、小礫を含む)
- 9 黒褐色シルト (小礫を少しを含む)
- 10 暗褐色シルト (砂利混土)
- 11 暗灰色シルト
- 12 灰黒色粘土質シルト
- 13 暗灰色シルト (砂利混土)
- 14 暗褐色粘土質シルト (桐山、確認面)
- 15 灰褐色細砂質シルト (西側暗灰色～青灰色砂質シルト)
- 16 灰褐色粘土質シルト

**(遺構覆土)**

- 17・18 暗褐色シルト (砂利混土)
- 19 暗灰色シルト (砂利混土)
- 20 暗灰色シルト
- 21 暗褐色シルト (灰褐色粘土を斑状に含む、木柱アタリ?)
- 22 黒褐色シルト
- 23 暗褐色シルト (青灰色粘土質シルトブロック粒混土)
- 24 暗褐色シルト (青灰色粘土質シルト粒混土)
- 25 暗灰色粘土質シルト
- 26 黒褐色シルト (木片出土、9・10で木柱アタリ?)
- 27 暗灰色粘土質シルト (灰褐色粘土質シルト粒・小礫を含む)
- 28 暗灰色シルト (粗砂混土)
- 29 暗褐色シルト (炭化物を含む)
- 30 黒褐色シルト (炭化物を含む)
- 31 暗褐色シルト
- 32 黒色シルト (木柱アタリ)
- 33 暗褐色粘土質シルト
- 34 黒褐色シルト (褐色粘土質シルトブロックを斑状に混土)
- 35 暗灰色シルト (砂を含む)

**B地区北壁土層**

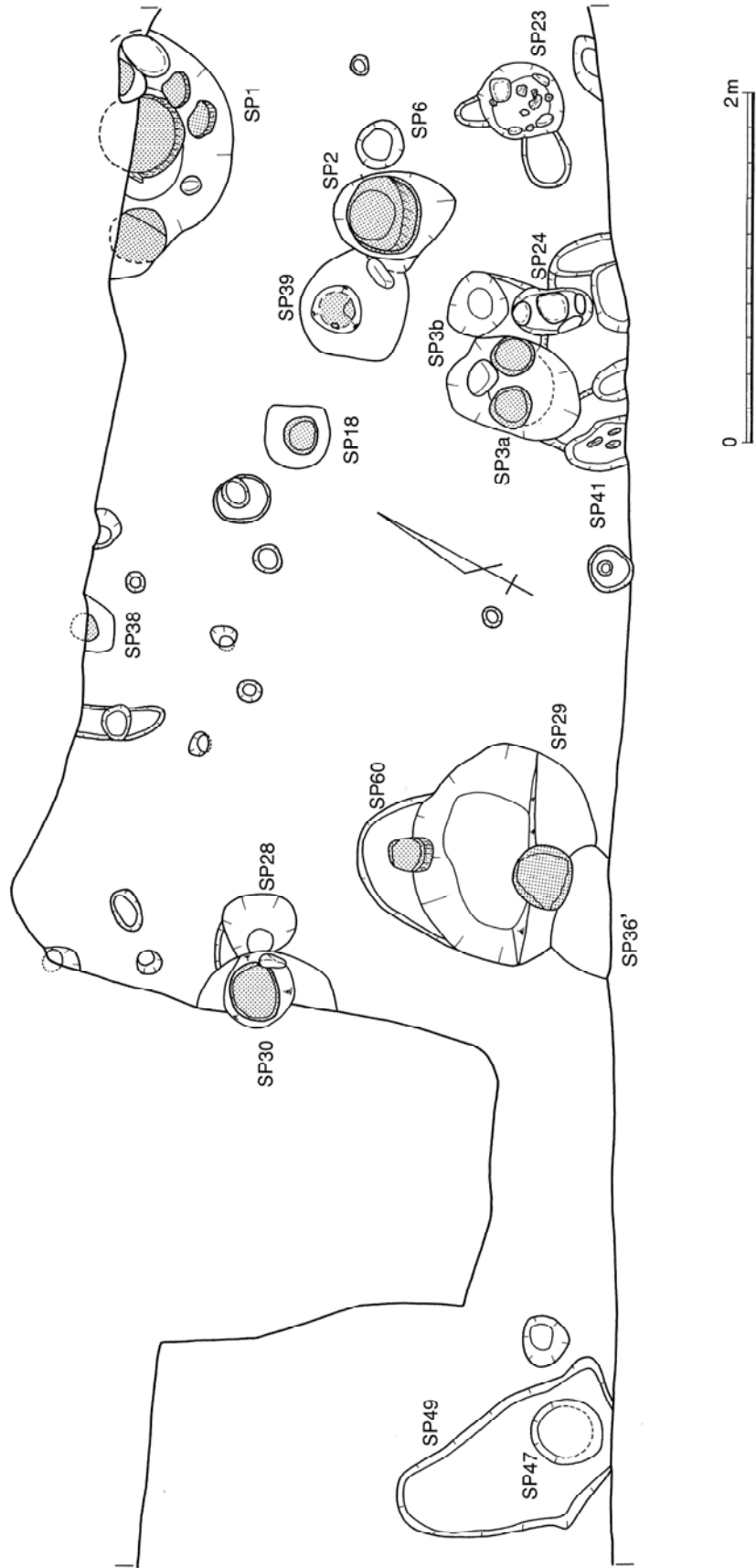
- 1 茶褐色シルト (砂利混土)
- 2 黒褐色シルト (砂利混土)
- 3 茶褐色シルト (砂利混土)
- 4 黒褐色シルト (小礫を含む)
- 5 灰褐色細砂質シルト (炭化物を含み、硬質)
- 6 砂利 (地山)
- 7 青灰色砂質シルト (硬質)

**(遺構覆土)**

- 8 黒色シルト
- 9 暗褐色シルト (砂・炭化物を含む)
- 10 黒褐色シルト (礫を含む)
- 11 黒色シルト
- 12 暗灰色粗砂 (礫を含む)
- 13 黒色シルト (礫を含む)
- 14 暗灰色粗砂 (礫を含む)

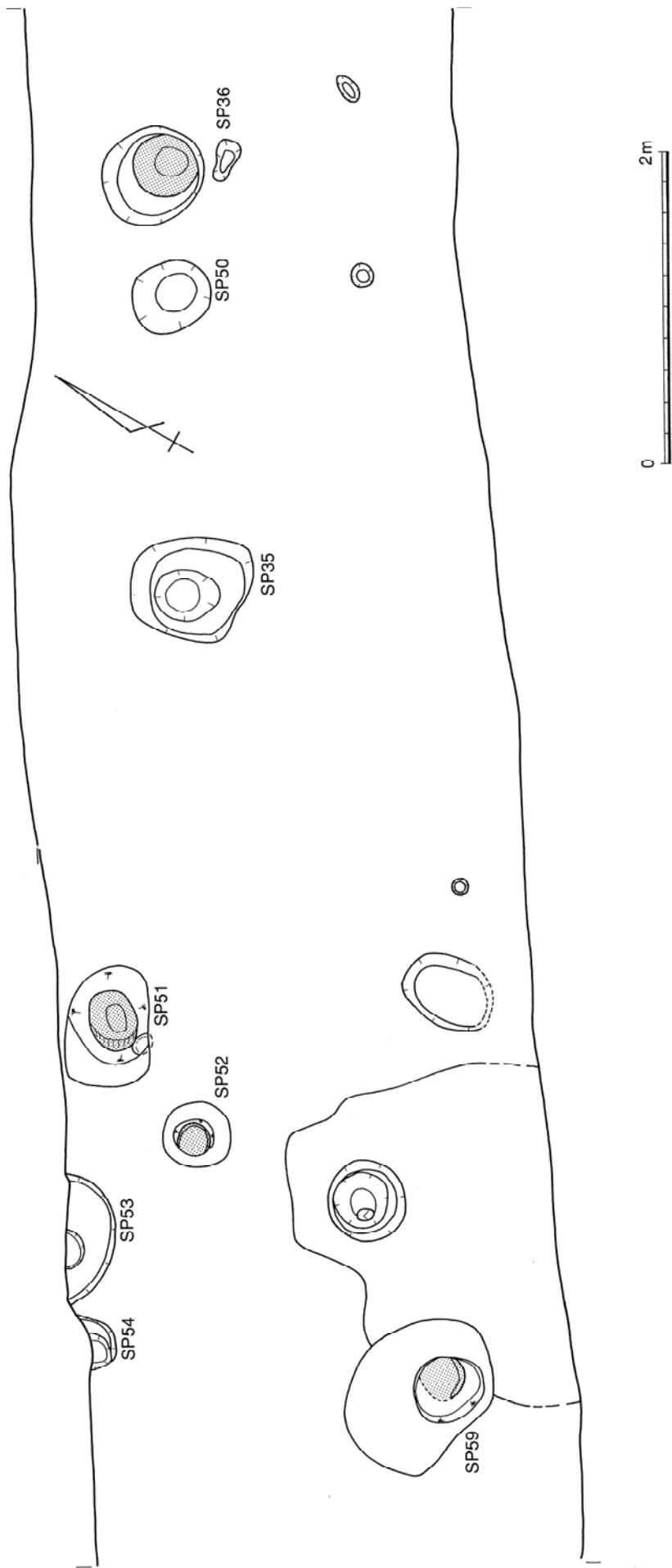
第82図 上川原山ノ神遺跡B地区北壁土層断面図



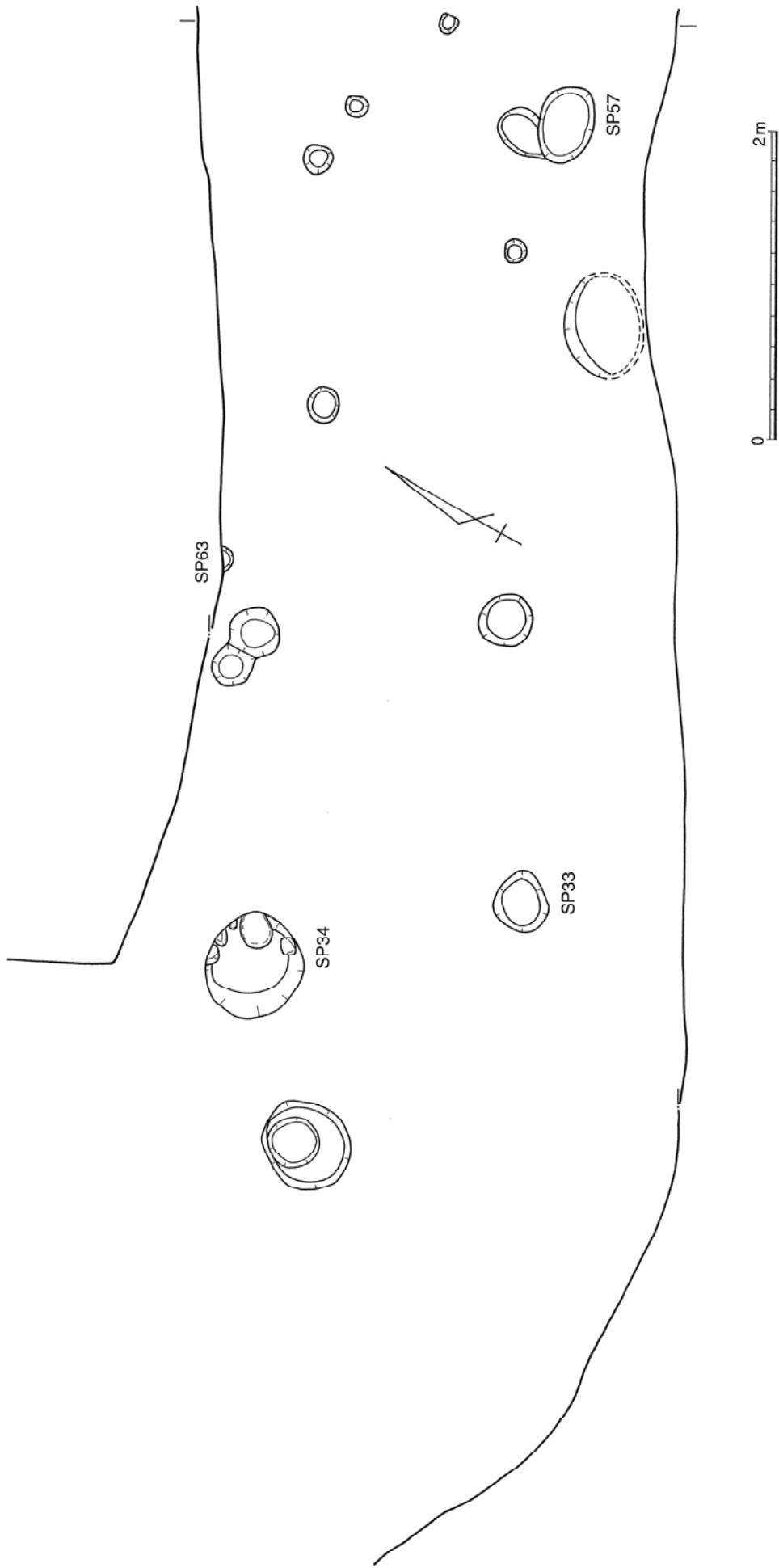


第 84 図 上川原山ノ神遺跡遺構平面図 ( 2 )

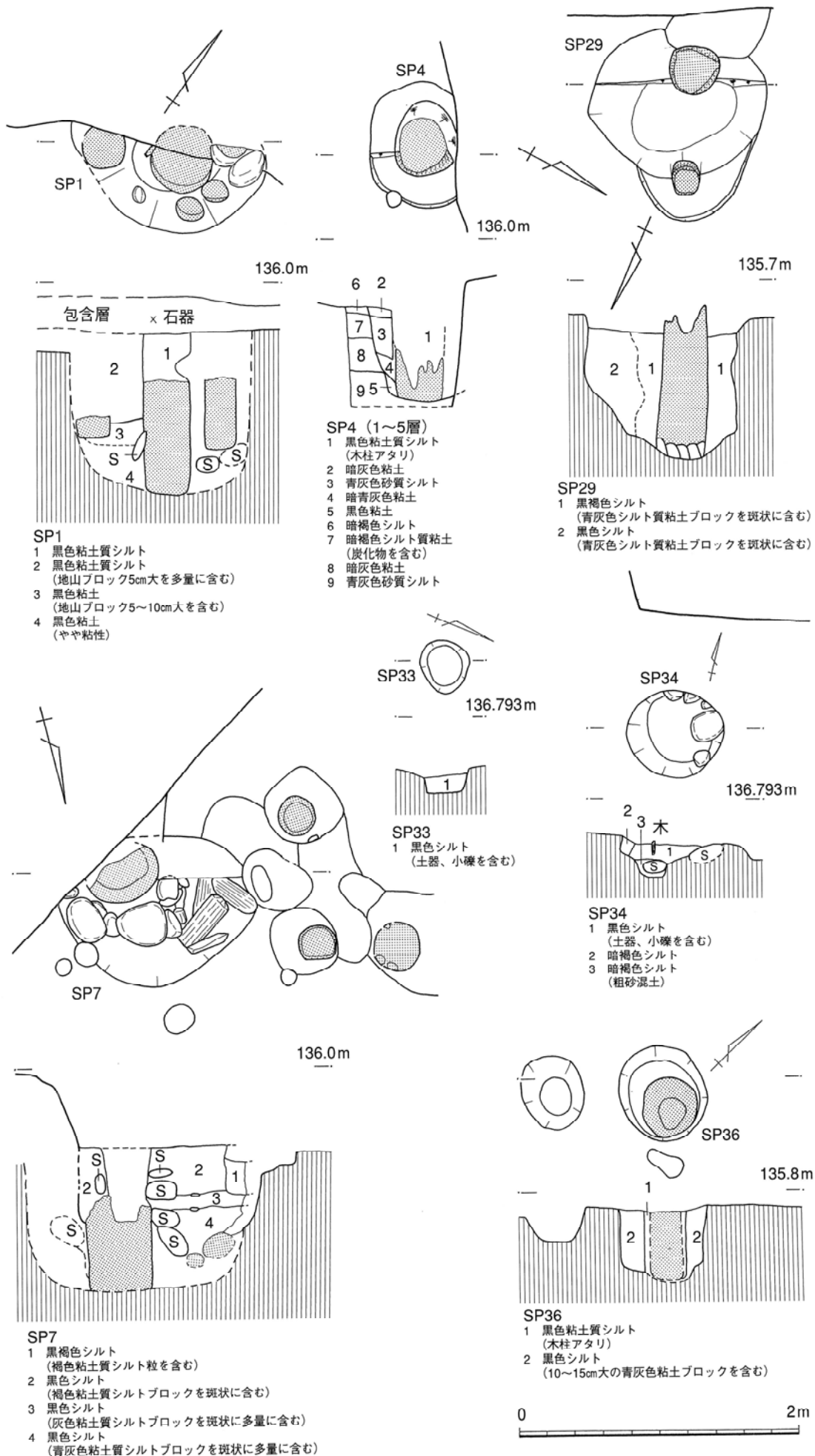




第 85 図 上川原山ノ神遺跡遺構平面図 ( 3 )

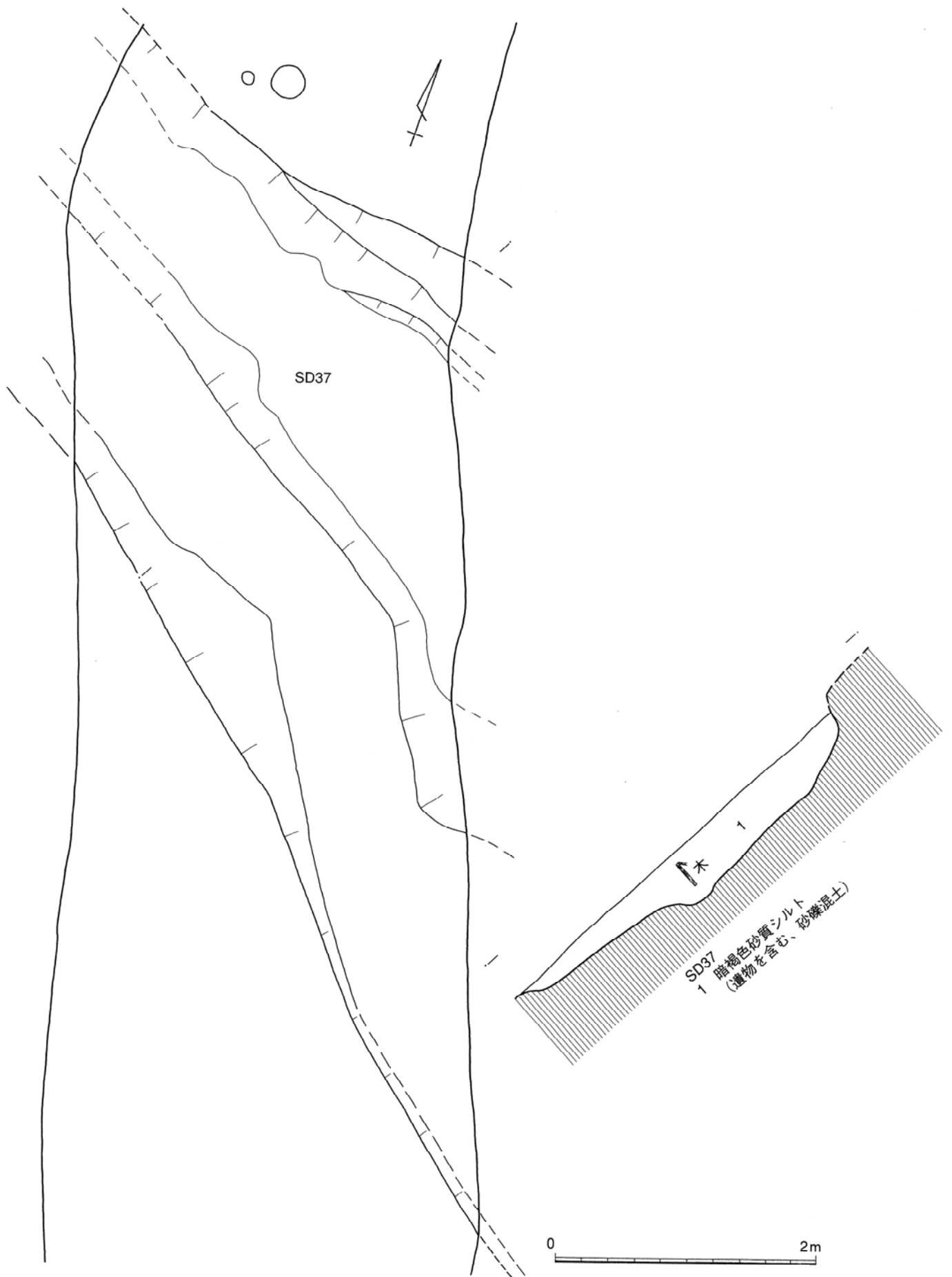


第 86 図 上川原山ノ神遺跡遺構平面図 ( 4 )

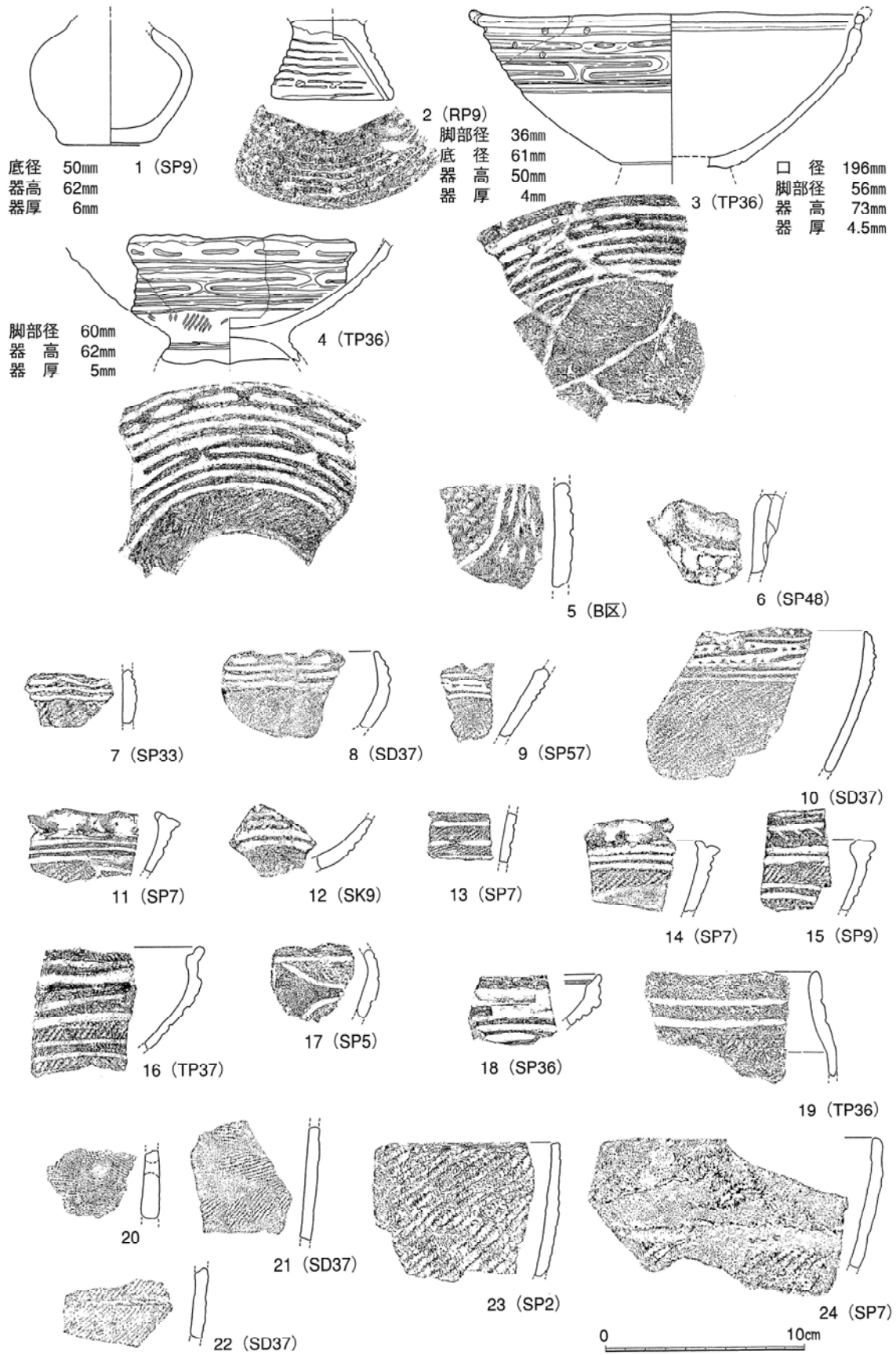


第 87 図 上川原山ノ神遺跡柱穴平面・断面図

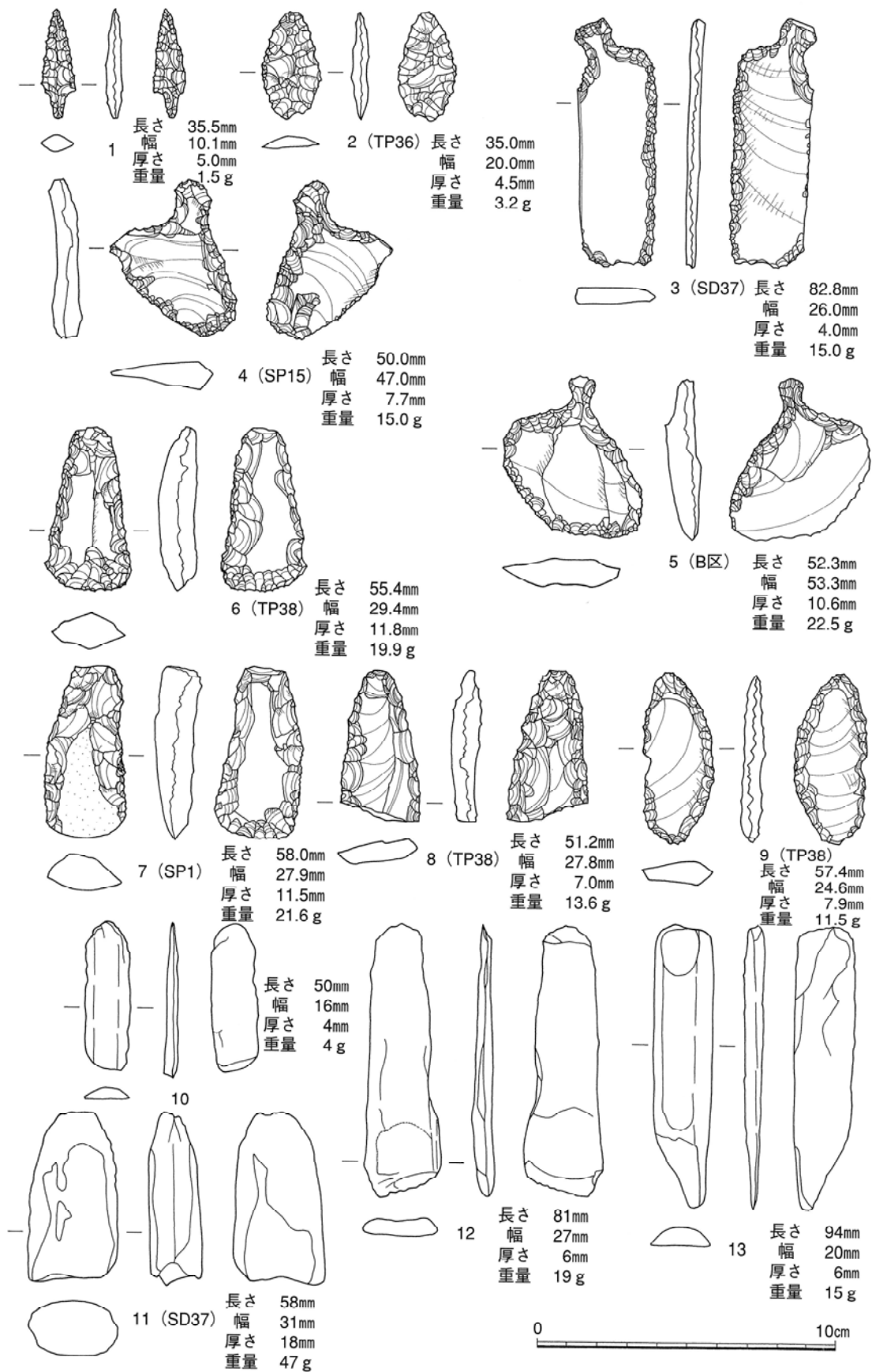




第 88 図 上川原山ノ神遺跡 SD37 平面・断面図

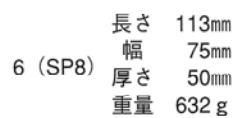
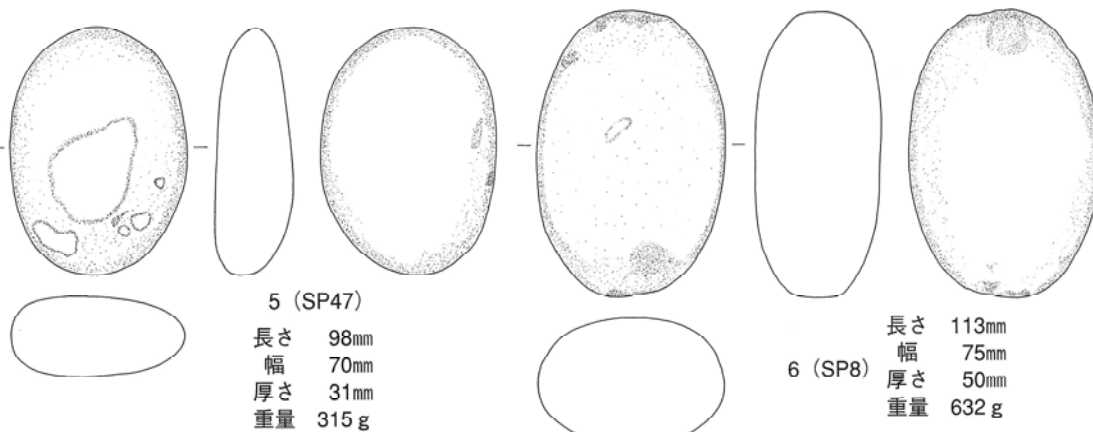
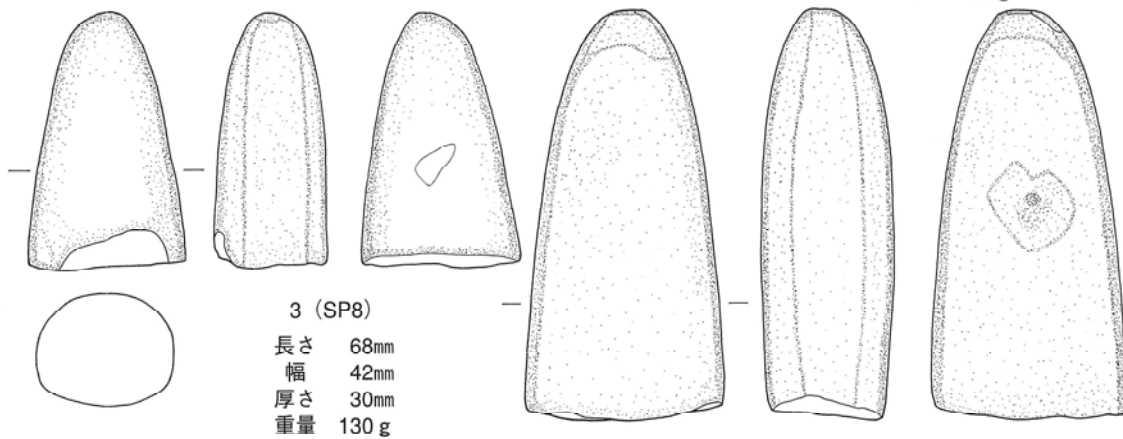
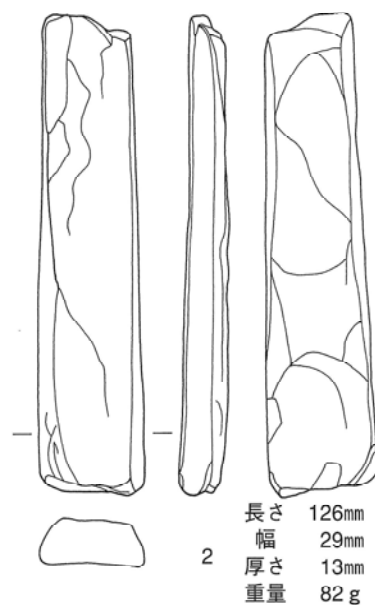
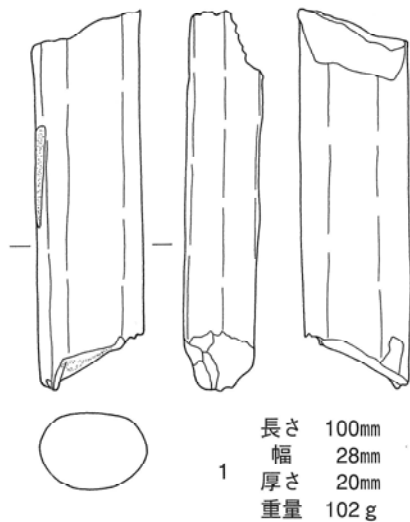


第 89 図 上川原山ノ神遺跡出土土器実測・拓影図



第90図 上川原山ノ神遺跡出土石器実測図(1)





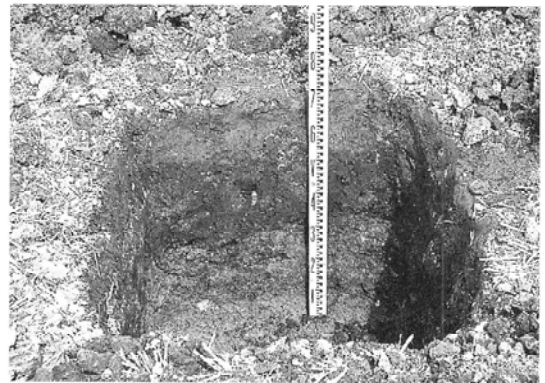
第91図 上川原山ノ神遺跡出土石器実測図(2)



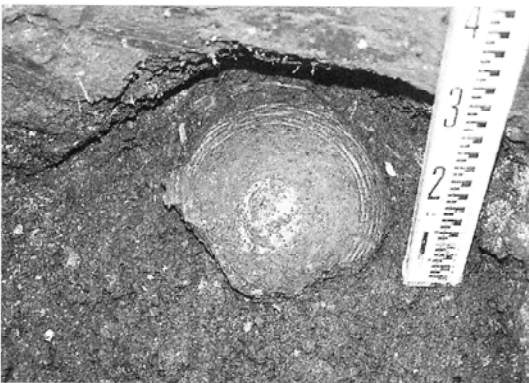
遺跡近景（南から）



試掘調査状況（東から）



TP 15 土層断面（西から）



TP 36 土器出土状況



調査区近景（南から）



A区調査状況（西から）



A区調査状況（東から）



B区調査状況（東から）



B区調査状況（西から）



C区調査状況（南から）



C区調査状況（北から）

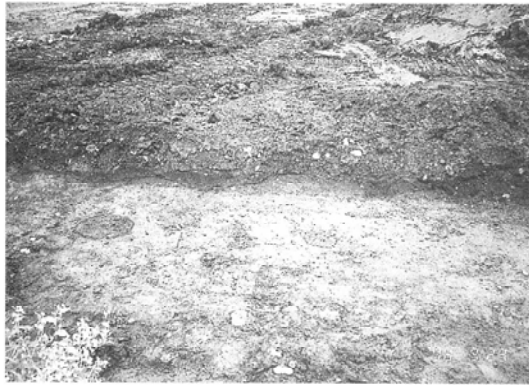


A区南壁土層断面（北から）

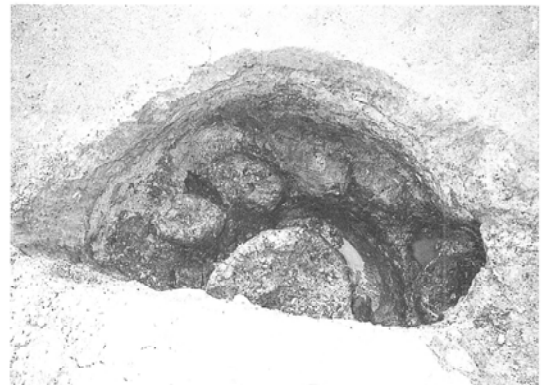


B区南壁土層断面（北から）





B区北壁土層断面（南から）



S P 1 木柱出土状況（北から）



S P 1 土層断面（南から）



S P 4 土層断面（東から）



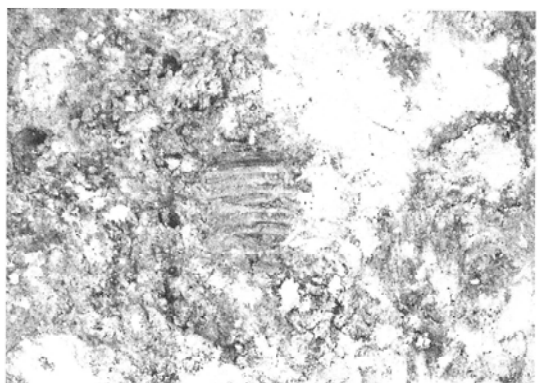
S P 7 木柱出土状況（南東から）



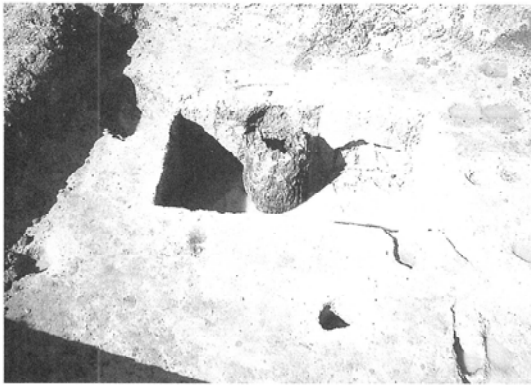
S P 7 土層断面（北東から）



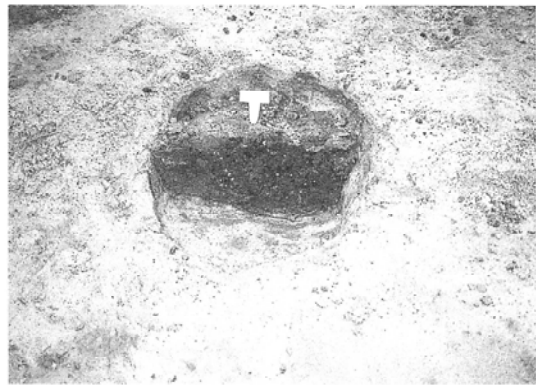
S P 29 土層断面（北から）



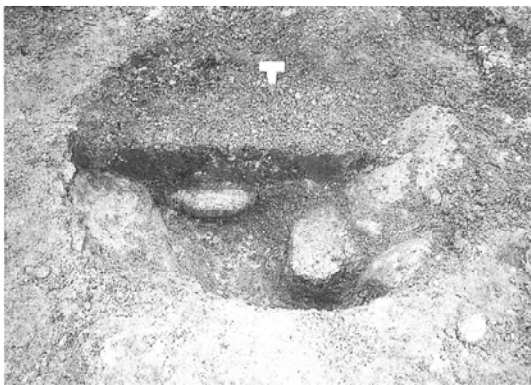
S P 29 土器出土状況



S P 36 土層断面 (南から)



S P 33 土層断面 (東から)



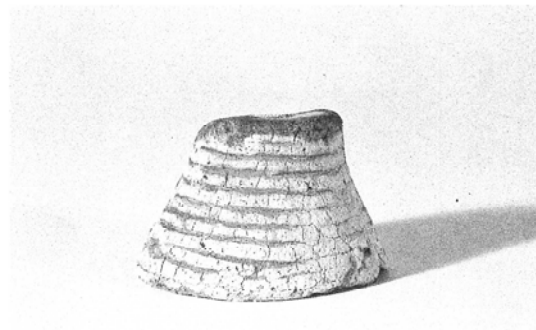
S P 34 土層断面 (南から)



S D 37 (東から)



S P 9-1 (約 1/1.7)



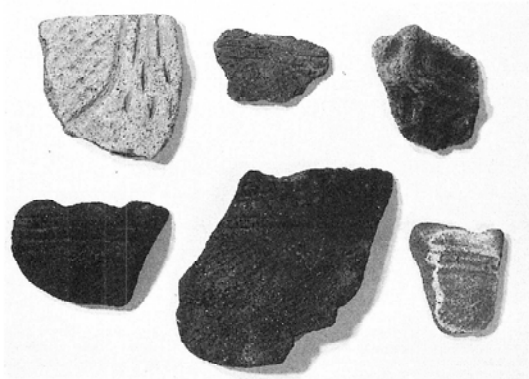
S P 9-2 (約 1/1.7)



S P 36-1 (約 1/3)



S P 36-2 (約 1/3)



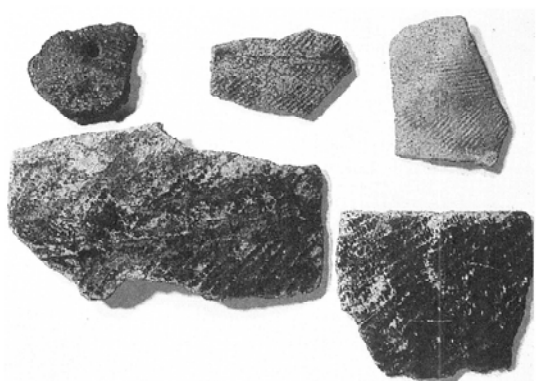
出土土器-1 (1/3)



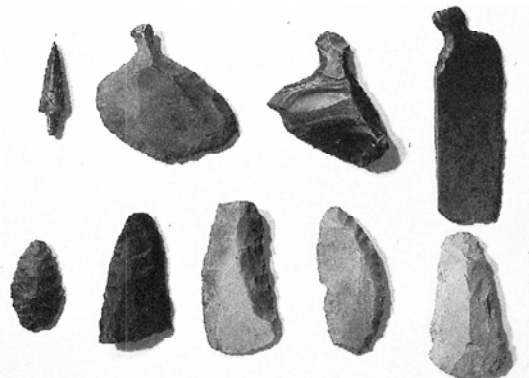
出土土器-2 (1/3)



出土土器-3 (1/3)



出土土器-4 (1/3)



出土石器-1 (1/3)



出土石器-2 (1/3)



出土石器-3 (1/3)



出土石器-4 (1/3)



## はじめに

上川原遺跡は、最上川の段丘面上に位置する。発掘調査により、縄文時代晩期の柱穴が多数検出されている。柱穴の中には柱根が残存しているものもあり、柱材の直径は約20~40cmで、礎板や支柱と考えられる部材も出土している。

本報告では、これらの木材の樹種を明らかにし、当時の用材に関する資料を得る。

## 1. 試料

試料は、出土した柱根や礎板など33点 (SP1a~1e, 2, 3a, 3b, 4, 5, 7a~7d, 810, 14, 18~23, 29, 30, 36, 38, 39, 41, 51, 52, 59, 60) である。各試料の詳細については、現在整理中である。

## 2. 方法

剃刀の刃を用いて木口 (横断面)・柁目 (放射断面)・板目 (接線断面) の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール (抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液) で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

## 3. 結果

試料は、SP21がハンノキ属ハンノキ亜属、それ以外の32点は全点クリに同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

### ・ハンノキ属ハンノキ亜属 (*Alnus* subgen. *Alnus*)                      カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2~4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は密に対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1~30細胞高のものと集合放射組織とがある。

### ・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)                      ブナ科クリ属

環孔材で孔圏部は1~4列、孔圏外で急激~やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

## 4. 考察

試料の多くはクリであった。これらの試料には、柱穴から出土した柱根、礎板、支柱が含まれているが、各試料の用途については現在整理中であり、詳細は不明である。

クリは、日本海沿岸の主に北陸地方に見られる巨木柱列や青森県三内丸山遺跡の木柱等、これまでも巨大な柱材に多数確認されている（藤，1986；古池，1986；岡田，1997）。今回の結果は、基本的にこれらの類例の用材と一致する。また、山形県内や東北地方各県で行われた、縄文時代の住居構築材の樹種同定結果でも、クリが多く確認されている（嶋倉，1979；パリノ・サーヴェイ株式会社，1992, 1994など）。これらの結果から、クリは縄文時代の主要な構築材であったことが推定される。

クリの果実は灰汁抜きが必要が無く、縄文時代の重要な植物食糧の一つであったと考えられている（粉川，1983）。また、青森県三内丸山遺跡の調査では、花粉分析やDNA分析から、クリの栽培を示唆する結果が得られている（辻，1997；佐藤，1997）。クリは、9年生～10年生以後から20年前後が樹齢が成果期であり、一般に20年生以後は年毎に収量が減少する（志村，1984）。このことから、若木を果実確保のために保護・管理し、老木を伐採して用材として利用した可能性が指摘されている（千野，1983）。本遺跡についても同様の可能性があるが、現時点では詳細は不明である。今後花粉分析なども行い、周辺植生を含めて検討したい。

#### 引用文献

- 千野裕道（1983）縄文時代のクリと集落周辺植生 —南関東地方を中心に—。東京都埋蔵文化財センター研究論集，Ⅱ，p. 25-42.
- 藤 則雄（1986）植物遺体。「石川県能登町 真脇遺跡 —農村基盤総合整備事業能登東地区真脇工区に係る発掘調査報告書—（本文編）」，p. 407-410，能登町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団。
- 古池 博（1986）木柱根その他木材ならびに大型堅果類の植物学的検討。「金沢市新保本町チカモリ遺跡 —第4次発掘調査兼土器編—」，p. 203-226，金沢市教育委員会・金沢市埋蔵文化財調査委員会・金沢市新保本町第一土地区画整理組合。
- 粉川昭平（1983）縄文人の主な植物食糧。加藤晋平・小林達雄・藤本 強編「縄文文化の研究2 生業」，p. 42-49，雄山閣。
- 岡田康博（1997）三内丸山遺跡からの報告。岡田康博・NHK青森放送局編「縄文都市を掘る 三内丸山から原日本が見える」，p. 9-33，NHK出版。
- パリノ・サーヴェイ株式会社（1992）花粉分析・炭化材同定・種子同定。「御所野遺跡Ⅰ 縄文時代中期の大集落跡」，p. 341-355，一戸町教育委員会。
- パリノ・サーヴェイ株式会社（1994）栗山遺跡における自然科学分析。山形県埋蔵文化財センター調査報告書第6集「仲台遺跡・栗山遺跡・柳沢A遺跡発掘調査報告書」，p. 95-113，財団法人山形県埋蔵文化財センター。
- 佐藤洋一郎（1997）DNA分析でよむクリ栽培の可能性。岡田康博・NHK青森放送局編「縄文都市

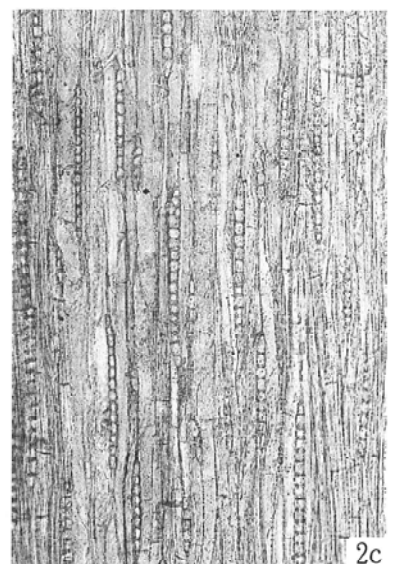
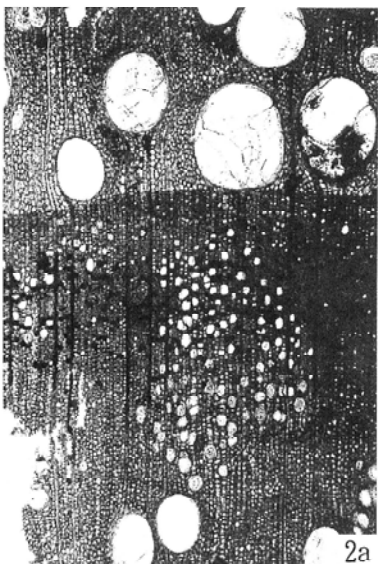
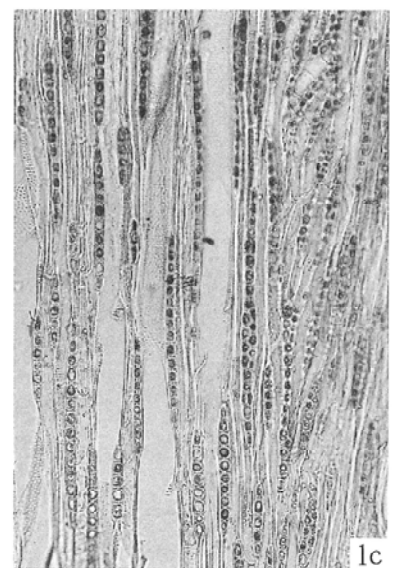
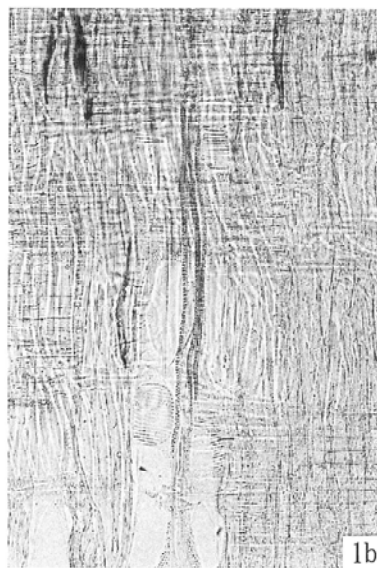
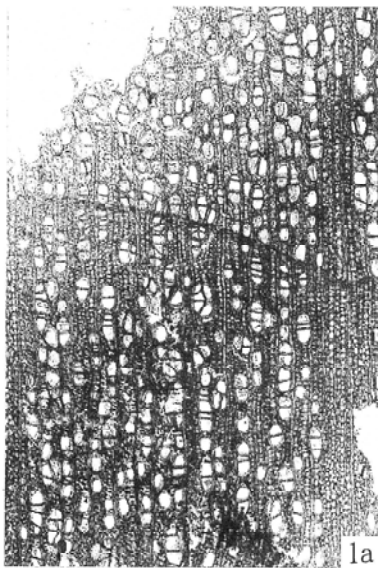
を掘る 三内丸山から原日本が見える」, p. 163-173, NHK出版.

嶋倉巳三郎 (1979) 青森市近野遺跡から出土した炭化材の樹種. 青森県埋蔵文化財調査報告書第47集「近野遺跡 発掘調査報告書(IV) —青森県総合運動公園建設関係発掘調査—」, p. 321-323, 青森県教育委員会.

志村 勲 (1984) クリの生育特性. 「農業技術体系 果樹編5 クリ基礎編」, p. 11-16, 社団法人農山漁村文化協会.

辻 誠一郎 (1997) 三内丸山を支えた生態系. 岡田康博・NHK青森放送局編「縄文都市を掘る 三内丸山から原日本が見える」, p. 174-188, NHK出版.

図版1 木材



- 1. ハンノキ属ハンノキ亜属 (SP21)
  - 2. クリ (SP60)
- a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200  $\mu$ m : a  
200  $\mu$ m : b, c

図版72 上川原山ノ神遺跡 (6)



（2）立泉川遺跡（昭和56度登録）

所在地 山形県新庄市大字十日町字立泉川

調査員 名和達朗 長橋 至

調査期日 平成10年7月27～8月7日

起因事業 担い手育成基盤整備事業（野中地区）

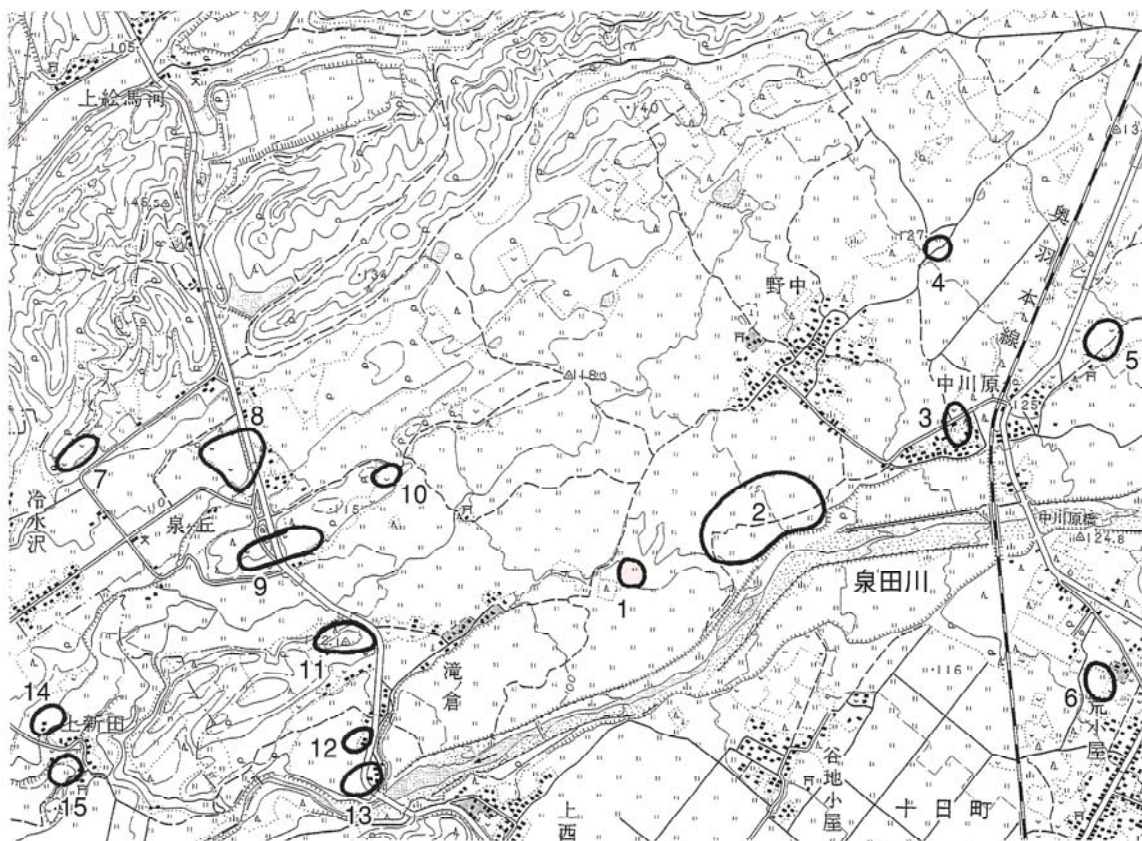
調査協力 山形県農林水産部新庄土地改良事務所・新庄市野中地区

1 調査経過

平成9年度の試掘調査結果に基づいた県教委と県農林水産部の遺跡の保存協議の結果、ほ場整備の工法等の変更により遺跡の大半が現状保存されることとなった。しかし、地形の状況からやむを得ず切り土となる部分（約710平米）については記録保存のための緊急発掘調査を実施することとした。調査は遺跡の遺存状況・対象面積から県教委が主体となって行った。調査は雨天日も含め実質10日間を要した。3日間の重機による表土除去後、面整理、遺構検出、遺構精査、並行して記録作業を行い、8月7日に終了した。

立泉川遺跡・周辺の遺跡一覧

NO.	遺跡名	時代	備考	NO.	遺跡名	時代
1	立泉川	縄文	平成10年度県教委発掘調査	9	真空道	旧石器・縄文
2	中原川C	縄文	平成11年度以降県教委発掘調査	10	八幡裏	旧石器
3	中原川B	縄文	平成10年度県教委発掘調査、範囲修正	11	滝ノ倉	旧石器・縄文
4	下向野	縄文	平成10年度県教委発掘調査、範囲修正	12	滝ノ倉前A	縄文
5	中川原	縄文	昭和46年新庄市(新庄北高)発掘調査	13	滝ノ倉前B	縄文
6	荒小屋	旧石器・縄文		14	上新田A	縄文
7	中峯山	縄文		15	上新田B	縄文
8	中谷地	縄文				



位置図 (S=1:25,000)

第92図 立泉川遺跡位置図・周辺の遺跡

## 2 遺跡の立地と環境

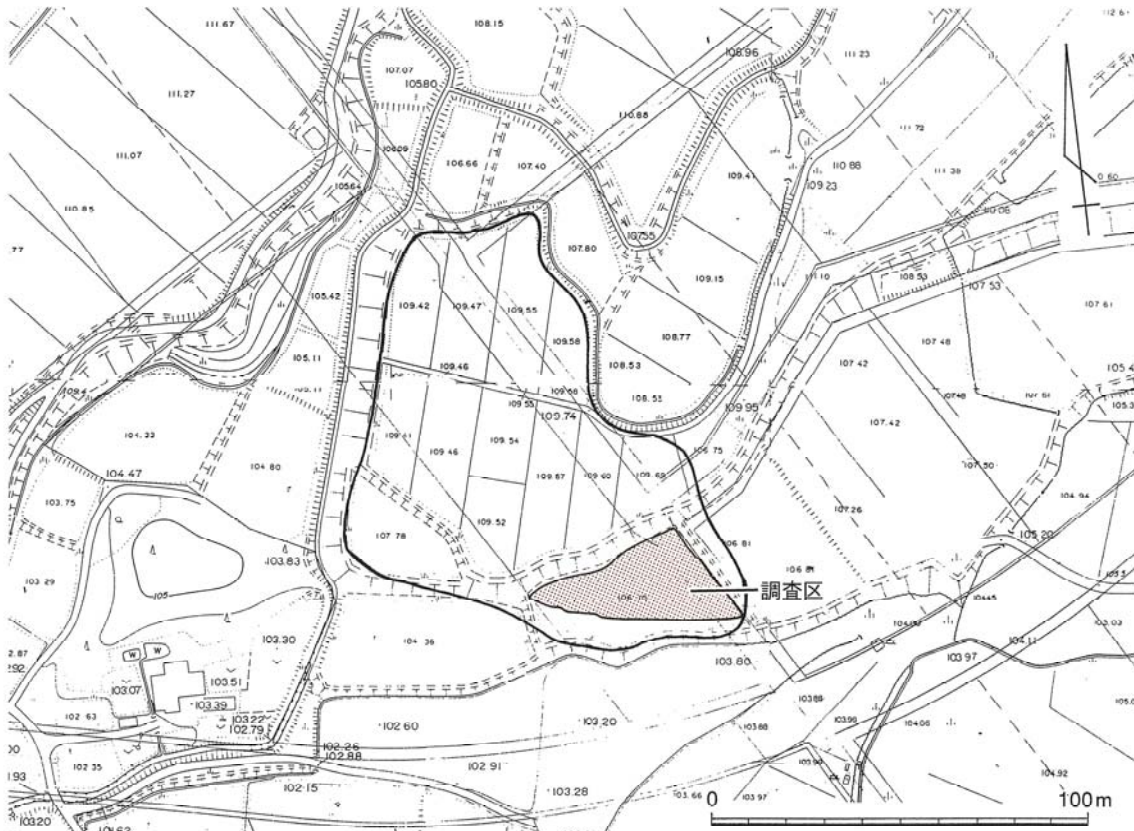
本遺跡は山形県北部、新庄盆地中央を南西に流れる泉田川の扇状地先端部に形成された河岸段丘上に立地する。今回の調査対象地区は段丘平坦部に中心をもつ本遺跡の周辺域と考えられる。付近には同様な立地状況の遺跡として中川原遺跡を始めとする遺跡が散在し、さらに扇状地先端から中位段丘および西山丘陵縁辺部には中谷地遺跡等、多くの遺跡が分布している。時代は縄文時代を中心とするが旧石器時代のものも散見される。

## 3 検出した遺構

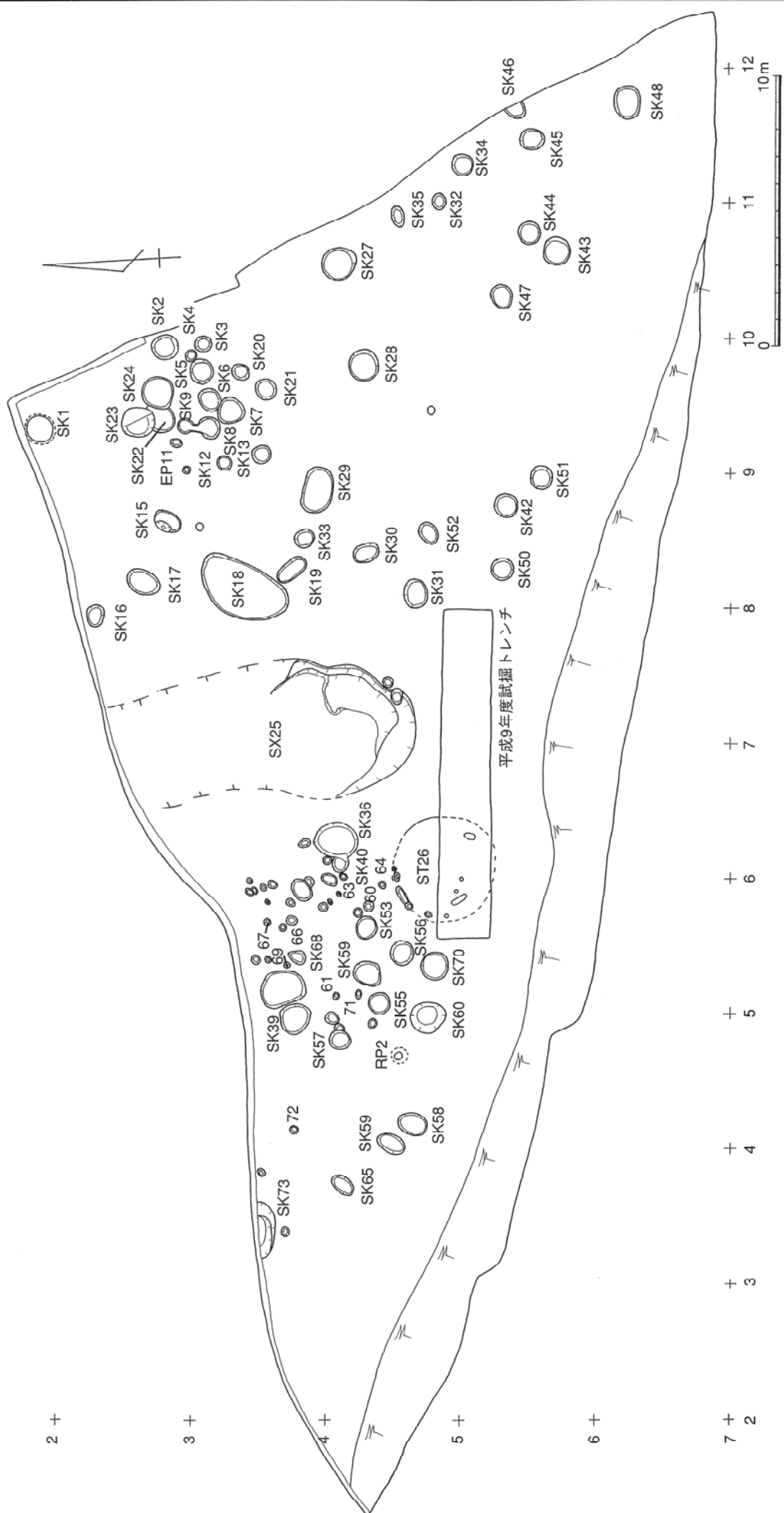
検出した遺構は全体で約70基を数える。内訳は、第94図のとおりである。ここでは竪穴住居跡と代表的な土壌について若干触れる。

### (1) ST26竪穴住居跡

ST26は柱穴の配置・焼土・床面の状況から竪穴住居跡と判断した遺構である。以前の基盤整備等により床面の一部まで削平されている。柱穴や遺存する周溝の位置から長径400cm・短径385cmのほぼ円形のプランを呈するものと推測される。平成9年度の試掘調査では、埋設土器(体部下半～底部遺存)・柱穴等の住居跡南半部が検出されていたが壁の立ち上がりがないため、明確には住居跡とはしていなかった経過がある。今回の調査で検出された住居跡北半部では炭化物を含む張床の一部(黒色粘土)と、地焼炉と考えられる厚さ5cm、範囲60×45cm程の焼土が確認された。遺物は土器片が2点出土しているが明確な時期は不明である。周囲の遺構・遺物の状況から縄文時代後期初頭の所産か。



第93図 立泉川遺跡概要図



第94図 立泉川遺構配置図



## (2) 土壙 (SK)

形態・覆土の状況から特徴的な土壙について概要を記す。SK 1・23は円形プランで壁がややオーバーハングするタイプで覆土にやや多量の土器片、拳から人頭大の自然礫を多く含む特徴がある。SK 2～5、8・9・21・22・24・34・53はプランは円形だがやや浅く、覆土は1～2層の自然堆積状況を呈する。SK 15～18・36は楕円形で覆土は2～3層の自然堆積状況である。SK 7・27・46・54は円形または略円形で比較的深く、覆土に拳から人頭大の自然礫を含む特徴がある。このタイプの土壙は覆土中の礫の状況から土壙墓の可能性も考えられる。

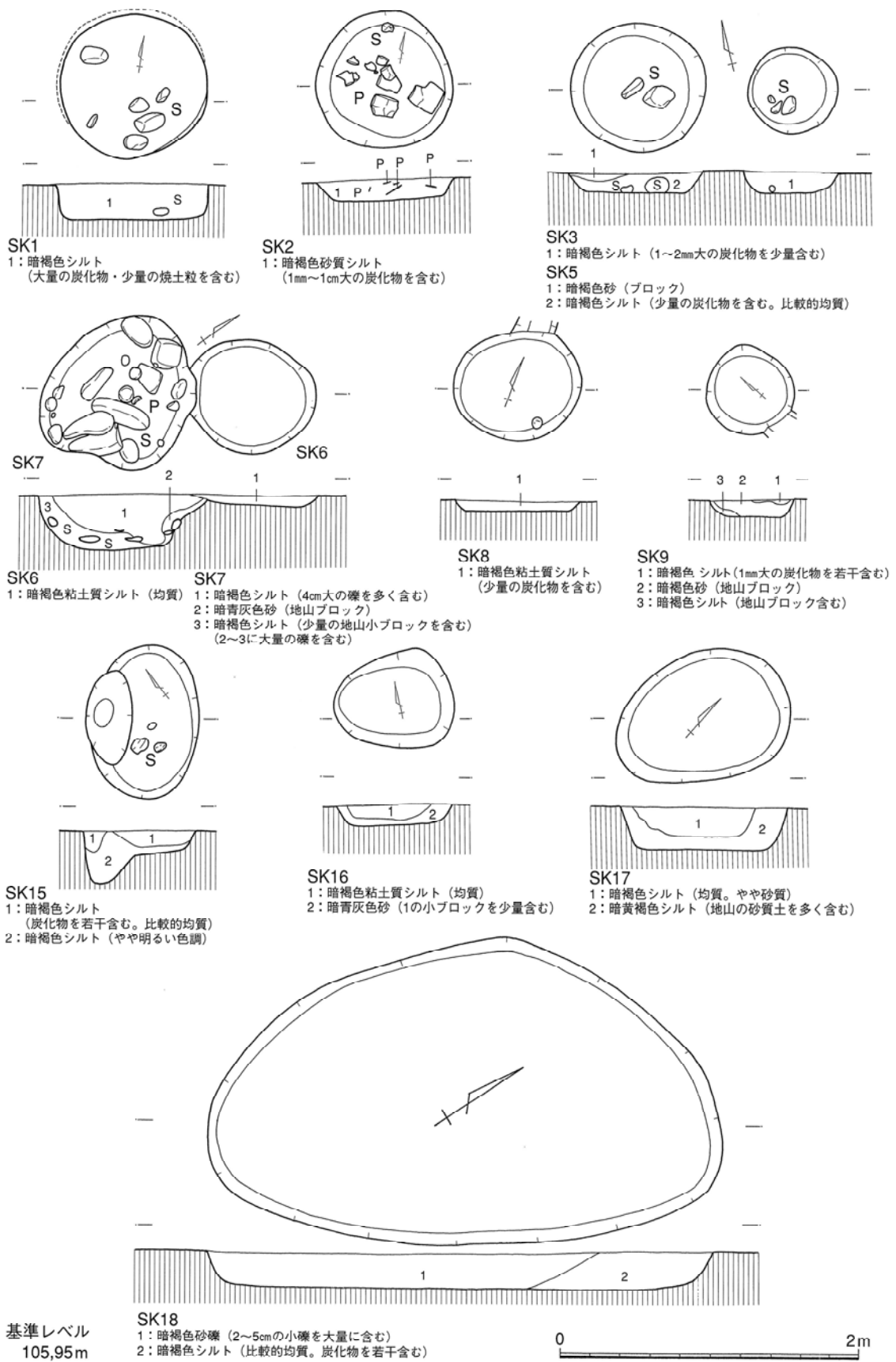
## 4 出土した遺物

**土器** 全体で整理箱で5箱出土した。遺構出土の土器を中心に遺構毎に図示した。文様の特徴は以下のとおりである。挿図番号初出の順で整理する。1類：沈線文と擦消・充填縄文の組み合わせ(1～3・8・15・16・24・31・38・39・43・45・46・48・50～52・54及び第94図1など)。2類：隆線によるCやU字状文が描かれるもの(4・7・26・32・53・63)。3類：隆線や沈線の組み合わせによる文様構成で、器面のすり消が顕著なもの(5・9・12～14・25・29・42・56)。4類：頸部有段で口縁部が立つ小形の土器(6は粘土紐添付+ボタン状貼付文・60)。5類：沈線による幾何学文、竹管や棒状工具による刺突も施される場合があるもの(10・11・58・59・61・62)。6類：捺糸圧痕(17・41)。7類：平行沈線または集合沈線等により文様が描出されるもの(18～20・28・33～35・47・49)。8類：縄文地文の破片資料(21・36・37)。9類：隆線文+沈線に充填縄文がみられるもの(22・23・27)。10類：2に類似するが隆帯による(30・44)。11類：口縁部が肥厚し沈線文が描かれる(40・55)。12類：図上復元した64は透かしの入る浅鉢となる。13類：98図1は縄文地文の組成の深鉢底部付近に擦消縄文(隆線による横位の区画)がみられる。以上、描出された文様の特徴を列記した。破片資料が主のため上記類別では同一性の高い資料についても細分している。

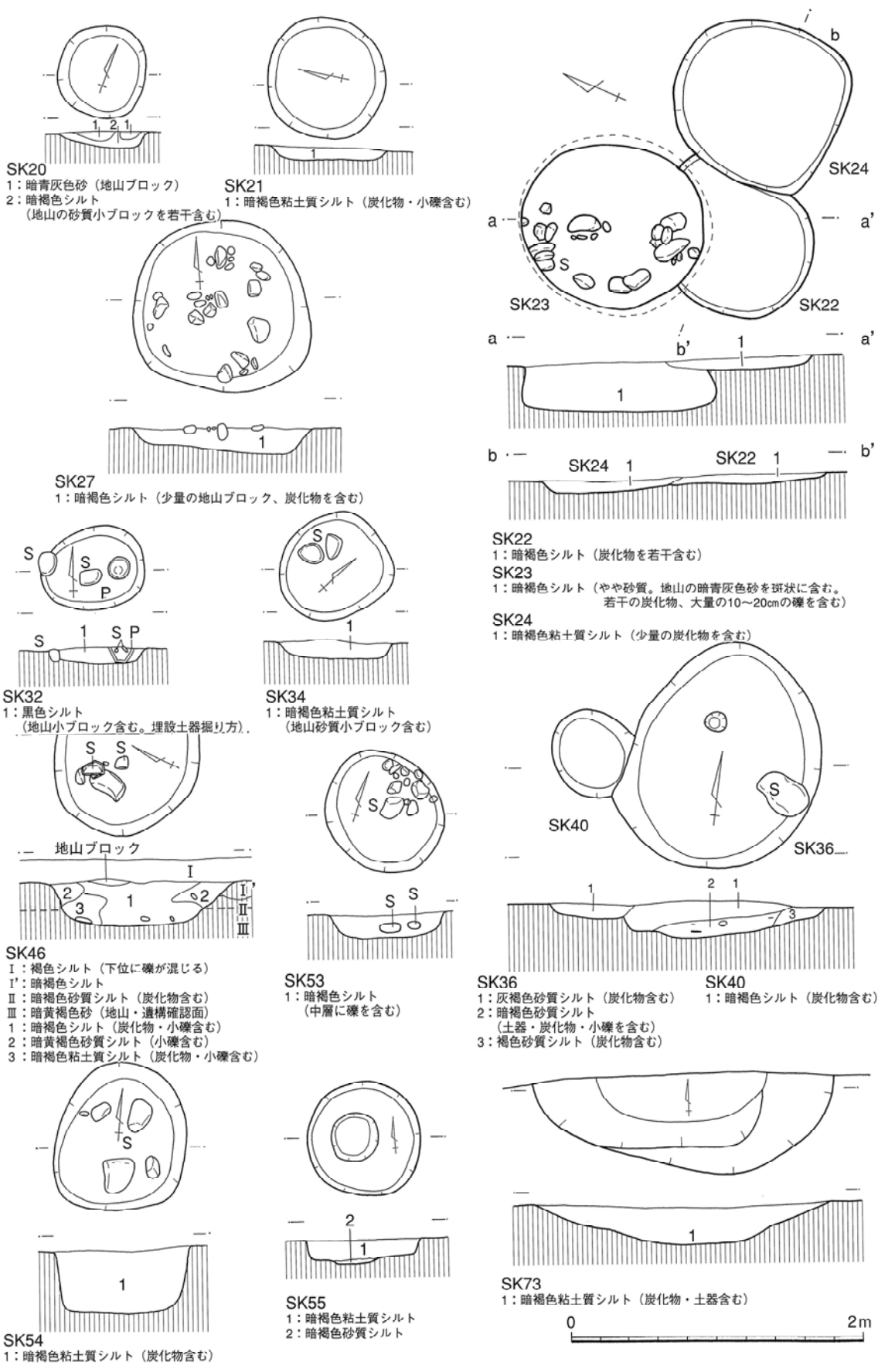
1類は文様の展開が破片資料のため不明確な点があるが描出方法等から中期末に後続する後期初頭と考えられる。門前式直前か。2類も大木10新の隆線の文様構成に類似するが、小波状口縁となることや隆線が比較的雑なこと、連鎖状隆帯等がないことから同様な時期の所産と考えられる。9～11・13類も同様であろう。4・5・7類はボタン状の貼付文、施文方法から宮戸1b式並行期、6・8類は後期初頭の所産とする。12類は器形・文様等からは時期は特定できないが、全体の土器の状況から後期初頭と考えられる。

**石器** フレイク少量・礫石器が3点程出土している。礫石器は磨石3点、紙面の都合から図版掲載とした。

なお、本遺跡については、県教委により平成11年度に今回の調査地区西側30～40m地点(集落縁辺の捨場を中心とする部分・ほ場整備にかかる記録保存)の分層発掘調査を行っている。全体で100箱を越える遺物が出土している。整理を進める中で該期の資料の充実が期待される。

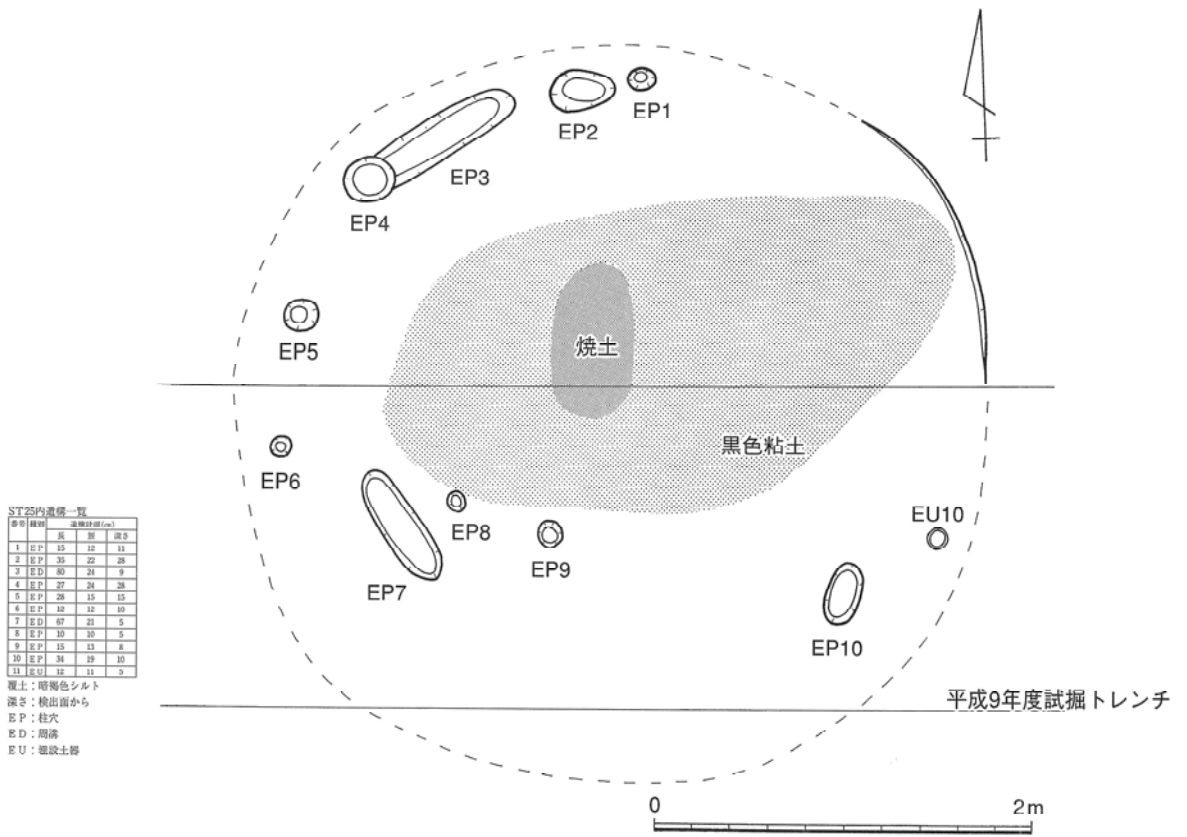


第 95 図 立泉川遺跡検出遺構平面・断面図 (1)

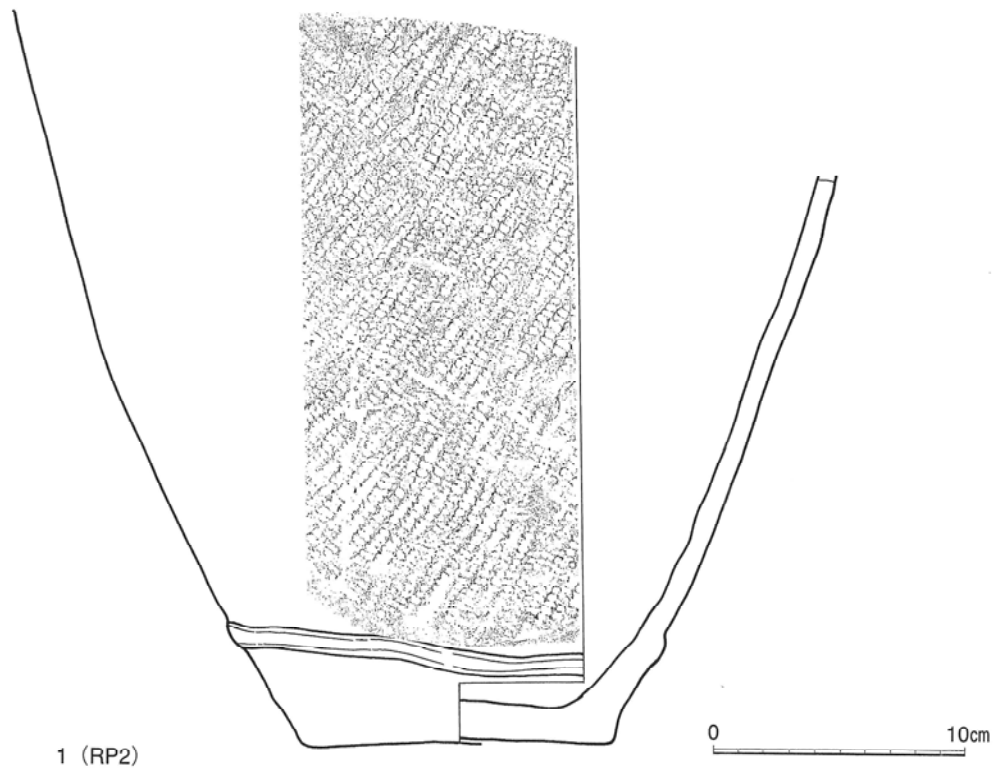


第96図 立泉川遺跡検出遺構平面・断面図(2)



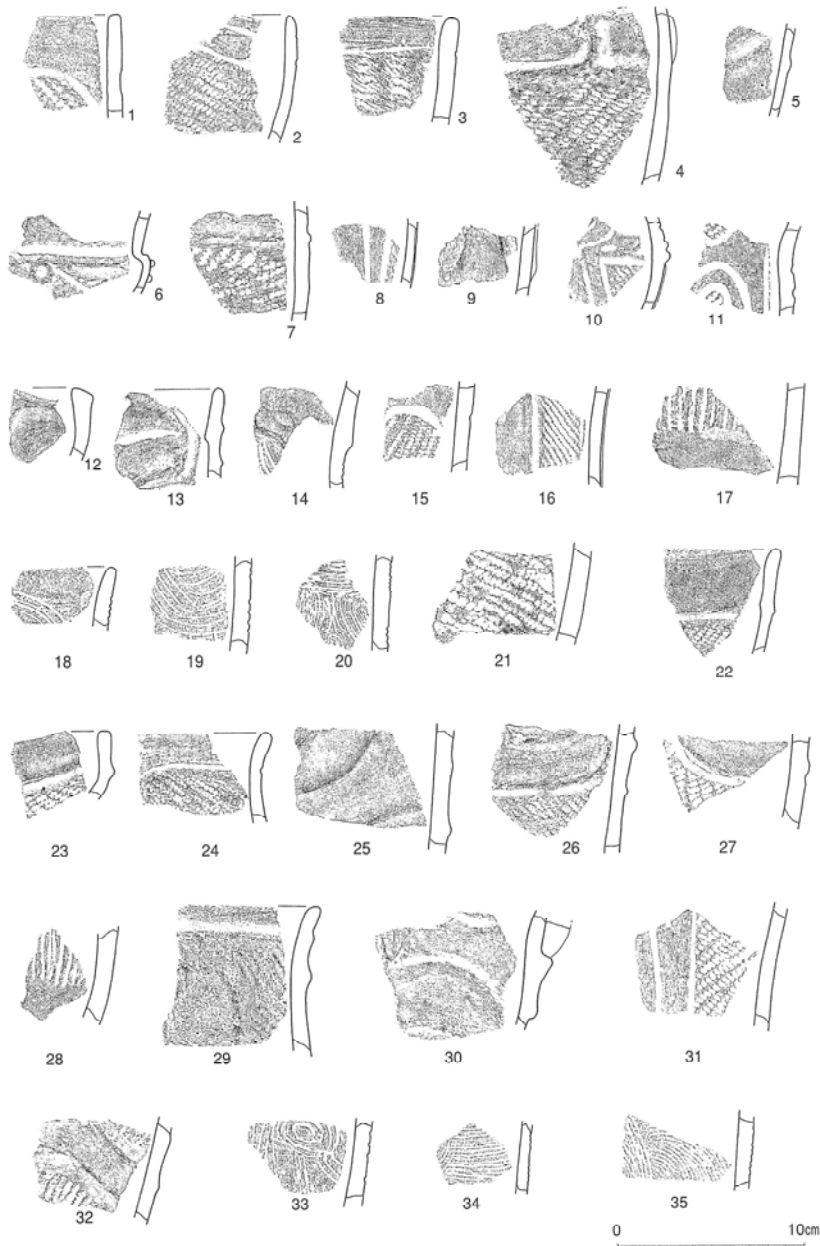


第 97 図 立泉川遺跡検出遺構平面図 (3)

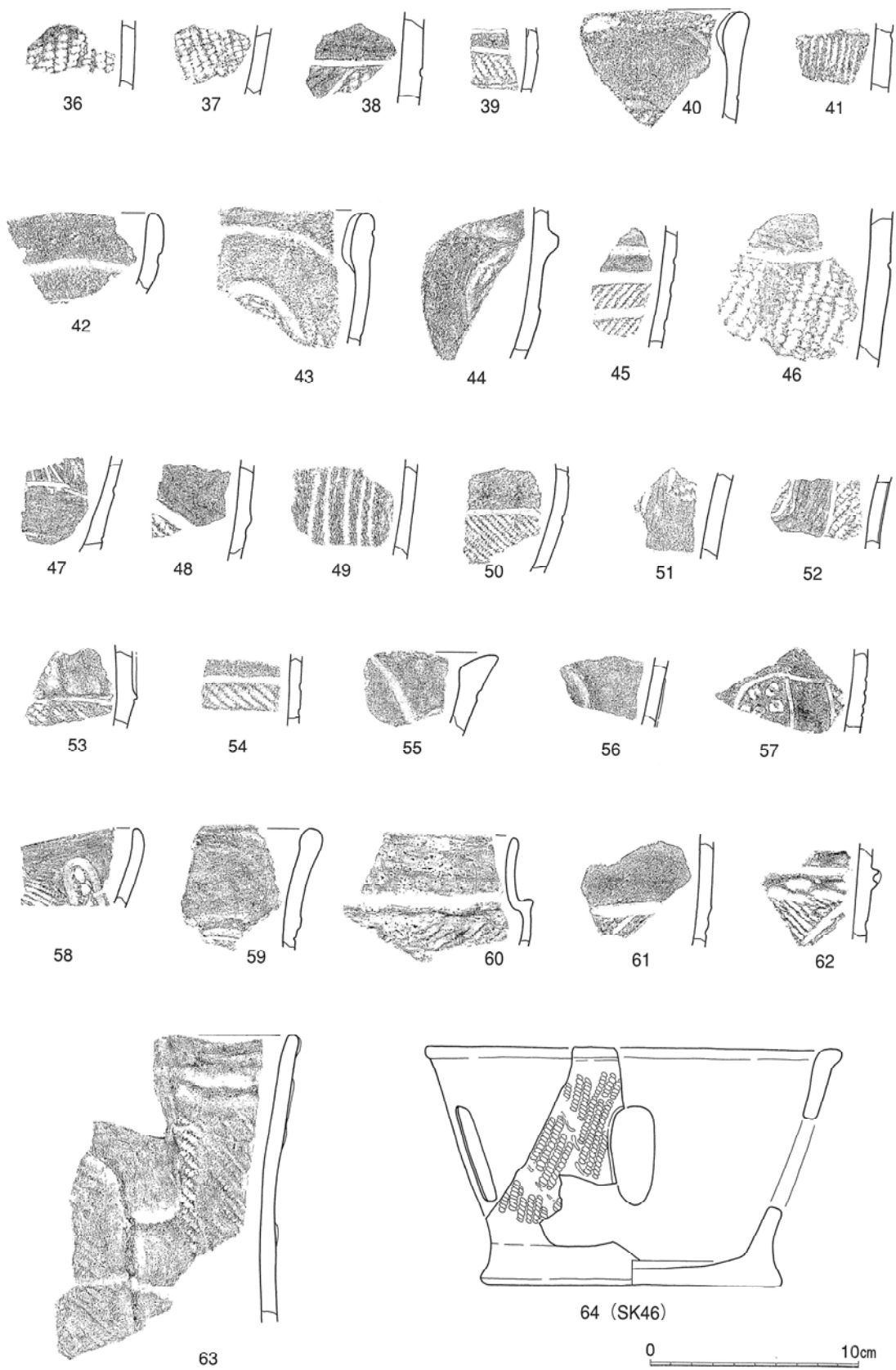


第 98 図 立泉川遺跡出土土器 (1)

調査年度	調査地点	遺構計測(cm)		平面形	覆土	出土遺物	調査年度	調査地点	遺構計測(cm)		平面形	覆土	出土遺物	
		長さ	幅						長さ	幅				
1	SK	100	54	23	内形	原陶織	31	SK	106	80	27	横内形	褐色シタ	3
2	SK	94	94	14	内形	原陶織	32	SK	72	38	13	横内形	原陶織	1
3	SK	62	60	14	内形	原陶織	33	SK	68	64	20	内形	原陶織	1
4	SK	82	88	10	内形	原陶織	34	SK	78	72	13	内形	原陶織	5
5	SK	60	76	7	横内形	原陶織	35	SK	78	45	10	横内形	原陶織	5
6	SK	114	97	40	本形	原陶織	36	SK	157	130	26	横内形	原陶織	1
7	SK	88	74	6	横内形	原陶織	37	SK	88	70	12	横内形	原陶織	8
8	SK	60	60	11	内形	原陶織	38	SK	163	127	8	横内形	原陶織	8
9	SK	60	60	11	内形	原陶織	39	SK	117	110	10	横内形	原陶織	20
10	SK	40	76	4	横内形	原陶織	40	SK	60	57	10	内形	原陶織	1
11	EP	25	25	6	内形	原陶織	41	SK	60	41	7	横内形	原陶織	1
12	SK	53	31	10	内形	原陶織	42	SK	60	79	6	横内形	原陶織	1
13	SK	68	63	7	内形	原陶織	43	SK	103	100	16	内形	原陶織	1
14	SK	106	76	36	横内形	原陶織	44	SK	90	84	14	内形	原陶織	1
15	SK	80	67	14	横内形	原陶織	45	SK	88	75	11	横内形	原陶織	1
16	SK	122	88	30	横内形	原陶織	46	SK	100	70	30	(内形)	原陶織	1
17	SK	145	210	22	横内形	原陶織	47	SK	90	76	7	横内形	原陶織	1
18	SK	122	61	5	横内形	原陶織	48	SK	121	94	10	横内形	原陶織	1
19	SK	64	60	12	横内形	原陶織	49	SK	85	83	5	内形	原陶織	1
20	SK	30	80	9	内形	原陶織	50	SK	85	84	5	内形	原陶織	1
21	SK	120	100	8	横内形	原陶織	51	SK	85	63	12	横内形	原陶織	2
22	SK	185	113	45	横内形	原陶織	52	SK	80	77	16	横内形	原陶織	1
23	SK	116	110	10	横内形	原陶織	53	SK	103	89	42	横内形	原陶織	1
24	SK	100	385	—	—	—	54	SK	80	79	17	内形	原陶織	1
25	SK	180	125	17	内形	原陶織	55	SK	77	68	23	横内形	原陶織	1
26	SK	115	115	14	内形	原陶織	56	SK	105	85	13	横内形	原陶織	1
27	SK	172	124	16	横内形	原陶織	57	SK	110	95	18	横内形	原陶織	1
28	SK	58	64	20	横内形	原陶織	58	SK	129	113	37	横内形	原陶織	7



第99図 立泉川遺跡出土土器(2)拓影図



第100图 立泉川遺跡出土土器(3)拓影图





遺跡近景（西から）



調査予測遺構検出状況（南から）



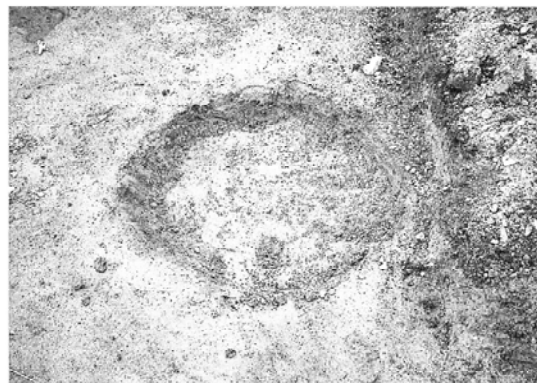
SK1 土層断面（南から）



SK1 完掘状況（南から）



SK2 遺物出土状況（南から）



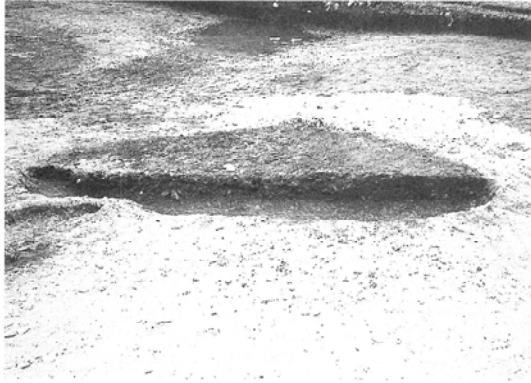
SK2 完掘状況（南から）



SK8 遺物出土状況（南から）



SK6・7・9 完掘状況（南から）



SK18 土層断面 (東から)



SK23 土層断面 (西から)



SX25 全景 (北から)



SK27 (南から)



SK32 土層断面 (南から)



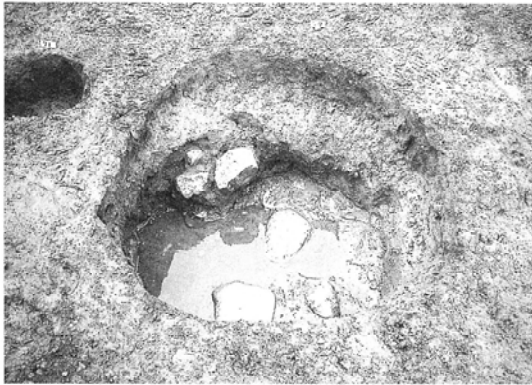
SK39・SK38 完掘状況 (南から)



SK46 土層断面遺物出土状況 (西から)



SK45・46 完掘状況 (西から)



SK54 (南から)



SK56 (南から)



SK58・59 完掘状況 (南から)



SK70 土層断面 (南から)



SK53 (南から)



完掘状況 (中央～西側 北から)

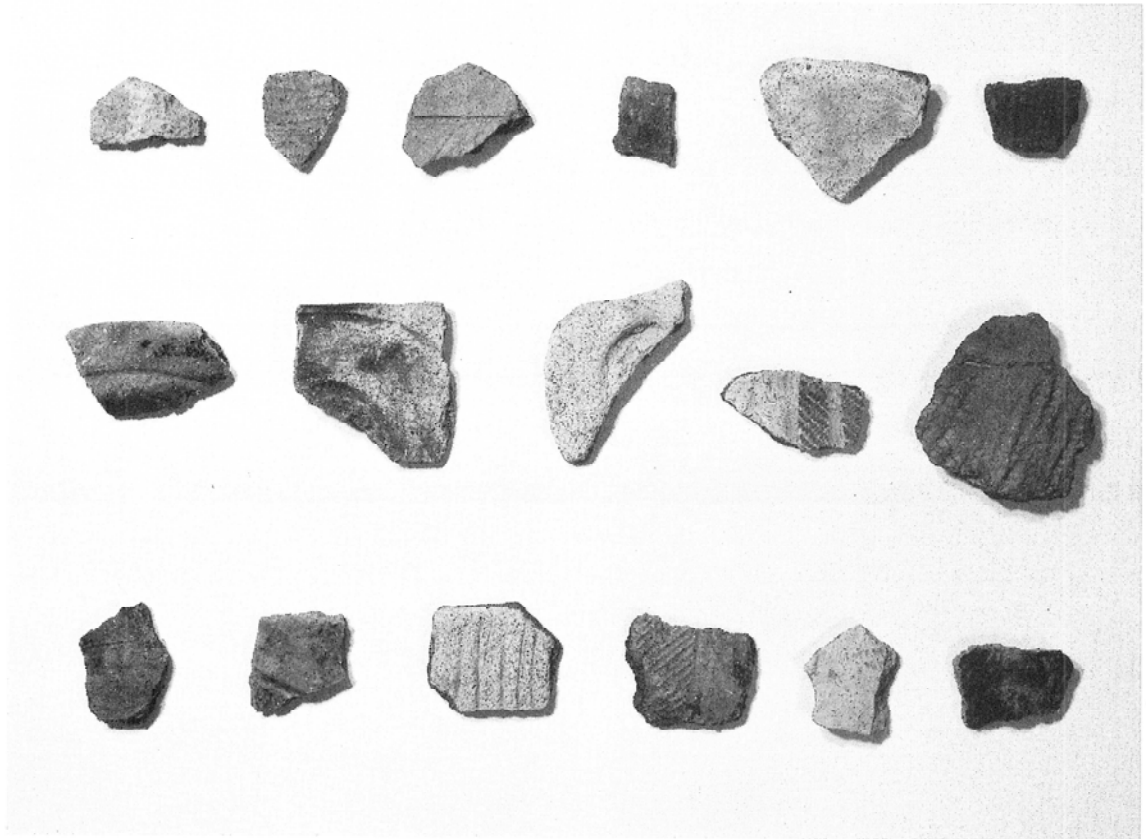


完掘状況 (西から)

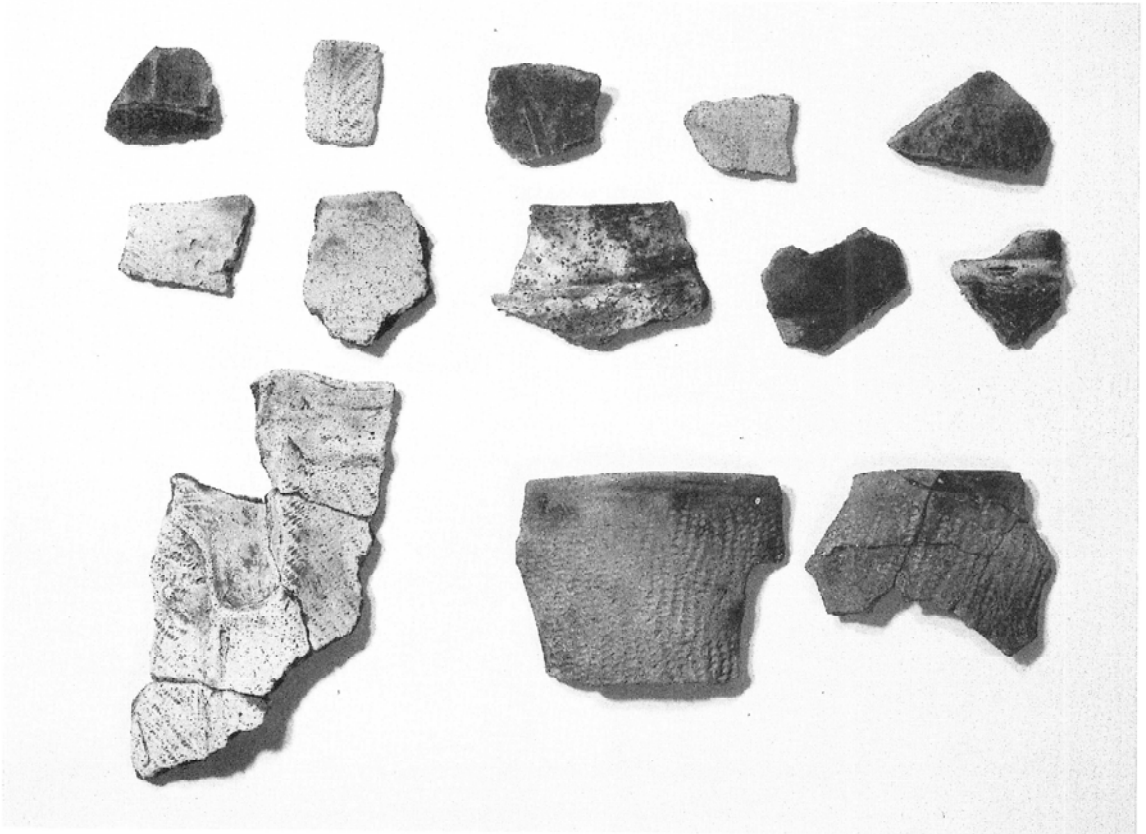


完掘状況 (東から)



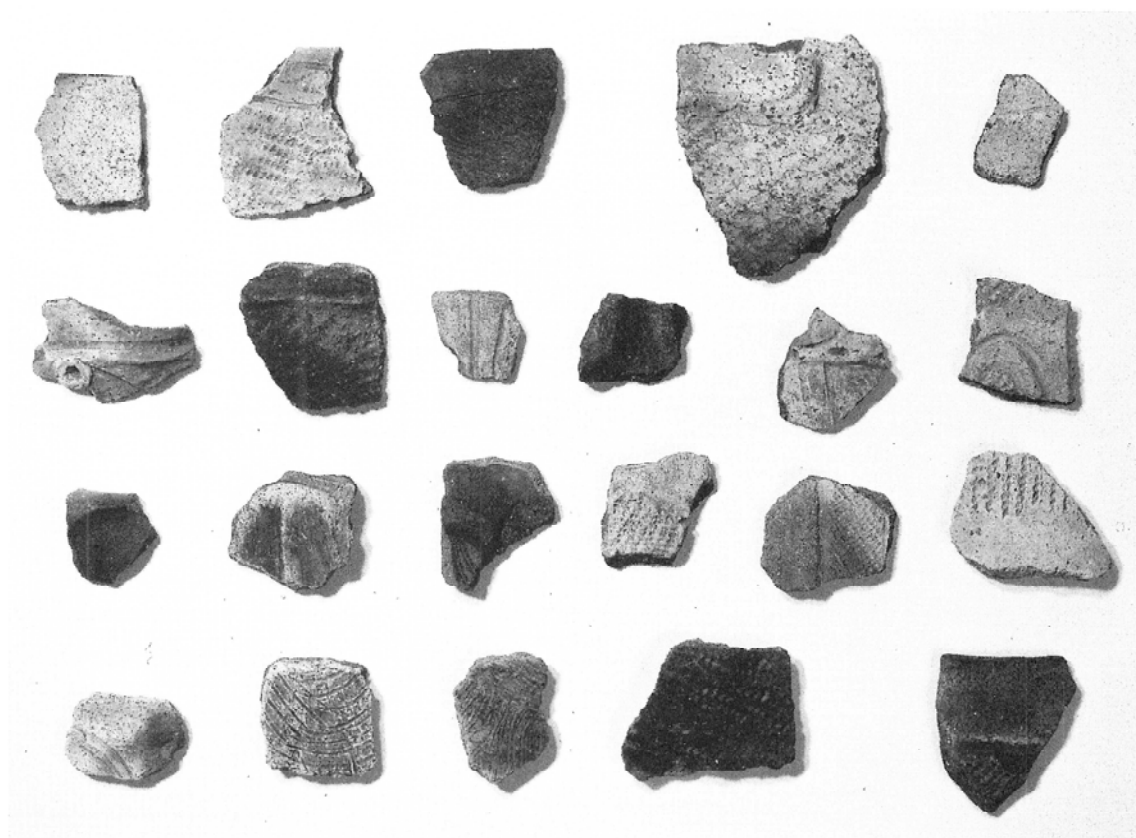


出土土器 (1) (1/3)

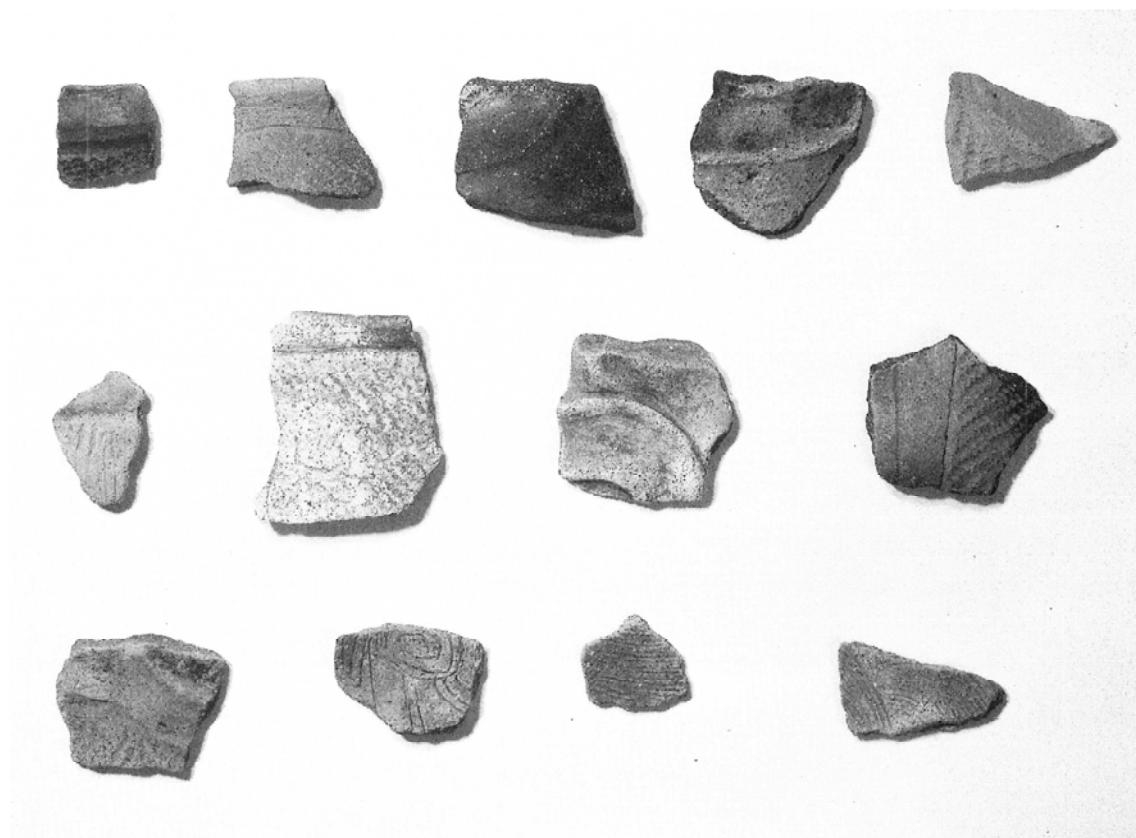


出土土器 (2) (1/3)





出土土器 (3) (1/3)



出土土器 (4) (1/3)



出土土器 (5) (1/2)



出土土器 (6) (2/3)



出土土器 (7) (1/3)



出土石器 (2/3)



（3）<sup>りゅうざわやま</sup>竜沢山遺跡（遺跡番号2,117）

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字野沢字水上

調査員 渋谷孝雄

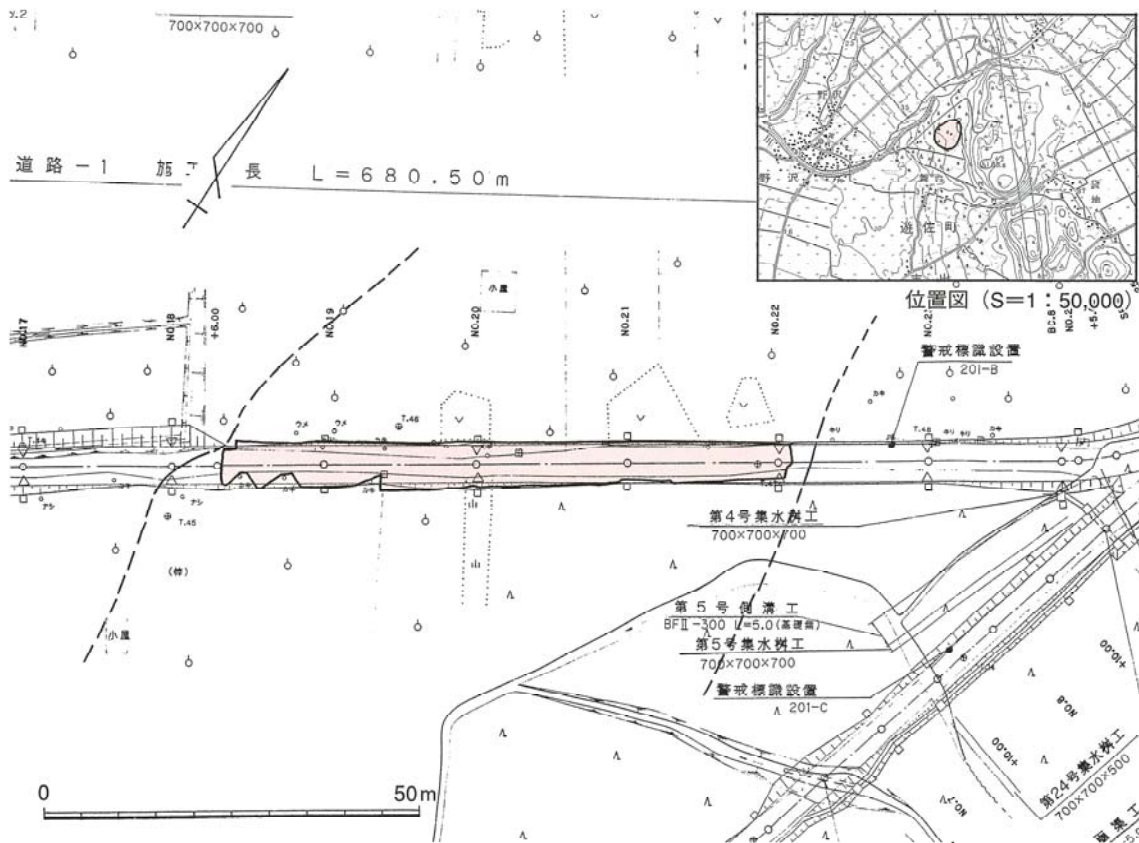
調査期日 平成10年11月10～27日（12日間）

起因事業 一般農道整備事業（水上地区）

遺跡環境 遺跡はJR羽越本線遊佐駅の北東約3kmに位置し、西側に傾斜する丘陵の裾部に立地する。標高は調査区の中央部で約45mを測る。地目は柿、りんご等の果樹園となり、部分的に野菜畑や山林となっている。

調査状況 平成8年度の試掘調査の結果、事業予定地内にかかる遺跡範囲が農道の延長で約80mに及ぶことが確定した。今回の調査は新設農道敷地内の記録保存のために実施した。遺跡内の表土を重機で除去した後、面削りで遺構の確認作業に入り、検出遺構の精査と記録を実施した。調査中に積雪に見舞われ一時中断したが、実質12日間で現地調査を終了した。

調査結果 調査区の南西部で縄文時代中期中葉の竪穴住居跡を2棟検出したほか、落ち込み2基や柱穴200基弱を検出した。柱穴には縄文時代晩期の所産とみられるものも存在する。出土した遺物は縄文土器4個体と中期、晩期の土器片、石鏃、石斧等の石器合わせて4箱が出土した。



第101図 竜沢山遺跡概要図



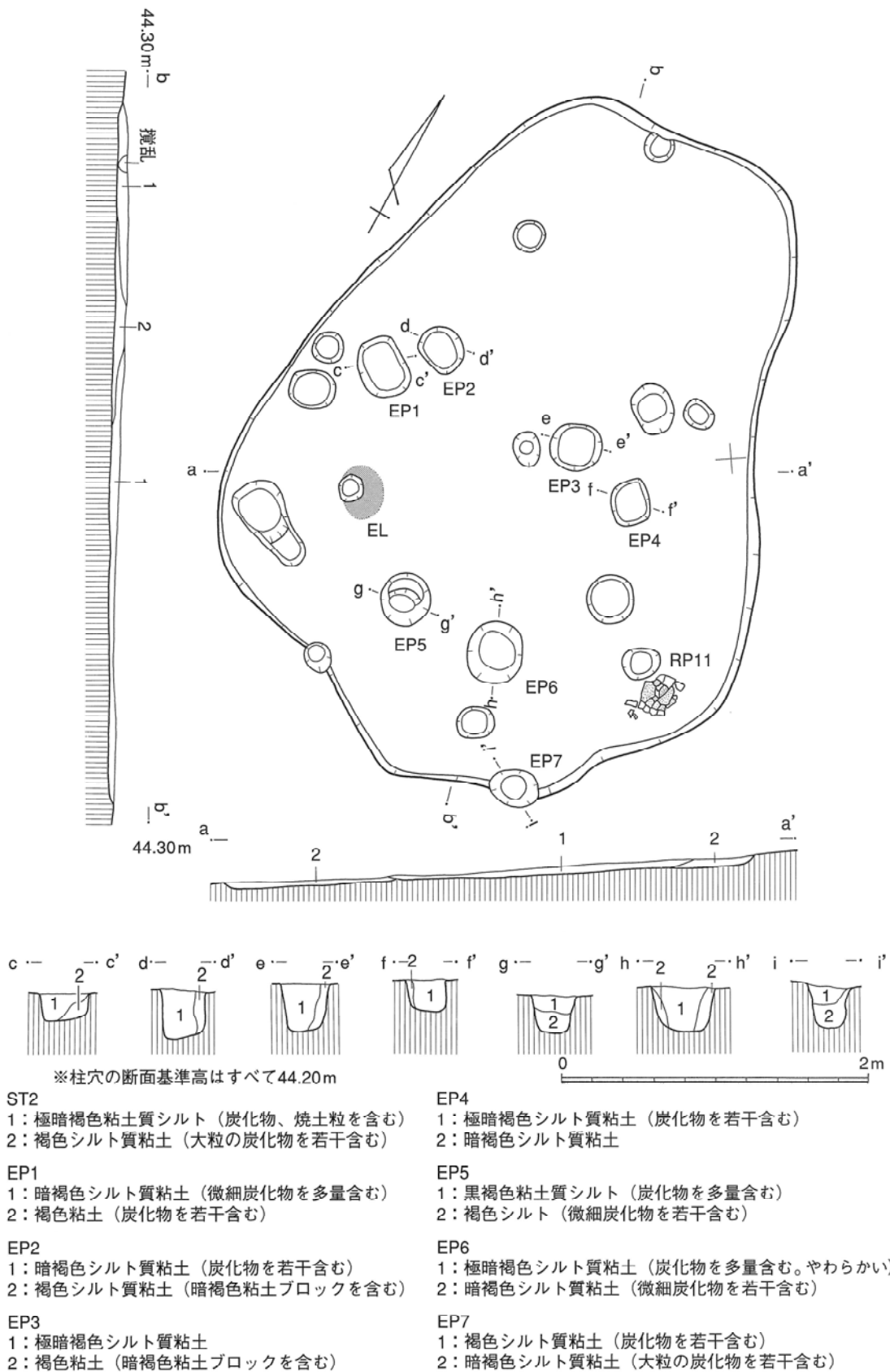
- EP1、2  
 1: 暗褐色シルト質粘土 (炭化物を若干含む)  
 2: 褐色粘土 (微細炭化物を若干含む)  
 3: 明褐色シルト質粘土  
 ①: 暗褐色粘土質シルト (1より明るい)  
 ②: 褐色シルト質粘土  
 ③: 明褐色粘土 (微細炭化物を若干含む)  
 1: 暗褐色シルト質粘土
- EP3  
 1: 暗褐色粘土質シルト (炭化物を若干含む。やわらかい)  
 2: 褐色シルト質粘土 (微細炭化物を若干含む)

- EP4  
 1: 暗褐色シルト質粘土 (大粒の炭化物を若干含む)  
 2: 褐色シルト質粘土 (微細炭化物を若干含む)
- EP5  
 1: 暗褐色粘土質シルト (微細炭化物を若干含む)  
 2: 極暗褐色シルト質粘土 (炭化物を多量含む)
- EP7  
 1: 暗褐色粘土質シルト (炭化物を多量、焼土粒を若干含む)

- EP8  
 1: 暗褐色シルト質粘土 (炭化物を多量含む)  
 2: 褐色粘土 (焼土粒を若干含む。やわらかい)
- EP9  
 1: 黒褐色シルト (褐色粘土ブロックを霜降り状に含む)  
 2: 明褐色粘土 (地山の崩壊土)  
 3: 極暗褐色シルト質粘土 (大粒の炭化物を多量含む)  
 4: 褐色シルト質粘土 (大粒の炭化物を若干含む)
- EP10  
 1: 暗褐色シルト質粘土 (微細炭化物を若干含む)  
 2: 褐色シルト質粘土  
 3: 暗褐色シルト質粘土 (炭化物を若干含む)
- EP13  
 1: 暗褐色シルト質粘土 (炭化物、焼土粒を含む)  
 2: 明褐色粘土 (地山崩壊土)  
 3: 暗褐色粘土質シルト (微細炭化物を若干含む)  
 4: 褐色粘土 (焼土粒を若干含む)

- ST1  
 1: 極暗褐色シルト質粘土 (炭化物、焼土粒を含む。比較的やわらかい)  
 2: 褐色シルト質粘土 (焼土粒、炭化物を若干含む。地山よりやや暗い)
- EL  
 1: 暗褐色粘土質シルト (焼土粒、炭化物を多量含む)  
 2: 褐色シルト質粘土 (微細炭化物を若干含む)  
 3: 暗赤褐色シルト質粘土 (底が焼け面となる)

第102図 竜沢山遺跡遺構配置図、ST1平面図・断面図  
 -175-



第 103 図 竜沢山遺跡 ST2 平面図・断面図

以下、検出遺構と出土遺物の概要について略述する。

#### S T 1

15-1・2区で検出した一辺4m前後の不整な隅丸方形のプランをもつ竪穴住居跡である。住居内堆積土は2層に分かれ、床面は南西方向に若干の傾斜をもつ。

床面で径15~40cmのピットが27基検出された。このうち床面からの深さが30cm以上となるものはE P 1、4、5、7、9、10、12、14~18の12基であり、5、12は41cmを測る。

床面の南寄りに15個の河原石で形成された方形の石囲炉（E L）がある。内法で南北56cm、東西35cmの規模となり、堆積土は3層に分かれる。炉の底面は焼けており、特に北部の焼けが著しい。

住居北部の堆積土の1層からR P 1~3の3個体の縄文土器が出土したほか、堆積土の1層や床面から整理箱に2箱分の土器片が出土した（第105図1~106図30）。これらの多くは大木8a式から大木8b式の前段階のものとみられるが、27~30は晩期大洞B C式の土器片である。このことから、中期の住居を切るピット等の存在が考え得るが、現地調査の段階では認識できなかった。E P 2、6、8、10、11、12の各ピットから出土した土器は何れも中期の所産であった。

第107図1~7、9、10はS T 1の堆積土1層やピット内から出土した石器である。1~5は石鏃、6は筥状石器の折損品である。7は両面加工の尖頭器、9は小形の磨製石斧、10は磨製石斧の刃部資料である。他に2点の削器と33点の剥片がある。打製石器の石材は2、6がメノウの他は頁岩で、削器、剥片も4点がメノウの他は頁岩となっている。

#### S T 2

13・14-1・2区で検出した南東側に張り出しをもつ隅丸長方形の竪穴住居跡である。西辺が約3.5m、南辺が約2.5mを測る。検出した壁の高さは5cm程度と浅い。住居内堆積土は2層に分かれ、床面は西側に傾斜している。

床面で19基のピットが検出された。床面からの深さはE P 2が33cm、E P 3が32cm、E P 5が27cm、E P 6が29cm、E P 7が28cmを測るが、その他は7~22cmと浅い。

床面の南西寄りに南北35cm、東西25cmの焼け面が検出された。地床炉と考えられる。なお、この地床炉を切るピットもあることから、床面で検出されたピットには住居廃絶後のものもあると考えられる。

南東側の床面直上でR P 11として登録した深鉢1個体が出土し、住居内堆積土からポリ袋1個分の土器片が出土した（第106図31~36）。文様のある土器は大木7b式から大木8a式の特徴を有している。従ってS T 1より古い時期の住居跡とみることができる。

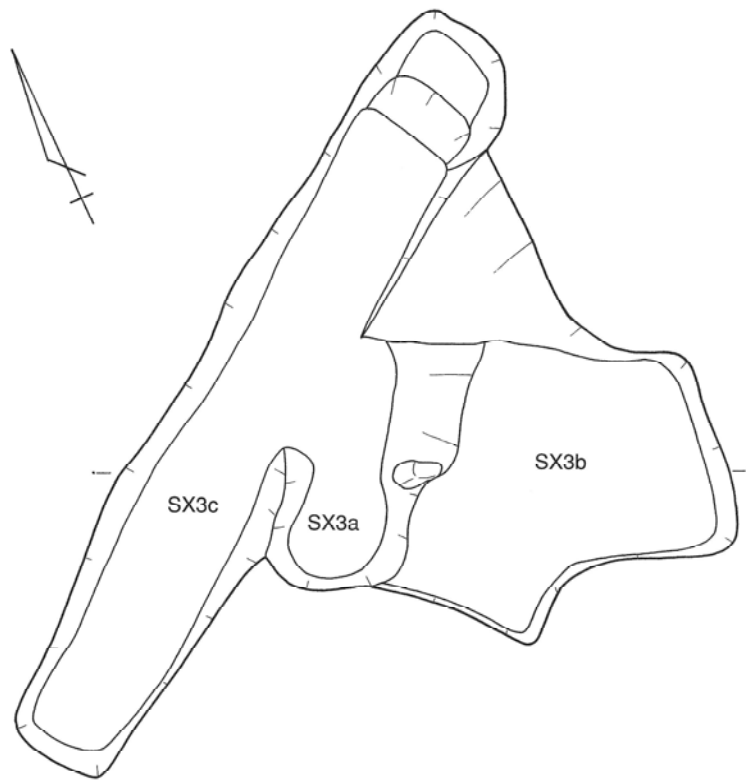
#### ピット群

200基あまりのピットの内S P 5から中期の、S P 6から晩期の土器片が出土している。

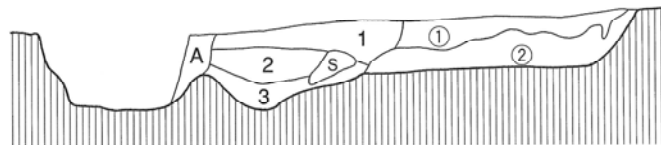
#### 落込み

調査区の東部でS X 3、4の2基の落込みが検出されている。出土した遺物は中期の縄文土器のみであるが時期が降る可能性がある。



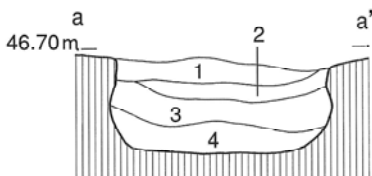
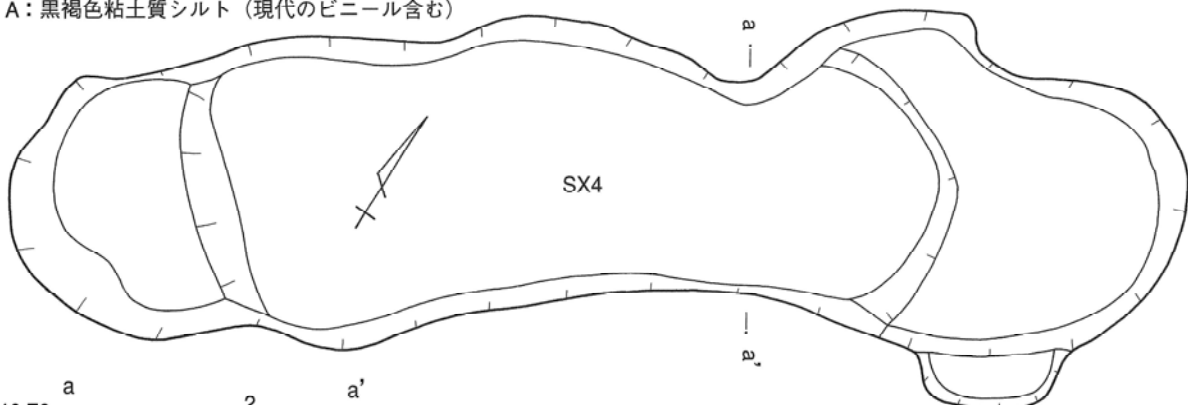


46.70m



SX3a・b・c

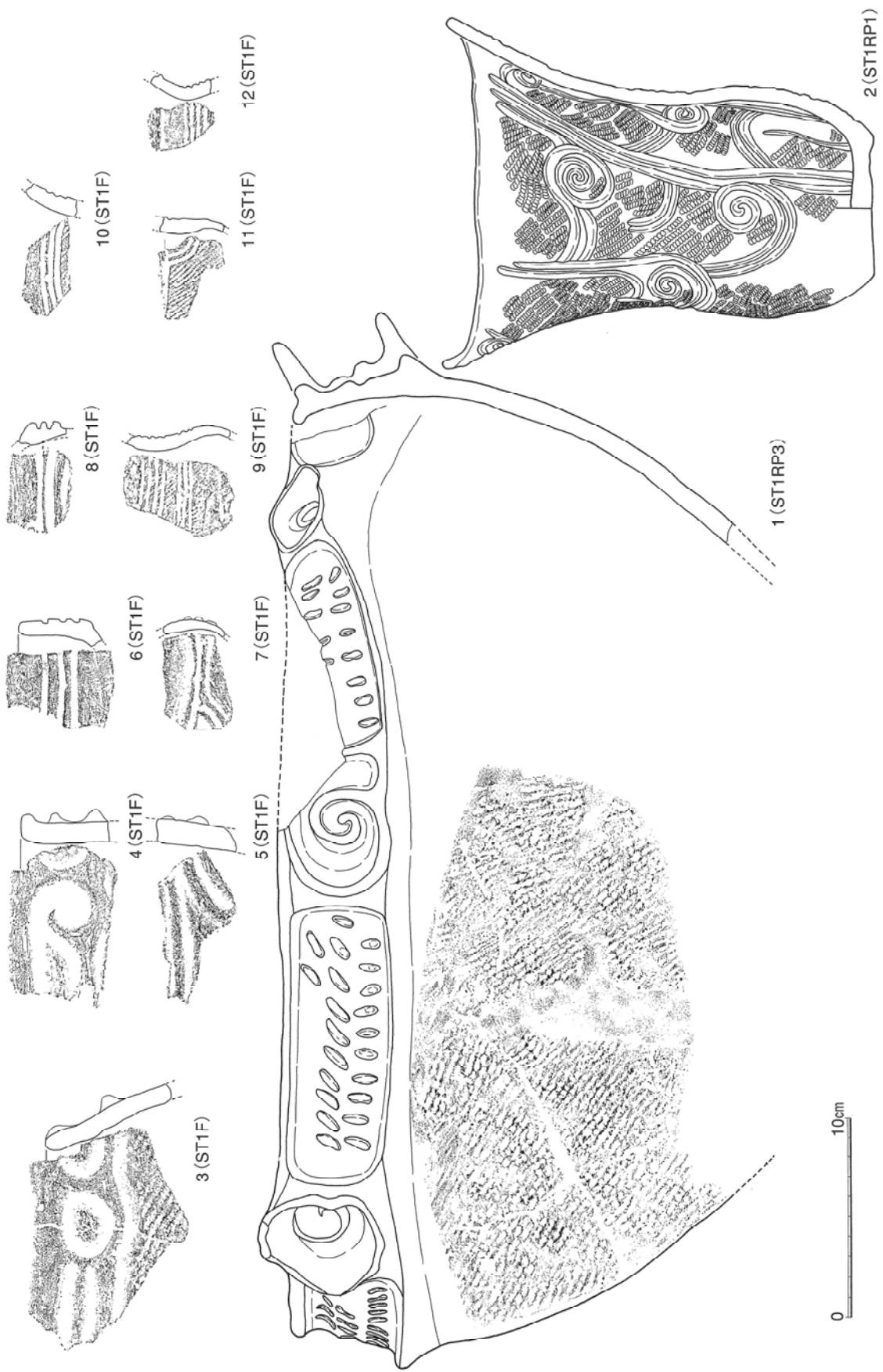
- 1: 極暗褐色シルト (微細炭化物を若干含む)
- 2: 黒褐色シルト (炭化物を多量に含む。地山粘土ブロックを多量霜降り状に含む)
- 3: 暗褐色粘土質シルト
- ①: 暗褐色粘土質シルト (褐色粘土の大ブロックと炭化物を多量に含む)
- ②: 褐色砂混じり粘土質シルト (炭化物を若干含む。地山よりやわらかい)
- A: 黒褐色粘土質シルト (現代のビニール含む)



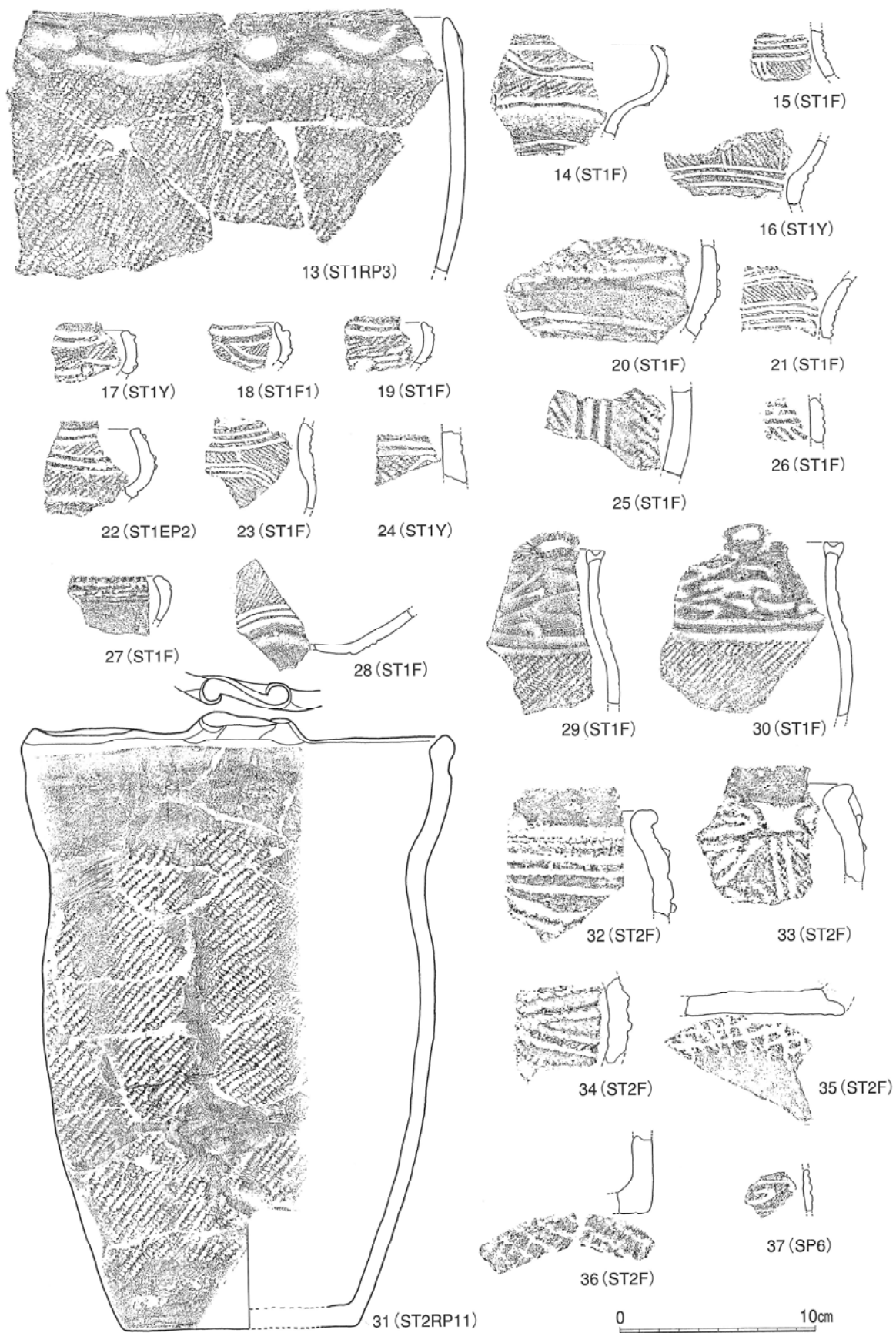
SX4

- 1: 黒褐色シルト
- 2: 暗褐色粘土質シルトと黄褐色粘土が斑状をなす
- 3: 黒褐色粘土質シルト (黄褐色粘土を霜降り状に含む)
- 4: 暗褐色粘土質シルトと褐色粘土質シルトが縞状となり、地山粘土ブロックも混じる

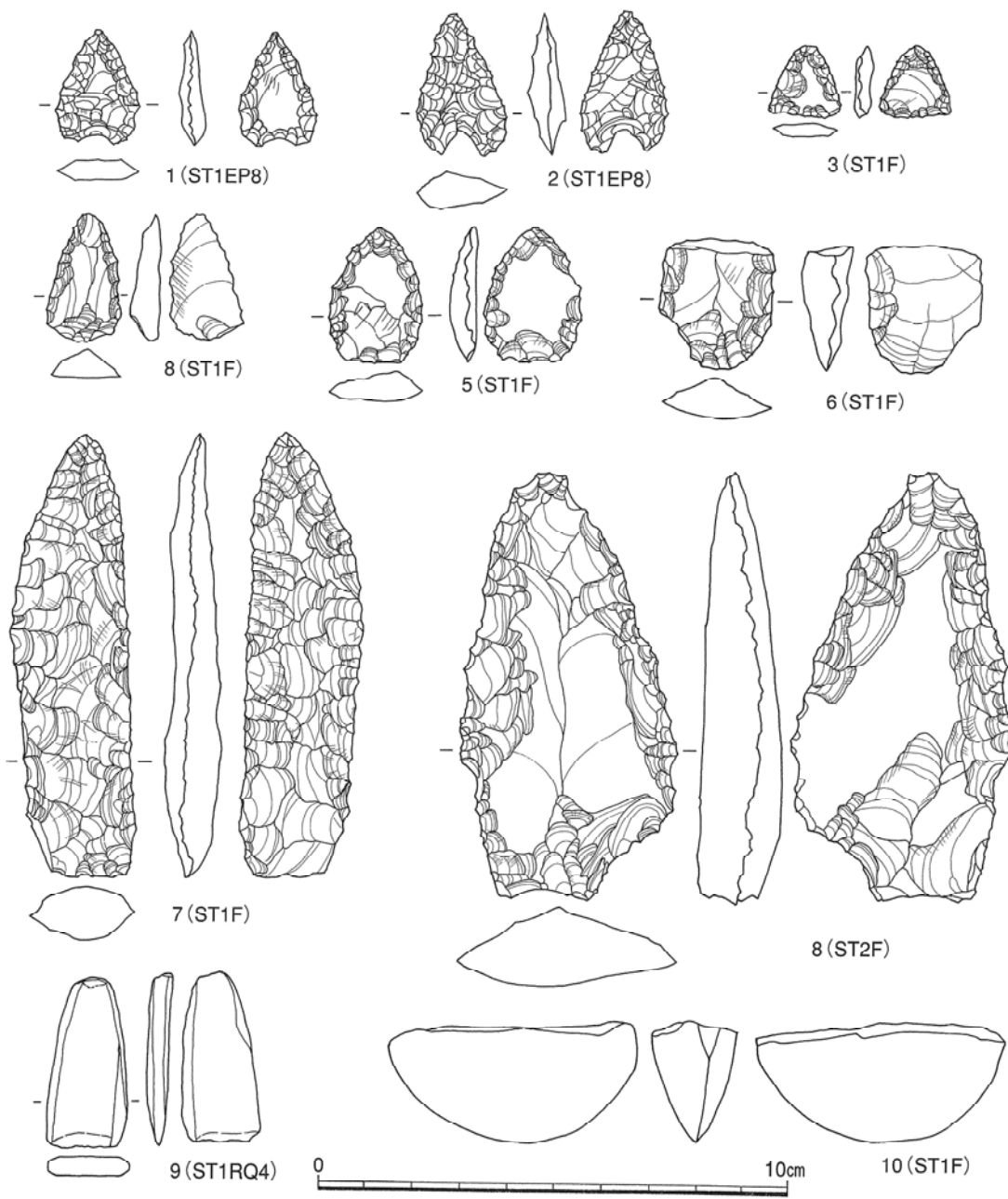
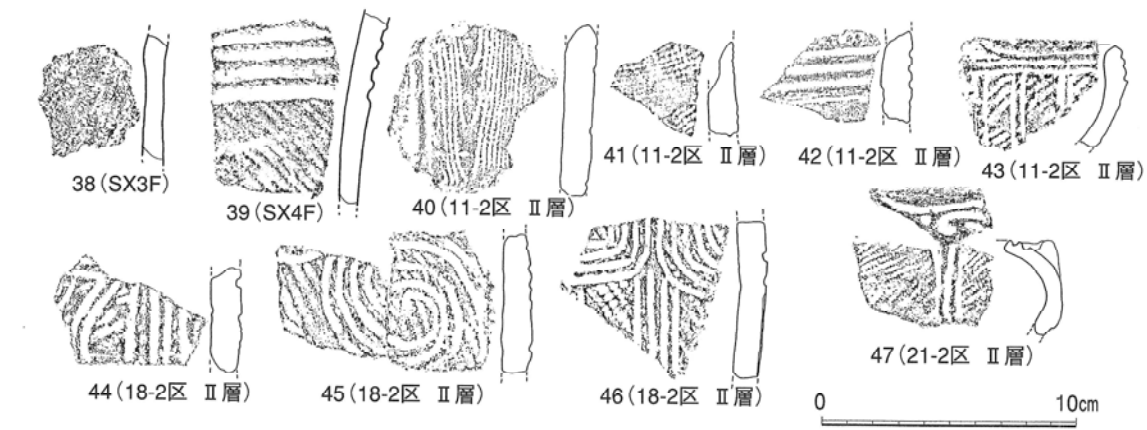
第 104 図 竜沢山遺跡落込み平面図・断面図



第 105 図 亀沢山遺跡出土遺物拓影・実測図 ( 1 )



第 106 図 竜沢山遺跡出土遺物拓影・実測図 (2)



第 107 図 竜沢山遺跡出土遺物拓影・実測図 (3)





調査前全景（北東から）



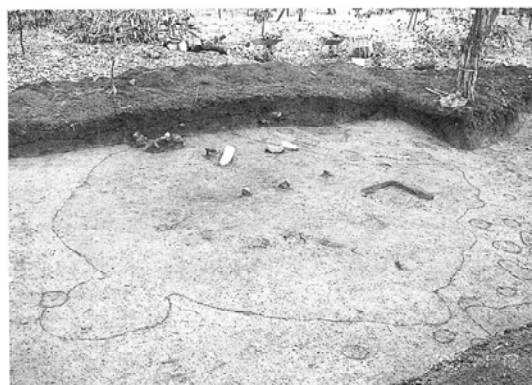
調査前全景（南西から）



調査区中央部遺構検出作業状況（北東から）



調査区西南端部遺構検出作業状況（北から）



ST1 検出状況（北から）



ST1 精査状況（北西から）



ST1 玉斧出土状況



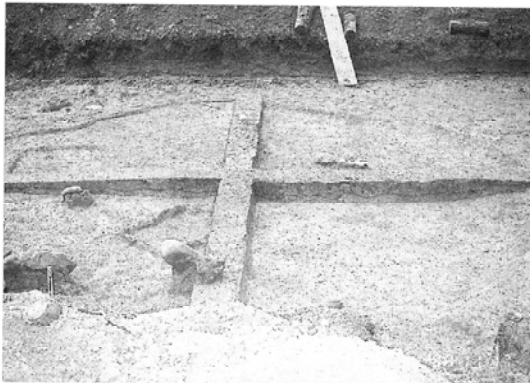
ST1 RP1 出土状況



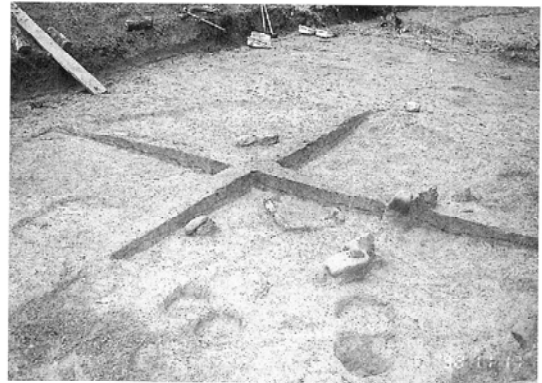
ST1 RP2 出土状況



ST1 RP2 出土状況



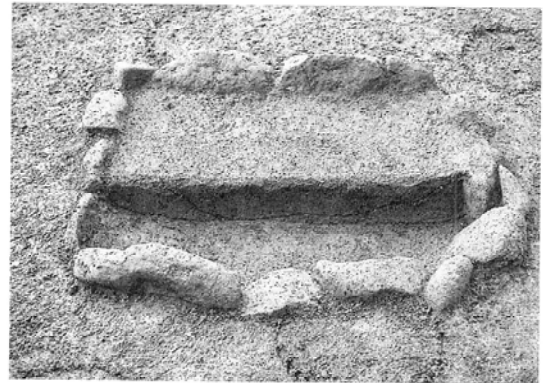
ST1 東西土層断面 (南東から)



ST1 土層断面 (南から)



ST1 床面検出状況 (北から)



ST1 EL 土層断面 (南東から)



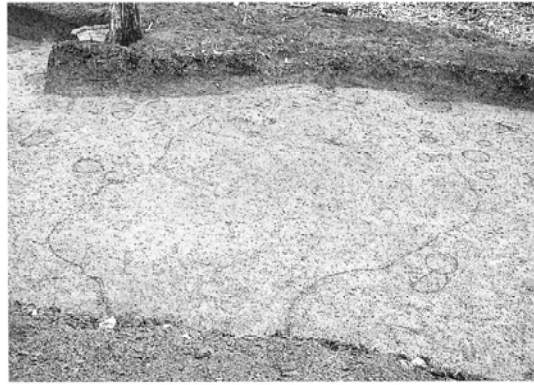
ST1 EL 全景 (南から)



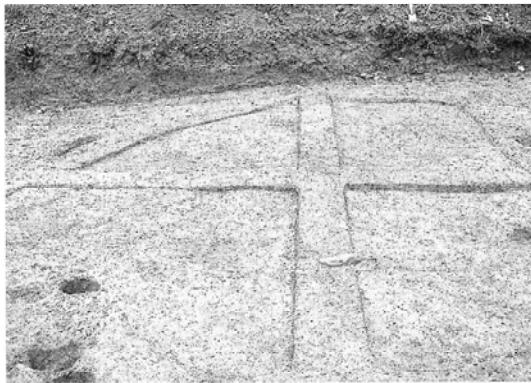
ST1 完掘全景 (北から)



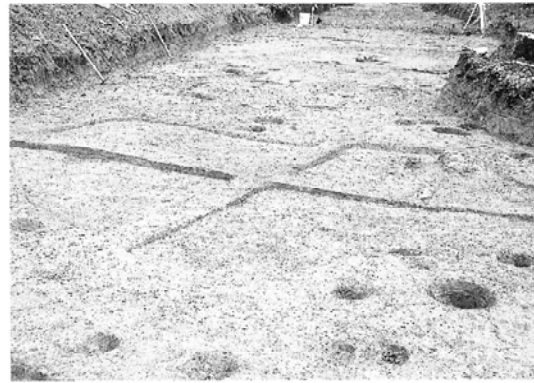
ST1 完掘全景（南から）



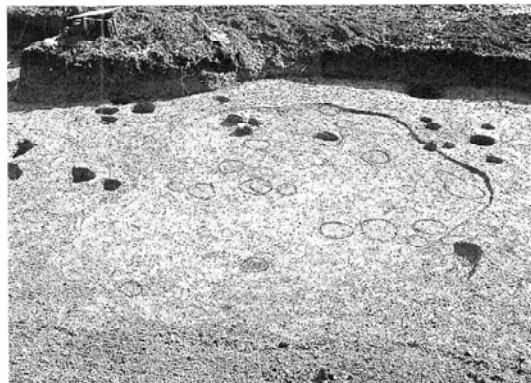
ST2 検出状況（北西から）



ST2 東西土層断面（南東から）



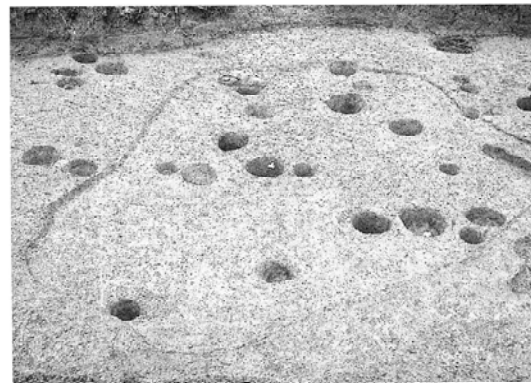
ST2 南北土層断面（南から）



ST2 床面検出状況（北から）



ST2 RP11出土状況

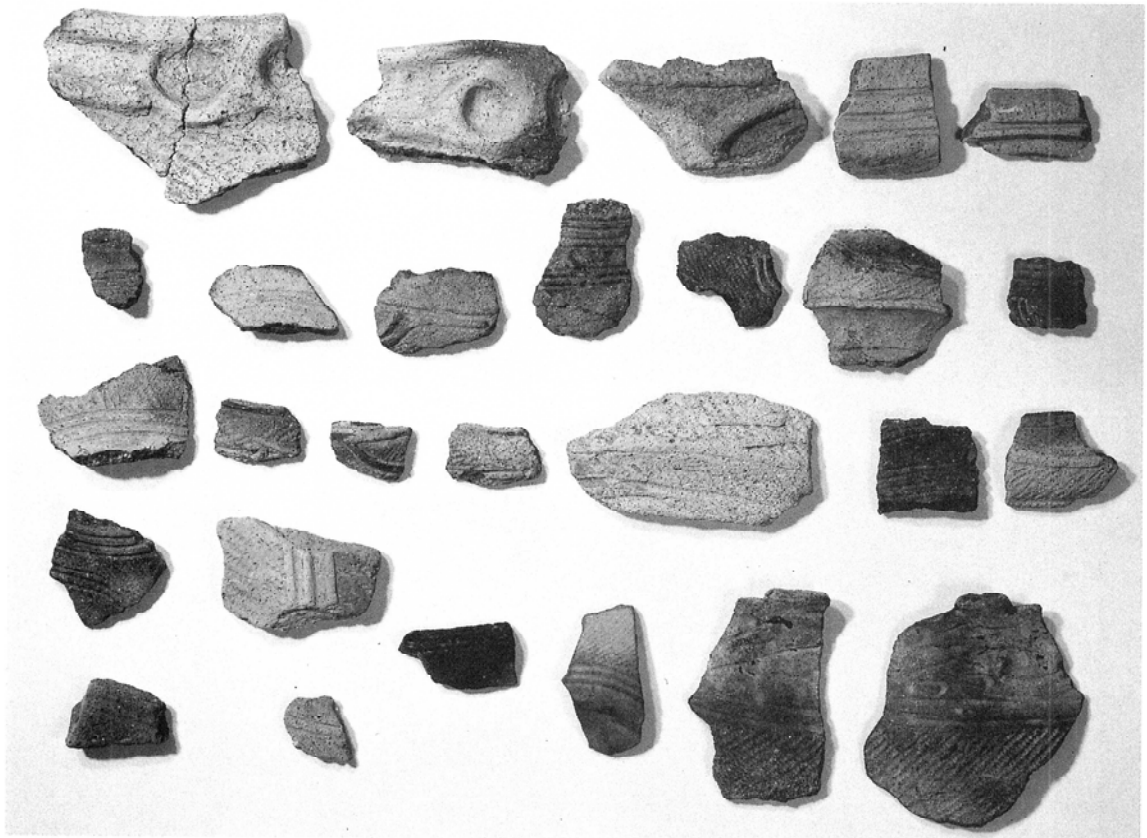


ST2 完掘全景（北から）

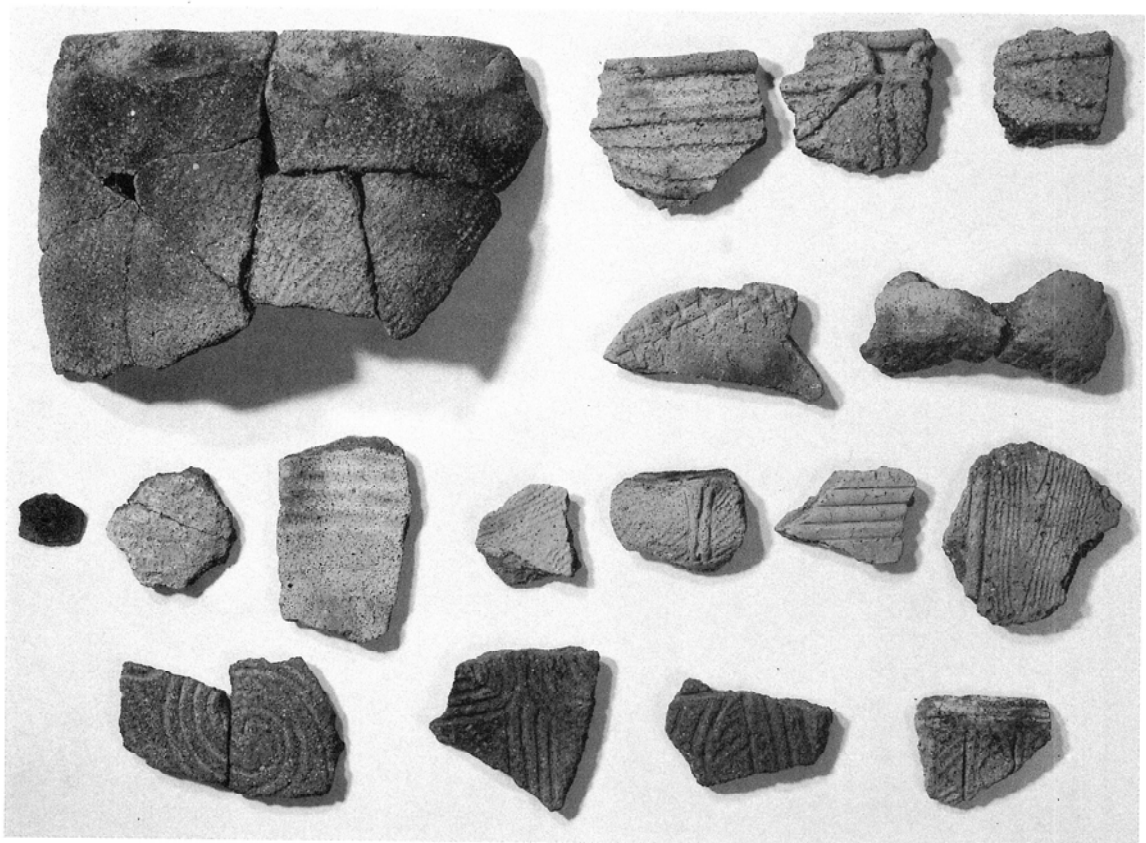


21・22-2区柱穴群検出状況（南から）





出土土器 (1) (1/3)



出土土器 (2) (1/3)





出土土器 (3) (2/7)



出土土器 (4) (約 1/3)



出土土器 (5) (2/5)



出土石器 (2/3)

うまのだい  
(4) 上ノ代1遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県上山市大字川口字上ノ代

調査員 渋谷孝雄

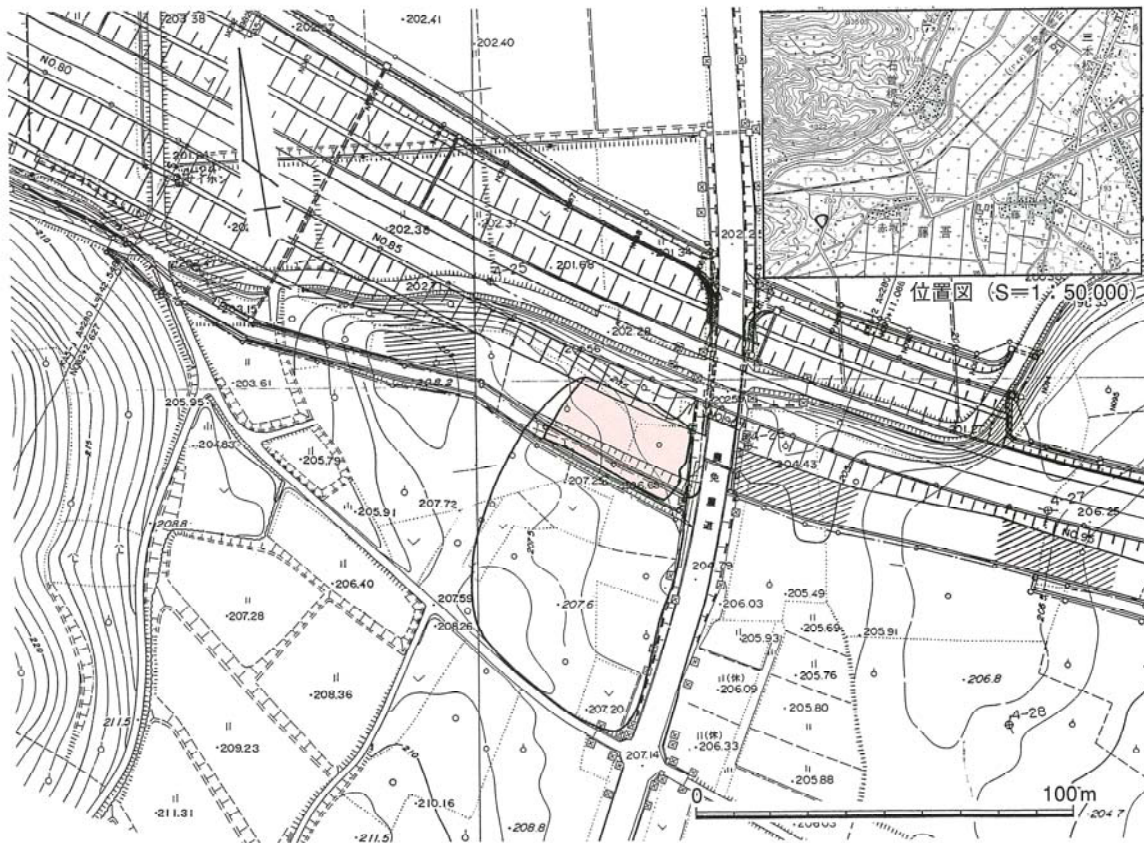
調査期日 平成10年9月10～28日 (11日間)

起因事業 国道13号上山バイパス建設工事

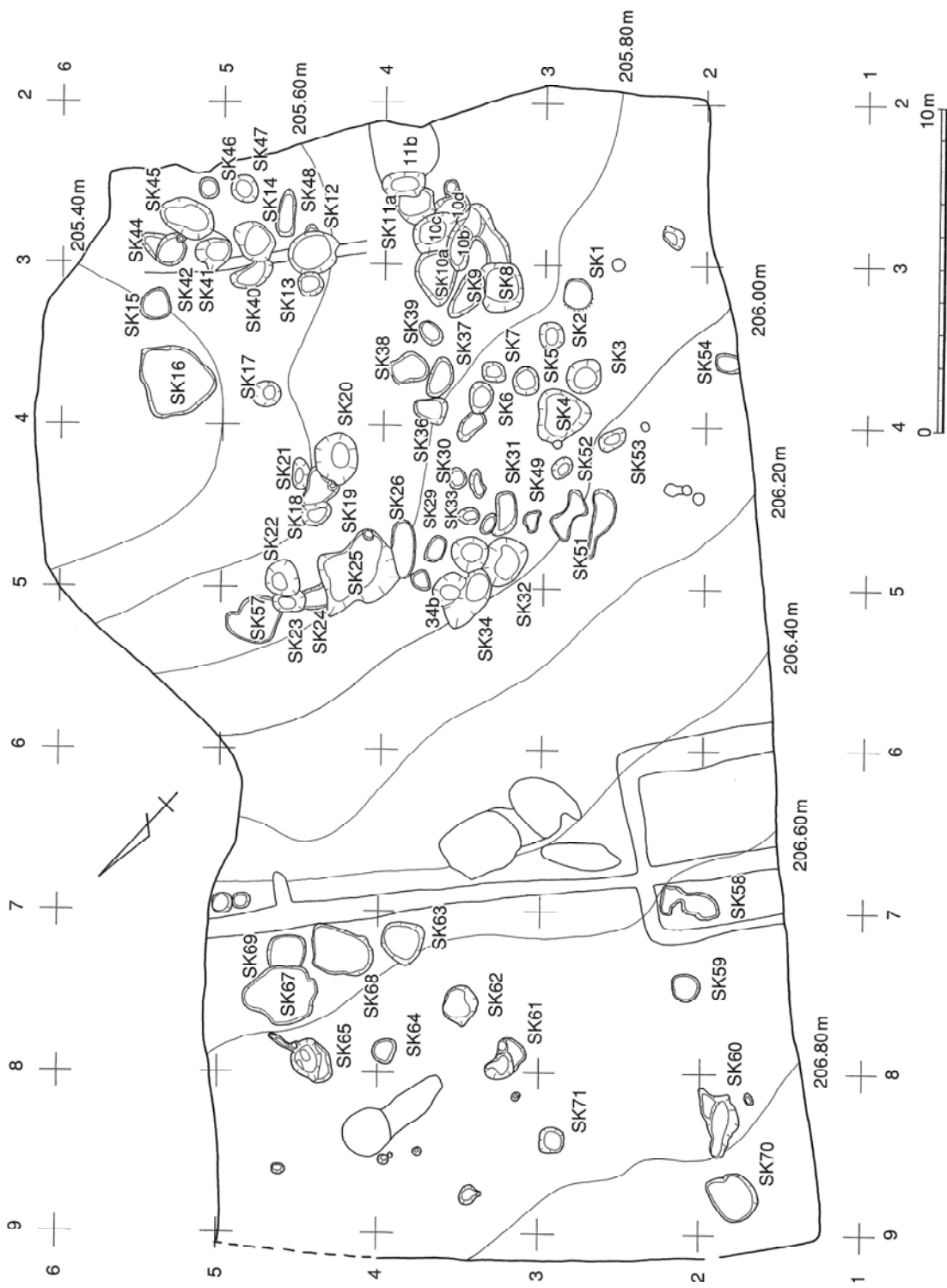
遺跡環境 遺跡はJR奥羽本線上山駅の南西約3.5kmに位置し、前川の形成した河岸段丘上に立地する。調査区付近の標高は206mを測る。地目は果樹園である。沢を挟んで本遺跡の東方150mの位置に縄文時代の上ノ代2遺跡が存在する。

調査状況 平成9年度の試掘調査の結果、事業予定地内にかかる遺跡範囲は800㎡弱で、浅い土坑の存在が確認できたが、遺物の量が極めて少ないこと等から、原因者から作業員と重機械の提供を受け、県教委直営で記録保存の調査を行う運びとなったものである。9月10・11日にバックホーで表土を除去し、引き続き面削りでの遺構確認作業に入り、検出した遺構の精査と断面図、平面図作成を行った。調査面積は約700㎡である。

調査結果 調査区の東部で密集する50基を越す土坑群が検出され、西部では散漫に分布する13基の土坑が検出された。これらの中で遺物が出土したものは極めて少なかったが、縄文時代早期末～前期初頭の土器や石器であり、遺構の年代も当該期のものとみて大きな誤りはないであろう。遺物は遺構検出作業時に出土した土器や石器を含めても、整理箱に1箱と少なかった。以下、検出した土坑と出土遺物についてその概要を略述する。







第109図 上ノ代1 遺跡遺構配置図



#### S K 1

3-2区で検出した。直径約90cmの円形の土坑で西側が袋状になる。底面はほぼ平坦で堆積土は3層に分けられ、F1から頁岩製の碎片1点が出土している。

#### S K 2

3-2区で検出した。長径86cm、短径63cmの不整円形の土坑で底面に凹凸がある。全周で緩く立ち上がっている。堆積土は3層に分かれるが遺物の出土はない。

#### S K 3

3-2区で検出した。長径118cm、短径102cmの不整円形で中心部がやや深く、緩く立ち上がっている。堆積土は3層に分かれる。遺物の出土はない。

#### S K 4

3・4-2・3区で検出した。長軸156cm、短軸136cmの台形プランの土坑で底面にやや凹凸があり、南側で急な立ち上がりを示している。。堆積土は4層、遺物の出土はない。

#### S K 5

3-3区で検出した。長径86cm、短径80cmの不整円形の土坑で、中心部がやや深くなっており、南東側で急な立ち上がりを示す。堆積土は2層に分かれる。遺物の出土はない。

#### S K 6

3-3区で検出した。長径95cm、短径75cmの不整楕円形の土坑で底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分かれ、F1・2の各層から磨滅した縄文土器の細片が各1点出土した。

#### S K 7

3-3区で検出した。長径72cm、短径62cmの隅丸長方形の土坑である。遺物はない。

#### S K 8

3-3区で検出した。長軸150cm、短軸128cmの隅丸方形の土坑で北東側がS K 9に切られている。堆積土は1層であり、遺物の出土はない。

#### S K 9

3-3区で検出した。長軸156cm、短軸74cmの不整長楕円形のプランとなり、底面は凹凸が激しい。堆積土は2層に分かれるが、遺物の出土はない。

#### S K 10

2・3-3区で検出した4基の重複がある土坑である。10aは長径168cm、短径128cmの不整楕円形の土坑で10b・cの各土坑を切っている。F1から搔器が1点、底面から縄文土器片が1点出土している。10bは長径200cm以上、短径約70cmの不整な長楕円形のプランをもつ。重複する各土坑に切られており、北半部分が1段深くなる。堆積土は6層に分けられるが遺物は出土していない。10cは長径150cm、短径115cmの不整楕円形の土坑で10b・dを切っている。10dは長径110cm、短径70cmの楕円形のプランをもつ。10bを切り、10cに切られている。両者とも遺物の出土はない。

#### S K 11

2-3区で検出した2基が重複する土坑である。新しい11は長径115cm、短径94cmの不

整楕円形の土坑で中央部が深い鍋底状の底面をもつ。11 b は長径132cm、短径約80cmの楕円形の土坑である。11の堆積土は3層、11 b は4層に分かれるが両者とも遺物の出土はない。

#### S K 12、13

2・3-4で検出した。12が13を切り、両者とも近年の溝跡に切られている。12は長径約170cm、短径130cmの楕円形の土坑でほぼ平坦な底面となる。堆積土は5層に分かれ、底面から大形の剥片が2点出土している。径75cmの略円形の土坑で、4層に分かれるが遺物の出土はない。

#### S K 14、40

2・3-4区で検出した。両者の接点が新しい溝に切られており、前後関係は捉えられていない。14は長軸135cm、短軸110cmの東に張り出す不整な隅丸方形のプランをもつ土坑で、確認面から底面まで40cmの深さを測る。堆積土は11層に分かれ、F 3から縄文土器片が出土している（第118図1）。40は長径約140cm、短径約70cmの楕円形の土坑で堆積土は4層に分かれるが遺物の出土はない。

#### S K 15

3-5区で検出した。径96cmの不整円形の土坑で底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分かれるが遺物の出土はない。

#### S K 16

3-5区で検出した2基の重複がある土坑である。16は径75~90cmの略円形の土坑で堆積土は3層に分かれる。16 b は16に切られる一辺200~215cmの隅丸方形の土坑で底面はやや凹凸がある。堆積土は5層に分かれるが遺物の出土はない。

#### S K 17

3-4区で検出した。長径86cm、短径75cmの楕円形プランで鍋底状の底面となる。堆積土は3層に分かれるが遺物の出土はない。

#### S K 18、19、20、21

4-4区で検出した4基の重複がある土坑である。新しい順にS K 18、19、20・21となり、20、21は両者とも19に切られるが重複はない。18は長径88cm、短径56cmの不整楕円形のプランとなり、堆積土は2層に分かれる。19は長径約120cm、短径約90cmの不整楕円形、堆積土は3層に分かれる。20は長径約160cm、短径130cmの略円形の土坑で確認面から底面まで51cmの深さがあり、南側で急な立ち上がりを示す。21は長径96cm、短径51cmの土坑で堆積土は3層に分かれる。4基とも遺物の出土はない。

#### S K 22、23

4・5-4区で検出した。23が22を切っている。22は径120~110cmの略円形の土坑で尖底状の底面から北側で急に、他は緩やかに立ち上がっている。堆積土は3層に分かれる。23は長径102cm、短径76cmの東に張り出す楕円形の土坑で鍋底状の底面となる。堆積土は4層に分かれる。両者とも遺物の出土はない。

#### S K 24、25、26

4・5-3・4区で検出した3基の重複がある土坑である。24は長径290cm、短径150cmの不整楕円形のプランをもつ。底面はやや凹凸があり堆積土は2層に分かれる。25は24に大きく切られており規模は不明である。堆積土は3層に分かれる。24・25とも遺物の出土はない。26は長径186cm、短径82cmの楕円形プランの浅い土坑で、剥片が1点出土している。

S K 30

4-3区で検出した長径62cm、短径54cmの小規模な土坑である。遺物の出土はない。

S K 31

4-3区で検出した長径136cm、短径64cmの不整楕円形の土坑である。底面は平坦、堆積土は2層に分かれるが遺物の出土はない。

S K 32、33、34、34 b

4・5-3区で検出した4基の重複する土坑である。34が各土坑を切っており、33が32を切っている。32は長径154cm、短径122cmの楕円形の土坑で確認面からの深さは22cmを測り、堆積土は3層に分かれる。F 1から剥片3点と碎片1点が出土した。33は径115~108cmの略円形のプランをもち、底面はほぼ平坦となる。堆積土は3層に分かれるが遺物の出土はない。34は長径188cm、短径98cmの楕円形プランの土坑で確認面からの深さは42cmと深い。底面は南側に偏っており、北側で緩やかに、他は急激な立ち上がりを示す。堆積土は3層に分かれF 3から剥片が2点出土した。34 bは径104cm程の円形プランになるとみられる土坑で確認面からの深さは35cmを測る。遺物の出土はない。

S K 35

3-3区で検出した。長径110cm、短径60cmの楕円形プランとなり、S K 36に切られる。底面は平坦で堆積土は2層に分かれる。遺物の出土はない。

S K 36

3-3区で検出した。長径99cm、短径70cmの土坑で底面はやや凹凸がある。堆積土は3層に分かれる。遺物の出土はない。

S K 37

3-3区で検出した。長径112cm、短径70cmの不整楕円形の土坑で底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分かれる。遺物の出土はない。

S K 38

3-3区で検出した。長径118cm、短径88cmの不整楕円形の土坑で、確認面からの深さは6cmと浅い。堆積土は2層に分かれる。遺物の出土はない。

S K 39

3-3区で検出した。長径88cm、短径60cmの楕円形プランの土坑である。堆積土は2層に分かれる。遺物の出土はない。

S K 41、42

2・3-4・5区で検出した重複する土坑である。42が41を切っている。41は長径112cm、短径100cmの楕円形プランとなり、確認面からの深さは30cmとなる。堆積土は4層に分かれる。42は長径172cm、短径112cmの楕円形プランで、堆積土は5層に分かれる。

41・42とも遺物の出土はない。

S K 43、44

2-5区で検出した重複する土坑である。43が44を切っている。43は長径108cm、短径90cmの楕円形プランとなり、深さは9cmと浅い。44は長径70cm以上、短径70cmで深さは8cmを測る。両者とも遺物の出土はない。

S K 46

2-5区で検出した。径62~68cmの略円形の土坑で確認面からの深さは8cmと浅い。遺物の出土はない。

S K 47

2-4区で検出した。長径90cm、短径70cmの楕円形プランの土坑で堆積土は2層に分かれる。遺物の出土はない。

S K 48

2-4区で検出した。長径144cm、短径52cmの長楕円形の土坑で、遺物の出土はない。

S K 49

4-3区で検出した。長軸64cm、短軸45cm、深さ5cmの土坑で、遺物の出土はない。

S K 51

4-2区で検出した。長軸212cm、短軸64cm、深さ10cmの土坑である。堆積土は2層に分かれる。遺物の出土はない。

S K 52

4-2区で検出した。長径75cm、短径55cmの楕円形プランで鍋底状を呈する土坑である。堆積土は3層に分かれるが遺物の出土はない。

S K 53

3-2区で検出した。長径95cm、短径53cmの楕円形プランの土坑である。堆積土は2層に分かれる。遺物の出土はない。

S K 54

3-1区で検出した。長径80cm、短径59cmの楕円形の土坑である。遺物の出土はない。

S K 57

5-4区で検出した。長径156cm、短径131cmの北東側に張り出す楕円形プランの土坑でS K 23に切られている。堆積土は2層に分かれる。遺物の出土はない。

S K 58

6・7-1・2区で検出した。長軸192cm、短軸68cmの出入りの大きな不整形の土坑である。堆積土は3層に分かれる。F 1から縄文条痕文土器（第118図2）が出土している。

S K 59

7-2区で検出した。長径88cm、短径77cmの略円形の土坑で確認面からの深さは30cmを測る。底面は平坦で、全周で急な立ち上がりを示す。堆積土は3層に分かれ、F 1から羽状縄文の施された土器が出土している。



S K 60

8-1区で検出した。長軸201cm、短軸96cm、最深部で36cmの土坑で遺物の出土はない。

S K 61

7・8-3区で検出した。長軸141cm、短軸74cmを測り、底面に凹凸のある土坑である。堆積土は2層に分かれる。F1から2にかけて組み紐や羽状縄文の土器が10点と剥片が1点出土している（第118図4～9）。

S K 62

7-3区で検出した。長辺114cm、短辺105cmの土坑である。底面は凹凸があり、堆積土は4層に分かれる。遺物の出土はない。

S K 63

7-3区で検出した。長軸132cm、短軸124cmの隅丸方形の土坑で、遺物の出土はない。

S K 64

7-3・4区で検出した。長径80cm、短径67cmの楕円形の土坑で、遺物の出土はない。

S K 65

7・8-4区で検出した。長径140cm、短径106cm、最深部で22cmとなる。堆積土は3層に分かれ、礫が伴う。F1から縄文条痕土器や斜行縄文の施された繊維土器が40点と縦長剥片が2点出土した（第118図10～第119図28）。

S K 67、69

7-4で検出した重複する土坑である。67が69を切る。67は長径240cm、短径180cmを測り、底面には凹凸があり、堆積土は3層に分かれる。69は一辺115cm前後の隅丸方形のプランとなり、底面は平坦、堆積土は1層である。両者とも遺物の出土はない。

S K 68

7-4区で検出した。径121～132cmを測る不整形の土坑で堆積土は2層に分かれる。遺物の出土はない。

S K 70

8-1区で検出した。長軸152cm、短軸127cm、深さ22cmを測る。遺物の出土はない。

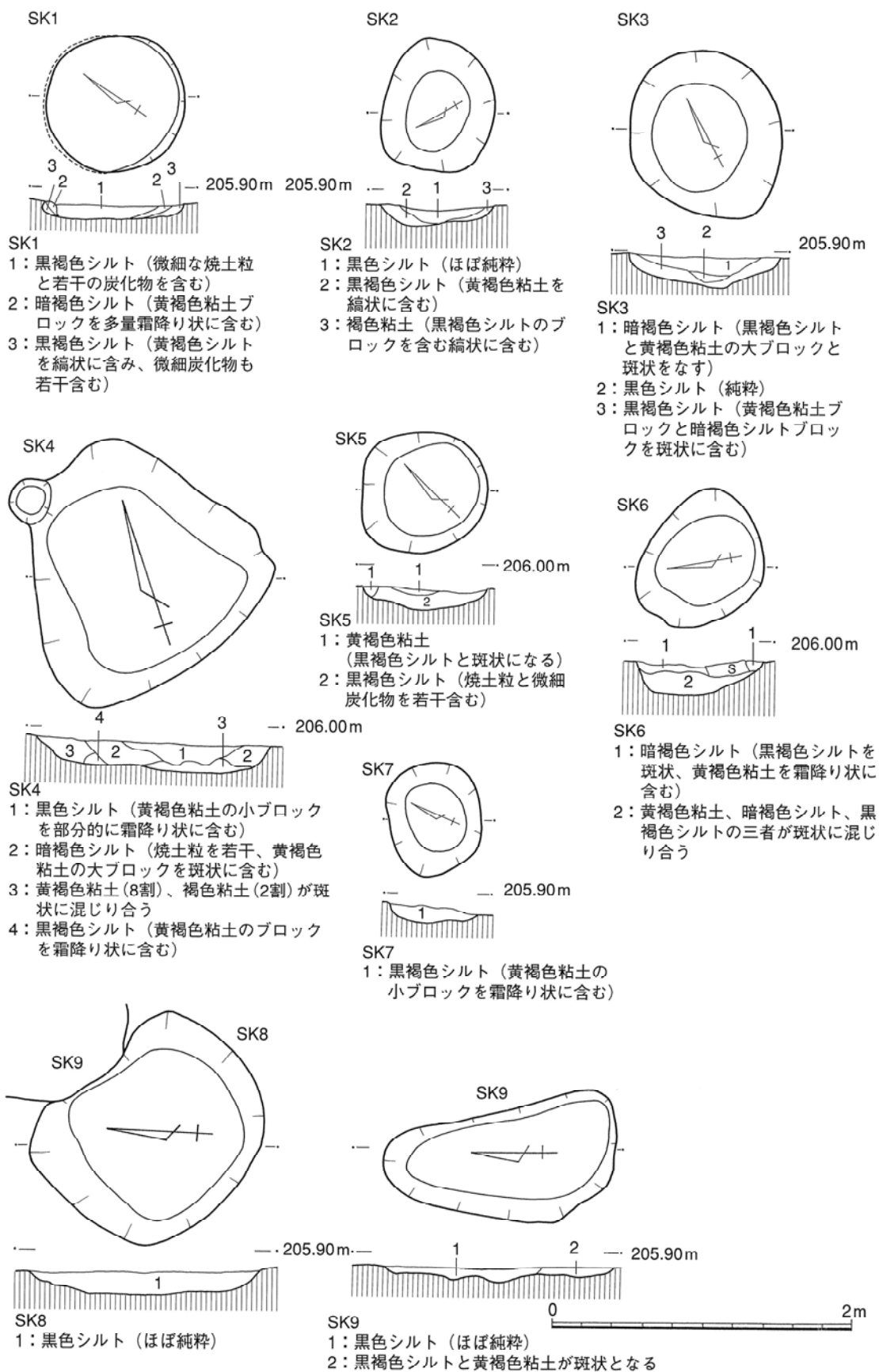
S K 71

8-2区で検出した。長軸80cm、短軸74cm、深さ22cmを測る。遺物の出土はない。

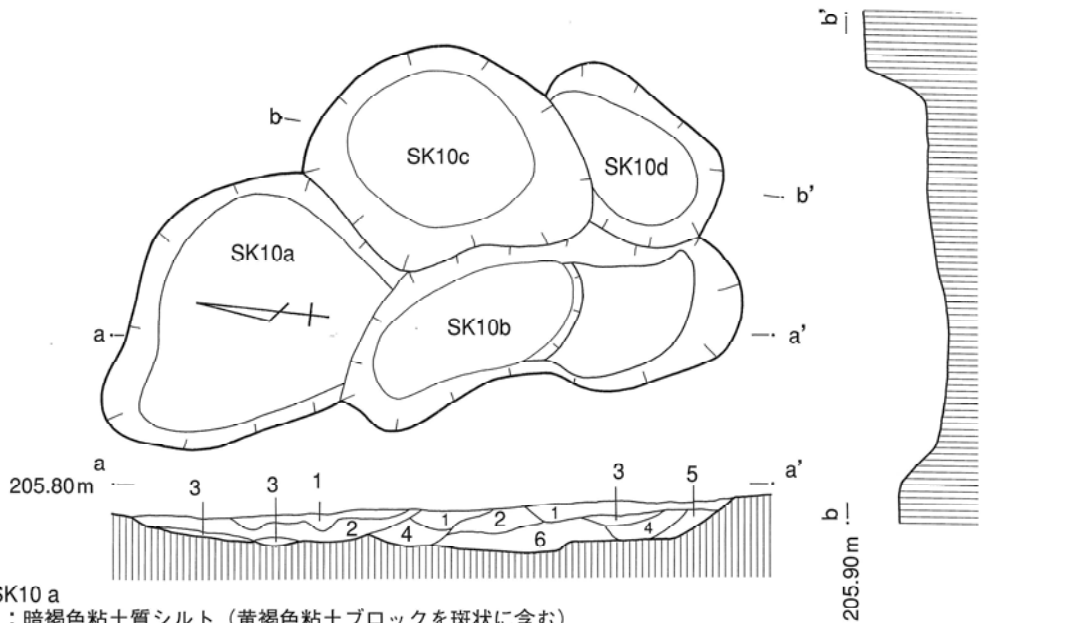
遺構外出土の遺物

第119図29から第120図49に遺構検出作業中に出土した遺物を示した。出土位置はその大半が調査区西部の土坑群の周辺である。土器片には何れも繊維が含まれており、縄文条痕文、組み紐、斜行縄文、ループ文が施される。49は縦形の石匙である。

調査のまとめ 本遺跡は山形盆地の南端に位置する縄文時代早期末から前期初頭の集落跡である。今回の調査区では当該期の土坑が68基検出された。堆積土の状況から、大半の土坑は自然堆積によって埋没したものと考えられ、墓の可能性は否定できよう。



第 110 図 上ノ代 1 遺跡検出遺構平面・断面図 (1)

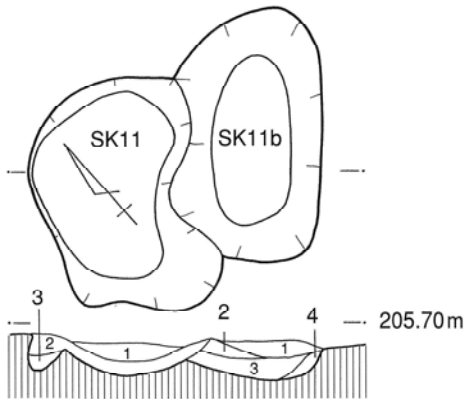


SK10 a

- 1: 暗褐色粘土質シルト (黄褐色粘土ブロックを斑状に含む)
- 2: 黒色シルト (黄褐色粘土ブロックを若干含む)
- 3: 黄褐色粘土 (黒色シルトブロックを含む)

SK10b

- 1: 暗褐色シルト
- 2: 黒褐色シルト (黄褐色粘土ブロックを霜降り状に含む)
- 3: 黄褐色粘土 (暗褐色粘土質シルトと斑状をなす)
- 4: 黒褐色粘土質シルト (暗褐色シルトと斑状をなす)
- 5: 黒色シルト (黄褐色粘土の小ブロックを含む)
- 6: 暗褐色粘土質シルト
- 7: 黄褐色粘土 (暗褐色粘土を霜降り状に含む)

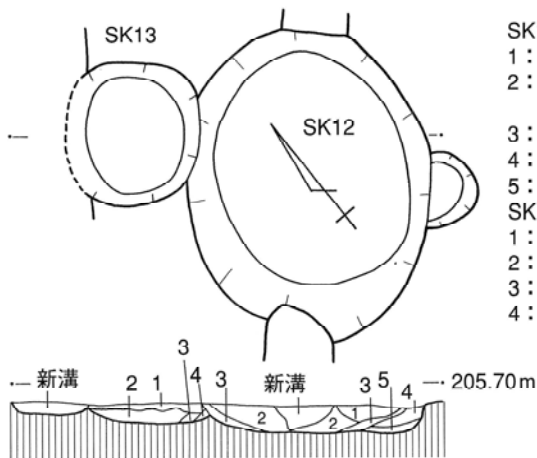


SK11

- 1: 黒褐色シルト (黄褐色粘土ブロックを若干含む)
- 2: 黄褐色粘土 (褐色粘土、黒色シルトを縞状に含む)
- 3: 黒色シルト (ほぼ純粋)

SK11b

- 1: 暗褐色シルト質粘土
- 2: 暗褐色シルト (黄褐色粘土を霜降り状に含む)
- 3: 黒色シルト (黄褐色粘土ブロックを若干含む)
- 4: 黄褐色粘土と褐色粘土が斑状をなす

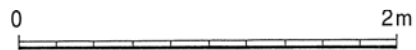


SK12

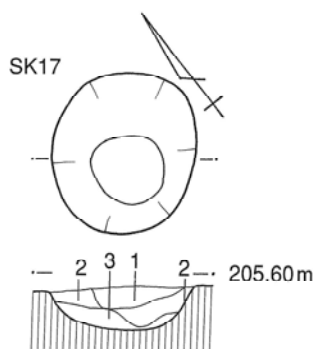
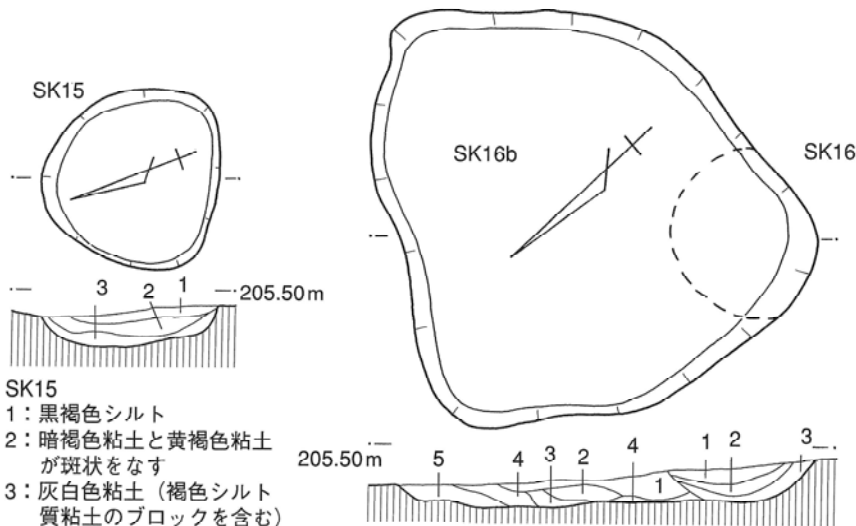
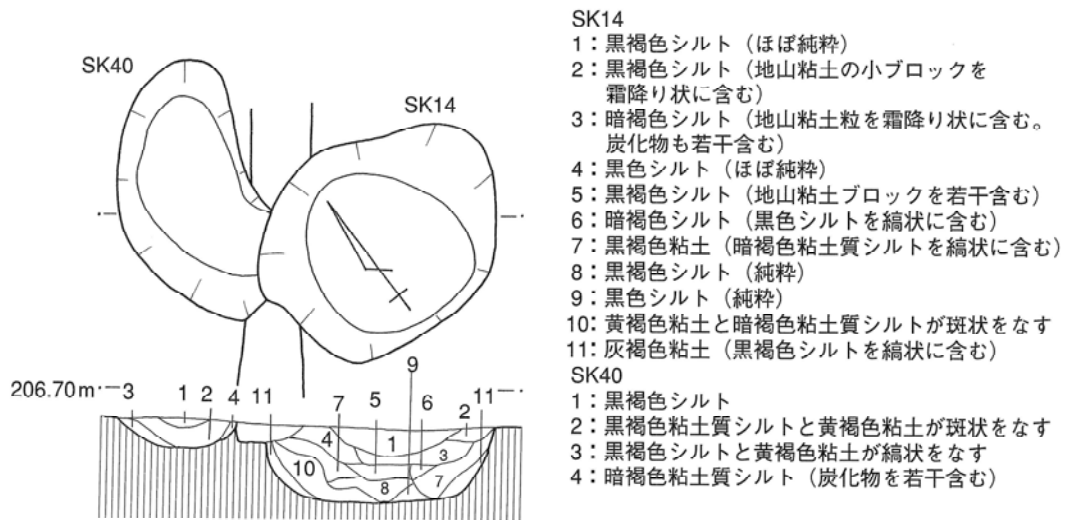
- 1: 暗褐色粘土質シルト (地山ブロックを含む)
- 2: 黒褐色シルト (黄褐色シルト質粘土ブロックを若干含む)
- 3: 黒色シルト (ほぼ純粋)
- 4: 黄褐色粘土 (暗褐色粘土質シルトを縞状に含む)
- 5: 黒褐色粘土質シルト (地山ブロックを斑状に含む)

SK13

- 1: 黒褐色シルト (黄褐色粘土ブロックを含む)
- 2: 黄褐色粘土 (黒褐色粘土ブロックを若干含む)
- 3: 黒色シルト (ほぼ純粋)
- 4: 暗褐色粘土質シルト (黄褐色粘土ブロックを霜降り状に含む)

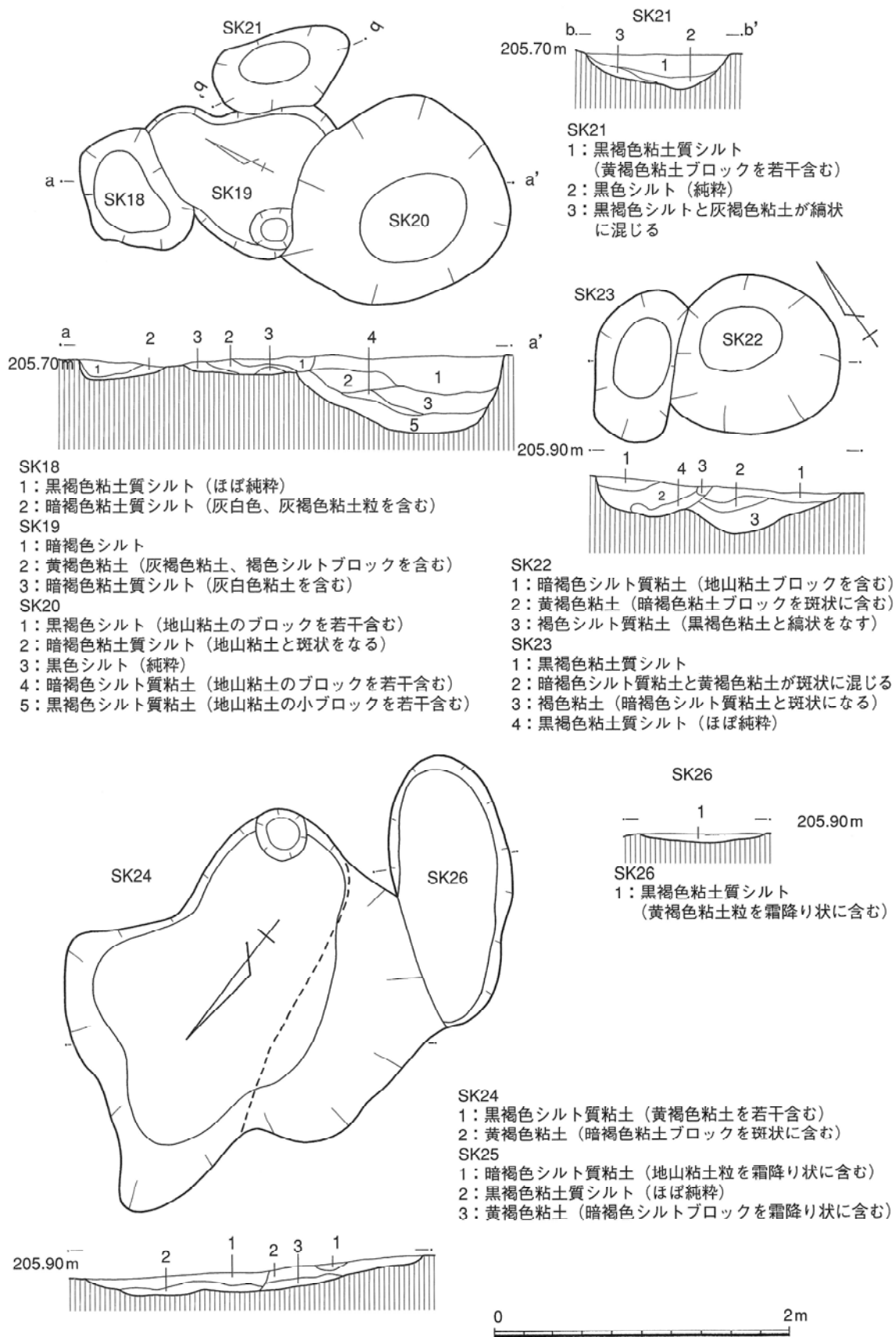


第111図 上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面図(2)

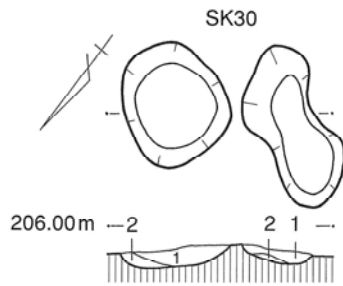


第 112 図 上ノ代 1 遺跡検出遺構平面・断面図 (3)

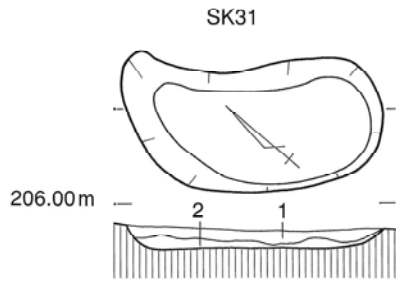




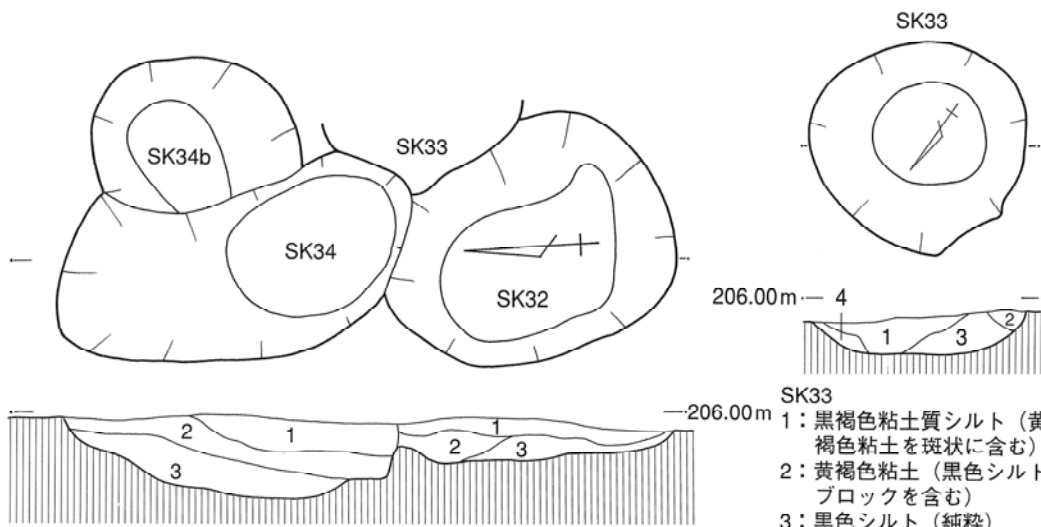
第113図 上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面図(4)



- SK30
- 1: 暗褐色シルト (地山粘土粒を霜降り状に含む)
  - 2: 黄褐色粘土 (暗褐色シルトブロックを含む)



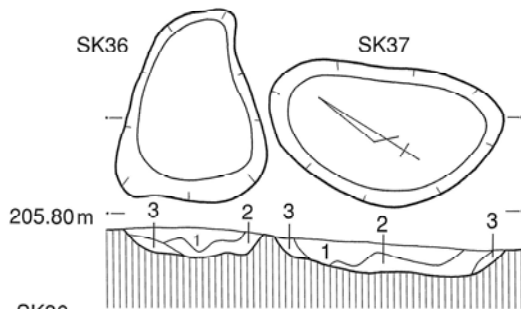
- SK31
- 1: 黒色粘土質シルト (黄褐色粘土の大ブロックを含む)
  - 2: 暗褐色シルト質粘土 (黄褐色粘土粒を霜降り状に含む)



- SK32
- 1: 黒褐色シルト (黄褐色粘土の大ブロックを若干含む)
  - 2: 黒色シルト (黄褐色粘土の大ブロックと斑状をなす)
  - 3: 黄褐色粘土 (暗褐色粘土質シルトの小ブロックを霜降り状に含む)

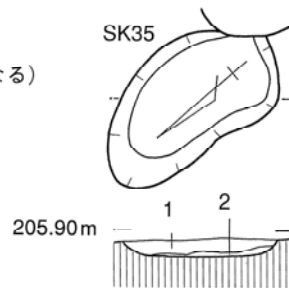
- SK34
- 1: 暗褐色粘土質シルト (地山粘土の大ブロックを若干含む)
  - 2: 黒色シルト (地山粘土の小ブロックをわずか含む)
  - 3: 暗褐色シルト質粘土 (黒褐色シルト、暗褐色シルト質粘土と縞状になる)

- SK33
- 1: 黒褐色粘土質シルト (黄褐色粘土を斑状に含む)
  - 2: 黄褐色粘土 (黒色シルトブロックを含む)
  - 3: 黒色シルト (純粋)
  - 4: 暗褐色シルト質粘土 (黄褐色粘土ブロックを含む)



- SK36
- 1: 暗褐色粘土質シルト
  - 2: 黄褐色粘土と灰褐色シルト質粘土が斑状となる
  - 3: 灰褐色シルト質粘土

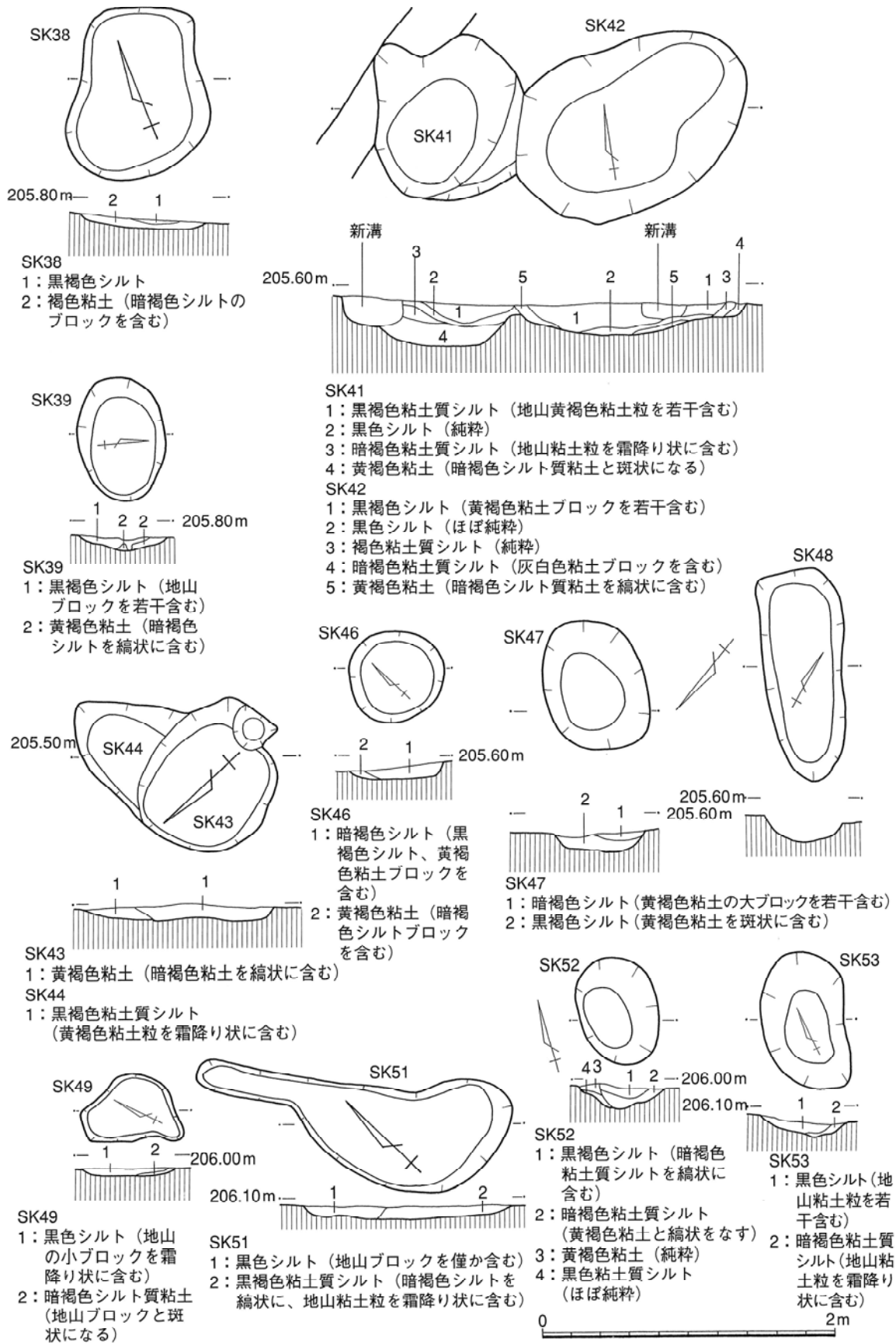
- SK37
- 1: 黒褐色シルト (黄褐色粘土の大ブロックを若干含む)
  - 2: 暗褐色粘土質シルト
  - 3: 黄褐色粘土 (灰白色粘土、暗褐色シルトと斑状をなす)



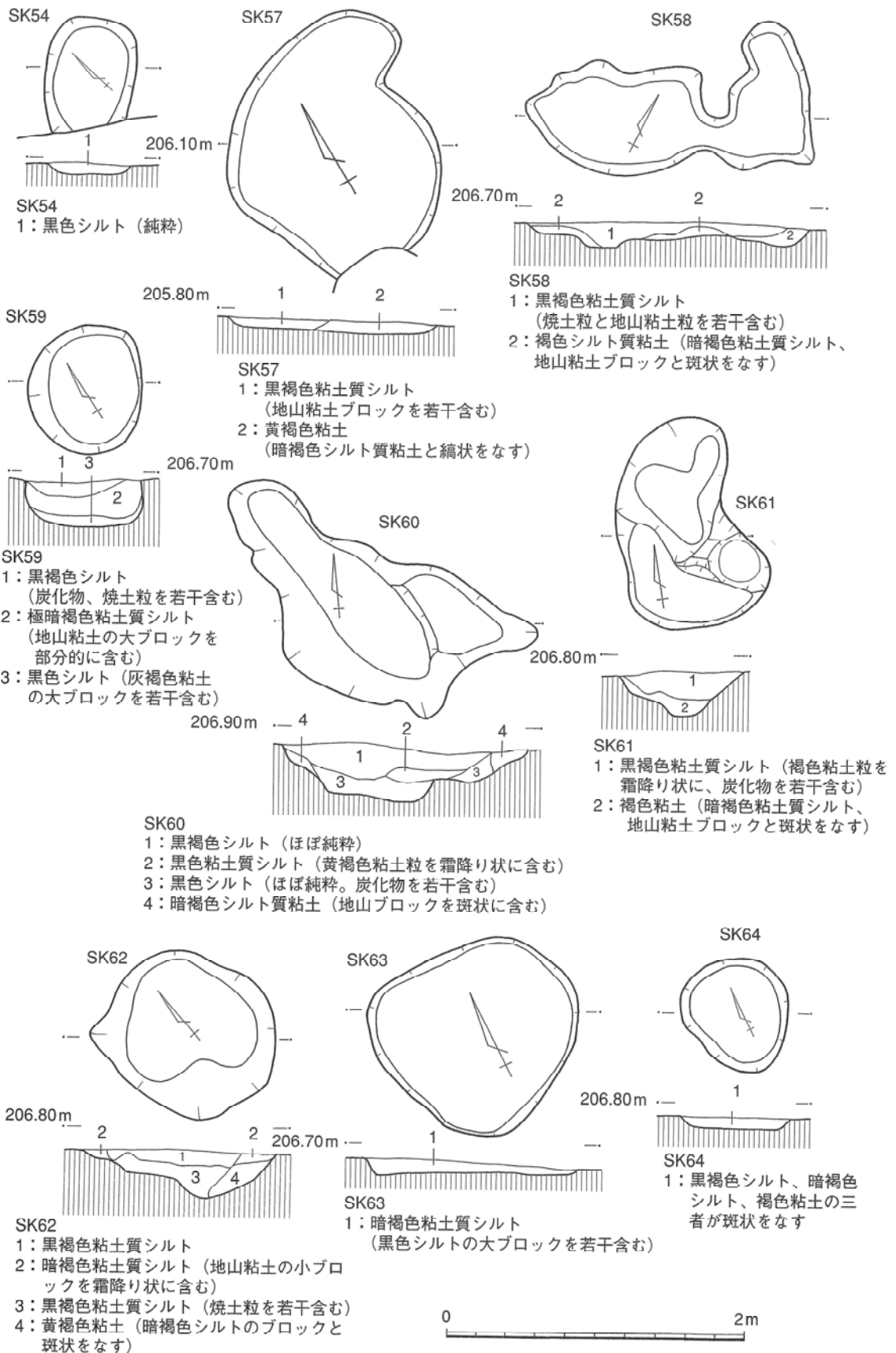
- SK35
- 1: 黒褐色シルト (地山粘土ブロックを含む)
  - 2: 黄褐色粘土 (暗褐色シルト粒を含む)



第 114 図 上ノ代 1 遺跡検出遺構平面・断面図 (5)

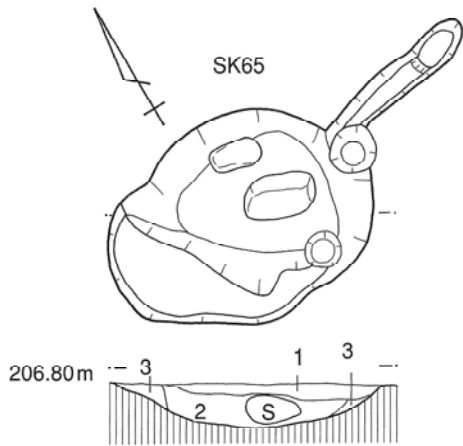


第115図 上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面図(6)

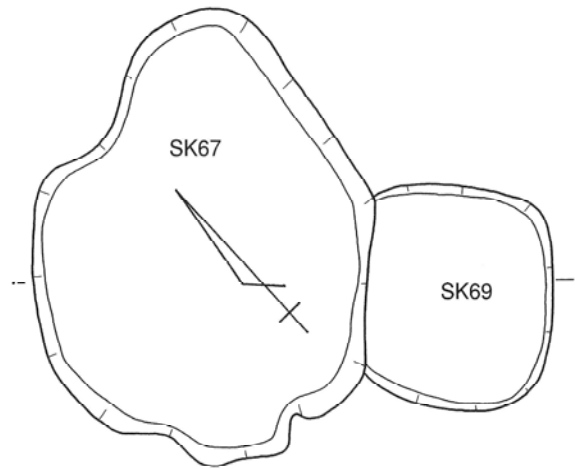


第116図 上ノ代1遺跡検出遺構平面・断面図(7)

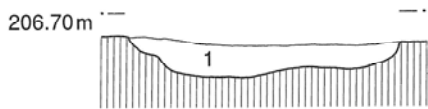
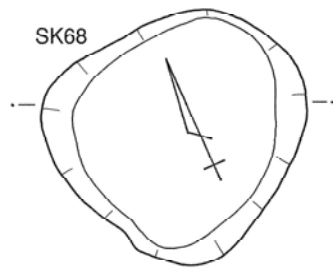




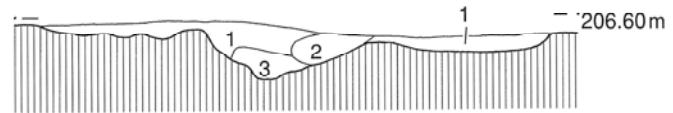
- SK65  
 1: 黒褐色粘土質シルト  
 (炭化物、焼土粒を若干含む)  
 2: 暗褐色シルト  
 (炭化物、焼土粒を若干含む)  
 3: 褐色粘土  
 (黒色シルト質粘土ブロックを含む)



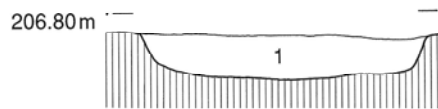
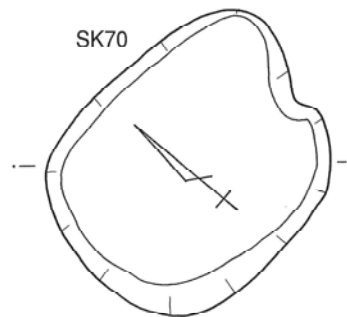
- SK67  
 1: 褐色シルト質粘土 (暗褐色シルト質粘土、黒色シルト、  
 黄褐色粘土と斑状をなす)  
 2: 黒色シルト (暗褐色粘土質シルトを縞状に含む)  
 3: 黒色シルト、暗褐色粘土質シルト、黄褐色粘土が縞状となる



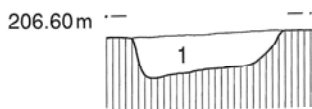
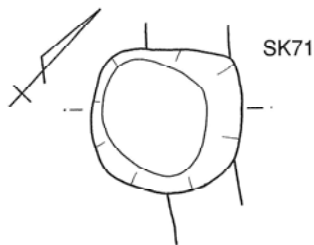
- SK68  
 1: 暗褐色シルト質粘土 (黒褐色シルト、  
 褐色粘土ブロックを含む)



- SK69  
 1: 褐色シルト質粘土 (黒色シルトの大ブロックを含む)



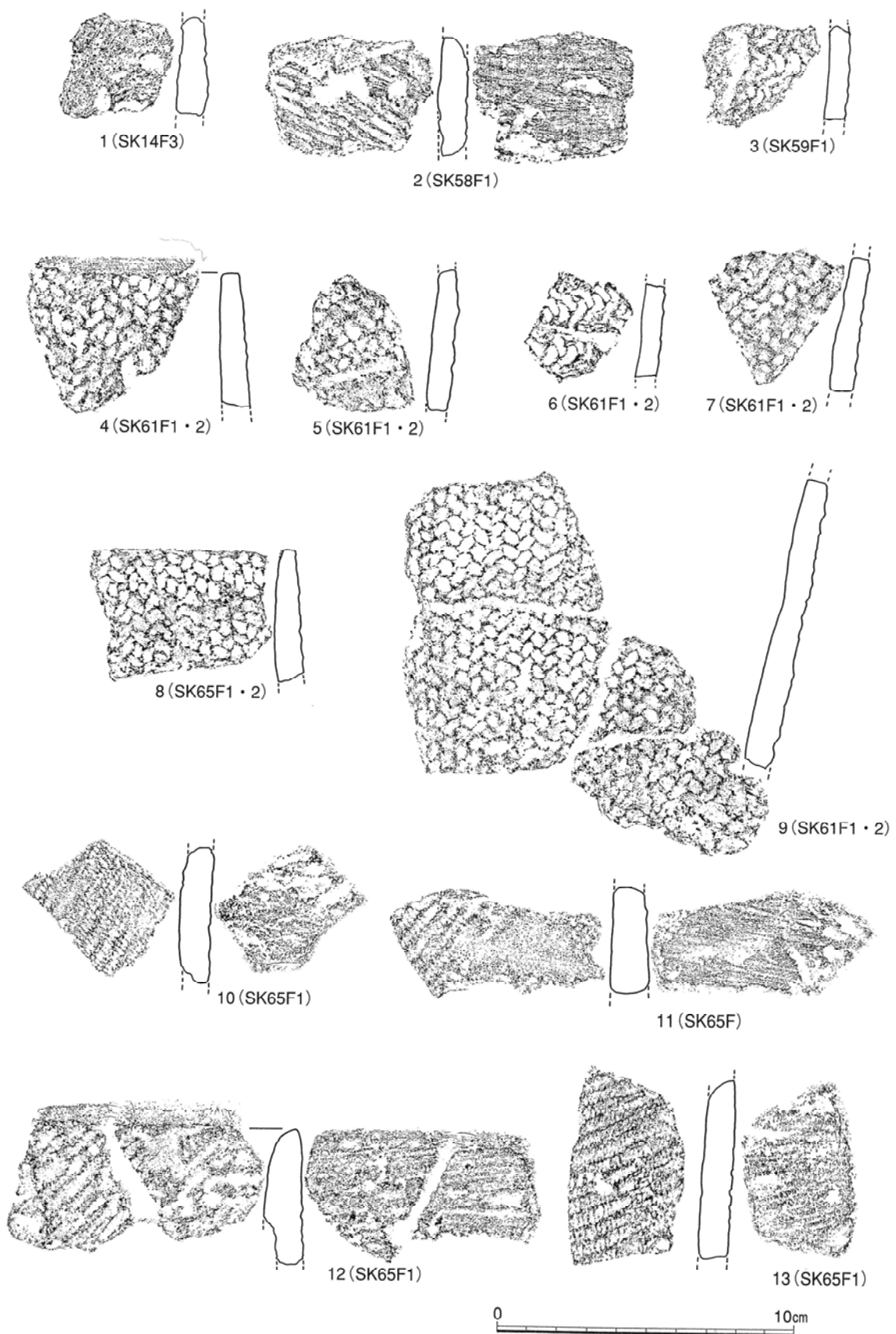
- SK70  
 1: 黒褐色粘土質シルト  
 (暗褐色シルト、黄褐色粘土ブロックを斑状に含む)



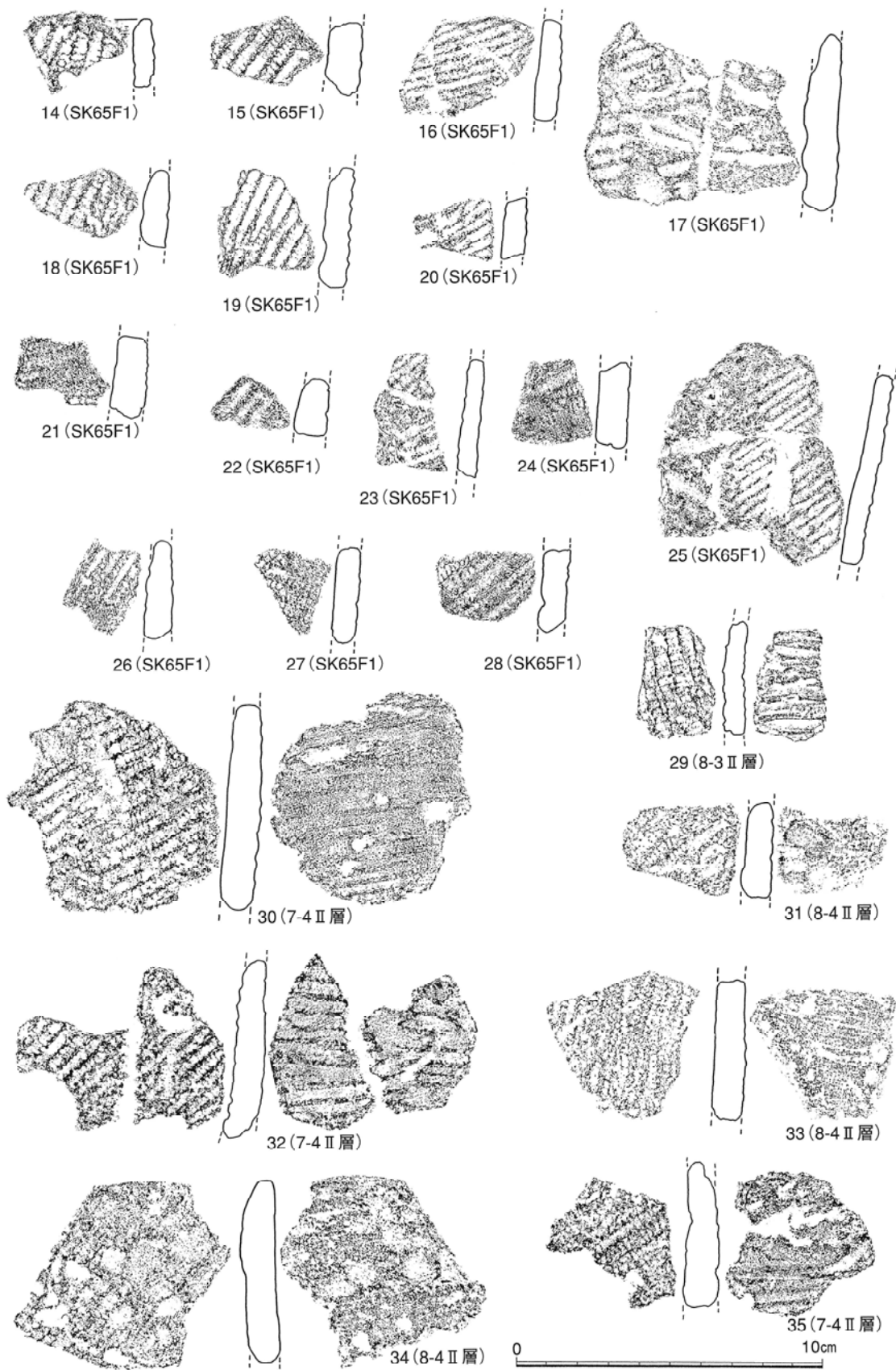
- SK71  
 1: 暗褐色粘土質シルト  
 (黄褐色粘土ブロックを斑状に含む)



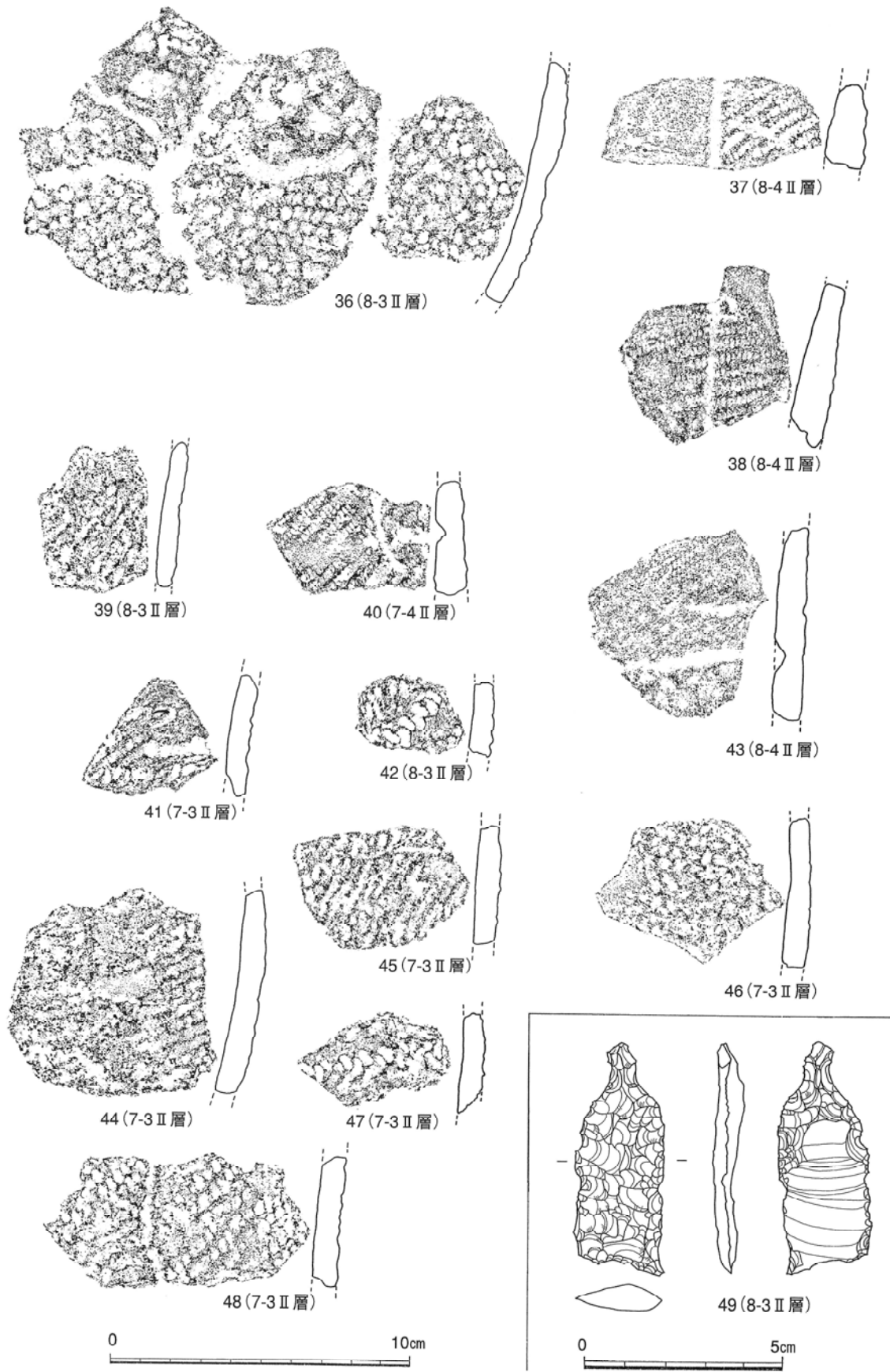
第 117 図 上ノ代 1 遺跡検出遺構平面・断面図 (8)



第 118 図 上ノ代 1 遺跡出土土器拓影図 (1)



第119図 上ノ代1遺跡出土土器拓影図(2)



第120図 上ノ代1遺跡出土土器拓影図(3)他

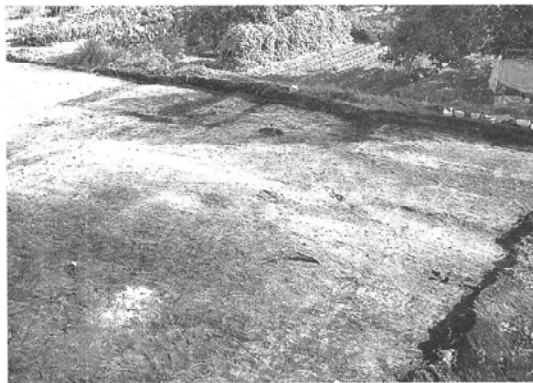




調査前近景（南から）



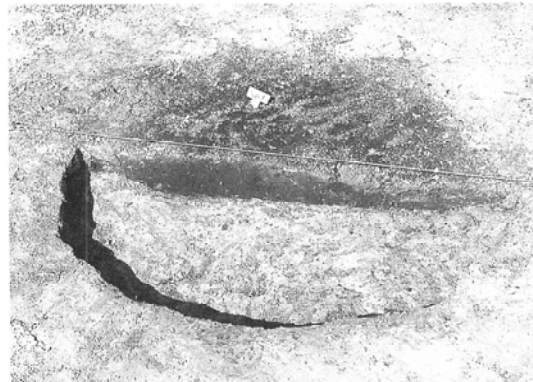
東部土坑群検出状況（北西から）



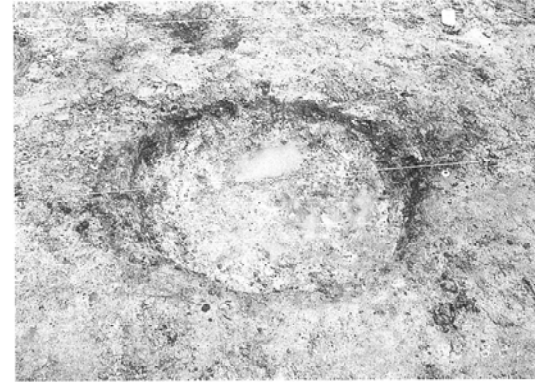
西半部土坑群検出状況（北から）



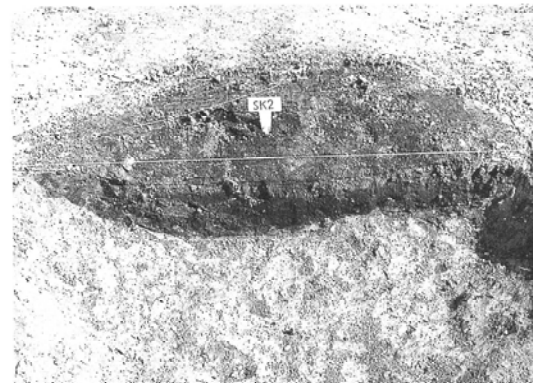
土坑群他検出状況（西から）



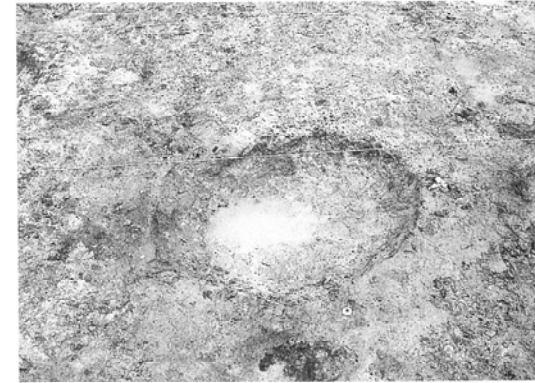
SK1土層断面（南から）



SK1全景（南から）



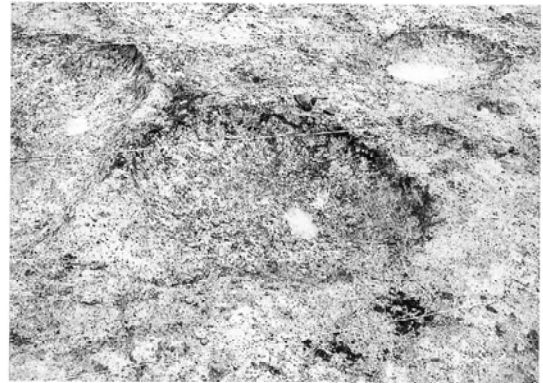
SK2土層断面（南から）



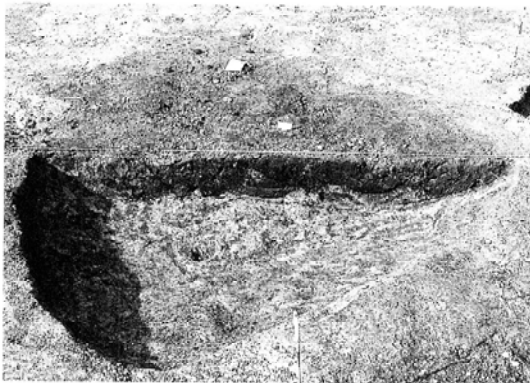
SK2全景（南から）



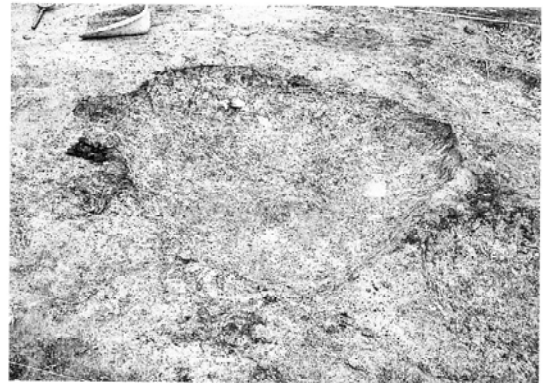
SK3土層断面（南から）



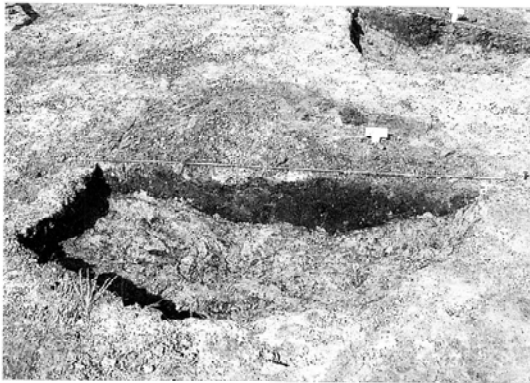
SK3全景（南から）



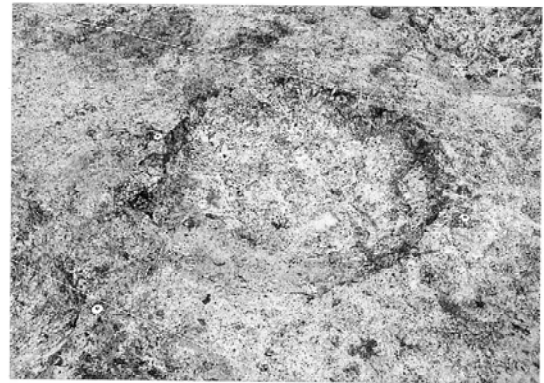
SK4土層断面（南西から）



SK4全景（南から）



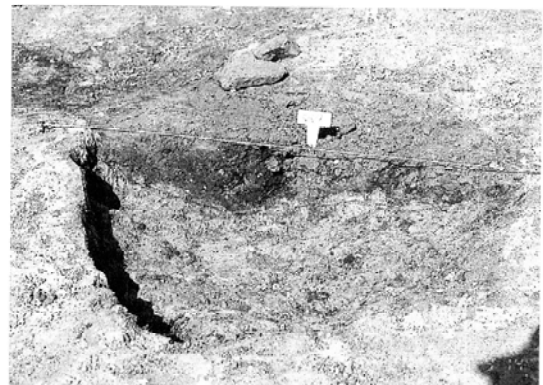
SK5土層断面（南から）



SK5全景（南から）



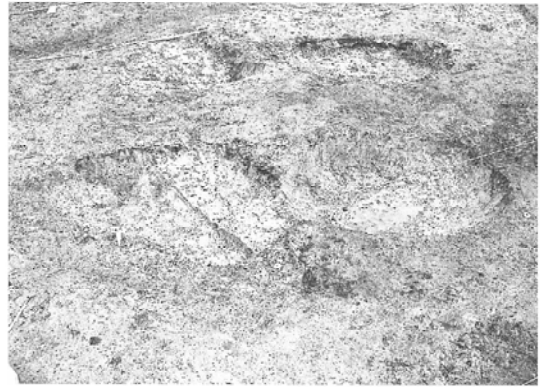
SK6土層断面（西から）



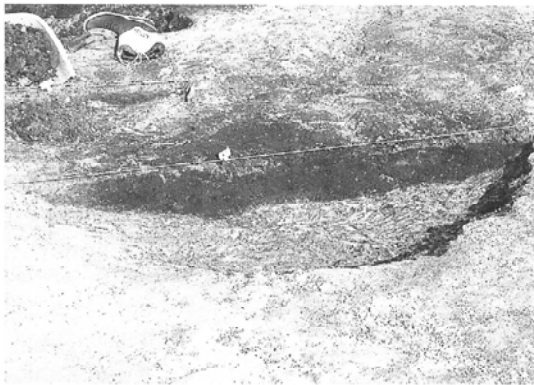
SK7土層断面（南西から）



SK35 土層断面 (西から)



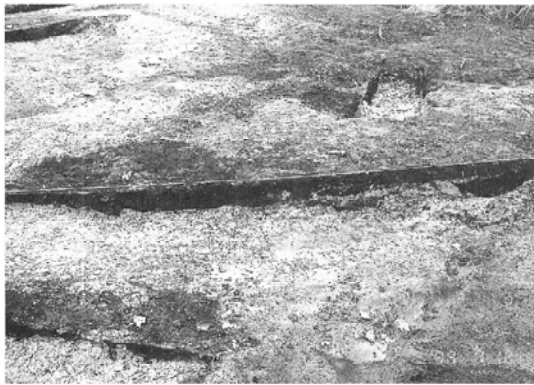
SK35・SK6 (右) 全景 (南西から)



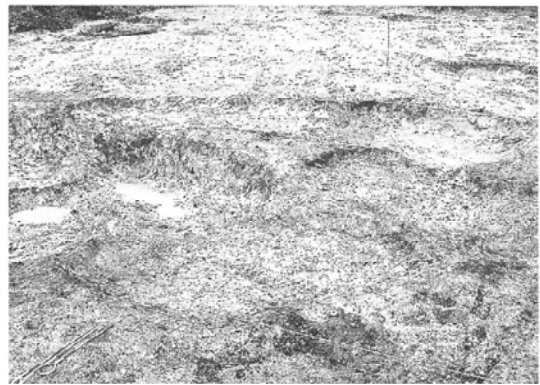
SK8 土層断面 (南西から)



SK9 土層断面 (南西から)



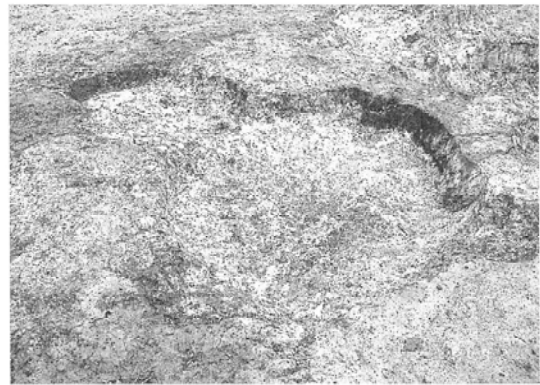
SK10・10b 土層断面 (南西から)



SK8～10 全景 (北西から)

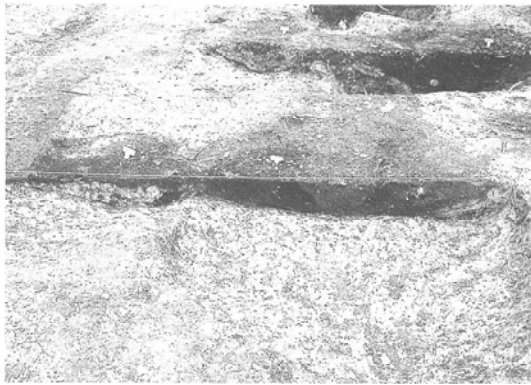


SK11 土層断面 (南東から)



SK12・13 土層断面 (南から)

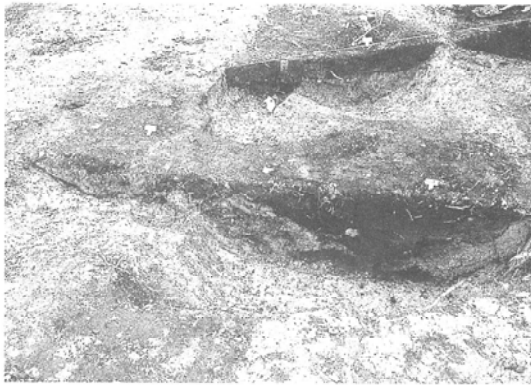




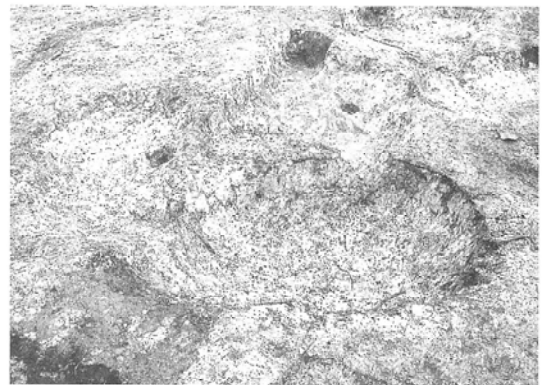
SK 12・13 全景 (南東から)



SK 14 土層断面 (南から)



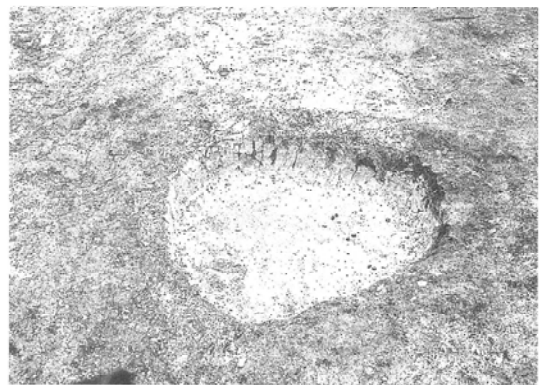
SK 14・40 土層断面 (南から)



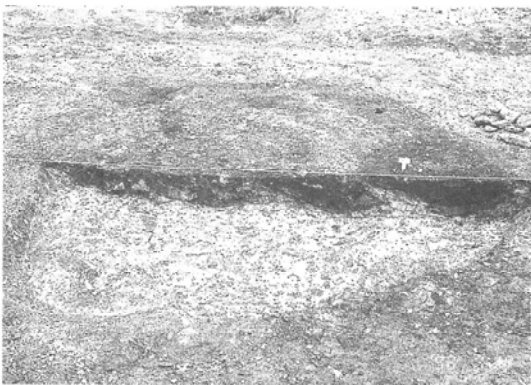
SK 14・40 全景 (南西から)



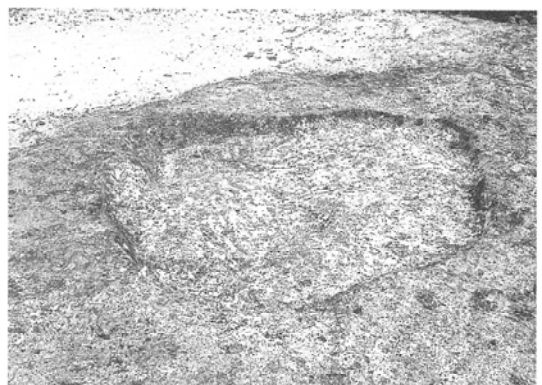
SK 15 土層断面 (西から)



SK 15 全景 (南西から)

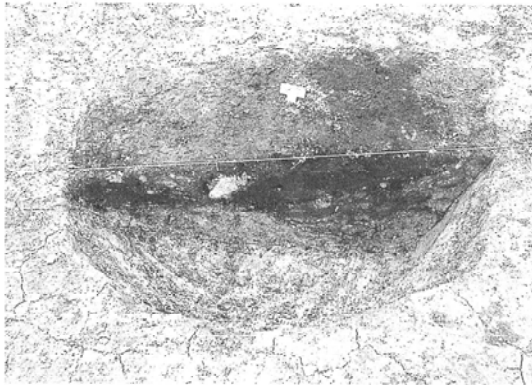


SK 16 土層断面 (西から)

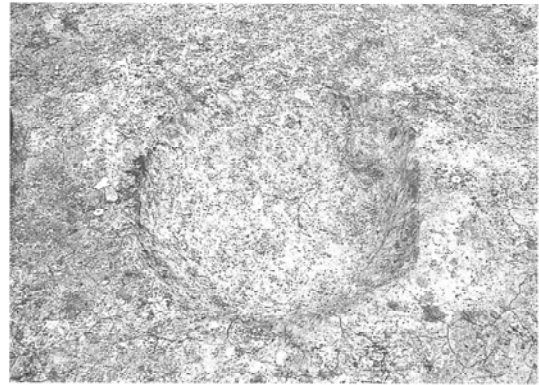


SK 16 全景 (南から)





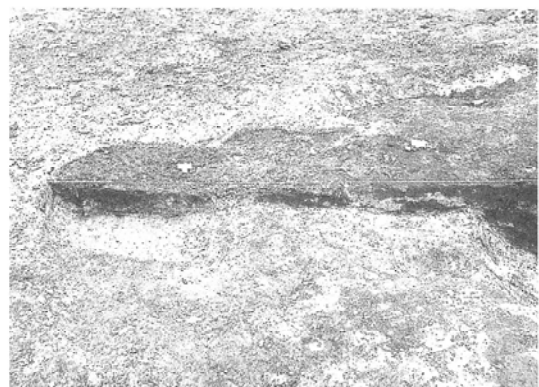
SK17 土層断面 (南から)



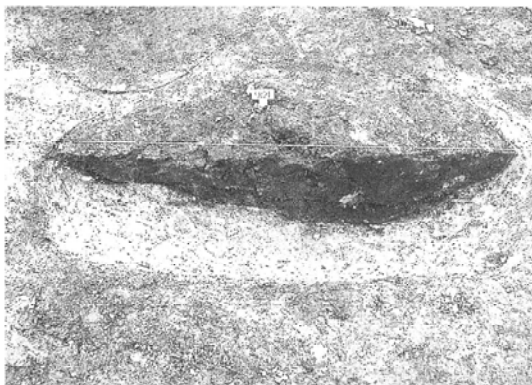
SK17 全景 (南から)



SK18 土層断面 (南西から)



SK19・20 土層断面 (南西から)



SK21 土層断面 (北から)



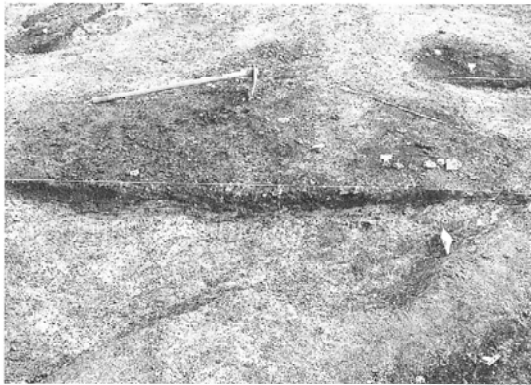
SK18・19・20・21 全景 (東から)



SK22・23 土層断面 (南東から)



SK22・23 全景 (南から)



SK 24・25 土層断面 (西から)



SK 26 土層断面 (西から)



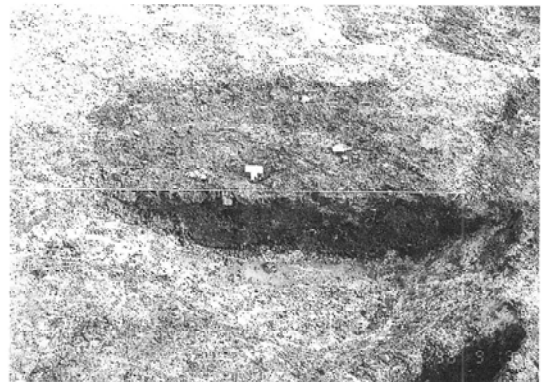
SK 30 土層断面 (南から)



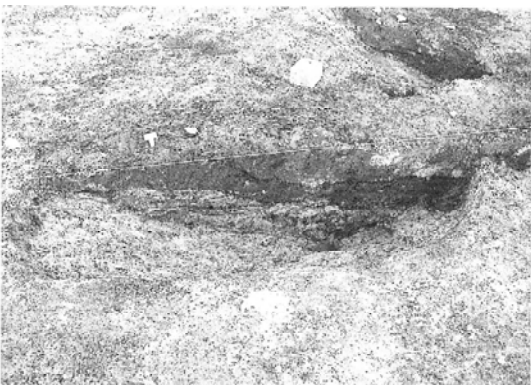
SK 31 土層断面 (南から)



SK 32 土層断面 (南西から)



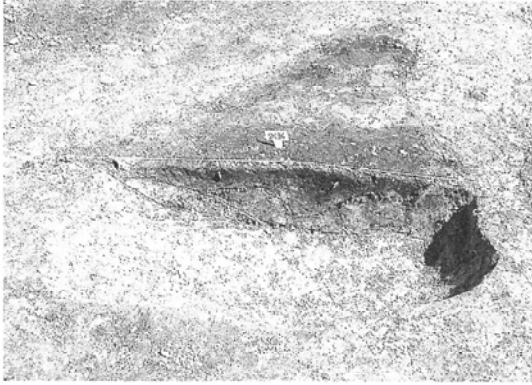
SK 33 土層断面 (西から)



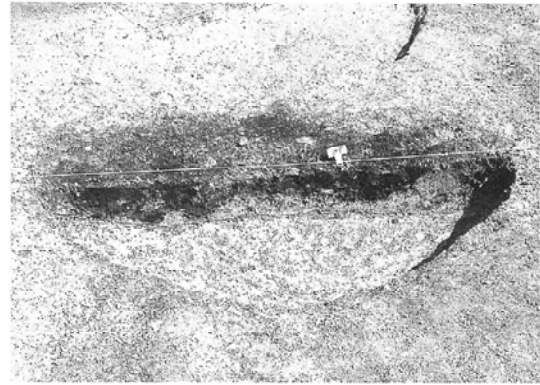
SK 34 土層断面 (南西から)



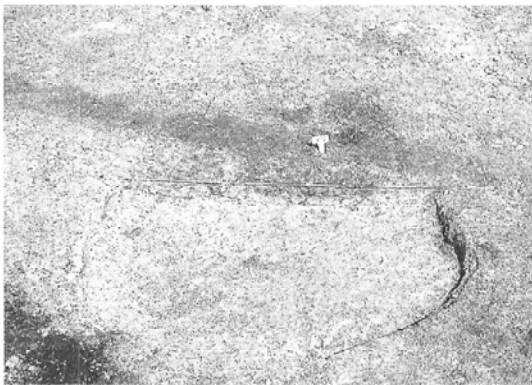
SK 31・32・33・34 他全景 (西から)



SK 36 土層断面 (南から)



SK 37 土層断面 (南から)



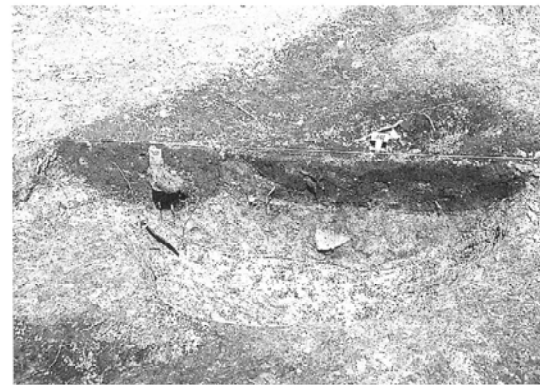
SK 38 土層断面 (南東から)



SK 36・37・38 全景 (南から)



SK 39 土層断面 (東から)



SK 41 土層断面 (南東から)

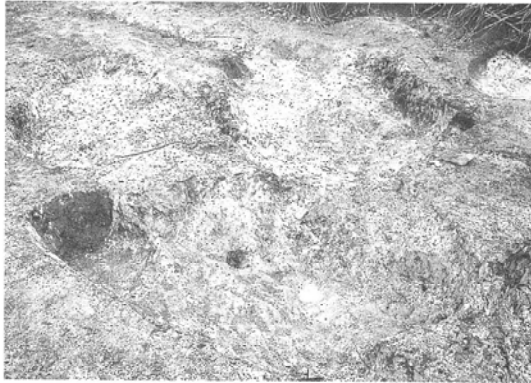


SK 42 土層断面 (南東から)



SK 43 土層断面 (西から)





SK 41 ~ 45 全景 (南西から)



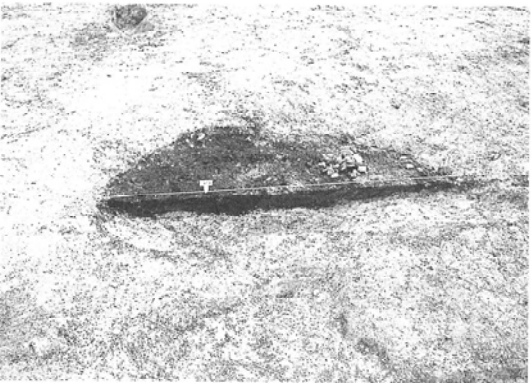
SK 46 土層断面 (南から)



SK 41 ~ 48 他全景 (南から)



SK 49 土層断面 (南から)



SK 51 土層断面 (北から)



SK 52 土層断面 (南東から)

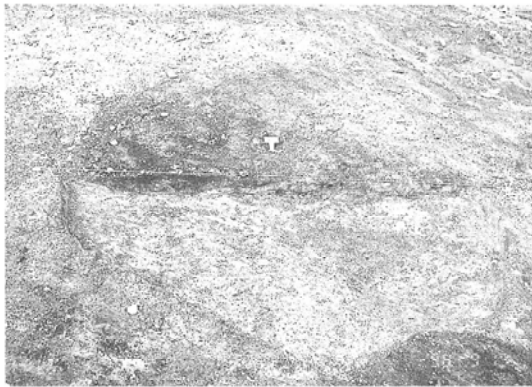


SK 53 土層断面 (南から)

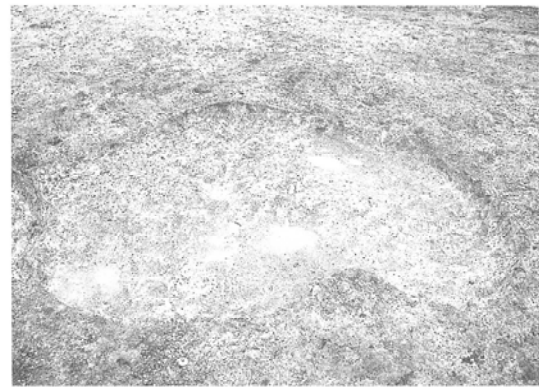


SK 53 全景 (南から)

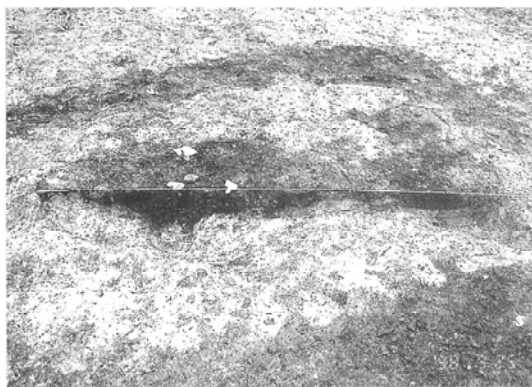




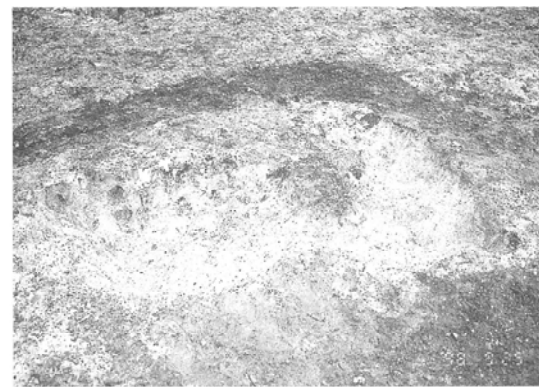
SK57 断面 (南から)



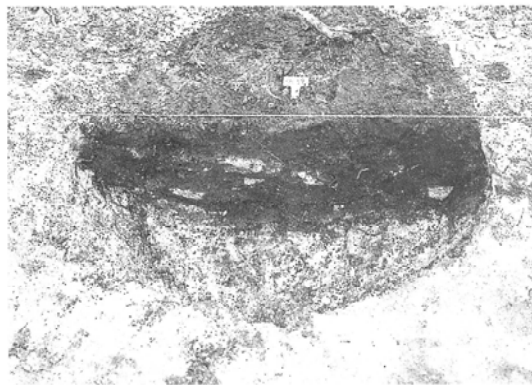
SK57 全景 (東から)



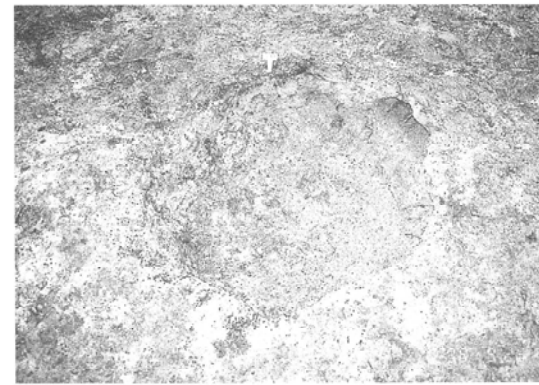
SK58 土層断面 (南東から)



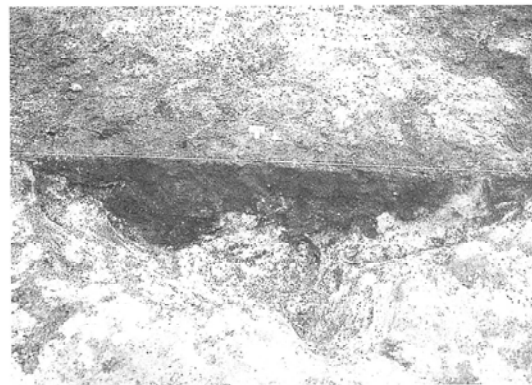
SK58 全景 (東から)



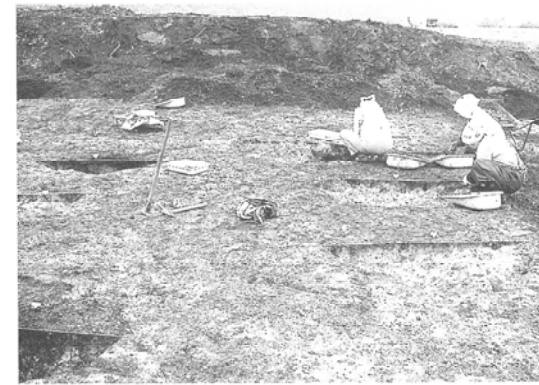
SK59 土層断面 (南から)



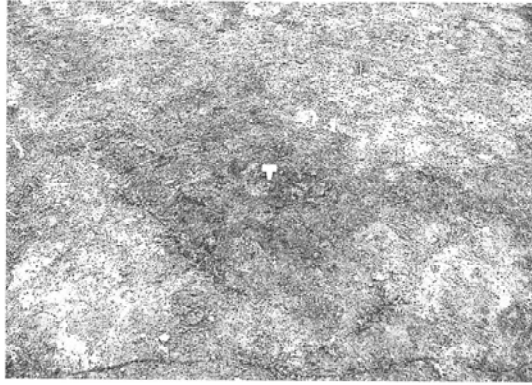
SK59 全景 (南から)



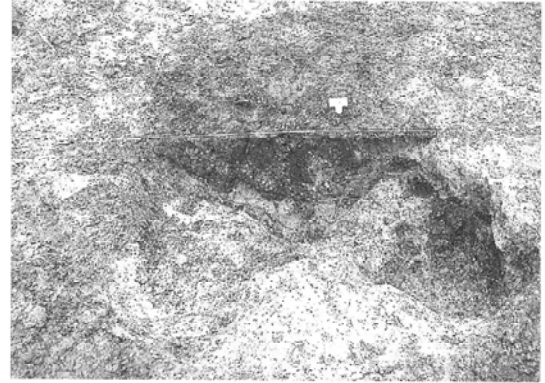
SK60 土層断面 (南から)



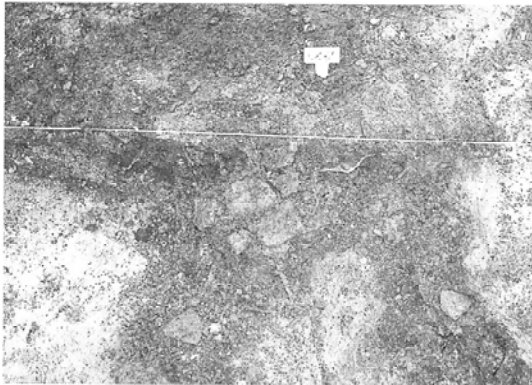
土坑群精査状況 (南から)



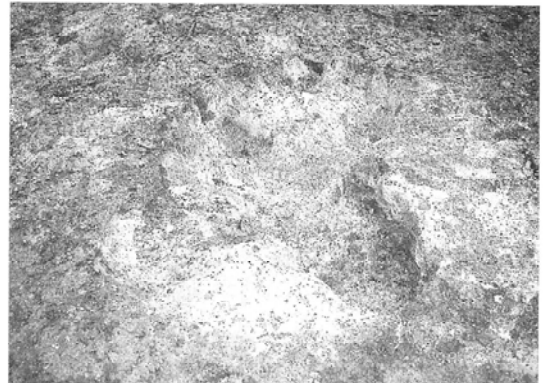
SK61 検出状況 (南から)



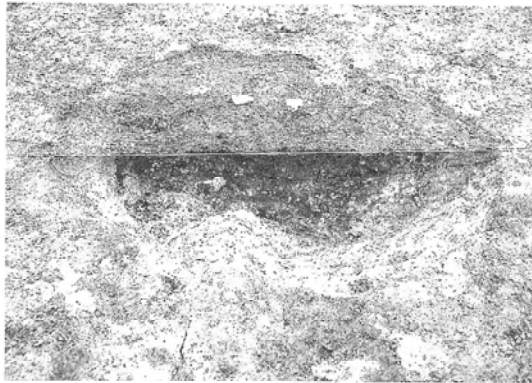
SK61 土層断面 (南から)



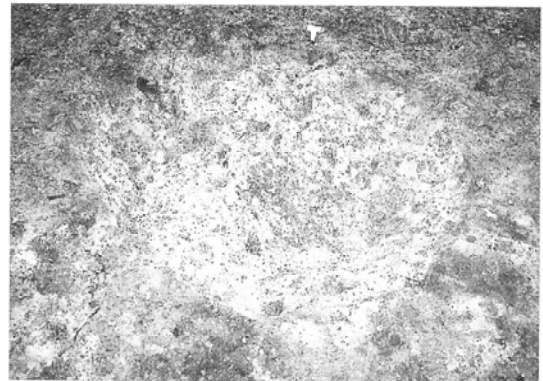
SK61 土器出土状況 (南から)



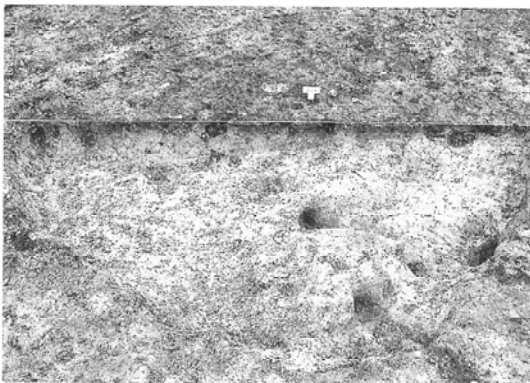
SK61 全景 (南東から)



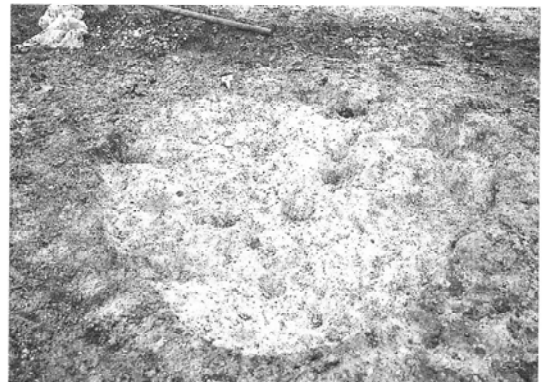
SK62 土層断面 (南から)



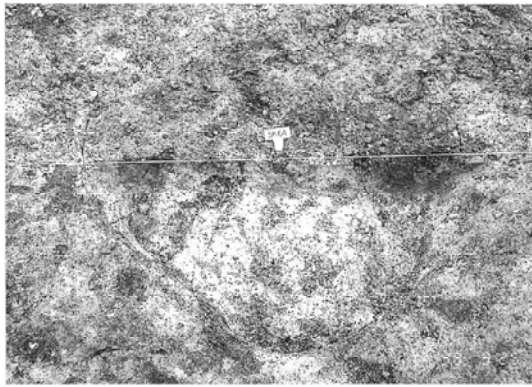
SK62 全景 (南から)



SK63 土層断面 (南から)



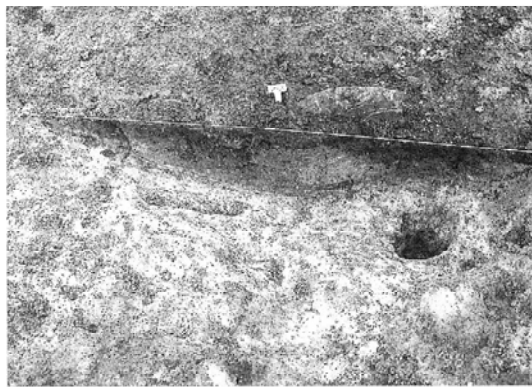
SK63 全景 (西から)



SK 64 土層断面 (南から)



SK 64 全景 (南から)



SK 65 土層断面 (南から)



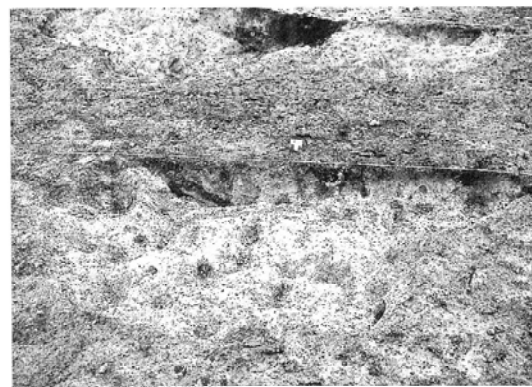
SK 65 全景 (南から)



SK 67・69 土層断面 (南から)



SK 69 全景 (南から)

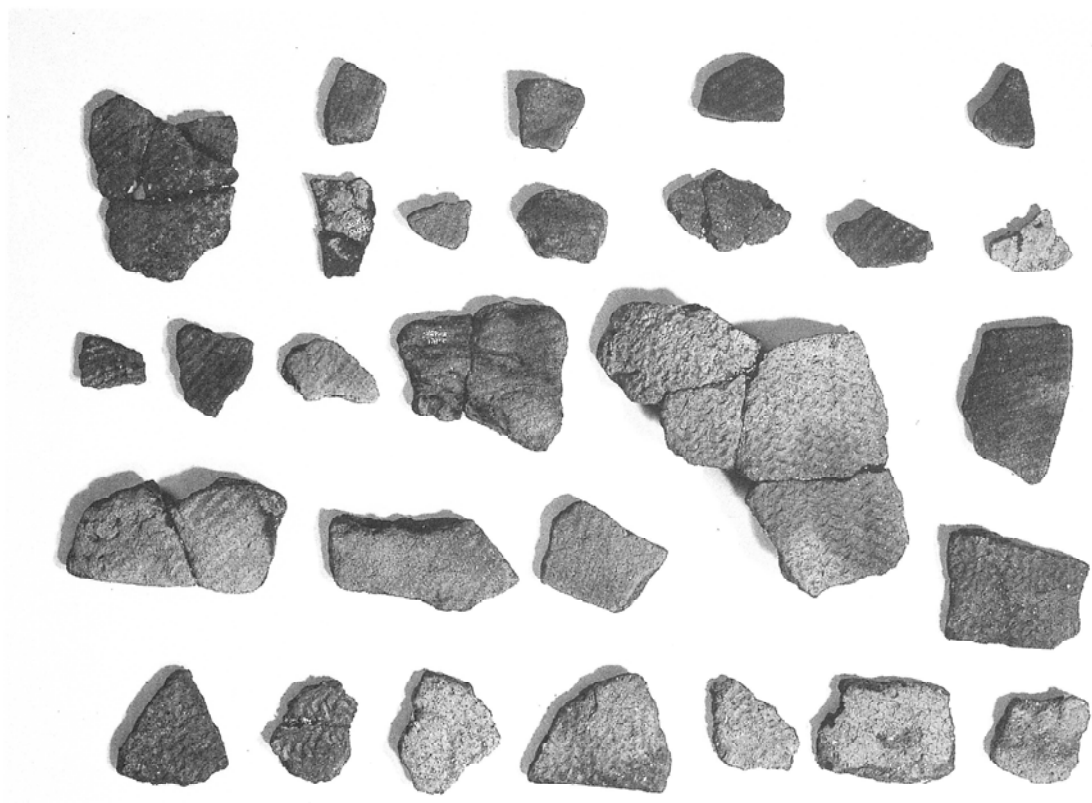


SK 68 土層断面 (南から)



SK 68 全景 (南から)





出土土器 (1) 表 (1/3)

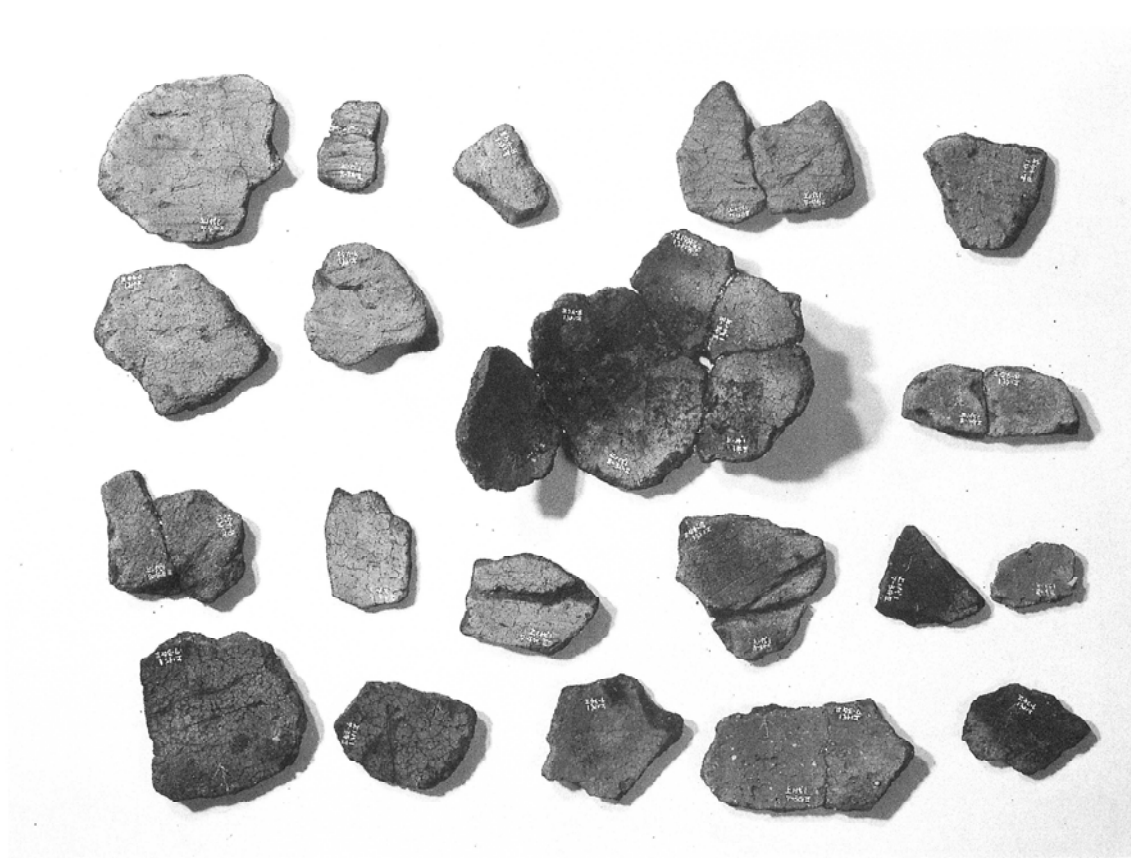


出土土器 (1) 裏 (1/3)





出土土器 (2) 表 (1/3)



出土土器 (2) 裏 (1/3)

(5) <sup>しもやなぎ</sup>下柳A遺跡 (遺跡番号152)

所在地 山形県山形市大字青柳字上柳

調査員 渋谷孝雄

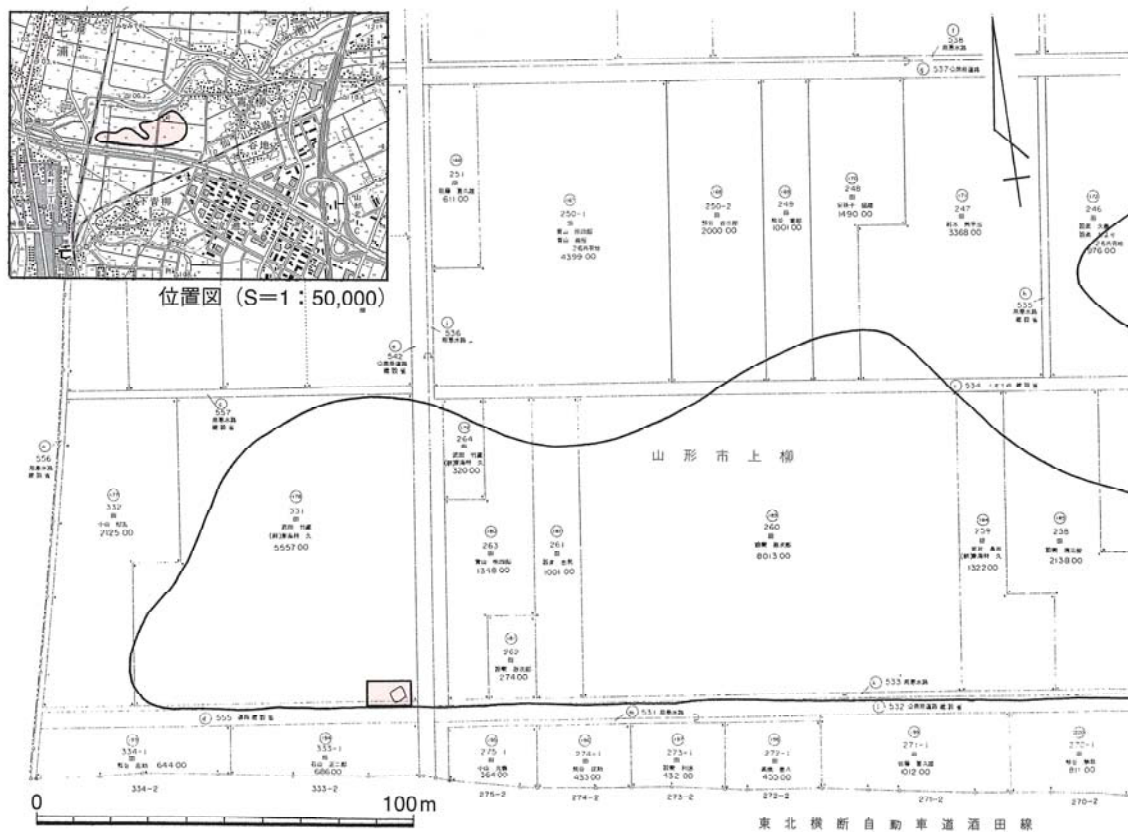
調査期日 平成10年6月11・12・15日 (3日間)

起回事業 健康の森公園整備事業

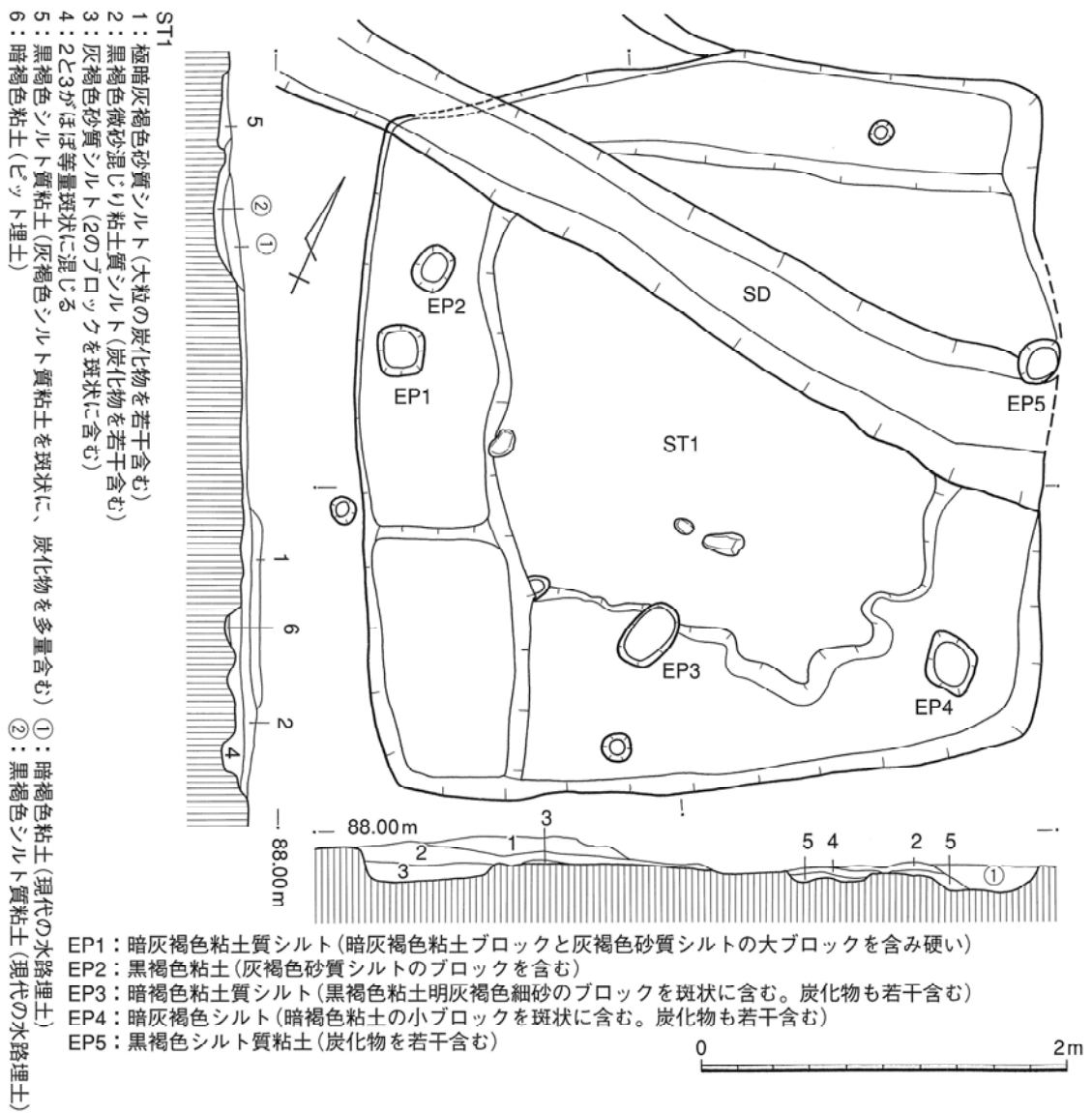
遺跡環境 遺跡はJR奥羽本線羽前千歳駅の北北東約1kmに位置し、高瀬川左岸の自然堤防上に立地する。平成7年度に県立医療保健短期大学の建設に伴う発掘調査が行われ、古墳時代中期の集落跡が検出されている。また、平成9年度には今回の調査区周辺で試掘調査が行われ西方40mの地点で一部拡張調査が行われた。

調査状況 昨年度の試掘調査で竪穴住居の一部が検出されていた地区の約7×15mの範囲について重機で表土を除去した。その後、掘り下げと面削りを行って遺構を検出した。検出した古墳時代の遺構は竪穴住居跡1棟、溝跡1条、ピット数基で、これらの遺構の精査と記録を行った。

調査結果 竪穴住居跡は一辺3.7～3.9mの方形プランとなり、周壁寄りの幅40～80cmの部分を一段深く掘り下げている。床面でEP1～5のピットが検出された。EP1、3、5がやや深い、他は浅い。炉の痕跡は確認できなかった。整理箱に半分程度の土器片が出土したが復元可能なものはなかった。複合口縁の埴や器台の特徴から古墳時代前期に遡るものと考えられ、本遺跡でこれまで検出された住居の中で最古のものと思われる。



第121図 下柳A遺跡概要図



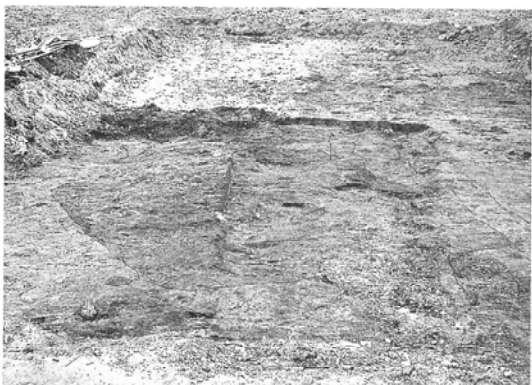
第 122 図 下柳A遺跡検出遺構平面図・断面図



調査区近景（南東から）



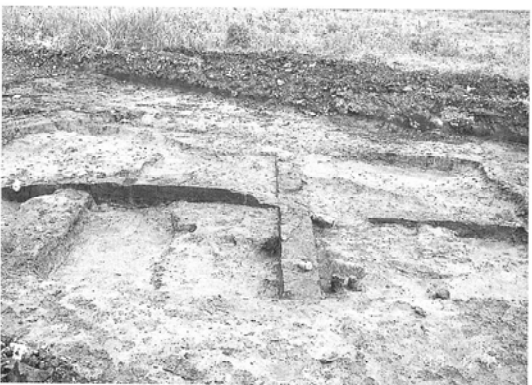
遺構検出状況（東から）



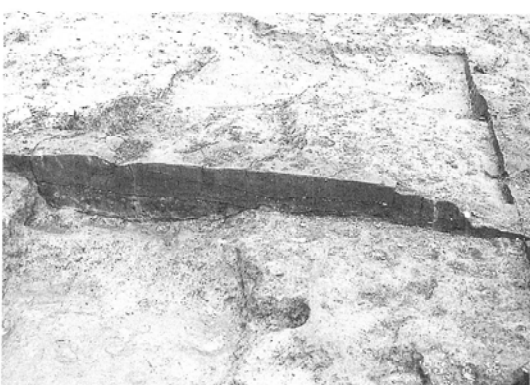
ST1 検出状況（東から）



ST1 南北土層断面（西から）



ST1 東西土層断面（南から）



ST1 東西土層断面西半部（南から）

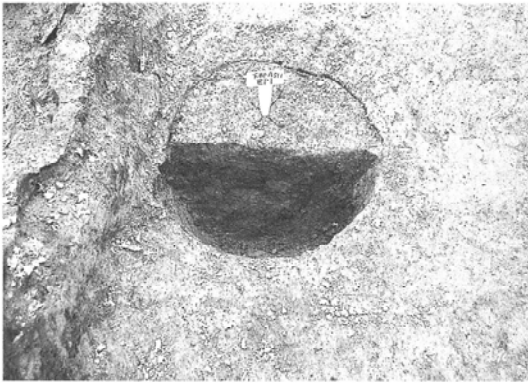


ST1 東西土層断面東半部（西から）

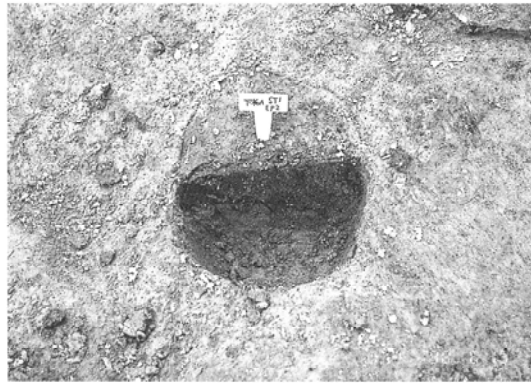


ST1 床面検出状況（東から）





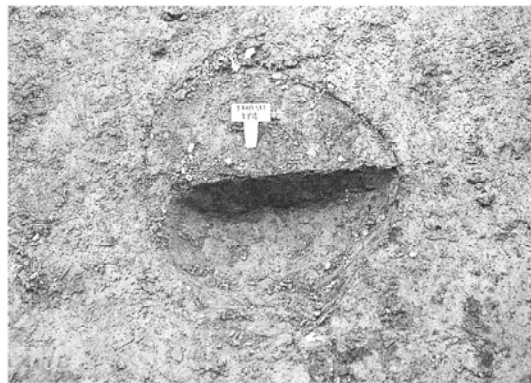
ST1 EP1 土層断面



ST1 EP2 土層断面



ST1 EP3 土層断面



ST1 EP4 土層断面



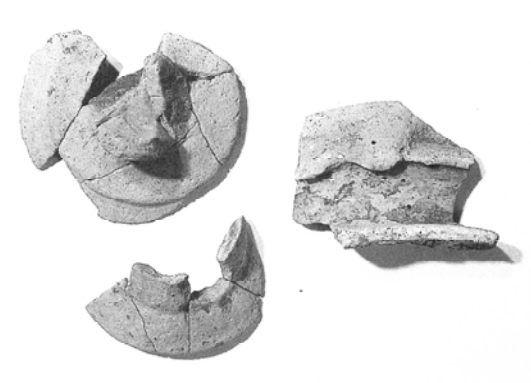
ST1 EP5 土層断面



ST1 全景 (南東から)



ST1 全景 (東から)



出土遺物 (1/3)

(6) 館之越遺跡 (遺跡番号 長井市 e-107)

所在地 山形県長井市泉

調査員 渋谷孝雄

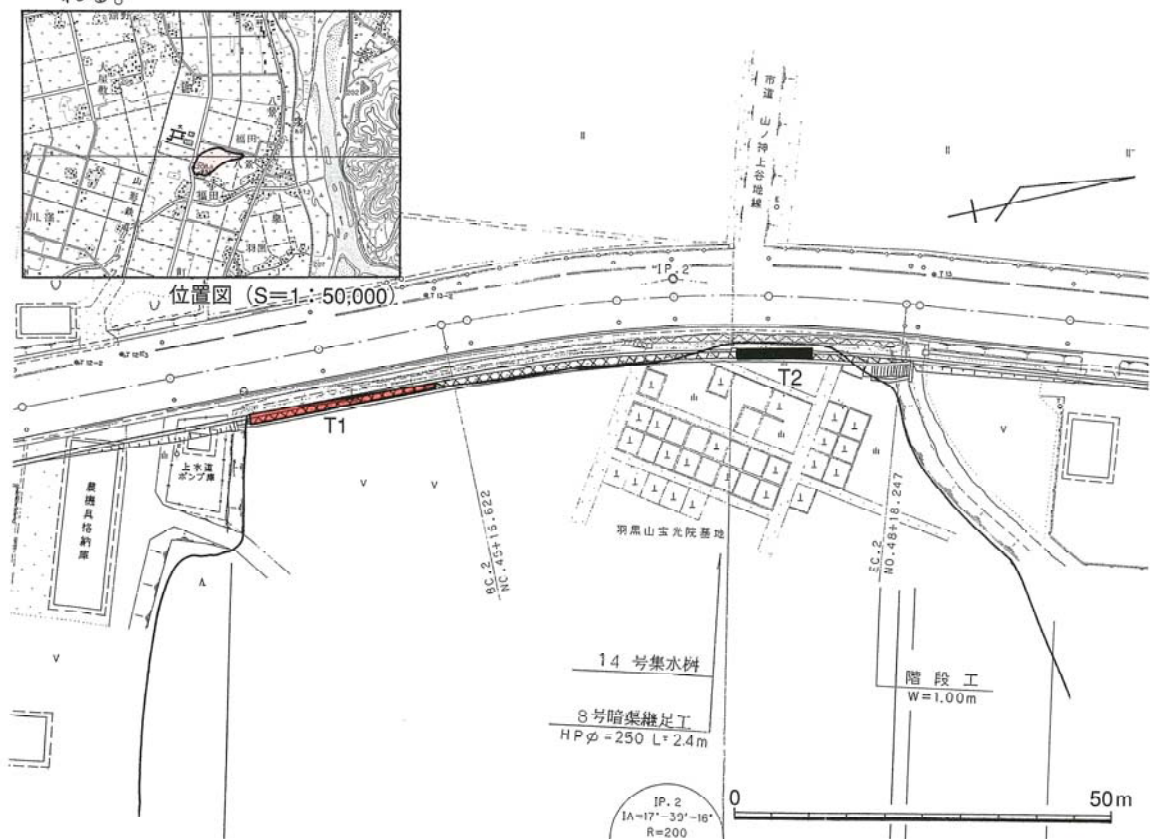
調査期日 A調査 平成10年7月27日 立会調査 平成10年10月2日

起因事業 地方特定道路整備・歩道一般県道椿長井線

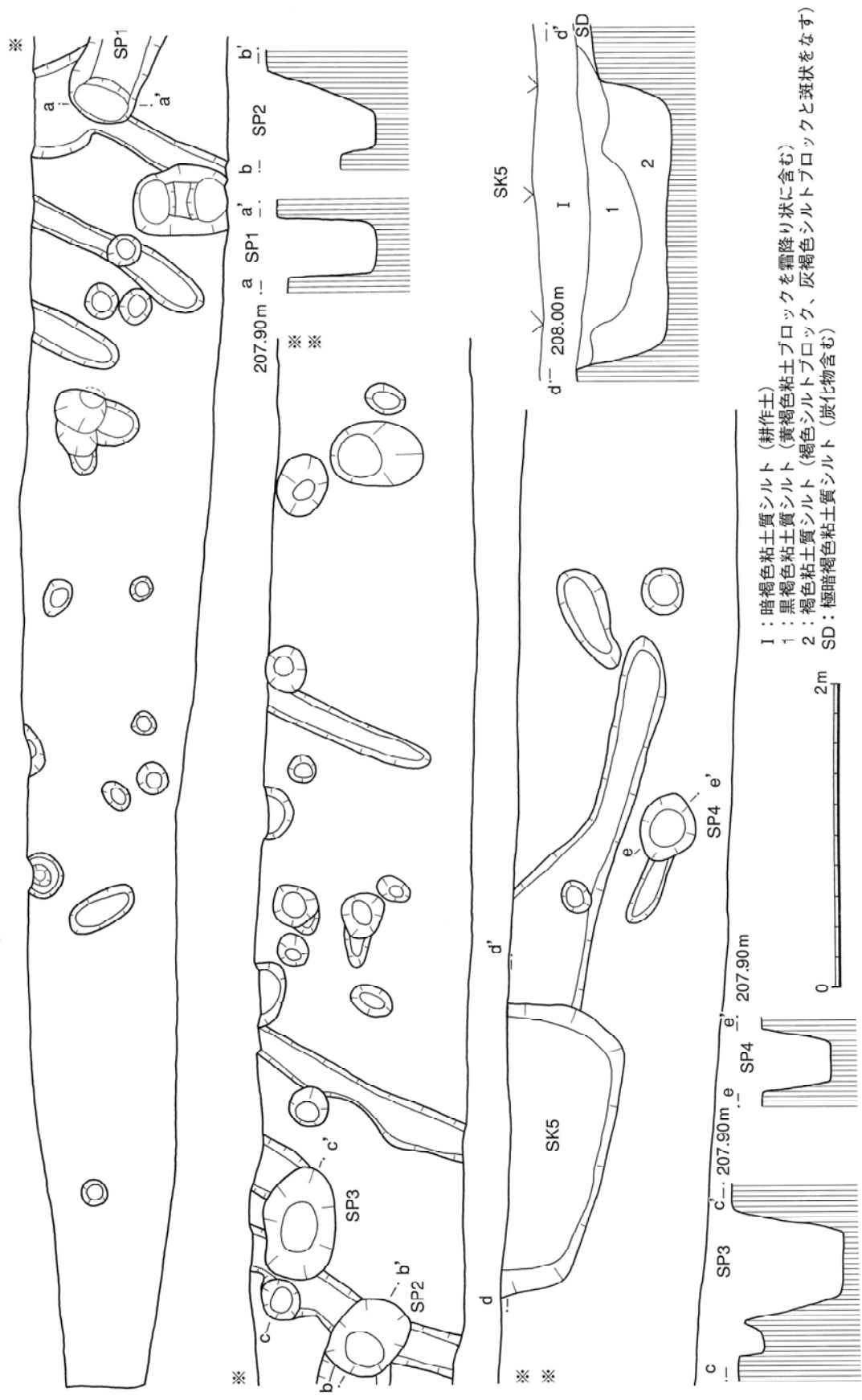
遺跡環境 遺跡はフラワー長井線時庭駅の北約1.2kmに位置し、水田となる平野部から約2mの比高差をもつ独立した台地上に立地する。昭和45、46、49年に発掘調査が行われ縄文時代中期の集落跡が検出されている。

調査状況 現地確認調査で歩道の設置に伴う拡幅幅は最大でも2mに達しないことが確認されたため、発注後に工事に立ち会って検出遺構の記録保存を行うこととなった。遺跡のある台地上まで崖面の掘削が及ぶ地区は台地の南部(1トレンチ)と台地の北部(2トレンチ)に限られ、中央部は掘削が伴わないため調査の対象から除外した。重機で表土を除去した後、面削りを行い検出した遺構の精査と記録を行った。2トレンチでは若干の遺物が出土したが、遺構は検出されなかった。

調査結果 1トレンチで35基のピットが検出された。このうちSP1~3は70cm前後の深さを持ち、SP4は45cmを測る。遺物の出土はなかったが、これらは縄文時代の所産の可能性がある。他はピットは比較的浅い。ピット以外に一辺150cm前後となる方形の土坑が検出されたが、遺物の出土はなく、数条の溝と共に時代が降る時期の所産と考えられる。



第123図 館之越遺跡概要図



I : 暗褐色粘土質シルト (耕作土)  
 1 : 黒褐色粘土質シルト (黄褐色粘土ブロックを霜降り状に含む)  
 2 : 褐色粘土質シルト (褐色シルトブロック、灰褐色シルトブロックと斑状をなす)  
 SD : 極暗褐色粘土質シルト (炭化物含む)

第124図 館之越遺跡検出遺構平面図・断面図



遺跡遠景（北から）



調査区近景（南から）



T1 遺構検出状況（南から）



T1 遺構検出状況（北から）



SK5・SP4 他検出状況（南東から）



SP1～3 他検出状況（南東から）



T1 検出遺構完掘状況（南から）

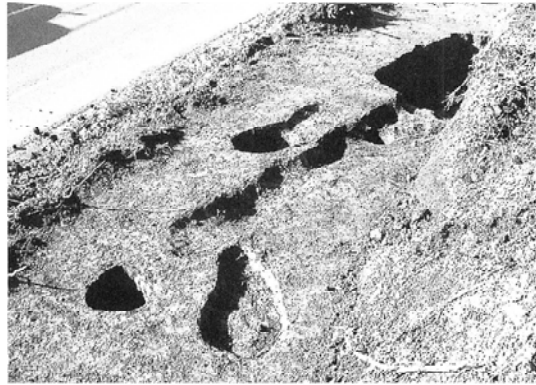


T1 検出遺構完掘状況（北から）





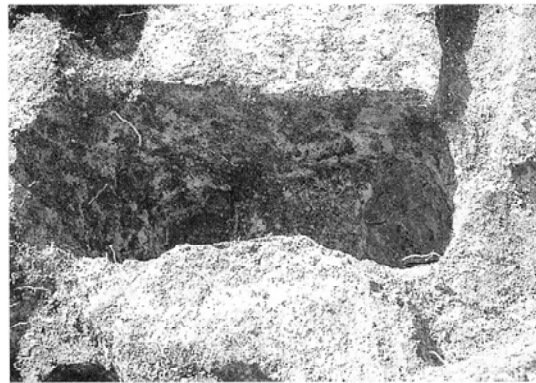
SK5土層断面（南西から）



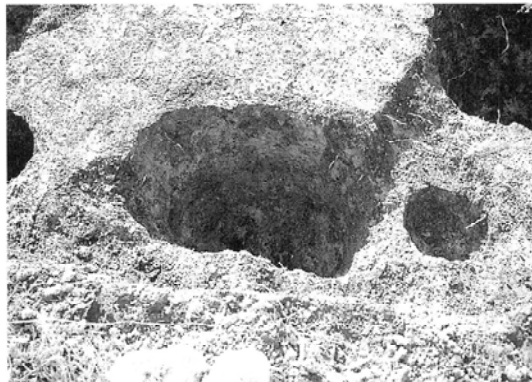
SK5・SP4他完掘状況（南東から）



SP1・2・3完掘状況（北から）



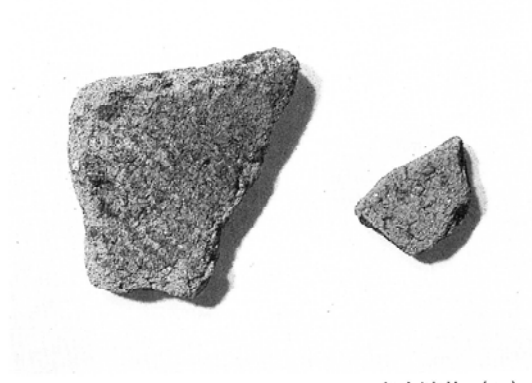
SP1・2完掘状況（東から）



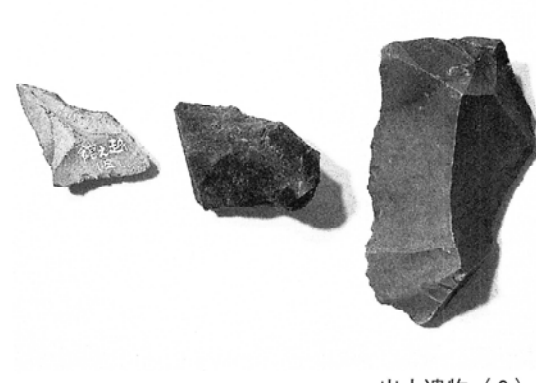
SP3完掘状況（東から）



T2調査状況（南から）



出土遺物（1）



出土遺物（2）

### Ⅲ まとめ

平成10年度の遺跡詳細分布調査は、平成11年度以降に予定されている開発事業に先行して、遺跡の所在・範囲等を明らかにして開発との調整を図ることを目的として実施した。また、記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査も行った。

調査遺跡は120遺跡を数え、他に遺跡の有無を確認するために13ヶ所の試掘調査も実施したが、これらについては埋蔵文化財包蔵地とはならなかった。また、表面踏査で各種開発事業予定地内で23ヶ所の遺跡可能性地も抽出した。今年度新たに発見されて、登録した遺跡は22遺跡である。また、調査の結果、範囲の訂正、名称の変更が必要となった遺跡は18遺跡、登録地全域の試掘調査でも遺跡の存在を確認できず抹消が必要となったものが4遺跡である。以下にその一覧を掲げて調査のまとめとする。

なお、本書の発行をもって、新規遺跡の登録、範囲等の訂正が周知されたものとみなす。

#### 1 新規発見遺跡

(遺跡名)	(所在地)	(時代)
1 大縄3遺跡	余目町大字吉方字大縄	平安時代
2 横沼遺跡	余目町大字前田野目字横沼	平安時代
3 丸森1遺跡	真室川町大字釜淵字丸森	旧石器～縄文時代
4 丸森2遺跡	真室川町大字釜淵字丸森	旧石器～縄文時代
5 中台1遺跡	真室川町大字釜淵字中台	縄文時代
6 中台2遺跡	真室川町大字釜淵字中台	縄文時代
7 中台3遺跡	真室川町大字釜淵字中台	縄文時代
8 湯尻遺跡	天童市大字貫津字湯尻	縄文・平安時代
9 長谷川遺跡	天童市大字奈良沢字長谷川	平安時代
10 庄前1遺跡	天童市大字奈良沢字庄前	平安時代
11 庄前2遺跡	天童市大字奈良沢字庄前	平安時代
12 庄前3遺跡	天童市大字奈良沢字庄前	平安時代
13 庄前4遺跡	天童市大字奈良沢字庄前	縄文・平安時代
14 雁境塚群	川西町大字下小松	中世
15 松沢前遺跡	南陽市大字松沢字松沢前三六	縄文時代
16 熊ノ木遺跡	山形市大字陣場字熊ノ木	古墳時代
17 中道南遺跡	山形市大字飯塚字中道南	縄文時代・近世
18 志戸田縄遺跡	山形市大字陣場字志戸田縄	古墳時代
19 桜江遺跡	天童市大字高揃字桜江	古墳時代
20 三条ノ目遺跡	山形市大字渋江字三条	古墳時代
21 菖蒲江1遺跡	天童市大字高揃字菖蒲江	古墳・平安時代

2 範囲・名称の変更及び登録を抹消する遺跡

(遺跡名)	(変更内容)	(変更を必要とする文献名)
1 大縄 2 遺跡	範囲の訂正	平成10年 3 月『分布調査報告書 (25)』
2 上川原山ノ神遺跡	範囲・名称の訂正	平成10年 3 月『分布調査報告書 (25)』 旧名称：上川原遺跡
3 中川原 B 遺跡	範囲の訂正	平成 9 年 3 月『分布調査報告書 (24)』
4 下向野遺跡	範囲の訂正	昭和57年 3 月『分布調査報告書 (9)』
5 太夫小屋 2 遺跡	範囲の訂正	平成10年 3 月『分布調査報告書 (25)』
6 太夫小屋 3 遺跡	範囲の訂正	平成 9 年 3 月『分布調査報告書 (24)』
7 二タ子 A 遺跡	範囲の訂正	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』
8 中地藏遺跡	範囲の訂正	平成 3 年 3 月『分布調査報告書 (18)』
9 馳上遺跡	遺跡の統合	平成10年 3 月『米沢市遺跡地図』 馳上 a・b 遺跡を統合
10 小岩沢遺跡	範囲の訂正	昭和62年12月『南陽市史考古資料編』
11 塚田遺跡	範囲の訂正	平成 8 年 3 月『分布調査報告書 (23)』
12 藤治屋敷遺跡	範囲の訂正	平成 8 年 3 月『分布調査報告書 (23)』
13 馬洗場 B 遺跡	範囲の訂正	平成 8 年 3 月『分布調査報告書 (23)』
14 小松原窯跡	範囲・名称の訂正	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』 旧名称：石原坂 B 遺跡
15 長者屋敷遺跡	範囲の訂正	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』
16 梅ノ木遺跡	範囲の訂正	平成10年 3 月『分布調査報告書 (25)』
17 本合上野海遺跡	範囲の訂正	平成 7 年 3 月『分布調査報告書 (22)』
18 高揃南遺跡	範囲の訂正	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』
19 石原坂 A 遺跡	登録の抹消	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』
20 オミロク墳墓群	登録の抹消	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』
21 二ツ石遺跡	登録の抹消	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』
22 秋葉山遺跡	登録の抹消	昭和53年 3 月『山形県遺跡地図』

表-3 掲載遺跡位置図(2万5千分の1)索引

No	遺跡名	図幅名	No	遺跡名	図幅名
1	大縄1	藤島	61	町在家館	米沢東部
2	大縄2	藤島	62	万世山館	米沢東部
3	大縄3	藤島	63	稲荷山館	米沢東部
4	横沼	藤島	64	馳上	糠野目
5	立泉川	新庄	65	西谷地b	糠野目
6	中川原C	新庄	66	西谷地a	糠野目
7	中川原B	新庄	67	大浦館ノ内館	糠野目
8	下向野	新庄	68	中田館	糠野目
9	上川原山ノ神	宮宿	69	押出	赤湯
10	中里	糠野目	70	松沢前	赤湯
11	中里屋敷	糠野目	71	松沢	赤湯
12	内方館	糠野目	72	小岩沢墳墓	羽前中山
13	太夫小屋2	米沢北部	73	小岩沢	羽前中山
14	太夫小屋3	米沢北部	74	影沢北	山形北部
15	丸森1	及位	75	熊ノ木	山形北部
16	丸森2	及位	76	中道南	山形北部
17	中台1	及位	77	塚田	山形北部
18	中台2	及位	78	志戸田縄	山形北部
19	中台3	及位	79	服部	山形北部
20	湯尻	天童	80	藤治屋敷	山形北部
21	中島館	天童	81	馬洗場B	山形北部
22	山崎C	天童	82	向河原	山形北部
23	小関C	天童	83	三条ノ目	山形北部
24	白山堂	天童	84	小松原窯	山形南部
25	奈良沢東	天童	85	二ツ石	山形南部
26	長谷川	天童	86	秋葉山	山形南部
27	庄前1	天童・山寺	87	八ヶ森	山形南部
28	庄前2	天童	88	長者屋敷	山形南部
29	庄前3	天童	89	鶴ヶ岡城	鶴岡
30	庄前4	天童	90	山田	鶴岡
31	新城山墓地	天童	91	小田島城	楯岡
32	新城山館	天童	92	藤島D	藤島
33	新城山	天童	93	山形城三の丸	山形北部・山形南部
34	かっぱ	羽前赤倉	94	下柳A	山形北部
35	大沢口	羽前赤倉	95	小笹	宮宿
36	二夕子A	升田	96	高崖	谷地
37	姥ヶ沢	升田	97	馳上	糠野目
38	中地藏	山寺	98	石畑	羽前中山
39	竜沢山	吹浦	99	高瀬山	寒河江
40	黒沢中館	羽前小松	100	梅ノ木	山形北部
41	雁境塚群	羽前小松	101	菖蒲江1	山形北部
42	田尻	神室山	102	桜江	山形北部
43	上ノ代1	上山	103	第二農場	延沢
44	中山城	羽前中山	104	本合海上野	古口
45	達磨寺	山形北部	105	三滝	差首鍋・及位
46	川前	山形北部	106	三滝2	差首鍋・及位
47	矢馳A	鶴岡	107	館之越	長井・羽前小松
48	矢馳B	鶴岡	108	小松原	米沢
49	清水新田	鶴岡	109	前在家	米沢
50	木の下館	三瀬	110	岩木B	谷地
51	堅苔沢館	三瀬	111	四ツ塚	谷地
52	河内袋	山五十川	112	藤島城	藤島
53	赤浜	米沢東部	113	西高敷地内	山形南部
54	栗子橋	米沢東部	114	尾浦城	鶴岡・湯野浜
55	川越石a	米沢東部	115	谷柏	山形南部
56	川越石b	米沢東部	116	新形	鶴岡
57	川越石土壇	米沢東部	117	村山農高	楯岡
58	刈安a・b	米沢東部	118	高嶺南	山形北部
59	梓山a	米沢東部	119	菖蒲江1	山形北部
60	梓山d	米沢東部	120	菖蒲江2	山形北部



## Ⅱ部

# 小山崎遺跡発掘調査報告書(3)

— 動骨遺体 —

小山崎遺跡出土の動物遺体

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の分析調査では、小山崎遺跡の試掘調査で出土した獣骨類の同定を行った。これらは、主に縄文時代の包含層から出土しており、当時の食糧残渣の可能性があった。そこで、これらの種類や部位を明らかにし、当時の動物質食糧に関する情報を資料化することにした。同定は、早稲田大学金子浩昌先生にお願いしたので、以下に署名原稿として掲げる。

小山崎遺跡出土の動物遺体

金子浩昌

1. 試料

同定試料は、表1に示した。これらの獣骨類は、テンバコ4個に収納されていた。なお、結果はポリ袋単位に表示したが、ラベル等の添付がないものは、試料名を単に「ポリ袋」とした。

2. 出土した動物遺骸の種名表

軟体動物門 Phylum Mollusca

二枚貝綱 Class Bivalvia

マルスダレガイ目 Order Veneroida

マルスダレガイ科 Family Veneridae

属種不明 Gen. et sp. indet.

脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA

軟骨魚綱 Class Chondrichthyes

メジロザメ目 Order Chachariniformes

メジロザメ科 Family Chacharinidae

属、種不明 Gen. et sp. indet.

エイ目 Order Rajiformes

科、属不明 Family et gen. indet.

硬骨魚綱 Class Osteichthyes

サケ目 Order Salmoniformes

サケ科 Family Salmonidae

サケ・マス類 Oncorhynchus sp.

スズキ目 Order Perciformes

タイ科 Family Sparidae

マダイ *Pagras major*

属,種不明 Gen. et sp. indet.

フグ目 Order Tetraodontiformes

タイ科 Family Tetraodontidae

属,種不明 Gen. et sp. indet.

鳥綱 Class Aves

目、科不明 Order et sp. indet.

哺乳綱 Class Mammalia

ウサギ目 Order Lagomorpha

ウサギ科 Family Leporidae

ノウサギ *Lepus brachyurus*

齧歯目 Order Rodentia

リス科 Family Sciuridae

ムササビ *Petaurista leucogenys*

ネズミ科 Family Muridae

属,種不明 Gen. et sp. indet.

クジラ目 Order Cetacea

科、属不明 Family et gen. indet.

食肉目 Order Carnivora

イヌ科 Family Canidae

イヌ *Canis familiaris*

クマ科 Family Ursidae

ツキノワグマ *Selenarctos thibetanus*

イタチ科 Family Mustelidae

テン *Martes melampus*

カワウソ *Lutra nippon*

アシカ科 Family Otariidae

ニホンアシカ *Zalophus californianus japonicus*

偶蹄目 Order Artiodactyla

イノシシ科 Family Suidae

イノシシ *Sus scrofa*

シカ科 Family Cervidae

ニホンジカ *Cervus nippon*

表1 同定結果表

試料番号	調査区	採取地点	層位	採取日	種名	部位	備考
	TT1	北端	V		ニホンアシカ	中手/中足骨 近位端	
10-10					イノシシ	歯M <sub>3</sub> R	
					イノシシ	側頭骨 R	若齢
					イノシシ	犬歯片 ♂	
					ニホンジカ	下顎枝 L	
					ニホンジカ	鼻骨 R	
					ニホンジカ	角枝・角片	角片は分岐部で切断
					ニホンジカ	軸椎	
					ニホンジカ	角座骨・角座	
					ニホンジカ	環椎	上面に切痕
					ニホンジカ	後頭骨 R 後頭顆	割る
					ニホンジカ	肩甲骨 R	
10-2					ニホンジカ	中足骨 近位部 L・中足骨近位部 L	骨端欠
					ニホンジカ	後頭底部 後頭顆 2	
					ニホンジカ	岩様骨 (鼓室部) L・頭蓋骨 後頭 L	
					ニホンジカ	距骨 L GL約45.0mm	
					ニホンジカ	下頭骨 L (dm <sub>2</sub> M <sub>1</sub> <M <sub>2</sub> >)	
					ニホンジカ	距骨 L2	
10-7					ニホンジカ	下顎骨 R	
					マダイ	前鰓蓋骨 R	
			Va-1	950912	ニホンジカ	破片	
					ニホンジカ	大腿骨	破片
					ニホンジカ	破片	
10-4			Va-2		ニホンジカ	鹿角 第二枝 L	
					イノシシ	鼻骨 R	破片
10-9					ニホンジカ	上顎骨 dm <sup>4</sup> M <sup>1</sup> <M <sup>2</sup> >	
12					ニホンジカ	中足骨 R	
10-1					ニホンジカ	上顎骨(P <sup>4</sup> M <sup>1</sup> ) R	完存
10-11					イノシシ	歯LM <sub>3</sub>	
14					クジラ類	肋骨を割ったもの	骨器素材
18					ニホンジカ	鹿角 L 角座骨+角幹と第一枝	
10-2					ニホンジカ	頬骨 R	
10-8					ニホンジカ	上腕骨 遠位部 L	
10-6					ニホンジカ	上顎骨(M <sup>1-3</sup> ) L	
					ニホンジカ	角座骨・角座	
					ニホンジカ	歯破片	
					ニホンジカ	歯LM <sup>3</sup>	
					ニホンジカ	歯LP <sup>4</sup>	
					ニホンジカ	歯LM <sup>2-3</sup>	
					ニホンジカ	歯LM <sup>2-3</sup>	
					ニホンジカ	中足骨 近位部 L	
					ニホンジカ	下頭骨 L (P <sub>3-4</sub> M <sub>1-3</sub> )	
					獣骨片		
					土器		
ポリ袋					ニホンジカ	歯M <sup>1</sup>	
					獣骨片		
					シカ/イノシシ	肋骨	
					ニホンジカ	上顎骨L(M <sup>2</sup> ・M <sup>3</sup> )	
					シカ/イノシシ	破片	
					イノシシ	上顎骨 dm <sup>2-3</sup> ♂	
					ニホンジカ	上顎 R M <sup>2</sup>	
					ニホンジカ	下顎枝 R	
					ニホンジカ	上顎骨 R	
					ニホンジカ	上顎骨 R	
					ニホンアシカ	大腿骨 R ♀	
					イノシシ	下頭骨 R ♂ M <sub>2</sub> M <sub>3</sub>	
					イノシシ	下顎骨 R (dm <sub>2-4</sub> M <sub>1</sub> <M <sub>2</sub> >)	
					マダイ	前上顎骨 L	
					マダイ	主鰓蓋骨 R	
					ニホンジカ	腕骨 遠位部 R	
					マダイ	方骨 R	
					ニホンジカ	下頭骨 (dm <sub>3-4</sub> M <sub>1</sub> ) L	
					獣骨片	破片	焼けている
					ニホンジカ	中節骨	
					イノシシ	歯 L I <sup>1</sup>	
					イノシシ	歯 L I	
					ニホンジカ	後頭骨R	縦に割れている
ポリ袋					イノシシ	後頭骨	



表1 同定結果表

試料番号	調査区	採取地点	層位	採取日	種名	部位	備考
ポリ袋					ニホンジカ	距骨 L	
					ニホンジカ	大腿骨R	
					イノシシ	寛骨R	
ポリ袋					ニホンジカ	頸椎	
					シカ/イノシシ	破片	
					ニホンジカ	左角座骨	
					イノシシ	R下顎骨片 M <sup>2</sup>	未放出が埋存する
					シカ/イノシシ	肋骨	
					ニホンジカ	鹿角	
					シカ/イノシシ	破片	焼けている
ポリ袋					イノシシ	口蓋頭R	
					ニホンジカ	舌骨	
					シカ/イノシシ	破片	
					イノシシ	寛骨R	
					ニホンジカ	軸椎	
					ニホンジカ	第4足根骨R	
					ニホンジカ	下頭骨 L	
					ニホンジカ	胸椎	
					ニホンジカ	歯RM <sup>3</sup>	
					ニホンジカ	距骨 R GL 440mm	
ポリ袋					ニホンジカ	歯RM <sub>3</sub>	
					シカ/イノシシ	破片	
					ニホンジカ	下頭骨 R	
ポリ袋					ニホンジカ	歯片	
					獣骨片	破片	
					シカ/イノシシ	肋骨	
ポリ袋					ツキノワグマ	尺骨 近位部 R	
					テン	上顎骨 P <sup>4</sup>	
					シカ/イノシシ	破片	
					ニホンジカ	環椎	
					ノウサギ	中足骨	
					ニホンジカ	中節骨	
					ニホンジカ	歯片	
ポリ袋					シカ/イノシシ	破片	
					ニホンジカ	鹿角	
					イノシシ	胸椎	
					ニホンジカ	距骨 L	
					ニホンジカ	上顎骨 L	
					ニホンジカ	後頭骨	
					シカ/イノシシ	肋骨	
					ニホンジカ	上顎骨 R dm <sub>4</sub> 乳歯	
					イノシシ	涙骨 L	
					獣類	破片	焼けている
ポリ袋					ニホンジカ	前頭骨	
					イノシシ	踵骨	
					ニホンジカ	中手骨片	
					ニホンジカ	頸椎	
ポリ袋					ニホンジカ	角座部	角幹割る
					シカ/イノシシ	破片	
					ニホンジカ	橈骨 R	
					ニホンジカ	末節骨	
					ニホンジカ	中間手根骨R	
					ニホンジカ	中節骨	
ポリ袋					イノシシ	上顎骨	幼獣
					シカ?	踵骨	
					タイ類	尾椎骨	
					ニホンジカ	肩甲骨 R	
					ニホンジカ	肩甲骨 L	
					シカ/イノシシ	破片	
					ニホンジカ	上顎R (M <sup>2</sup> M <sup>3</sup> )	
					ニホンジカ	頸椎	
					マダイ	歯骨 R	
					シカ/イノシシ	肋骨	
ポリ袋					ニホンジカ	鼻骨 R	
					ニホンジカ	尺骨 R	
					イノシシ	下顎枝 R	破片
					ニホンジカ	胸椎	
					イノシシ	大腿骨 R 骨体	
TT3	西深堀1区	IX・X	950804	イノシシ	大腿骨 R 骨体		

表1 同定結果表

試料番号	調査区	採取地点	層位	採取日	種名	部位	備考	
	TT3	西深堀1区	IX・X	950804	ニホンジカ	基節骨		
					ニホンジカ	尺骨 L 骨体		
					ニホンジカ	距骨 L 1/2		
					ニホンジカ	脛骨 遠位部 L		
					シカ	末節骨		
					シカ/イノシシ	椎体骨		
					シカ/イノシシ	肋骨		
					鳥骨片	破片		
					獣骨片	破片		
							X	950801
				950804	イノシシ	下頭骨 L (P <sub>2.3</sub> )		
			イノシシ		頸椎 2			
			イノシシ		前頭骨			
			イノシシ		下頭骨 R ♂			
					イノシシ	歯LM <sub>3</sub> (未出歯)		
					イノシシ	下頭骨 連合部 2 ♂		
				950804	カワウソ	下頭骨 R(P <sub>2</sub> M <sub>1</sub> )		
			ツキノワグマ		上腕骨 R			
			ニホンジカ		切歯骨 L			
					ニホンジカ	大腿骨 R 骨体		
					ニホンジカ	上腕骨 遠位部 R		
				950801	ニホンジカ	上腕骨 遠位部 R	破片	
					ニホンジカ	橈骨 近位部 R 1/2		
					ニホンジカ	基節		
					シカ/イノシシ	脛骨 R		
					シカ/イノシシ	脛骨 L		
					シカ/イノシシ	肋骨		
				950804	獣骨片	破片		
				950801	獣骨片	破片		
				950804	マダイ	歯骨 L		
			VI		イヌ	脛骨 L	破片	
					イノシシ	上腕骨 遠位部 R		
				950913	イノシシ	下頭骨 (dm <sub>2.3.4</sub> )		
					イノシシ	脛骨 近位部 R/L		
					イノシシ	第4足根骨 R		
				950808	イノシシ	上腕骨 L		
				950913	カワウソ	下頭骨 L (P <sub>3.4</sub> M <sub>1</sub> )		
				950808	ツキノワグマ	中手/中足骨		
				950913	ニホンジカ	上腕骨 遠位部		
					ニホンジカ	下頭骨 L (<P <sub>3.4</sub> >M <sub>1.2</sub> <M <sub>3</sub> >)		
					ニホンジカ	中足骨 近位部 L		
					ニホンジカ	下頭骨 R(M <sub>2</sub> )		
					ニホンジカ	脛骨 遠位部 L		
					ニホンジカ	中手/中足骨 近位部 R 1/2 (内)		
				950808	ニホンジカ	脛骨	破片	
				950913	ニホンジカ	基節骨		
					シカ/イノシシ	肋骨		
					シカ/イノシシ	棘突起		
					シカ/イノシシ	肋骨		
					シカ/イノシシ	肩甲骨	破片	
				950911	シカ/イノシシ	肋骨	破片	
				950808	シカ/イノシシ	肋骨		
					シカ/イノシシ	頭蓋骨		
				950913	獣骨片	破片		
					獣骨片	破片		
				950808	獣骨片	破片		
					ニホンジカ	鹿角		
				950808	ニホンジカ	鹿角		
			VII		イノシシ	切歯 <sup>1</sup> R		
				950808	イノシシ	尺骨 L		
					イノシシ	脛骨 L 骨体		
					イノシシ	歯P <sup>4</sup> L		
					イノシシ	脛骨 近位部 L 骨端		
					ツキノワグマ	椎骨		
					ニホンジカ	大腿骨 近位部 R (骨端欠)		
					ニホンジカ	踝骨 L		
					ニホンジカ	頭蓋骨 (前頭骨)		
						シカ/イノシシ	椎骨	

表1 同定結果表

試料番号	調査区	採取地点	層位	採取日	種名	部位	備考			
15	TT3	西深堀1区	VII	950808	獣骨片	破片				
			VIII		イノシシ	切歯骨 L (I <sup>1</sup> ~C)				
					イノシシ	下頭骨 L	幼獣			
				950804	イノシシ	上顎骨 R (I3・C)				
					イノシシ	上腕骨 近位部 L 骨端欠				
					イノシシ	頸椎				
					イノシシ	肩甲骨 R	遠位部欠			
					ニホンジカ	下頭骨 R (dm <sub>2</sub> 、M <sub>1</sub> 、M <sub>2</sub> 欠)				
					ニホンジカ	大腿骨 遠位部 R				
					ニホンジカ	中節骨 R				
	ニホンジカ	尺骨 L								
	ニホンジカ	距骨 L								
20	TT3	西深堀1区	VIII		ニホンジカ	距骨 R				
					ニホンジカ	距骨 L				
					ニホンジカ	腕骨 近位部 R				
					ニホンジカ	頰骨 R				
					ニホンジカ	中節骨				
				950804	ニホンジカ	脛骨 遠位部 L				
					ニホンジカ	中節骨	被熱			
					ニホンジカ	R.寛骨 恥骨部				
					シカ/イノシシ	椎骨				
					シカ/イノシシ	肋骨				
				950804	シカ/イノシシ	肋骨				
					シカ/イノシシ	肋骨				
					シカ/イノシシ	棘突起				
					タイ類	副楔骨				
				950804	土器					
				950804	獣骨片	破片				
					獣骨片	破片				
				10-5不適				獣骨片	歯破片	
				10-5不適				獣骨片	歯M <sup>2</sup> R	
				10-5不適				イノシシ	歯M <sub>2</sub> L	
10-5不適				獣骨片	歯M <sub>3</sub> L					
10-5不適				獣骨片	歯LM <sup>3</sup>					
				獣骨片	歯LM <sup>2</sup> ?					
				獣骨片	歯RM <sup>2</sup> M <sup>3</sup>					
				獣骨片	歯LM <sub>2</sub> 2M <sub>1</sub> 2					
				獣骨片	歯片					
22	TT3	西深堀1区	X	950804	イヌ	下頭骨 R (P <sub>2</sub> P <sub>4</sub> M <sub>2</sub> )				
					イノシシ	下頭骨 R ♂				
					ニホンジカ	寛骨 L				
			VIII	シカ/イノシシ	上腕骨 遠位部 L					
				ニホンアシカ	肋骨	破片				
				ニホンアシカ	肋骨 R					
				950804	イノシシ	尺骨				
					イノシシ	腓骨	破片			
					イノシシ	C ♀ L	咬耗なし			
				950804	サメ類	椎骨	メジロザメ科			
					ニホンジカ	大腿骨 R				
					ニホンジカ	脛骨 L 骨体				
			ニホンジカ		脛骨 L 幼					
			ニホンジカ		椎骨	破片				
			ニホンジカ		腕骨 L					
			ニホンジカ	脛骨 R 骨体						
			ニホンジカ	腕骨 L 骨体						
			ニホンジカ	下顎枝 R	切痕あり					
ニホンジカ	下頭骨									
13				鳥骨片	破片	カットマークあり				
				獣骨片	破片					
14-1	TT1	北端	V		イヌ	歯LM <sub>1</sub>				
14-1					イヌ	犬歯片				
12-1					イノシシ	歯R<M <sup>2</sup> >	未出歯			
12-1					イノシシ	歯片				
10-1					イノシシ	歯P <sup>1</sup>				
7-1					イノシシ	歯Li <sub>2</sub>				
7-1					イノシシ	中節骨	若齢			
13-1					イノシシ	臼歯片				

表1 同定結果表

試料番号	調査区	採取地点	層位	採取日	種名	部位	備考
13-1	TT1	北端	V		イノシシ	歯LP <sup>2,3</sup>	
8-1				イノシシ	歯LI <sup>1</sup>	破片	
11-1				イノシシ	切歯片		
2-1				イノシシ	前臼歯片		
6-1				イノシシ	距骨 L		
8-1				エイ類	尾棘		
14-1				貝片	二枚貝		
7-2				魚骨片	破片		
1-1				魚骨片	椎骨		
7-1				魚骨片	棘		
11-1				魚骨片	棘		
4-2				魚骨片	棘		
12-1				クルミ			
1-1				クルミ			
14-1				クルミ片			
12-2				魚骨片	棘		
3-2				魚骨片	歯		
7-1				サケ類	椎骨		
9-1				サメ類	椎体		
				ニホンジカ	涙骨 R		
				ニホンジカ	大腿骨 遠位部 L (骨端)		
1-1				ニホンジカ	鹿角	輪切り	
9-1				ニホンジカ	歯片		
12-1				ニホンジカ	切歯 L 2/3		
12-1				ニホンジカ	臼歯片		
10-1				ニホンジカ	歯LM <sup>2</sup>		
1-1				ニホンジカ	歯片		
14-1				ニホンジカ	距骨 R		
14-1				ニホンジカ	歯片		
14-1				ニホンジカ	鹿角片		
13-1				ニホンジカ	歯片		
10-2				ニホンジカ	歯片		
8-1				ニホンジカ	歯LM <sup>2</sup>		
8-1	ニホンジカ	歯片					
8-1	ニホンジカ	鹿角					
11-1	ニホンジカ	歯片					
3-1	ニホンジカ	前臼歯片					
3-1	ニホンジカ	中手/中足骨 遠位部	破片				
5-1	ニホンジカ	歯P <sub>3</sub> L					
6-1	ニホンジカ	歯片					
10-1	シカ/イノシシ	第3足根骨片					
13-2	シカ/イノシシ	歯片					
2-1	シカ/イノシシ	顎骨片					
9-1	獣骨片	破片					
9-1	獣骨片	破片					
12-1	獣骨片	破片					
13-1	獣骨片	破片					
14-1	種子						
1-1	種子						
12-2	獣骨片	破片	焼けている				
12-1	獣骨片	破片	焼けている				
14-1	獣骨片	破片	焼けている				
13-2	獣骨片	破片	焼けている				
10-2	獣骨片	破片	焼けている				
11-2	獣骨片	破片	焼けている				
8-1	獣骨片	破片	焼けている				
11-1	獣骨片	破片	焼けている				
8-2	獣骨片	破片	焼けている				
1-2	小型獣類	歯片					
1-2	小型獣類	上顎骨					
7-2	タイ類	歯					
8-2	タイ類	歯					
9-2	中型獣類	破片					
14-1	土器						
13-1	鳥骨片	上腕骨 R 骨体					
9-1	ネズミ類	左切歯					
12-2	フグ類	前上顎骨 R <sup>2</sup> ,L <sup>1</sup>					
	獣骨片	歯LM <sub>3</sub> M <sub>2</sub>					



表1 同定結果表

試料番号	調査区	採取地点	層位	採取日	種名	部位	備考			
6-2	TT1	北端	V		獣骨片	破片				
10-2				獣骨片	破片					
5-2				獣骨片	破片					
7-2				獣骨片	破片					
12-2				獣骨片	破片					
10-1				獣骨片	破片					
1-1				獣骨片	破片					
14-1				獣骨片	破片					
1-2				獣骨片	破片					
7-1				獣骨片	破片					
1-1				獣骨片	破片					
13-2				獣骨片	破片					
10-2				獣骨片	破片					
11-2				獣骨片	破片					
8-1				獣骨片	破片					
9-2				獣骨片	破片					
11-1				獣骨片	破片					
8-2				獣骨片	破片					
2-1				獣骨片	破片					
4-2				獣骨片	破片					
3-2				獣骨片	破片					
2-1				獣骨片	破片					
3-1				獣骨片	破片					
2-2				獣骨片	破片					
5-1				獣骨片	破片					
10-1				獣骨片	破片					
6-1				獣骨片	破片					
13-1								マダイ	前上顎骨 R	
6-1								ムササビ	歯	
9-2								獣骨片	破片	焼けている
						Vb		ツキノワグマ	中手/中足骨	

### 3. 出土した動物遺骸の概要

今回の標本は、概ね縄文時代の食物残渣とみられ、ニホンジカ・イノシシなどの大型獣を中心に、テン・カワウソなどの中・小型獣がみられた。このほか、メジロザメ科やマダイなどの海産の魚類、ニホンアシカ・クジラといった海生哺乳類が伴っていた。今回の標本中で、鳥類は極めて断片的であり、貝類もほとんどみられなかった。以下に、主な種類について、所見を述べる。

#### イヌ *Canis familiaris*

下顎骨1点と遊離した歯があったのみである。雄の中型犬で、縄文犬としては大きい方である。東北地方に飼育されていたイヌのタイプである。

#### ツキノワグマ *Selenarctos thibetanus*

遺骸の検出数は少ないが、尺骨、椎体があった。東北地方の日本海側では、特にクマの棲息が多く、遺跡からの検出例も多い。ただし、量的にはシカなどに比べてはるかに少ない。

#### テン *Martes melampus*

上顎骨1点が残されたのみである。縄文時代の貝塚からの検出例は特に多くないが、出土例は少ないわけでもない。ただし、上顎骨の出土は稀である。

#### ニホンアシカ *Zalophus californianus japonicus*

標本数は少ないが、雌雄個体の遺骸が残されており、日本海域にかけて多棲したこの動物を捕獲する機会があったことを知ることができる。アシカは、日本の周辺海域からすでに姿を消した動物であり、貴重な遺骸である。

#### イノシシ *Sus scrofa*

大型獣類としては、ニホンジカに次いで多く出土しているが、量はかなり少ない。棲息个体数が少なかったことを推測させる。豪雪地帯という自然条件を反映しているのであろう。しかし、1才未満の幼獣個体の遺骸も検出されているので、繁殖集団が棲息していたことも確かである。また老成した個体も残されており、この地域に周年棲息していた個体と思われる。

#### ニホンジカ *Cervus nippon*

本遺跡で出土した獣類中、もっとも多くの遺骸を検出できた種類である。出土状況の詳細はわからないが、かなりの個体が捕獲され、食用などに供されたのであろう。

頭頂骨から後頭骨にかけての標本があった。頭部の検出は珍しいことではないが、本遺跡のように形態を保っている例は少ない。頭頂骨部には角座骨部分を外したあとがみられ、さらに頭頂骨を打ち欠いた痕跡がみられるものがあった。鹿角を外すと同時に、脳髓の採取も行われたのであろう。上顎骨が、部分的に保存されている例もあった。下顎骨は骨体部の残されている標本が多く、上顎骨から外されていたのであろう。

また、環椎、軸椎があり、環椎には軸椎を外すために叩いた痕跡が残っていた。環椎は、頭

部に付いた状態であったのだろう。下顎骨、四肢骨からみると、今回の標本は概して大きく、本州産のニホンジカでは最大級と思われる。

#### 4. 要 約

本遺跡の動物遺骸は、日本海側では数少ない縄文時代の資料として注目される。特に山形、秋田県では、資料の少ないのが現状であった。このことは、貝塚の形成される地形的な条件がきわめて限られていたからであるが、今回この地で低地遺跡が発見されるに及んで多数の動物遺骸が検出され、これまでの知見に新たな資料が加えられた。

獣骨でイノシシ、ニホンジカの多いことは一般に知られるところであるが、ここではニホンジカを主としていることがはっきりみられた。頭骨が比較的よく残されていたことから、骨の集積場があったのではないかと思われる。一方、獣骨はよく割られ、骨髄食に供されていた。また、大型獣として、ツキノワグマの遺骸があった。四肢骨や椎骨があるので、捕獲された遺骸はここまで運ばれたのであろう。歯牙、顎骨などは確認されていない。これらは、垂飾品などに使われることが多い。しかし、今後こうした標本が検出されることは、充分考えられる。

海棲獣類の遺骸があることは、予測されたことである。富山県境A遺跡や能登半島周辺遺跡で多く知られるからである。ただし、当時も海岸線は比較的単調であったと思われるので、こうした獣を捕獲する基地をつくるには、適してはいなかったかも知れない。

魚類では、数は少なかったがマダイがあった。大きな個体であり、運ばれてきたのであろう。またフグ類の骨もあったが、これは体長10cmにもならない小さな個体である。フグの骨の出土は各地で知られるので、食用に供されたと考えられるが、この個体はいかにも小さい。

いずれにしても、今後なお標本が増加するとが予想され、我々の知り得る内容もさらに増えることであろう。今後調査に当たって、出土状況の更に詳細な記録が資料の価値をいっそう高めることになるものと期待される。

## 報 告 書 抄 録

ふりがな 書名	ぶんぶちようさほうこくしょ 分布調査報告書(26)							
副書名								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第200集							
編著者名	渋谷孝雄 名和達朗 長橋 至							
編集機関	山形県教育委員会							
所在地	990-8570 山形県山形市松波二丁目8番1号 TEL 023-630-2879							
発行年月日	西暦 2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみかわらやま 上川原山ノ神	かみやまがたけんにしむらやまくんあさひ 山形県西村山郡朝日 まちおおあざたま いあざかみか 町大字玉ノ井字上川 原	06323	平成9年 度登録	140度 10分 17秒	38度 19分 57秒	19980928～ 19981009	200m <sup>2</sup>	担い手育成基 盤整備事業 (大谷地区)
たちいづみかわ 立泉川	やまがたけんしんじょうしとおおあざ 山形県新庄市大字 とおかまちあざたちいづみかわ 十日町字立泉川	06205	昭和56年 度登録	140度 17分 30秒	38度 47分 16秒	199800727～ 19980807	710m <sup>2</sup>	担い手育成基 盤整備事業 (野中地区)
りゅうざわやま 竜沢山	やまがたけん あくみくん ゆざまち 山形県飽海郡遊佐町 おおあざのざわあざみずかみ 大字野沢字水上	06461	2,117	139度 55分 52秒	39度 01分 41秒	19981110～ 19981127	450m <sup>2</sup>	一般農道整備 事業(水上地 区)
うえのだい 上ノ代1	やまがたけんかみのやましとおおあざ 山形県上市市大字 かわぐちあざうえのだい 川口字上ノ代	06207	平成9年 度登録	140度 15分 18秒	38度 07分 32秒	19980910～ 19980928	700m <sup>2</sup>	国道13号上山 バイパス建設 工事
しもやなぎ 下柳A	やまがたけんかみのやましとおおあざ 山形県山形市大字 あおやなぎあざかみやなぎ 青柳字上柳	06201	152	140度 20分 52秒	38度 17分 36秒	19980611～ 19980615	105m <sup>2</sup>	健康の森公園 整備事業
たてのこし 館之越	やまがたけんながいしづみ 山形県長井市泉	06323	長井市 e-107	140度 02分 22秒	38度 04分 58秒	19981002	52m <sup>2</sup>	地方特定道路 整備・歩道一 般県道椿長井 線



遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上川原山ノ神	集落跡	縄文時代 中期・後 期・晩期	掘立柱建物跡を構成する柱根を伴う掘り方を含む柱穴144基、溝跡1条	縄文土器(中期・後期・晩期)、石鏃、石匙、筧状石器、削器、磨製石斧、磨石等整理箱6箱分。	縄文時代晩期の直径20～30cmの柱根が残る掘り方が検出された。調査対象区を水路建設予定地内に留めたため、建物の規模は明らかではない。遺構は水路敷きを含めて盛土保存された。
立泉川	集落跡	縄文時代 中期末～ 後期初頭	竪穴住居跡1棟、土坑63基、ピット	縄文土器(中期末～後期初頭)、磨石3点、剥片等整理箱6箱分。	縄文時代中期末から後期初頭の集落跡である。今回の調査区は低位段丘の切土部分であり、集落本体は低位段丘の東部及び、中位段丘上に存在する。なお、1999年に中位段丘の捨て場の分層発掘を実施し、中期末葉から後期初頭の良好な資料が得られている。
竜沢山	集落跡	縄文時代 中期・晩 期	掘立柱建物跡を構成する柱根を伴う掘り方を含む柱穴144基、溝跡1条	縄文土器(中期・後期・晩期)、石鏃、石匙、筧状石器、削器、磨製石斧、磨石等整理箱6箱分。	縄文時代晩期の直径20～30cmの柱根が残る掘り方が検出された。調査対象区を水路建設予定地内に留めたため、建物の規模は明らかではない。遺構は水路敷きを含めて盛土保存された。
上ノ代1	集落跡	縄文時代 早期末～ 前期初頭	土坑64基	縄文土器(早期・前期)、石匙、搔器、剥片等整理箱1箱分。	縄文時代早期末から前期初頭にかけての密集する土坑群が検出された。
下柳A	集落跡	古墳時代 前期	竪穴住居跡1棟	土師器片整理箱に1箱。	1995年度の調査時の集落より古い竪穴が検出された。現在のところ、本遺跡で最古の竪穴である。
館之越	集落跡	縄文時代 中期	柱穴4基、土坑1基	縄文土器片、剥片5点。	調査区は縄文集落の周辺部にあたる。

---

山形県埋蔵文化財調査報告書第200集

## 分布調査報告書(26)

平成10年度以降農林土木事業他関係遺跡  
日本海沿岸自動車道鶴岡温海間関係遺跡  
東北中央自動車道相馬尾花沢線関係遺跡  
山形ニュータウン整備事業関係遺跡  
小山崎遺跡発掘調査報告書(3)

平成12年3月25日 印刷

平成12年3月31日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷

---